五代伊勢宮Ⅲ遺跡
五代 深 堀 Ⅱ遺跡
五代 中 原 Ⅰ遺跡
五代伊勢宮Ⅳ遺跡

五代南部工業団地及び住宅団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2001

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

序

前橋市は、雄大な裾野を広げる赤城山を背に、坂東太郎として名高い利根川や詩情豊かな広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情にあふれた美しい県都です。

前橋市域の赤城山南麓と前橋台地上には、旧石器時代から近世、近代に至るまで、人々の生活の痕跡を示す遺跡・遺物が数多く存在します。特に古墳においては、かつて市域に800余基の存在が伝えられています。その中には大室四古墳をはじめ国指定史跡となっている古墳も９基含まれ、東国古墳文化の中心として位置づけられてきました。また、続く律令政治の時代に入ると、山王廃寺、上野国分僧寺、上野国分尼寺、上野国府の存在が示す通り、政治、宗教、経済の中心地として花開き一大文化圏が形成されました。さらに中世においては、戦国武将の長尾氏・上杉氏・武田氏・北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏・松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。まさに、前橋はこれまで連綿と続いてきた歴史を物語る様々な文化財で溢れています。

五代伊勢宮Ⅲ遺跡、五代深堀Ⅱ遺跡、五代中原Ⅰ遺跡、五代伊勢宮Ⅳ遺跡は、前橋市の北東方向の五代町地内に位置しており、昨年度から五代南部工業団地及び住宅団地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査が実施されてきております。２年目にあたる今年度は、縄文時代の住居跡、古墳時代から奈良・平安時代の住居跡、掘立柱建物跡など多くの遺構と遺物を検出し、貴重な資料を得ることができました。その中でも、縄文時代中期の土器が多数出土し、文様などから長野県や関東各地域との交流が盛んに行われていたことが推測されます。

発掘調査にあたりまして、ご協力いただきました市工業課、前橋工業団地造成組合、地元関係者、酷暑の中調査に従事されました皆様に感謝とお礼を申し上げます。

平成14年３月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団　長　　阿　部　明　雄

例　言

1　本報告書は、五代南部工業団地及び住宅団地造成にさきがけて実施した五代伊勢宮Ⅲ遺跡、深堀Ⅱ遺跡、中原Ⅰ遺跡、伊勢宮Ⅳ遺跡の発掘調査報告書である。

2　遺跡の所在地　五代伊勢宮Ⅲ遺跡　群馬県前橋市五代町1105番地外
　　五代深堀Ⅱ遺跡　群馬県前橋市五代町1225番地２外
　　五代中原Ⅰ遺跡　群馬県前橋市五代町495番地外
　　五代伊勢宮Ⅳ遺跡　群馬県前橋市五代町1026番地１外

3　調査は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団（団長　阿部明雄）の指導のもとに委託者、前橋工業団地造成組合（管理者　萩　原　弥惣治）の委託を受け、スナガ環境測設株式会社（代表取締役　須永眞弘）が実施した。
　　調査担当者　高橋一彦・倉品敦子（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）
　　金子正人・荻野博巳・板垣　宏・権田友寿（スナガ環境測設株式会社）
　　調　査　員　小見修一・岡本敬一・猪熊正晴（スナガ環境測設株式会社）

4　発掘調査期間　平成13年７月26日～平成14年３月８日
　　整理期間　平成13年11月25日～平成14年３月８日

5　調査面積　五代伊勢宮Ⅲ遺跡　1,260㎡、五代深堀Ⅱ遺跡　356㎡
　　五代中原Ⅰ遺跡　8,140㎡、五代伊勢宮Ⅳ遺跡　2,406㎡

6　出土遺物は前橋市教育委員会が保管する。

7　測量・調査計画…須永眞弘、調査助言…金子正人、調査担当…荻野博巳・板垣宏、測量調査…権田友寿・小見修一・岡本敬一、安全管理・重機オペレーター…都丸保男・猪熊正晴、作業事務…柴崎信江が担当した。

8　本書は、調査団指導のもと、スナガ環境測設株式会社が作成に当たり、原稿執筆…Ⅰについては高橋一彦（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）によるものである。その他は金子正人・荻野博巳・板垣宏が執筆した。編集・校正…須永眞弘・金子正人・権田友寿、実測図の整理他…小見修一・岡本敬一・猪熊正晴、遺構・遺物のトレース…小林健二、遺物の観察・整理…神津芳夫、遺物実測…戸根浩美・佐々木智恵子・田辺富士子、遺物洗浄・注記・接合…柴崎信江・栗原昭一郎・阿久沢民江・小暮幸子・渡辺克弘・渡辺國治、写真整理・内業事務…須永豊・柴崎信江が担当した。

9　発掘調査に参加した方々（敬称略）
　　飯島勝亥　石川サワ子　石田みよ子　石綿茂雄　今井ツル　内山恵美子　内山　康　柿沼仙一
　　貝瀬寿雄　片貝美子　加藤萩江　狩野和子　狩野大男　上村一視　小林ひろ　佐藤作子
　　佐藤花江　佐藤治吉　下田和子　須田三枝　須田安江　関根時太　関根義雄　都丸藤子
　　中川住一　根井よし子　平林クニ子　水石信雄　諸田ケサエ　山本良政　奈良武利　渡辺克弘

凡　例

1　遺跡の略称は、五代伊勢宮Ⅲ遺跡（13Ｃ28）、五代深堀Ⅱ遺跡（13Ｃ29）、五代中原Ⅰ遺跡（13Ｃ30）、五代伊勢宮Ⅳ遺跡（13Ｃ31）である。

2　遺構名の略称　縄文時代の住居跡…Ｊ、竪穴状遺構…Ｔ、古墳・奈良・平安時代の住居跡…Ｈ、掘立柱建物跡…Ｂ、溝跡…Ｗ、土坑…Ｄ、柱穴…Ｐ、井戸跡…Ｉ、地下式土坑…Ａ、埋甕…Ｕ、集石…集
　　実測図中の記号　Ｐ…土器、Ｓ…石。

3　実測図の縮尺（伊勢宮Ⅲ・深堀Ⅱ・中原Ⅰ・伊勢宮Ⅳ遺跡）は、次のとおりである。
　　遺跡平面図　1/300、1/250、1/200　住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・井戸跡・地下式土坑　1/80
　　柱穴　（1/60・1/80）、土坑　（1/60・1/80）、集石・カマド・炉跡・石組炉跡・埋甕　1/40
　　遺物実測図　1/1、2/3、1/2、1/3、1/4、1/5、1/6、1/10を使用した。

4　挿入図は、国土地理院発行の２万５千分の１「前橋・大胡・渋川・鼻毛石」を使用した。

5　各遺跡の位置の基準は、国土地理院三角点及び水準点と照合済。
　　五代伊勢宮Ⅲ遺跡　基準点　Ａ区Ｕ-10グリッド地点　第Ⅸ系座標値　Ｘ 45,320.000m、Ｙ －64,460.000m、
　　水準点　BM.…120.50m、122.00m、等高線 20㎝、グリッド　４ｍ間隔
　　五代深堀Ⅱ遺跡　基準点　Ｃ区Ｆ-10グリッド地点　第Ⅸ系座標値　Ｘ 45,580.000m、Ｙ －64,060.000m、

水準点　BM.…135.00m、等高線 20cm、グリッド　4m間隔
五代中原Ⅰ遺跡　基準点 D区A-0グリッド地点　第Ⅸ系座標値　X 46,000.000m、Y −64,500.000m、
水準点　BM.…137.00m、138.50m、139.00m、140.00m、141.00m、等高線 20cm、グリッド　4m間隔
五代伊勢宮Ⅳ遺跡　基準点 B区F-15グリッド地点　第Ⅸ系座標値　X 45,680.000m、Y −64,340.000m、
水準点　BM.…132.50m、133.00m、等高線 50cm、グリッド　4m間隔

6　土層断面の土色名及び土器類の色調名は『新版標準土色帖』（農林省農林水産技術会議事務局　監修　財団法人　日本色彩研究所　色票監修）による。

7　須恵器の断面…　施釉部分…　煤付着…　炭化物付着…　磨耗痕…　を使用。

8　各遺構の面積は平面図をもとに座標面積計算より算出した。

目　次

序……i
例　言……ii
凡　例……ii
目　次……iii
Ⅰ　調査に至る経緯……1
Ⅱ　遺跡の位置と歴史的環境……1
　1．遺跡の立地……1
　2．歴史的環境……1
Ⅲ　調査の経過……3
　1．調査方針……3
　2．調査経過……3
Ⅳ　層　　序……6
Ⅴ　五代伊勢宮Ⅲ遺跡
　1．概　　観……9
　2．遺構と遺物……9
　(1)　竪穴住居跡……9
　①平安時代……9
　(2)　T-1号竪穴状遺構……9
　(3)　掘立柱建物跡……9
　3．ま と め……10
Ⅵ　五代深堀Ⅱ遺跡
　1．概　　観……23
　2．遺構と遺物……23
　(1)　竪穴住居跡……23
　①縄文時代……23
　②平安時代……23
　3．ま と め……24
Ⅶ　五代中原Ⅰ遺跡
　1．概　　観……35
　2．遺構と遺物……35
　(1)　竪穴住居跡……35
　①縄文時代……35
　②古墳時代……35
　③平安時代……36
　(2)　掘立柱建物跡……36
　3．ま と め……37
Ⅷ　五代伊勢宮Ⅳ遺跡
　1．概　　観……57
　2．縄文時代の遺構と遺物……57
　(1)　竪穴住居跡……57
　(2)　土　　坑……59
　(3)　埋　　甕……63
　(4)　集　　石……63
　(5)　遺　　物……63
　3．平安時代以降の遺構と遺物……86
　(1)　竪穴住居跡……86
　(2)　土坑・柱穴……86
　(3)　溝状遺構……86
　(4)　道 路 跡……86
　4．ま と め……89

挿　図

第1図　周辺遺跡図……2
第2図　発掘調査経過図……4
第3図　遺跡位置図・グリッド設定図……5
第4図　五代伊勢宮Ⅲ遺跡、五代深堀Ⅱ遺跡、
　五代中原Ⅰ遺跡、五代伊勢宮Ⅳ遺跡
　基本土層断面図……6
五代伊勢宮Ⅲ遺跡
第5図　五代伊勢宮Ⅲ遺跡平面図……14
第6図　H-1・2号住居跡・掘り方、
　D-72・73号平面・断面図……15
第7図　H-3号住居跡、T-1号、
　W-1～3号平面・断面図……16
第8図　B-1・2号掘立柱建物跡、
　I-1～3号断面図……17
第9図　A-1～5号断面図……18
第10図　H-1～3号住居跡、A-1・3～5号、

Ⅰ-1号、D-72号、W-2号遺物実測図 …19
第11図　A-2・5号、Ⅰ-1号、W-2号、
グリッド遺物実測図……20

五代深堀Ⅱ遺跡

第12図　J-1号、H-1・2号住居跡、
P-47号平面・断面図 ……28
第13図　H-5・9号住居跡、
D-2・3号平面・断面図 ……29
第14図　J-1号、H-1～9号住居跡、
D-2・3号遺物実測図 ……30
第15図　五代深堀Ⅱ遺跡平面図……31・32

五代中原Ⅰ遺跡

第16図　五代中原Ⅰ遺跡平面図……45・46
第17図　J-1・2号住居跡平面・断面図 ……47
第18図　J-3号、H-12号住居跡、
W-1号平面・断面図 ……48
第19図　H-15・21号住居跡平面・断面図 ……49
第20図　H-4・5号住居跡、W-1号平面・断面図…50
第21図　B-1～4号掘立柱建物跡断面図 ……51
第22図　H-1～11号住居跡遺物実測図 ……52
第23図　H-12・14～22号住居跡遺物実測図 ……53
第24図　J-1～3号、H-1・2・15・23・24号
住居跡、P-10号、JD-1号、W-1号、
グリッド遺物実測図……54

五代伊勢宮Ⅳ遺跡

第25図　J-1号住居跡平面・断面図 ……57
第26図　J-1号住居跡柱穴断面図 ……58
第27図　J-2号住居跡、D-91、92号平面・断面図 …58
第28図　J-3号住居跡平面・断面図 ……59
第29図　縄文土坑平面・断面図（その1）……60
第30図　縄文土坑平面・断面図（その2）……61
第31図　伊勢宮Ⅳ遺跡平面図（縄文時代）……62
第32図　埋甕、集石平面・断面図……63
第33図　J-1・3号住居跡遺物実測図 ……79
第34図　縄文土坑遺物実測図（その1）……80
第35図　縄文土坑遺物実測図（その2）……81
第36図　縄文土坑遺物実測図（その3）……82
第37図　縄文土坑・埋甕・グリッド遺物実測図……83
第38図　石器実測図（その1）……84
第39図　石器実測図（その2）……85
第40図　H-1号住居跡平面・断面・遺物実測図 …86
第41図　伊勢宮Ⅳ遺跡平面図（平安時代以降）……87

表

第1表　周辺遺跡概要一覧表……2

五代伊勢宮Ⅲ遺跡

第2表　柱穴計測表……11
第3表　土坑計測表……11
第4表　井戸計測表……12
第5表　地下式土坑計測表……12
第6表　溝計測表……12
第7表　出土土器観察表……13
第8表　石製品観察表……13
第9表　古銭観察表……13

五代深堀Ⅱ遺跡

第10表　住居跡一覧表……25
第11表　溝計測表……25
第12表　柱穴計測表……26
第13表　土坑計測表……26
第14表　出土土器観察表……26
第15表　石器観察表……27
第16表　縄文土器観察表……27

五代中原Ⅰ遺跡

第17表　住居跡一覧表……39
第18表　土坑計測表……40
第19表　溝計測表……40
第20表　柱穴計測表……41
第21表　石製品観察表……41
第22表　紡錘車観察表……41
第23表　石器観察表……41
第24表　出土土器観察表……42
第25表　縄文土器観察表……44

五代伊勢宮Ⅳ遺跡

第26表　縄文土器観察表……64
第27表　石器観察表……70
第28表　縄文土坑計測表……74
第29表　縄文土坑別石器出土表……78
第30表　平安時代以降の土坑計測表……88
第31表　平安時代以降の柱穴計測表……88
第32表　平安時代以降の溝状遺構計測表……88

写真図版

五代伊勢宮Ⅲ遺跡　1～3
五代深堀Ⅱ遺跡　4～6
五代中原Ⅰ遺跡　7～11
五代伊勢宮Ⅳ遺跡　12～17

Ⅰ　調査に至る経緯

発掘調査は、五代南部工業団地及び住宅団地造成事業実施に伴い行われた。調査地は、昨年度の試掘調査結果により遺跡地であることが確認されている。今年度は、その発掘調査地年次計画に基づいて行われた調査の２年目にあたるものである。

平成13年４月11日、前橋工業団地造成組合（管理者　萩　原　弥惣治）より、五代南部工業団地及び住宅団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会が組織する前橋市埋蔵文化財発掘調査団はこれを受諾し、前橋工業団地造成組合と前橋市埋蔵文化財発掘調査団との間で埋蔵文化財発掘調査に関する協定書が締結され、その後両者の間で埋蔵文化財発掘調査委託契約が締結された。そして７月26日から現地での発掘調査を開始するに至った。

なお、遺跡名称「五代伊勢宮Ⅲ遺跡」（遺跡コード：13Ｃ28）、「五代深堀Ⅱ遺跡」（遺跡コード：13Ｃ29）、「五代中原Ⅰ遺跡」（遺跡コード：13Ｃ30）、「五代伊勢宮Ⅳ遺跡」（遺跡コード：13Ｃ31）の「伊勢宮」「深堀」「中原」は旧地籍の小字名を採用した。また、名称中のローマ数字は、当調査団で過去に調査した遺跡と区別するため付したものである。また、今年度の発掘調査面積は約18,962㎡であり、五代伊勢宮Ⅲ遺跡及び五代深堀Ⅱ遺跡、五代中原Ⅰ遺跡、五代伊勢宮Ⅳ遺跡の合計面積はそのうちの約12,162㎡である。

Ⅱ　遺跡の位置と歴史的環境

１．遺跡の立地

遺跡の所在する五代町は、前橋市の中心市街地から北東へ約５㎞に位置する。遺跡の北には大正用水が西から東へ流れ、芳賀東部工業団地（面積40ha）に隣接し、西に芳賀西部工業団地（面積20ha）がある。前橋市では「豊かですばらしい社会を築く街づくり」を目途に、福祉、教育、文化、環境等の整備拡充を進めている。その施策の一つとして、群馬県と前橋市で組織する前橋工業団地造成組合による工業団地や住宅団地の造成があり、昭和35年以来多くの団地造成を行っている。その一つに、五代南部工業団地（面積42.8ha）がある。団地は、日本百名山の一つ赤城山南麓火山斜面の緩やかで自然豊かな面にある。山麓に源を発する中小の河川が付近を南流し部分的に開析谷を形成し舌状台地と谷地部を作り、谷と谷の間の丘陵性の台地には、住宅団地や畑地が広がり、谷地部では狭い水田が営まれている。この斜面の末端部は、本遺跡から1.6㎞南へ下った県道前橋今井線付近に当たり旧利根川の作った広瀬川低地帯に接し、この付近から関東平野が南に広がっている。

２．歴史的環境

五代伊勢宮Ⅲ遺跡及び五代深堀Ⅱ遺跡、五代中原Ⅰ遺跡、五代伊勢宮Ⅳ遺跡の所在する前橋市五代町は、昭和29年に前橋市に合併している。旧村名「芳賀村」は、和名類聚抄が勢多郡の一郷「芳賀郷」に比定されたことによるが、最近「芳郷」と書かれた墨書土器が前橋市二之宮町で発見されたことから旧村名の根拠は弱くなった。いずれにしても、同村は旧荒砥村、粕川村、旧桂萱村とともに赤城山南麓における古墳の集中域の一つとされている地区である。

近年、この地域では大規模開発などにより数多くの遺跡調査が行われている。その中で本調査区に近接する芳賀団地遺跡群（芳賀北部団地遺跡、芳賀西部団地遺跡、芳賀東部団地遺跡）があげられ、昭和40年代後半から昭和50年代前半にかけて大規模な発掘調査が行われ、縄文時代を始めとし近世までの遺構が数多く検出された。芳賀北部団地遺跡は昭和48、49年度に調査され縄文時代前期～後期の竪穴住居跡や中期の敷石住居跡、奈良・平安時代の竪穴住居跡237軒や中世の勝沢城跡の一部を検出した。

芳賀西部団地遺跡は、昭和50年度の調査で縄文時代前期の竪穴住居跡７軒や配石遺構を検出した。また、昭和10年の上毛古墳総覧によれば芳賀地区で64基の古墳が記載されているが古墳総覧記載漏れの古墳も31基集中して検出されている。

芳賀東部団地遺跡は昭和51～55年度に調査され、縄文時代前期の竪穴住居跡や中期末葉から後期前半の敷石住居跡など66軒が検出された。他に倉本遺跡からは、弥生時代の竪穴住居跡、端気遺跡群Ⅰでは方形周溝墓などが

第１図　周辺遺跡図

No.	遺　跡　名	概　　要	No.	遺　跡　名	概　　要
1	五代伊勢宮III遺跡	本遺跡	13	倉本遺跡	弥生住居跡
2	五代深堀II遺跡	本遺跡	14	小神明遺跡群II 大明神遺跡	古墳時代の住居跡
3	五代中原Ⅰ遺跡	本遺跡			
4	五代伊勢宮IV遺跡	本遺跡	15	芳賀北曲輪遺跡	縄文住居跡、古墳
5	芳賀北部団地遺跡	縄文住居跡、奈良・平安住居跡	16	芳賀北原遺跡	古墳住居跡、奈良・平安住居跡
6	芳賀西部団地遺跡	縄文住居跡、古墳	17	五代檜峯遺跡跡	古墳住居跡
7	芳賀東部団地遺跡	縄文住居跡、古墳住居跡、古墳、奈良・平安住居跡	18	鳥取東原遺跡	古墳住居跡、近世埋葬施設
			19	鳥取福蔵寺遺跡	縄文住居跡、古墳～平安時代の住居跡
8	檜峯遺跡	古墳住居跡、奈良・平安住居跡	20	鳥取福蔵寺II遺跡	旧石器(細石刃文化石器群)、縄文住居跡、古墳住居跡、奈良・平安住居跡
9	小神明遺跡群Ⅰ	縄文住居跡、奈良・平安住居跡			
10	小神明遺跡群II 九料遺跡	縄文住居跡(敷石)、古墳住居跡、奈良・平安住居跡	21	五代江戸屋敷遺跡	古墳～中世の住居跡・掘立柱建物跡・方形周溝墓他
11	小神明遺跡群II 西田遺跡	縄文住居跡、古墳住居跡、円墳、帆立貝式古墳	22	五代木福II遺跡	縄文配石遺構、古墳～奈良・平安住居跡
			23	五代深堀Ⅰ遺跡	縄文住居跡、平安住居跡
12	端気遺跡群Ⅰ・II	縄文住居跡、弥生方形周溝墓、古墳住居跡	24	五代伊勢宮II遺跡	縄文住居跡、古墳住居跡、奈良住居跡

◎その他の周辺の遺跡　25 新田塚古墳(円墳、７世紀)　26 檜峯古墳(円墳)　27 大日塚古墳(円墳)　28 桂正田稲塚古墳(円墳？)
29 東公田古墳(墳墓)　30 オブ塚古墳(前方後円墳、６世紀後半)　31 オブ塚西古墳(墳丘無)

第１表　周辺遺跡概要一覧表

検出されている。また、小神明遺跡群II、西田遺跡からは古墳時代後期中葉（6世紀中頃）の円墳や帆立貝式古墳の検出があった。奈良・平安時代では、檜峯遺跡から竪穴住居跡とともに奈良三彩小壺も検出されている。また、近年の調査では、鳥取福蔵寺遺跡で縄文時代の竪穴住居跡や古墳～平安時代の竪穴住居跡や製鉄遺構、鳥取東原遺跡では古墳時代の竪穴住居跡や近世の埋葬施設、芳賀東部団地遺跡（平成9年調査）では平安時代の竪穴住居跡、五代檜峯遺跡からは古墳時代の竪穴住居跡、鳥取福蔵寺II遺跡（平成10年調査）では縄文、古墳、奈良・平安時代の各時代の竪穴住居跡とともに細石刃文化石器群（旧石器）が検出されている。また、近接する五代江戸屋敷遺跡（12年度調査）では古墳時代の竪穴住居跡や方形周溝墓、五代木福II遺跡（12年度調査）では縄文時代の配石遺構や古墳、奈良・平安時代の竪穴住居跡、五代深堀I遺跡（12年度調査）からは縄文、平安時代の竪穴住居跡、伊勢宮II遺跡（13年度調査）では縄文時代、古墳、奈良時代の竪穴住居跡などが検出されている。このように芳賀地区は、旧石器の調査を始め、縄文から弥生、古墳、奈良・平安時代、中近世までの遺構が点在し、ほとんどの時代にわたり生活の痕跡が見られる地区である。

III　調査の経過

1．調査方針

委託された調査区は五代伊勢宮III遺跡1,260㎡、五代深堀II遺跡356㎡、五代中原I遺跡8,140㎡、五代伊勢宮IV遺跡2,406㎡の4ヵ所である。調査実施に際しては、公共座標に合わせて東西方向に伸びる調査区を算用数字（1、2、3、……）で、南北方向に伸びる調査区をアルファベット（A、B、C、……）で呼称して100×100mの大グリッドを組み、その中を4m毎の小グリッドを設定した。グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。また、水準は公共水準点に基づき調査区内に測設した。

図面作成は原則として、1/10、1/20、1/40、1/100等の縮尺を使用し、平板、遣り方による細部測量で作図を行った。また、遺物は遺構グリッド単位で層位毎に収納し、遺物分布平面図及び遺物台帳に記載し付番処理して取り上げた。また、遺構・遺物等の写真撮影（白黒・カラー・リバーサルフィルム）も行った。

2．調査経過

調査は7月26日より各調査区の草刈りを実施し、調査区確認、範囲出しを行った。また、調査事務所休憩所等も設置し、重機搬入とともに調査準備を進めた。調査の開始は五代伊勢宮III遺跡より安全対策の防護ネット等を設置して開始した。また、遺構確認面等の調査指導は前橋市教育委員会の立ち会い指導のもと行い、他の調査区も同様に行った。

伊勢宮III遺跡

7月26日より範囲出しを行い、重機にて表土掘削を開始した。また、ジョレン掛け精査、遺構確認も行った。確認面の状況は、調査区西側が南北方向に1/3程台地をなし、東側は段をなして低くなっている。その面には後世の耕作痕やカクランが入り遺構を掘り込んでいた。検出された遺構は住居跡、土坑、柱穴、井戸跡、溝、地下式土坑、竪穴状遺構、近代の道路跡などある。調査は住居跡、土坑、柱穴等から発掘を始め溝、地下式土坑へと進めた。また、調査区にグリッド杭、ベンチ杭を測設し測量記録作業に入る。その後各遺構内に地下水が湧くため、ポンプ4台を使用しての作業となり調査に時間を要した。また、各遺構の遺物取り上げや写真撮影も行った。10月に入り高所写真撮影をするとともに、市教育委員会の終了検査を受けて調査を終了した。10月中旬には埋め戻しも完了した。

深堀II遺跡

伊勢宮III遺跡の表土掘削終了後、8月初旬より重機にて表土掘削に入る。調査区が道路建設部分のため狭く、道路に面している所もあるため安全に務めた。調査はジョレン掛け遺構確認後、住居跡、土坑、柱穴等を検出し調査に入る。また、グリッド杭、ベンチ杭も調査区に測設し測量記録作業に入る。道路建設部分の細長い範囲だが住居跡10軒（縄文1軒含む）、土坑15基（縄文2基含む）、柱穴57基、溝跡1条など、多数検出され、調査に時

間を要した。また、各遺構の遺物取り上げや写真撮影なども行った。10月に入って高所写真撮影を行うとともに市教育委員会の終了検査を受けて調査を終了した。埋め戻しも10月中旬に完了した。

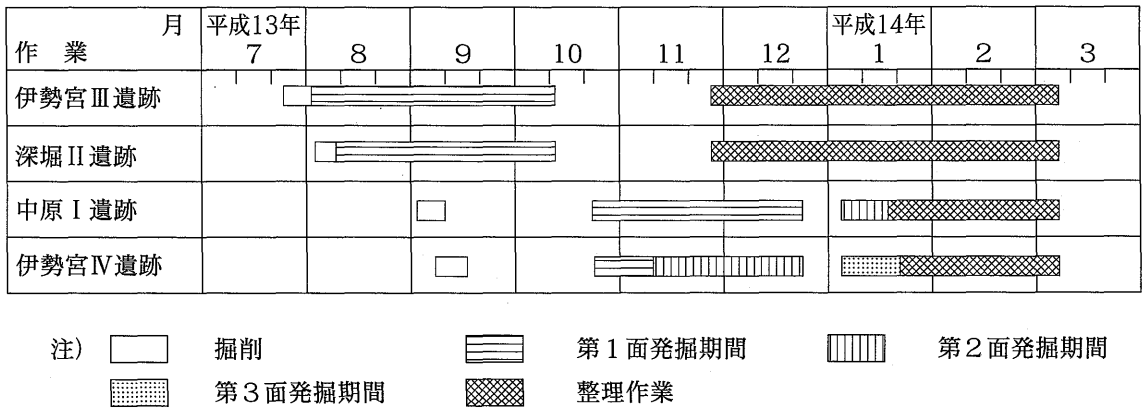
中原Ⅰ遺跡

市教育委員会の指示により遺構検出状況を調べるため、９月初めに表土掘削をして遺構確認を行った。その結果、住居跡、溝跡、柱穴等を検出し10月末より調査に入ることになった。約１ヶ月程、間があいたため草刈りから始めてその後ジョレン掛け精査を行った。遺構は平坦な面と傾斜面に検出され発掘に入る。また、カクラン、掘削を受けている西側の平坦な面の調査は遺構検出に時間を要した。測量記録作業は調査区にグリッド杭やベンチ杭を測設して作業に入り、遺物取り上げや写真撮影等を行い12月29日に調査が終了し、平成14年１月７日に市教育委員会の終了検査を受けて第１面の調査を終了した。また、調査終了後に下層の遺構確認のためサブトレンチを入れることになり１月８日に行った。その結果、南側のカクラン範囲の一部より住居跡が検出されたため市教育委員会の指導により、その範囲を広げて第２面の調査を行った。遺構は縄文時代の土坑や古墳、平安時代の住居跡等が検出され、発掘作業とともに測量記録作業を進め、平成14年１月19日まで調査を行い市教育委員会の検査を受けて終了した。また埋め戻しも終了後に行った。

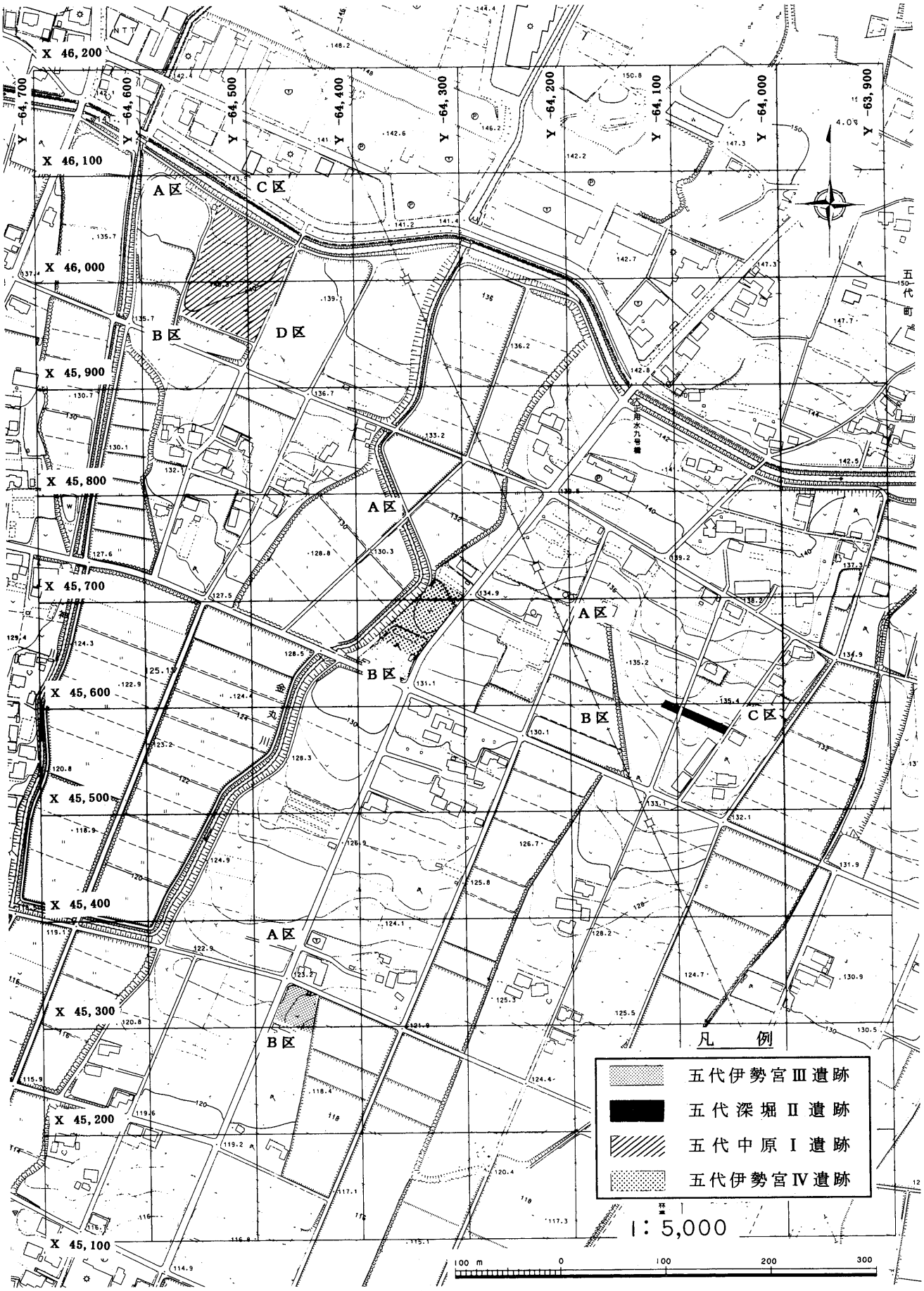
伊勢宮Ⅳ遺跡

市教育委員会の指示により遺構の検出状況を調べるため表土掘削を９月中旬に行い、遺構確認をして、縄文時代の遺構や平安時代の住居跡等を検出した。調査は、他の調査区との兼ね合いもあり10月末より行った。また、ジョレン掛け精査後、各遺構の発掘に入った。測量記録作業も調査区にグリッド杭、ベンチ杭を測設して作業を進めた。また、遺物取り上げや写真撮影も行った。11月中旬に市教育委員会の検査を受けて第１面の調査を終了した。第１面調査終了後、下層に遺構があることが想定されるため、市教育委員会に報告後、指示を受けて11月中旬より第２面の掘り下げを行った。その結果、縄文時代の土坑の検出があり１面と同様に12月29日まで調査を行い、平成14年１月７日に第２面目の終了検査を受け終了した。

第３面の調査は、遺構の検出していない所にサブトレンチをいれて遺構確認を行った。その結果、縄文時代の土坑を検出したため市教育委員会に報告後、指示にしたがって、その範囲を掘り下げて調査を行った。調査では、縄文中期の遺構遺物が検出され、測量記録等や遺物取り上げ写真撮影等を行って、１月24日に調査終了検査を受け終了した。また埋め戻しも行い３月８日までにすべて完了した。



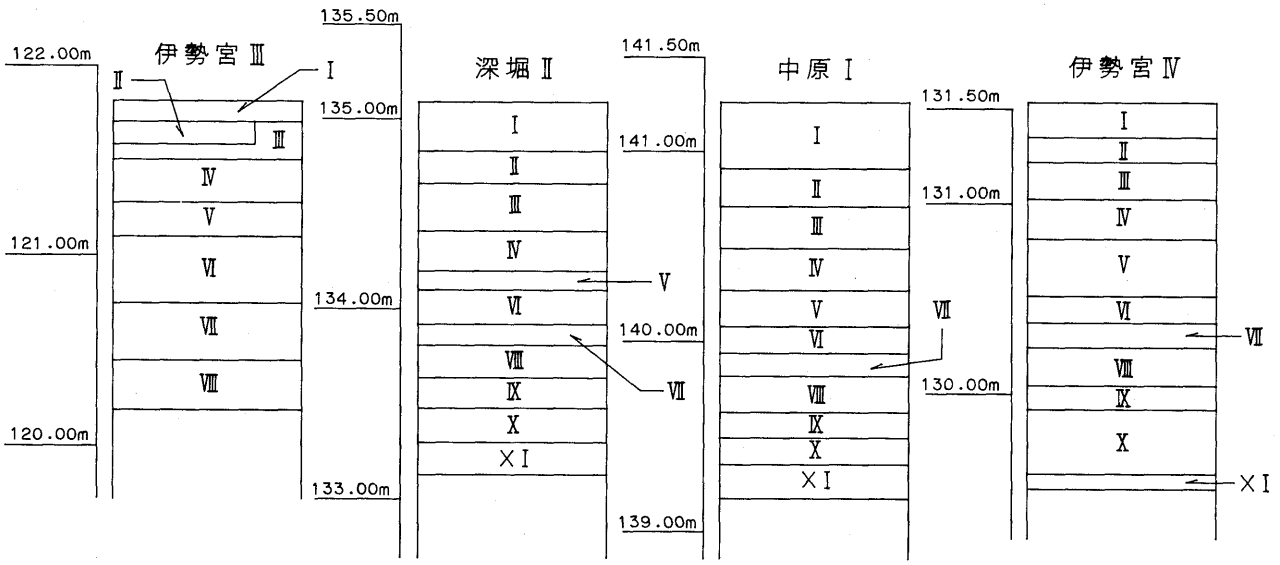
第２図　発掘調査経過図



第3図　遺跡位置図・グリッド設定図

Ⅳ 層　　序

層序は、五代伊勢宮Ⅲ遺跡、五代深堀Ⅱ遺跡、五代中原Ⅰ遺跡、五代伊勢宮Ⅳ遺跡内にそれぞれ入れた深掘り土層断面をもとに模式的に断面図を作成し、それについての土層説明を下記に掲載した。



第４図　五代伊勢宮Ⅲ遺跡、五代深堀Ⅱ遺跡、五代中原Ⅰ遺跡、五代伊勢宮Ⅳ遺跡基本土層断面図

伊勢宮Ⅲ遺跡

Ⅰ．黒褐色土層 粘性なく、締まりややあり、ローム粒を20％含む(耕作土)
Ⅱ．黄褐色土層 粘性なく、締まりややあり、白色軽石を７％含む
Ⅲ．黒褐色土層 粘性なく、締まりややあり、軽石粒を含む
Ⅳ．褐色土層 粘性、締まりややあり、白色軽石を７％含む
Ⅴ．褐色土層 粘性、締まりあり、青灰色軽石 φ １～２㎜を５％含む
Ⅵ．暗褐色土層 粘性、締まりあり、青灰色軽石 φ １～５㎜を７％含む
Ⅶ．褐色土層 粘性、締まりあり、青灰色軽石 φ １～２㎜を８％含む
Ⅷ．褐色土層 粘性、締まりあり、黄色軽石 φ ５～15㎜を２％含む

深堀Ⅱ遺跡

Ⅰ．褐色土層 粘性なく、締まりややあり、白色軽石粒７％とローム粒を10％含む(耕作土)
Ⅱ．黄褐色土層 粘性なく、締まりややあり、白色軽石粒を７％含む
Ⅲ．黄褐色土層 粘性なく、締まりややあり、白色軽石粒を15％含む
Ⅳ．黄褐色土層 粘性ややあり、締まりあり、白色軽石粒25％と黄色軽石を３％含む
Ⅴ．黄褐色土層 粘性ややあり、締まりあり、白色軽石粒を20％含む
Ⅵ．黄褐色土層 粘性なく、締まりあり、軽石粒を含む
Ⅶ．黄褐色土層 粘性、締まりあり、軽石粒を20％含む
Ⅷ．鈍い黄褐色土層 粘性、締まりあり、青灰色軽石 φ １～２㎜を３％含む
Ⅸ．褐色土層 粘性、締まりあり、青灰色軽石 φ １～５㎜を７％含む
Ⅹ．暗褐色土層 粘性、締まりあり、青灰色軽石 φ ２～５㎜を10％含む
Ⅺ．暗褐色土層 粘性、締まりあり、青灰色軽石 φ ２～５㎜を７％含む

中原Ⅰ遺跡

Ⅰ．明黄褐色土層と鈍い黄褐色の混土層（カクラン層）
Ⅱ．明黄褐色土層 粘性なく、締まりあり、白色軽石、青灰色軽石を１％含む
Ⅲ．黄褐色土層 粘性、締まりあり、白色軽石、青灰色軽石を１％含む
Ⅳ．黄褐色土層 粘性、締まりあり、黄色軽石 φ ２～３㎜を１％含む
Ⅴ．黄褐色土層 粘性、締まりあり、褐色軽石 φ ２～３㎜をブロック状に含む
Ⅵ．黄褐色土層 粘性、締まりあり、褐色軽石 φ ２～５㎜を３％含む
Ⅶ．黄褐色土層 粘性、締まりあり、青灰色軽石 φ １～２㎜を１％含む
Ⅷ．鈍い黄褐色土層 粘性、締まりあり、青灰色軽石 φ ３～５㎜を１％含む
Ⅸ．灰黄褐色土層 粘性、締まりあり、青灰色軽石 φ ５～10㎜を１％含む
Ⅹ．灰黄褐色土層 粘性、締まりあり、青灰色軽石 φ ５～10㎜を３％含む
Ⅺ．灰黄褐色土層 粘性、締まりあり、青灰色軽石 φ ５～10㎜を５％含む

伊勢宮Ⅳ遺跡

Ⅰ．暗褐色土層 粘性、締まりなし（耕作土）
Ⅱ．黒褐色土層 粘性なく、締まりあり、白色軽石 φ １㎜を５％含む
Ⅲ．褐色土層 粘性なく、締まりあり、白色軽石 φ １㎜を７％含む
Ⅳ．黄褐色土層 粘性ややあり、締まりあり、白色軽石を10％含む
Ⅴ．黄褐色土層 粘性ややあり、締まりあり、白色軽石を７％含む
Ⅵ．黄褐色土層 粘性ややあり、締まりあり、白色軽石を３％含む
Ⅶ．黄褐色土層 粘性なく、締まりあり、褐色軽石をラミナ状に含む
Ⅷ．鈍い黄褐色土層 粘性、締まりあり、白色軽石３％と青灰色軽石 φ １～２㎜を２％含む
Ⅸ．褐色土層 粘性、締まりあり、青灰色軽石を３％含む
Ⅹ．褐色土層 粘性、締まりあり、軽石粒含む
Ⅺ．褐色土層 粘性、締まりあり

※本文中に使用した略号は、As-C軽石：４世紀降下浅間山起因の軽石層・Hr-FP軽石：６世紀中葉降下榛名山起因の軽石層

V　五代伊勢宮Ⅲ遺跡

1．概　　観

調査では、縄文時代の土坑１基をはじめ平安時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡、竪穴状遺構、溝、柱穴、土坑、井戸跡、地下式土坑や近代の道路跡など縄文時代、平安時代、中・近世、近代までの遺構が検出された。

2．遺構と遺物

(1)　竪穴住居跡

①平安時代

H－１号住居跡〔第６図、図版１〕

位置 AY-10・11、BA-10・11グリッド **形状** ほぼ長方形を呈す。**重複** D-72・73に掘り込まれ、H－２号住居跡を掘り込んでいる。**規模** 長軸3.76m、短軸3.62m、確認面から床面までの壁高３～20cm。**面積** 11.63m² **長軸方向** N-24°-E、**床面** 一部カクランあり。周溝は北西側と西壁側に一部検出。他不明。**柱穴** 北東、北西隅に検出。P－１長径30cm、短径28cm、深さ16cmの楕円形。P－２長径29cm、短径26cm、深さ23.0cmの楕円形。**貯蔵穴** 南東隅に検出。長径165cm、短径70cm、深さ27cmの楕円形。**カマド** 東壁の中央やや南寄りに位置する。主軸方向 N-108°-Eで、全長95cm、最大幅63cm、焚口部幅42cm。**遺物** 図示した遺物は、須恵器埦№１などがある。

H－２号住居跡〔第６図、図版１〕

位置 AY-11、BA-11・12グリッド **形状** [長方形]を呈す。**重複** H－１号住居跡に切られている。**規模** 長軸(3.63)m、短軸(3.52)m、確認面から床面までの壁高３～17cm。**面積** (7.48)m² **長軸方向** N-18°-E、**床面** やや凹凸のある堅緻な床面。周溝は検出されなかった。**柱穴** 北東隅に検出。P－１長径48cm、短径43cm、深さ14cmの楕円形。**貯蔵穴** 南東隅に検出。長径107cm、短径105cm、深さ24cmの楕円形。**カマド** 東壁の中央やや北寄りに位置する。主軸方向 N-95°-Eで、全長85cm、最大幅67cm、焚口部幅36cm。**遺物** 図示した遺物は、須恵器坏№１などがある。

H－３号住居跡〔第７図、図版１〕

位置 AO－８、AP－８・９グリッド **形状** [正方形]を呈す。**規模** 長軸(2.22)m、短軸(2.19)m、確認面から床面までの壁高 後世の掘削から残った部分２cm。**面積** (4.52)m² **長軸方向** 不明。**床面** 後世の掘削を受けて堅緻面が残るのみ。周溝は検出されなかった。**柱穴** 北壁、南壁側と南東隅に検出。P－１長径19.0cm、短径(10.0)cm、深さ(17.0)cm、形状不明。P－２長径22cm、短径19cm、深さ14.5cmの楕円形。P－３長径43cm、短径38cm、深さ23cmの楕円形。P－４長径56cm、短径45cm、深さ21cmの楕円形。**カマド** 東壁のやや南寄りに位置する。主軸方向 N-108°-Eで、全長77.0cm、最大幅60.0cm、焚口部幅 不明。**遺物** 図示した遺物は、須恵器坏№１などがある。

(2)　T－１号竪穴状遺構〔第７図、図版１〕

位置 AT・U－７グリッド **形状** 東壁側は掘削を受けて不明。**規模** 長軸(4.10)m、短軸(1.80)m、確認面から床面までの壁高 検出部分で20cm。**面積** (5.74)m² **長軸方向** 不明。**床面** 東側は掘削を受けて不明。残り部分は堅緻な面。周溝は検出されなかった。**柱穴** 西壁側に検出。P－１長径43cm、短径41cm、深さ17cmの円形。P－２長径32cm、短径21cm、深さ29cmの楕円形。**貯蔵穴** 不明。**カマド** 不明。**遺物** 出土しなかった。

注）[　　] は推定、(　　) は検出値を表す。

(3)　掘立柱建物跡

B－１〔第５・８図、図版２〕

位置 AT-12・13、AU-11～13グリッド P-38、34、32、33、16、17、13、12、43、３、２、82、81が掘立柱建物跡を囲む位置にある。その中でP-38、33、16、13、12、43、２、82は、２間のほぼ等間隔に当たり掘立柱建物跡を組める状況にある。**形状** 東西方向２間×南北方向２間の長方形。**長軸方向** N-77°-W、**推定面積** [15.88]m² を測る。**柱間寸法** 東西方向２間のP-38・33・16間 2.37m＋1.97mで4.34m、P－２・43・12間 2.65m＋1.98mで4.63m、南北方向 P-12・13・16間 1.62m＋1.80mで3.42m、P－２・82・38間 1.78m＋1.77mで3.55mを測る。

柱穴 平面は円形、楕円形を呈し掘り込みはU字形である。径は長径27～49cm、短径26～39cm、深さ28～67cmを測る。**遺物** 出土しなかった。

B－2〔第5・8図〕

位置 AU・V-11・12グリッド **形状** 北西～南東方向2間×北東～南西方向1間、2間のほぼ正方形。**長軸方向** N-47°-W、**推定面積** [9.90]m²を測る。**柱間寸法** 北西～南東方向2間のP－3・4・6間（P－4は、P－3・6間の直線上より南へ20cmずれる。）2.20m＋1.00mで3.20m、P-80・52・57間 1.84m＋1.52mで3.36m、北東～南西方向1間のP－3・80間 2.94m（P－3・80間にD-34があるが、柱穴は検出されなかった。）2間のP－6・51・57間 1.65m＋1.55mで3.20mを測る。**柱穴** 平面は円、楕円形を呈し掘り込みはU字形と鍋底形である。径は長径21～53cm、短径20～39cm、深さ6.5～38cmを測る。**遺物** 出土しなかった。

注）[　　] は、柱穴を囲んだ面積。　本文掲載以外の各遺構については、計測表にまとめて報告する。

3．まとめ

本遺跡は、台地の西から東へ緩やかに傾斜する所の境に位置する。確認面は、現耕作土より35～46cm下がった台地部分と、そこから1段下がった面で40～82cmを測る。その台地部分と1段低い所でローム面が整地されている。その面には、現代の耕作痕やカクランが入り遺構にかかっているものが多い。

住居跡は台地部分と1段低い所に検出され、H－3号住居跡は台地部分で後世の掘削を受けてカマドのみが残っていた。また、H－1・2号住居跡は、重複した住居跡でH－1号住居跡がH－2号住居跡の床面を、掘り込んで作られている。いずれも東壁側にカマドが作られている。3軒からの遺物は土師器「コ」の字状口縁の甕片や須恵器埦片、羽釜片など9世紀中葉～10世紀代の遺物が出土している。また、T－1号竪穴状遺構としたものは、東側の半分以上が掘削を受け、残りの部分の形状から住居跡と推定できる所もあったが特定できなかった。

土坑、柱穴は調査区の北東から南東にかけて集中して検出された。土坑は規模の異なるものや重複したものが検出された。そのほとんどがカクランや現代の遺物を含むものであった。その中でD-19は、縄文土器片の検出があった土坑である。柱穴も多数検出され、黒褐色土で埋まったものが掘立柱建物跡を2棟組むことができた。住居跡の覆土と類似することからも関連性が推測される。

溝跡は、段状をなす下端付近にW－1、それと直行するかたちで東西方向にW－2の検出があった。W－1は、浅く幅が狭い溝で、北側はやや湾曲して調査区外に延びる。また、南側は地下式土坑（A－5）や井戸跡（I－1）と重複して掘り込まれている。W－2は幅も広く掘り込みも深い溝で、水溜の用水状を呈し、東側で急に浅くなりオーバーフローして東側に流水したと推測される溝である。遺物は石臼片や軟質陶器片（内耳鍋）などと少量の土師器、須恵器片の出土があった。

井戸跡は、土坑群の中と地下式土坑付近で検出した。ロート状と円筒状の掘り込みで、ロート状のものからは、多くの石に混じって石臼片や土師器、須恵器片の出土があった。円筒状からは、須恵器片が出土したがいずれも覆土からの検出である。

地下式土坑は、調査区の南側に多く検出した。大小の方形状の組み合わせで掘り込みが深い。また、土層断面には天井部と推測される崩落した、ローム土の堆積部分も見られた。遺物は古銭や軟質陶器、石臼片、灯明皿、内耳鍋片など中世頃の遺物と須恵器蓋、甕片なども数点出土している。他に土地改良前まで使用していた道路跡と東側に付設した溝（W－3）も検出した。溝からはヒューム管3本も検出され、この部分が畑に通じる馬入れ部分があったと推測される。

全体に平安時代の住居跡や竪穴状遺構などは、掘削を受けて残りが悪く、溝、地下式土坑、井戸、土坑、柱穴、近代の道路跡などは形状が残っていた。これは平安時代以降に掘削、整地があったことを示し、中世以降と推測される遺構は1段低い所に多く検出され、その後の掘削も部分的に入っているだけで、影響が少なく残りが良い点があげられる。また、平安時代以前の空白の時期については、本遺跡の道路を挟んで西側に位置する五代江戸屋敷遺跡（市教育委員会）からは、縄文時代の土坑や古墳時代の竪穴住居跡などの検出があることから、集落が継続する地域と思われ、本遺跡検出の住居跡も集落の一部に含まれる可能性があるとともに、縄文時代から人々の生活が営まれていた地域であったことがうかがわれる。

第２表　柱穴計測表

（　　）は検出値を表す。

柱穴番号	遺構位置	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	形　状	備　　考
P-1	AU-11	30	27	18	円　形	
P-2	AU-11	42	37	49	円　形	掘立柱建物跡(B-1)
P-3	AU-12	53	39	38	楕円形	掘立柱建物跡(B-2)
P-4	AU・V-12	35	32	6.5	円　形	掘立柱建物跡(B-2)
P-5	AU-12	35	26	32	楕円形	
P-6	AV-12	30	28	26.5	円　形	掘立柱建物跡(B-2)
P-7	AV-12	26	24	23.5	円　形	
P-8	AV-12	28	26	29	円　形	
P-9	AV-12	54	32	52	楕円形	
P-10	AU-12	51	35	7	楕円形	
P-11	AU-12・13	29	25	12	円　形	
P-12	AU-13	40	37	48	円　形	掘立柱建物跡(B-1)
P-13	AU-13	37	29	28	楕円形	掘立柱建物跡(B-1)
P-14	AU-12・13	32	24	16	楕円形	
P-15	AU-12・13	59	38	50	楕円形	
P-16	AT・U-13	40	32	40.5	楕円形	掘立柱建物跡(B-1)
P-17	AU-13	20	18	23	楕円形	掘立柱建物跡(B-1)
P-18	AU-13	28	25	10	楕円形	
P-19	AU-13	37	34	31	円　形	
P-20	AU-13	38	36	7	円　形	
P-21	AU-13	36	32	28	円　形	
P-22	AT-13	36	32	49	円　形	
P-23	AT-13	42	30	24	楕円形	
P-24	AT・U-13	30	24	9	円　形	
P-25	AT-13	31	27	21	円　形	
P-26	AT-13	47	35	34	楕円形	
P-27	AT-13	24	22	39	円　形	
P-28	AT-13	30	28	28	円　形	
P-29	AT-12	25	23	17	円　形	
P-30	AT-12	34	32	24.5	円　形	
P-31	AT-12	40	33	37	円　形	
P-32	AT-12	30	26	26	円　形	
P-33	AT-12	27	25	49	円　形	掘立柱建物跡(B-1)
P-34	AT-12	51	32	54.5	楕円形	
P-35	AT-12	44	24	28	楕円形	
P-36	AT-12	40	33	50.5	楕円形	
P-37	AT-12	(33)	(29)	9	楕円形	
P-38	AT-12	49	38	53	円　形	掘立柱建物跡(B-1)
P-39	AT-11	60	40	58.5	楕円形	
P-40	AT-11	46	44	14	円　形	
P-41	AU-12	36	31	19	円　形	
P-42	AU-12	40	35	28	円　形	
P-43	AU-12	40	39	67	円　形	掘立柱建物跡(B-1)
P-44	AV-13	30	25	36	円　形	
P-45	AV-13	30	22	6	楕円形	
P-46	AV-13	47	41	21.5	楕円形	
P-47	AV-13	26	23	48	円　形	
P-48	AV-13	30	28	30	円　形	P-49重複
P-49	AV-13	21	19	30	円　形	P-48重複
P-50	AV-13	28	23	35	円　形	
P-51	AV-12	37	36	28	円　形	掘立柱建物跡(B-2)
P-52	AV-11	21	20	17	円　形	掘立柱建物跡(B-2)
P-53	AW-12	52	38	18	楕円形	P-54と重複
P-54	AW-12	30	27	22	楕円形	P-53と重複
P-55	AT-13	33	29	39	円　形	
P-56	AV-11	35	33	17	円　形	
P-57	AV-12	32	28	23	円　形	掘立柱建物跡(B-2)
P-58	AW-13	50	31	47.5	楕円形	
P-59	AW-12	26	23	22.5	円　形	
P-60	AW・X-12	70	43	46	楕円形	
P-61	AX-12	45	38	29	楕円形	P-62と重複
P-62	AX-12	31	(28)	46.5	楕円形	P-61と重複
P-63	AX-12	33	(27)	5	円　形	P-64・65と重複
P-64	AW・X-11・12	(37)	(35)	20	円　形	P-63・65と重複
P-65	AW・X-11・12	45	(38)	47.5	円　形	P-63・64と重複
P-66	AW・X-12	34	30	15	円　形	
P-67	AW-11	40	36	26	円　形	
P-68	AW-11	35	31	15.5	円　形	
P-69	AW-11	33	32	39	円　形	
P-70	AX-10	44	41	50	円　形	
P-71	(欠番)					
P-72	AX-10	43	(27)	59	楕円形	
P-73	AX・Y-11	59	54	44	円　形	
P-74	AY-10・11	51	48	40	円　形	
P-75	AS-7	32	26	41	楕円形	
P-76	AS-6・7	40	31	32	楕円形	
P-77	AR・S-7	25	22	24.5	円　形	
P-78	AQ-7	20	18	41	円　形	
P-79	AQ-7	31	25	53	円　形	
P-80	AV-11	32	26	29	円　形	掘立柱建物跡(B-2)
P-81	AU-12	28	26	19	楕円形	
P-82	AU-12	33	26	40	楕円形	掘立柱建物跡(B-1)

第３表　土坑計測表

［　　］は推定、（　　）は検出値を表す。

土坑番号	遺構位置	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	形　状	備　　考
D-1	AP・Q-10	138	110	26	楕円形	
D-2	AQ-10	154	90	56	楕円形	コンクリート片出土
D-3	AQ-10	155	110	41	楕円形	コンクリート片出土
D-4	AQ-11	85	72	24	円　形	
D-5	AQ-12	120	112	49	円　形	
D-6	AQ・R-12	105	90	23	円　形	
D-7	AR-10・11	188	170	93	円　形	石出土
D-8	AR-11	180	165	69	円　形	D-9と重複
D-9	AR-11	(93)	(70)	22	楕円形	D-8と重複
D-10	AR-10・11	170	160	66	円　形	
D-11	AR-11	130	107	58	円　形	
D-12	AR・S-11	(120)	90	40.5	楕円形	D-13と重複
D-13	AR・S-11	86	(69)	10	楕円形	D-12と重複
D-14	AR-11・12	92	80	21	円　形	
D-15	AS-11・12	110	105	64	円　形	Ⅰ-2と重複
D-16	(欠番)、Ⅰ-2(井戸)になる。					須恵器片２点
D-17	AR-12	129	80	23	長方形	
D-18	AR-12	120	110	33	円　形	
D-19	AR-12・13	218	173	84	不整形	遺物１点縄文片、D-20と重複
D-20	AR-13 AS-12・13	305	(130 ~215)	(6~ 40)	長方形	D-19と重複、東側調査区外
D-21	AS-11	106	90	41	楕円形	
D-22	AS-11	75	67	15.5	円　形	
D-23	AS・T-11	110	93	79	円　形	
D-24	AS-12	93	75	10	楕円形	
D-25	AS・T-12・13	118	89	31	不整形	
D-26	AT-11・12	258	104	30	楕円形	
D-27	AT-11	90	55	37	楕円形	
D-28	AU-13	152	90	25	楕円形	

土坑番号	遺構位置	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	形状	備考
D-29	(欠番)、I-3になる					
D-30	AU-12	(95)	70	26	楕円形	D-31と重複、D-31が新しい
D-31	AU-12	92	79	58	円形	D-30と重複
D-32	AU-12	132	91	35	長方形	
D-33	AU-10	111	91	51.5	楕円形	
D-34	AU・V-11	86	(74)	40	楕円形	D-35と重複
D-35	AU・V-11・12	(170)	90	51	楕円形	D-34と重複
D-36	AV-11	90	76	8	円形	
D-37	AV-11・12	130	88	31	楕円形	
D-38	AV-12	106	80	18	円形	
D-39	AV・W-12	220	126	30	楕円形	
D-40	AV・W-12・13	205	162	48	楕円形	
D-41	AV・W-9・10	135	94	61	楕円形	
D-42	AW-10・11	111	106	78	円形	
D-43	AX-11	(93)	(90)	57	[円形]	
D-44	AW・X-11	130	115	47	楕円形	
D-45	AX-11	153	76	64	楕円形	
D-46	AX-11・12	252	65	24.5	楕円形	
D-47	AY-10・11	133	100	23	楕円形	D-58と重複
D-48	AQ-9	142	88	67	楕円形	
D-49	AR-8	162	75	47	楕円形	
D-50	AR-9・10	207	165	111	不整形	
D-51	AR-8・9、AS-9	190	180	69	円形	
D-52	AR・S-9	174	144	60	楕円形	

土坑番号	遺構位置	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	形状	備考
D-53	AS-10	215	190	56	円形	
D-54	AS・T-8	210	195	56	円形	
D-55	AU-9	105	90	73	楕円形	
D-56	AY-9	(240)	(200)	20	[長方形]	D-57・58・65と重複
D-57	AY-9	(245)	(170)	53	[長方形]	D-56・58・65と重複
D-58	AY-9	(220)	(130)	48	[長方形]	D-56・57・65と重複
D-59	(欠番)、A-1(地下式土坑)になる					
D-60	(欠番)、A-1になる					
D-61	(欠番)、A-1になる					
D-62	(欠番)、A-2になる					
D-63	(欠番)、A-3になる					
D-64	(欠番)、I-1になる。壁に一部入るため不明					
D-65	AY-9	226	(35)	10	不整形	D-56～58と重複
D-66	AU-9・10	113	89	43.5	楕円形	
D-67	AU-9・10	124	115	33	楕円形	
D-68	AU・V-10	180	110	54	楕円形	
D-69	AV-12	95	76	37	円形	
D-70	AU-12	66	63	17	円形	
D-71	AR-10・11	132	101	84	楕円形	
D-72	AY-10・11 BA-10・11	134	83	12～24	長方形	H-1号内
D-73	AY-11	(230)	80	23～36	不明	H-1号内、一部カクラン
D-74	BA-10	53	38	28	長方形	

第4表　井戸計測表

(　　)は検出値を表す。

井戸番号	遺構位置	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	形状	備考
I-1	AX・Y-6・7	281	(207)	(200)	楕円形	南側一部調査区外。石臼、土師器甕、須恵器埦、鉄、石器
I-2	AS-12	122	112	(155)	円形	須恵器片
I-3	AT・U-11・12	125	120	(206)	円形	

第5表　地下式土坑計測表

(　　)は検出値を表す。

土坑番号	遺構位置	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	形状	備考
A-1	AW・X-8	(120) 245	(110) 210	74～84 49～84	入口部円形 主室部方形	入口部は北側 灯明皿、石臼、須恵器、石
A-2	AW・X-7	(240)	205	47～59	主室部方形	入口部は不明、古銭、土師器、石
A-3	AX・Y-7	332	243	168～177	主室部方形	
A-4	AU-8	102 282	95 265	72～92 83～101	入口部方形 主室部楕円形	入口部は東側 軟質陶器、須恵器蓋(完形)
A-5	AW-6 AX-5・6・7	110 450	90 310	13～79 87～144	入口部方形 主室部長方形	古銭、須恵器甕、坏、高台付埦、軟質陶器

第6表　溝計測表

(　　)は検出値、N-S-W-Eは方向を表す。

溝番号	溝の位置	長さ(m)	深さ(cm)	底のレベル(m)	勾配(‰)	上幅 下幅(cm)	流水方向	備考
W-1	AP-10～AY-6	(38.3)	4～22	NE121.35 SW121.14	5.5	(44～83) (14～38)	NE→SW	
W-2	AU-7・8～AW-13	24.0	7～71	NW120.30 (AU-8グ) SE119.60 (AW-12グ)	AU-8～AW-12グまで 33.3	64～235 17～93	NW→SE	須恵器甕、軟質陶器、石臼、土師器坏勾配はAU-8グ付近からAW-12付近まで。長さは21.0m。AW-12グから東壁底まで長さ3m。底のレベルは120.07m
W-3	AP-7～AX-4・5	32.2	102～131	NE120.91 SW120.34	(17.7)	121～210 23～40	NE→SW	

第７表　出土土器観察表

法量は①口径②底径③高台径④器高を表す。

出土位置-No.	器　形	法　　量	①胎土②焼成③色④残存	成・整形方法		備　　考	実測図	図版
				口縁・胴部(体部)	底　部			
H-1-1	須恵器 埦	①(10.0)③(8.2) ④(2.5)	①中粒②良好(還元) ③内外面灰白10YR7/1 ④底部1/2と体部の一部	付高台、外傾、体部わずかに丸みをもつ。内外面ロクロ成形。	回転糸切り		10	3
H-2-1	須恵器 坏	①(9.4)②(5.2) ④(1.9)	①中粒②良好(還元) ③内面10YR6/1褐灰 外面10YR11/1灰白 ④底部と体部の一部	外傾、体部わずかに丸みをもつ。内外面ロクロ成形。	回転糸切り		10	3
H-3-1 カマド内	須恵器 坏	①(13.0)④(3.6)	①中粒②良好(還元) ③にぶい黄橙色10YR6/3 ④口縁から体部破片	内外面ロクロ成形。			10	3
I-1-1 (一括)	灰釉 埦	①(16.4)③(7.8) ④5.3	①細粒②良好(還元) ③灰白色2.5Y8/1 ④底～体部1/3	外傾、体部は丸みをもつ。外面ロクロ成形。口縁から体部の半分まで灰釉。			10	3
A-1-1	土師器 灯明皿	①7.8②4.0 ④2.3	①細粒②良好(酸化) ③10YR2/1黒(煤) ④ほぼ完形	小型、底部から丸みをもち外傾して立ち上がり口縁に至る。内外面ロクロ成形。	平底 篦削り	内外面とも煤付着黒色	10	3
A-3-1	軟質陶器 鉢	①(29.6) ④(8.0)	①中粒②良好(酸化) ③内面褐灰色10YR6/1 外面灰白色10YR7/1④口縁	外傾、内外面ロクロ成形。			10	3
A-4-1	内耳鍋	①34.0②25.9 ④17.0	①中粒②良好(酸化) ③内面7.5YR5/3鈍い褐 外面10YR2/1黒(煤)④4/5	胴部は外傾して立ち上がり底から２/３程の位置で屈曲して、口縁に至る。	平底、 欠損	内耳２点完形	10	3
A-4-2	須恵器 蓋	①11.5 つまみ径4.9 ④3.9	①中粒②良好(還元) ③内外面灰白色10YR8/1 ④ほぼ完形	口縁部より内側にかえり体部はわずかに内湾。内外面ロクロ成形。丁寧な成形。			10	3
A-5-1	須恵器 甕	①(36.8) ④(6.5)	①中粒②良好(還元) ③内面灰白2.5Y7/1 外面黒色2.5YR2/1 ④口縁から頸部破片	外反、内外面自然釉。口縁外側口三角状のかえり。内外面ロクロ成形。			10	3
D-72-1	須恵器 坏	①(11.0)②(6.6) ④2.2	①細粒②良好(酸化) ③7.5YR7/8黄橙④1/2	体部は直線的に外傾し口縁に至る。内外面ロクロ。	平底右回転糸切り	(土師質)	10	3
W-2-1 (一括)	内耳鍋	④(8.7)	①中粒②良好(酸化) ③内外面10YR2/1黄橙 ④内耳部分のみ、破片	体部屈曲し外傾口縁に至る。			10	3

注）出土土器観察表の記載は以下の基準で行った。
①胎土は、細粒(0.9mm以下)、中粒(1.0～1.9mm)、粗粒(2.0mm以上)とした。
②焼成は、極良、良好、不良の３段階。③法量の単位はcm、(　　)は現存値を記載した。
観察表の出土位置-No.は各遺構ごとの番号を表す。

第８表　石製品観察表

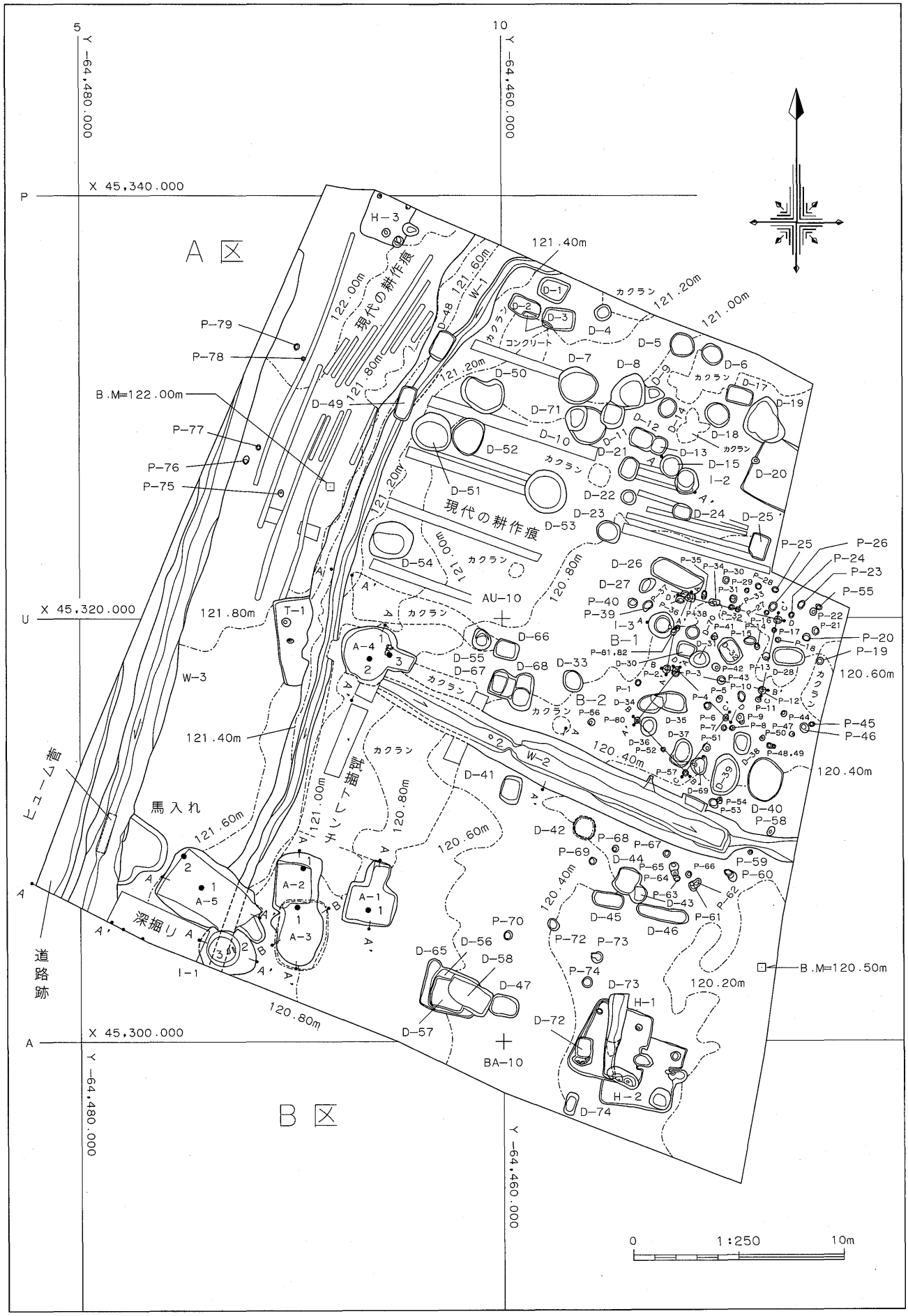
出土位置-No.	器種	口　径(cm)	底径(cm)	厚さ(cm)	孔(cm)	重さ(kg)	材　質	特　　徴	備　考	実測図	図版
A-4-3	石製手洗鉢？	(36.6) 器高(11.4)	(26.0)			1.45	粗粒安山岩	平底・胴部直立気味に立上る。内外面丁寧な造形。煤付着。	1/5残存	10	3
I-1-2	石臼 (上臼)	(径) (28.0)		11.4	1.3～3.0	5.00	粗粒安山岩	上臼、柄差込穴(挽き手穴)欠損のため付替穴あり。心棒穴あり。穀物落し穴。摩耗が激しく溝のくぼみは浅く断面形状確認できない。	1/2残存	10	3
I-1-3	石臼 (下臼)	(径) 31.0		14.5	2.0～2.5	14.50	粗粒安山岩	６分画、４～６溝を一単位とする。摩耗が激しく溝のくぼみは浅く断面形状は丸溝。中心に心棒孔あり。	2/3残存	11	3
W-2-2	石臼 (上臼)	(径) (28.0)		7.0	(1.5) ～(4.0)	2.81	粗粒安山岩	欠損、摩耗が激しい為、溝くぼみ、挽き手穴確認できず。心棒穴あり。	1/3残存	11	3

注）石製品観察表の出土位置-No.は各遺構ごとの番号を表す。(　　)は現存値を記載した。

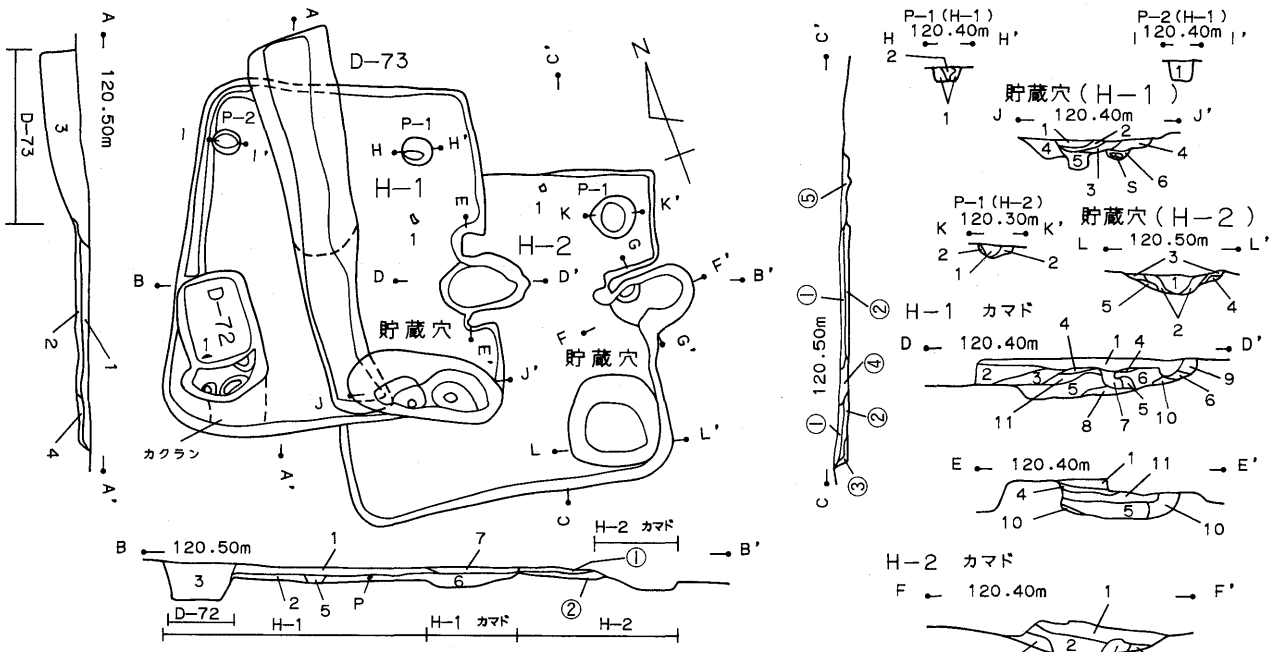
第９表　古銭観察表

出土位置-No.	器　　種	外　径(cm)	穿　径(cm)	重　さ(g)	備　　考	実測図	図　版
A-2-1	銅銭　元符通寶	2.40	0.70	2.79	北宋銭1098年鋳造	11	3
A-5-2	銅銭　祥符元寶	2.50	0.55	3.41	北宋銭1009年鋳造	11	3
AV-8グ	銅銭　元祐通寶	2.45	0.70	2.50	北宋銭1086年鋳造	11	3
AV-9グ	銅銭　元祐通寶	2.45	0.70	2.33	北宋銭1086年鋳造	11	3
BA-10グ	銅銭　至和元寶	2.45	0.70	2.67	北宋銭1054年鋳造	11	3
全体一括	銅銭　紹聖元寶	2.45	0.65	2.82	北宋銭1094年鋳造	11	3

注）古銭観察表の出土位置-No.は各遺構ごとの番号を表す。



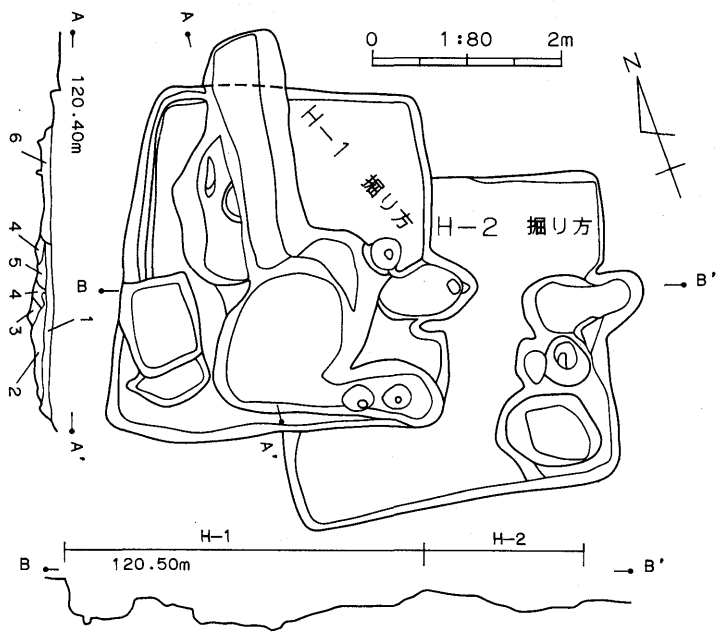
第５図　五代伊勢宮Ⅲ遺跡平面図



H-1 土層注記 （A-A′、B-B′断面）
1. 鈍い黄褐色土層　粘性なく、締まりややあり、ロームブロックを所々に含み白色軽石粒と細砂を含む
2. 鈍い黄褐色土層　粘性、締まりややあり、ローム粒、ブロックを１％以上含み、白色軽石粒と炭化物粒を所々に含む
3. 灰黄褐色土層　粘性、締まりなく、ローム粒と細砂を含み、わずかに炭化物粒を含む
4. 鈍い黄褐色土層　粘性、締まりややあり、ロームブロックとわずかに炭化物粒を含む
5. 灰黄褐色土層　粘性、締まりなく、わずかにローム粒を含む
6. 鈍い黄褐色土層　粘性、締まりなく、灰、炭化物を所々に含み、わずかにローム粒を含む
7. 灰黄褐色土層　粘性、締まりなく、焼土粒と炭化物粒を所々に含み、わずかに白色軽石粒を含む

H-1 P-1・2 土層注記 （H-H′、I-I′断面）
1. 褐灰色土層　粘性、締まりなく、ロームブロックを多く含む
2. 褐灰色土層　粘性、締まりややあり、わずかにローム粒と炭化物粒を含む

H-1 貯蔵穴 土層注記 （J-J′断面）
1. 鈍い黄褐色土層　粘性、締まりややあり、焼土、ロームブロック、わずかに灰を含む
2. 鈍い黄褐色土層　粘性、締まりなく、ローム粒を多く、わずかに焼土、炭化物粒を含む
3. 灰黄褐色土層　粘性なく、締まりややあり、焼土粒とロームブロックをわずかに含む
4. 灰黄褐色土層　粘性、締まりなく、焼土粒、ロームブロック、灰をわずかに含む
5. 鈍い黄褐色土層　粘性、締まりなく、焼土ブロックとロームブロックを含む
6. 灰黄褐色土層　粘性、締まりややあり、わずかに焼土粒と灰を含む



H-1・2 掘り方 土層注記 （A-A′、B-B′断面）
1. 鈍い黄褐色土層　粘性、締まりややあり、ロームブロックと黒褐色ブロックを含む
2. 鈍い黄褐色土層　粘性、締まりややあり、ロームブロックと焼土ブロックを所々に含む
3. 褐灰色土層　粘性、締まりなく、ロームブロックを含む
4. 黄褐色ロームブロック土層　わずかに焼土、炭化物を含む
5. 鈍い黄褐色土層　粘性、締まりなく、ロームブロック、焼土ブロックと灰をわずかに含む
6. 鈍い黄褐色土層　粘性、締まりややあり、ロームブロックと褐灰色土ブロックを多く含む

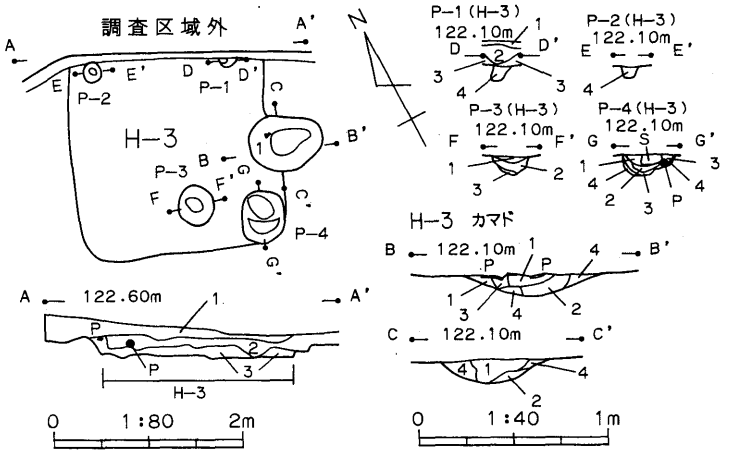
H-2 土層注記 （B-B′、C-C′断面）
①. 褐灰色土層　粘性なく、締まりややあり、ローム粒と細砂、白色軽石粒をわずかに含む
②. 褐灰色土層　粘性なく、締まりややあり、ローム粒と細砂、焼土粒を含み、白色軽石粒を所々に含む
③. 灰黄褐色土層　粘性、締まりややあり、ローム粒をわずかに含む
④. 灰黄褐色土層　粘性、締まりややあり、ロームブロック、白色軽石粒、焼土、炭化物粒をわずかに含む
⑤. 褐灰色土層　粘性、締まりなく、ローム粒、焼土粒、ブロックをわずかに含み、細砂、軽石粒を含む

H-2 P-1 土層注記 （K-K′断面）
1. 灰黄褐色土層　粘性、締まりなく、ロームブロックと焼土、灰をわずかに含む
2. 灰黄褐色土層　粘性、締まりややあり、ロームブロックを多く含む

H-2 貯蔵穴 土層注記 （L-L′断面）
1. 褐灰色土層　粘性、締まりややあり、ロームブロック、細砂と白色軽石粒をわずかに含む
2. 灰黄褐色土層　粘性なく、締まりややあり、ロームブロックを多く、細砂を含む
3. 灰黄褐色土層　粘性なく、締まりややあり、ロームブロック、わずかに焼土粒を含む
4. 灰黄褐色土層　粘性なく、締まりややあり、黒褐色土ブロックとロームブロックを含む
5. 灰黄褐色土層　ハードロームブロックを含む

第６図　H-１・２号住居跡・掘り方、D-72・73号平面・断面図

H-2カマド 土層注記 (F-F′、G-G′断面)
1. 鈍い黄褐色土層　粘性、締まりなし、焼土、炭化物粒とローム粒をわずかに含む
2. 鈍い黄褐色土層　粘性、締まりなし、ロームブロック、焼土粒、灰を含む
3. 鈍い黄褐色土層　粘性、締まりなし、灰とわずかにローム粒を含む
4. 鈍い黄褐色土層　粘性、締まりなし、灰をわずかに含む
5. 黄褐色土層　ロームブロック含む



H-1カマド 土層注記 (D-D′、E-E′断面)
1. 灰黄褐色土層　粘性なく、締まりややあり、わずかにローム粒、軽石粒を含む
2. 灰黄褐色土層　粘性、締まりややあり、ロームブロック、焼土粒を含む
3. 灰黄褐色土層　粘性、締まりややあり、ロームブロックと焼土粒を多く含む
4. 明赤褐色焼土
5. 褐灰色灰層　ローム粒と焼土粒をわずかに含む
6. 焼土、ローム、灰の混土層
7. 灰褐色土層　粘性、締まりややあり、焼土粒をわずかに含む
8. 鈍い黄褐色土層　粘性、締まりなく、ローム粒を多く、焼土、灰をわずかに含む
9. 灰黄褐色土層　粘性、締まりなく、ローム粒を多く含む
10. 灰黄褐色土層　粘性、締まりややあり、ローム粒、焼土粒と灰をわずかに含む
11. 鈍い黄褐色土層　粘性、締まりあり、焼土粒と灰をわずか含む

H-3 P-3 土層注記 (F-F′断面)
1. 褐灰色土層　粘性、締まりややあり、ロームブロックと軽石粒(As-B)、わずかに焼土粒を含む
2. 褐灰色土層　1層よりローム、焼土粒を多く含む
3. 褐灰色土層　ロームブロックを多く含む

H-3 P-4 土層注記 (G-G′断面)
1. 鈍い黄褐色土層　粘性なく、締まりややあり、ローム粒と焼土粒をわずかに含む
2. 鈍い黄褐色土層　粘性なく、締まりややあり、焼土粒と灰、炭化物をわずか含む
3. 鈍い黄褐色土層　粘性なく、締まりややあり、ローム粒と焼土ブロックをわずかに含む
4. 鈍い黄褐色土層　粘性なく、締まりややあり、ローム粒をわずかに含む

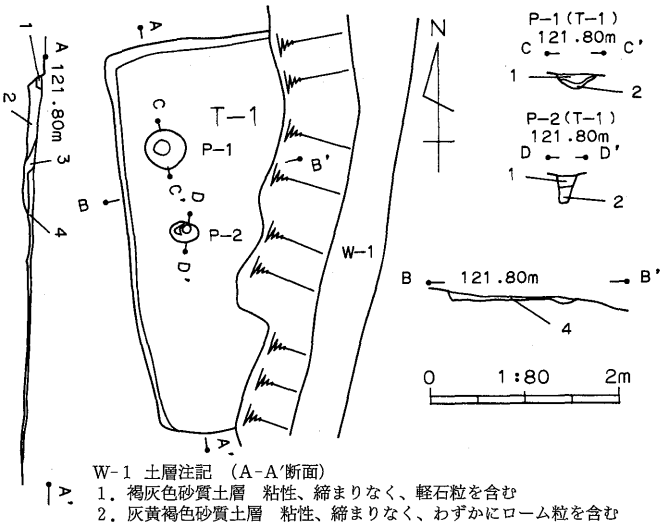
H-3号住居跡、P-1・2 土層注記 (A-A′、D-D′、E-E′断面)
1. 鈍い黄褐色土層　粘性、締まりなく、ローム土、小石をわずかに含み、細砂を含む (耕作土)
2. 鈍い黄褐色土層　粘性、締まりなく、ローム粒、小石を所々に含み、わずかに黒褐色土ブロックを含む (耕作土)
3. 褐灰色土層　粘性、締まりややあり、ロームブロックと黒褐色土ブロック、白色軽石粒を所々に含む
4. 鈍い黄褐色土層　粘性、締まりなく、褐灰色土ブロックとロームブロックを含む

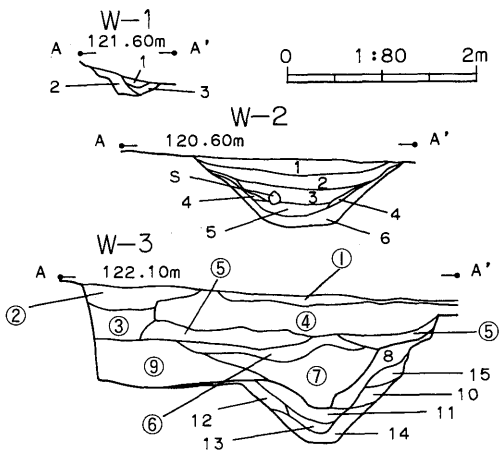
H-3カマド 土層注記 (B-B′、C-C′断面)
1. 鈍い黄褐色土層　粘性、締まりなく、焼土粒と灰をわずかに含む
2. 鈍い黄褐色土層　粘性、締まりなく、焼土粒とわずかにローム粒を含む
3. 鈍い黄褐色土ブロック　焼土、炭化物粒とわずかに軽石粒を含む
4. 鈍い黄褐色土ブロック　粘性なし、締まりあり、ロームブロックを多く含む

T-1 土層注記 (A-A′、B-B′断面)
1. 鈍い黄褐色土層　粘性、締まりなく、ローム粒と細砂を含む
2. 鈍い黄褐色土層　粘性、締まりなく、ロームブロックと黒褐色土ブロックを含み、白色軽石をわずかに含む
3. 鈍い黄褐色土層　粘性、締まりなく、ローム粒と細砂を含む
4. 灰黄褐色土 粘性、締まりなく、ローム粒と軽石粒をわずか含む

T-1 P-1 土層注記 (C-C′断面)
1. 灰黄褐色土層　粘性なく、締まりややあり、ローム粒と軽石粒を所々に含む
2. 黒褐色土層　粘性、締まりなく、ロームブロックと白色軽石粒をわずかに含む

T-1 P-2 土層注記 (D-D′断面)
1. 灰黄褐色土層　粘性、締まりなく、ロームブロックを1%含む
2. 灰黄褐色土層　粘性、締まりなく、わずかにローム粒を含む



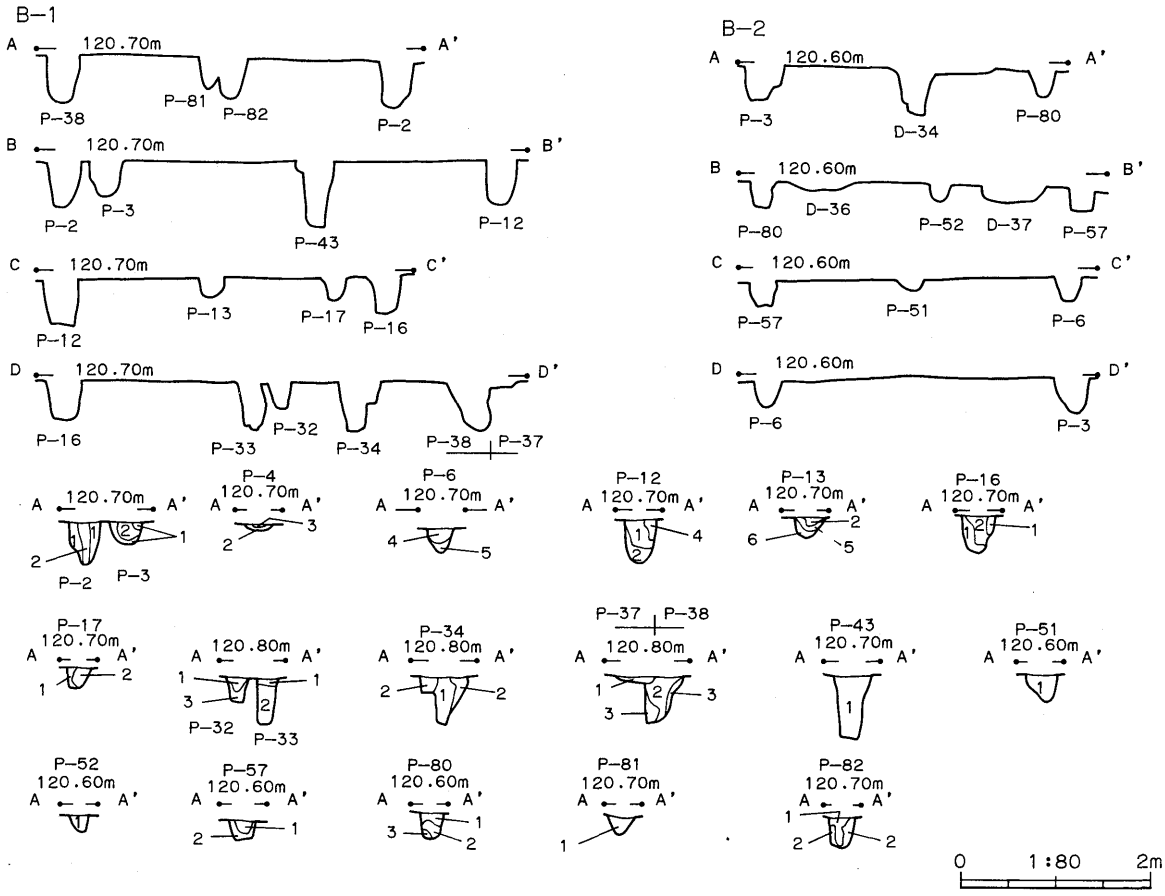


W-1 土層注記 (A-A′断面)
1. 褐灰色砂質土層　粘性、締まりなく、軽石粒を含む
2. 灰黄褐色砂質土層　粘性、締まりなく、わずかにローム粒を含む
3. 灰黄褐色砂質土層　粘性、締まりなく、ローム粒とロームブロックを1%以下含む

W-2 土層注記 (A-A′断面)
1. 灰黄褐色土層　粘性、締まりややあり、ローム粒、軽石粒をわずかに含む
2. 灰黄褐色土層　粘性、締まりややあり、細砂と軽石粒を含む
3. 灰黄褐色土層　粘性、締まりあり、細砂を含み、わずかに軽石粒を含む
4. 鈍い黄褐色土層　粘性、締まりあり、ローム土を多く含む
5. 鈍い黄褐色土層　粘性、締まりあり、ロームブロックをわずかに含む
6. 鈍い黄褐色土層　粘性、締まりなく、ロームブロックを多く、わずかに黒褐色土ブロックを含む(混土層)

W-3 土層注記 (A-A′断面)
①. 黄褐色土層　ロームブロックをわずかに含む(現耕作土)
②. 鈍い黄褐色土層　粘性、締まりなく、ローム粒、細砂を含む
③. ②層よりローム粒が多い
④. 黄褐色ロームと鈍い黄褐色土層の混土層
⑤. 黄褐色ハードロームとソフトロームの混土層
⑥. 黄褐色ロームと褐灰色土の混土層
⑦. 黄褐色ソフト、ハードロームの混土層　わずかに褐灰色土ブロックを含む
8. 鈍い黄褐色砂質土層　粘性、締まりなく、ローム粒を含む
⑨. 褐灰色土層　ローム土がラミナ状に含む混土層
10. 灰黄褐色砂質土層　ロームブロックを1%以下含み、わずかに褐灰色土ブロックを含む
11. 鈍い黄褐色砂質土層　粘性、締まりなく、ローム粒をわずかに含み、細砂をラミナ状に含む
12. 褐灰色土層　粘性、締まりあり、小石3～5㎝程を全体に敷き詰めて、細砂を含む
13. 鈍い黄褐色砂質土層　粘性、締まりなく、ローム粒を1%以下含み、砂層をラミナ状にわずかに含む
14. 鈍い黄褐色土層　粘性なく、締まりややあり、ローム粒を1%含む
15. 黄褐色ソフトローム　8層を含む
※○番号は、土地改良時の埋土

第7図　H-3号住居跡、T-1号、W-1～3号平面・断面図



P-2～4・6・12・13・16・17・32・33 土層注記 (A-A′断面)
1. 褐灰色土層 粘性、締まりなく、ロームブロックを含む
2. 褐灰色土層 粘性、締まりなく、ローム粒とロームブロックをわずかに含む
3. 鈍い黄褐色土層 粘性なく、締まりあり、ロームブロックをわずかに含む
4. 褐灰色土層 粘性、締まりなく、ローム粒をわずかに含む
5. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりなく、ローム粒と褐灰色土ブロックを所々に含む
6. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりややあり、ローム、褐灰色土ブロックをわずか含む

P-34 土層注記 (A-A′断面)
1. 鈍い灰黄褐色土層 粘性、締まりややあり、ローム粒と細砂を含む
2. 鈍い灰黄褐色土層 粘性、締まりややあり、ロームブロックを多く含む

P-37・38 土層注記 (A-A′断面)
1. 灰黄褐色土層 粘性、締まりなく、ローム粒と細砂を含む
2. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりなく、ローム粒と細砂を含み、わずかに軽石粒を含む
3. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりなく、ロームブロックを多く含む

P-43 土層注記 (A-A′断面)
1. 灰黄褐色土層 粘性、締まりなく、ロームブロックと白色軽石、黒褐色土ブロックを含む

P-51 土層注記 (A-A′断面)
1. 黒褐色土層 粘性、締まりややあり、ローム粒と白色軽石粒を含む

P-52 土層注記 (A-A′断面)
1. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりややあり、ロームブロックを多く含む

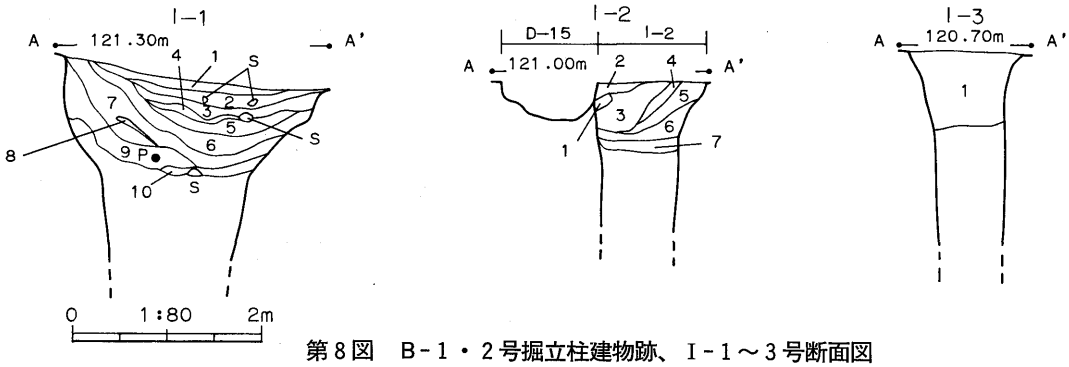
P-57 土層注記 (A-A′断面)
1. 褐灰色土層 粘性、締まりややあり、ロームブロックを1%含む
2. 褐灰色土層 粘性、締まりややあり、ロームブロックを1%以下含む

P-80 土層注記 (A-A′断面)
1. 黒褐色土ブロック、ロームブロック、黄褐色土ブロックの混土層
2. 黒褐色土層 粘性、締まりややあり、ローム粒と軽石粒をわずかに含む
3. 黒褐色土層 粘性、締まりややあり、ロームブロックを含む

P-81 土層注記 (A-A′断面)
1. 黒褐色土とロームブロックの混土層 粘性、締まりなし

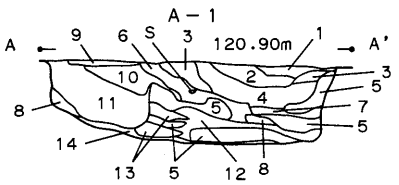
P-82 土層注記 (A-A′断面)
1. 黒褐色土層 粘性、締まりなく、ローム粒を1%以下含む
2. 黒褐色土層 1層にロームブロックをわずかに含む

(A-A′の計測方向はP-43、80、81南から北、その他は西から東を表す。)

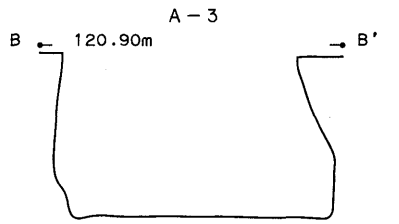


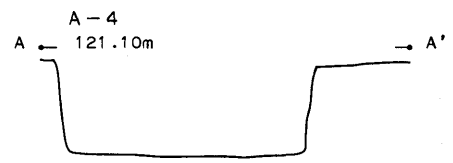
第8図 B-1・2号掘立柱建物跡、I-1～3号断面図

I-1 土層注記 (A-A′断面)
1. 鈍い黄褐色砂質土層　粘性、締まりなく、わずかにローム粒、軽石粒を含む
2. 鈍い黄褐色砂質土層　粘性なく、締まりややあり、ロームブロックを１％と軽石粒を含む
3. 鈍い黄褐色砂質土層　粘性なく、締まりややあり、ローム粒１％以下と軽石粒、黒褐色ブロックをわずかに含む
4. 鈍い黄褐色砂質土層　粘性なく、締まりややあり、ロームブロックを５％と軽石粒をわずかに含む
5. 鈍い黄褐色砂質土層　粘性なく、締まりややあり、ロームブロックと軽石粒をわずかに含む
6. 鈍い黄褐色砂質土層　粘性なく、締まりややあり、ロームブロックと黒褐色土ブロック、軽石粒をわずかに含む
7. 鈍い黄褐色砂質土層　粘性なく、締まりややあり、ローム粒と黒褐色土ブロック、軽石２～５㎜を所々に含む
8. ロームブロック
9. 鈍い黄褐色砂質土層　粘性、締まりなく、白色軽石を含み、黒褐色土ブロックを５％含む
10. 鈍い黄褐色土層　粘性、締まりややあり、石(15cm)を含む



A-1 土層注記 (A-A′断面)
1. 鈍い黄褐色砂質土層　粘性、締まりなく、ローム粒を含む
2. 鈍い黄褐色砂質土層　粘性、締まりなく、ロームブロックと褐灰色土ブロックを含む
3. 黄褐色ローム土層　わずかに１層含む
4. 鈍い黄褐色砂質土層　粘性、締まりなく、ローム粒と軽石粒、炭化物を所々に含む
5. 黄褐色ソフトローム
6. 鈍い黄褐色砂質土層　粘性、締まりなく、褐灰色ブロックとわずかに炭化物、ローム土を含む
7. 鈍い黄褐色砂質土層　粘性、締まりややあり、ソフトロームを含む
8. 黄褐色ハードローム
9. 灰黄褐色砂質土層　粘性、締まりなく、ローム粒と白色軽石粒を所々に含む
10. 鈍い黄褐色砂質土層　粘性、締まりややあり、ロームブロックと軽石粒、褐灰色土ブロックをわずかに含む
11. 鈍い黄褐色砂質土層　粘性なく、締まりややあり、わずかにローム粒と軽石粒を含む
12. 褐灰色土層とソフトロームの混土層
13. 鈍い黄褐色土層　粘性、締まりあり、ローム粒と褐灰色土をわずかに含む
14. 鈍い黄褐色土層　粘性、締まりあり、ロームブロックと褐灰色土をわずかに含む

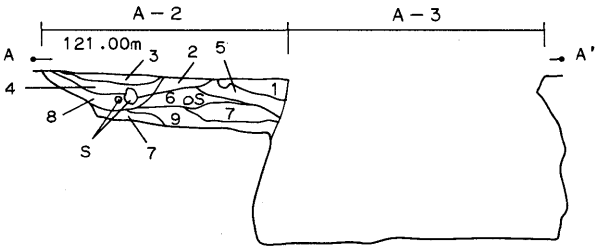




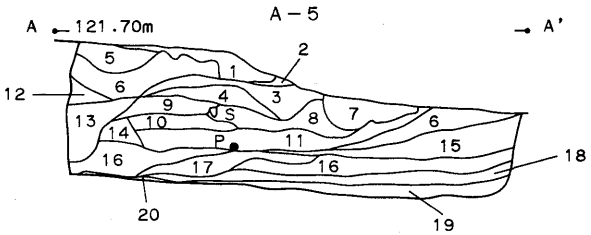
0　1:80　2m

I-2 土層注記 (A-A′断面)
1. 鈍い黄褐色砂質土層　粘性、締まりなく、ローム土をわずか含む
2. 褐灰色砂質土層　粘性、締まりなく、わずかにローム粒を含む
3. 褐灰色砂質土層　粘性、締まりなく、わずかにローム粒と小礫を含む
4. 褐灰色砂質土層　粘性、締まりなく、わずかにローム粒を含む
5. 褐灰色砂質土層　粘性、締まりなく、ロームブロック１％以下含む
6. 褐灰色砂質土層　粘性、締まりなく、ロームブロック１％含む
7. 褐灰色砂質土層　粘性、締まりなく、ロームブロックと小礫、鈍い黄褐色粘土を所々含む

I-3 土層注記 (A-A′断面)
1. 褐灰色砂質土層　粘性、締まりなく、ロームブロックと白色軽石粒を含み、黒褐色土ブロックを所々に含む

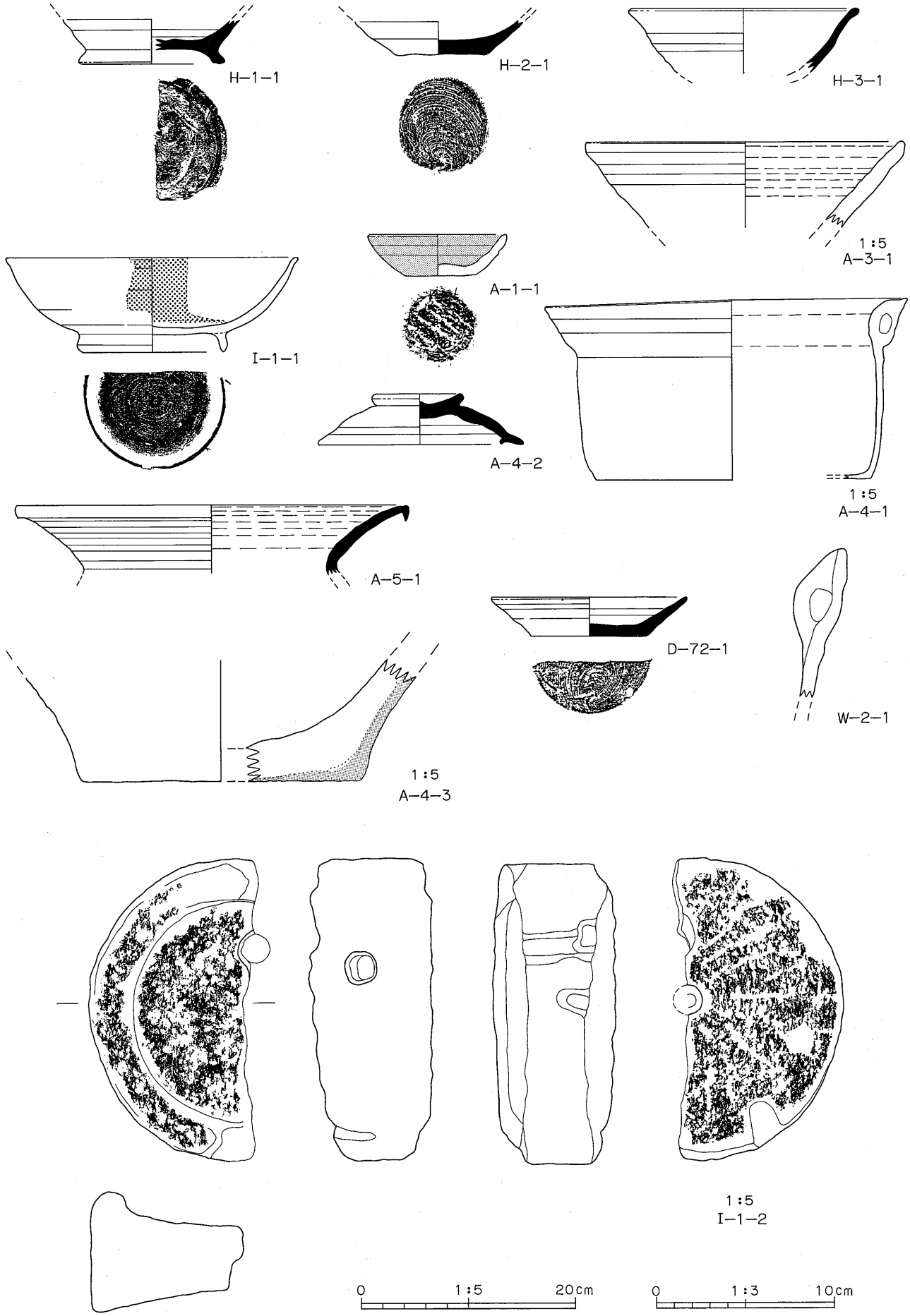


A-2 土層注記 (A-A′断面)
1. 鈍い黄褐色砂質土層　粘性、締まりなく、ローム土２～10㎜を１％以下含む
2. 灰黄褐色砂質土層　粘性、締まりなく、ローム粒を含む
3. 鈍い黄褐色砂質土層　粘性、締まりなく、ローム粒をわずかに含み、白色軽石粒を所々に含む
4. 鈍い黄褐色砂質土層　粘性、締まりなく、ローム粒を含み、わずかに、炭化物と軽石粒を含む
5. 鈍い黄褐色砂質土層　粘性、締まりなく、ロームブロックと灰黄褐色土ブロック、軽石粒を含み、炭化物もわずかに含む
6. 灰黄褐色砂質土層　粘性、締まりなく、ローム粒と軽石粒、小石(10cm)を含む
7. 黄褐色ロームブロック 硬い
8. 鈍い黄褐色砂質土層　粘性、締まりなく、ロームブロックと石、軽石粒をわずかに含む
9. 鈍い黄褐色土層　粘性、締まりあり、黒褐色土ブロックを含む

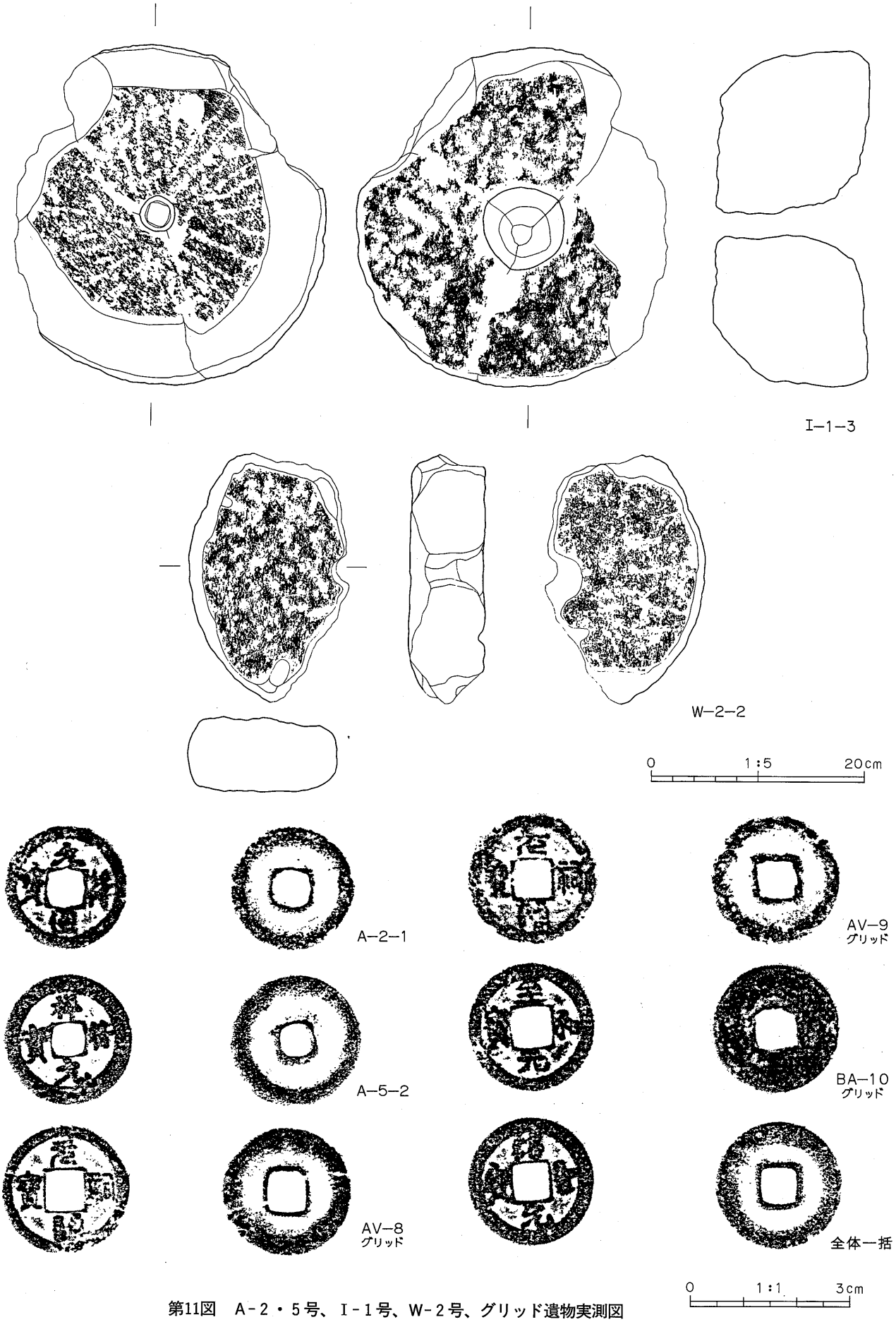


A-5 土層注記 (A-A′断面)
1. 灰黄褐色土層　粘性、締まりなく、ローム粒と細砂、小礫をわずかに含む
2. 灰黄褐色土層　粘性、締まりあり、ローム粒と炭化物を含む
3. 灰黄褐色土層　粘性、締まりあり、ローム粒と炭化物をわずか、軽石粒を含む
4. 灰黄褐色土層　粘性、締まりあり、ローム粒を多く含み、軽石粒を含む
5. 灰黄褐色土層　粘性、締まりなく、ハードローム、小礫、黒褐色土ブロックを含む
6. 鈍い黄褐色砂質土層　粘土を含む
7. 黒褐色土層　粘性、締まりなく、細砂、小礫を含む
8. 鈍い黄褐色土層　粘性、締まなく、ロームブロックを多く、小礫と黒褐色土ブロックを含む
9. 鈍い黄褐色土層　粘性、締まりややあり、ローム粒と黒褐色土を含む
10. 黒褐色土層　粘性、締まりなく、ロームブロックと細砂、小礫を含む
11. 黒褐色土層　粘性、締まりなく、ロームブロックを所々に含み、細砂、小礫を含む
12. 鈍い黄褐色土層　ハードロームを含む
13. 鈍い黄褐色土層　ハードロームブロックと黒褐色粒を含む
14. 黄褐色ロームと黒褐色土、鈍い黄褐色土の混土層
15. 鈍い黄褐色土層　粘性、締まりあり、ロームブロック、黒褐色土ブロックを含む
16. ハードロームと鈍い黄褐色土、黒褐色土ブロックの混土層
17. 黒褐色土層　粘性、締まりややあり、ロームブロックと鈍い黄褐色土、小礫を含む
18. 鈍い黄褐色土層　粘性、締まりややあり、ロームブロックと黒褐色土ブロック、わずかに炭化物を含む
19. 黄褐色ソフトローム オレンジ軽石粒を含む
20. 黒褐色土層　粘性、締まりなく、ローム粒と鈍い黄褐色土をわずかに含む

第９図　A-１～５号断面図



第10図　H-1～3号住居跡、A-1・3～5号、I-1号、D-72号、W-2号遺物実測図



第11図　A-2・5号、I-1号、W-2号、グリッド遺物実測図

Ⅵ　五代深堀Ⅱ遺跡

1．概　　観

本調査区は、五代南部工業団地及び住宅団地造成の道路部分に当たる。検出した遺構は、縄文時代竪穴住居跡1軒、古墳～奈良・平安時代の竪穴住居跡9軒、柱穴57基、土坑15基（縄文2基含む）、近代の溝1条である。

2．遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

①縄文時代

J－1号住居跡〔第12図、図版4〕

位置 CB・C－2・3グリッド **重複** H－1号住居跡のカマドの一部分とP－47と重複する。**形状** 北壁側は一部調査区外であるが推定隅丸方形と思われる。**規模** 長軸(4.36)m、短軸(2.03)m、確認面から床面までの壁高9.5～13.5cm。**面積** (7.01)m² **長軸方向** [N－112°－E]、**床面** 平坦で堅緻な床面。**柱穴** 埋甕炉の南西、南東に検出。P－1長径40cm、短径36cm、深さ19cmの楕円形。P－2長径40cm、短径39cm、深さ16cmの楕円形。**埋甕** 深鉢、東壁側に検出。長径40cm、短径35cm、深さ24cmのほぼ円形の掘り方が見られる。土器の口縁部は西側が潰れ底部は欠損している。**埋甕炉** 深鉢、北壁側に一部かかるが住居の中央に位置すると推測される。長径86cm、短径(45)cm、深さ23cmの推定楕円形の範囲に設置されている。**遺物** 図示した遺物は、深鉢No.1．2などがある。

②平安時代

H－1号住居跡〔第12図〕

位置 CB・C－1・2グリッド **重複** H－2号住居跡と一部分重複する。**形状** [長方形]を呈す。北側の一部分調査区外。**規模** 長軸(4.12)m、短軸(3.29)m、確認面から床面までの壁高28～35cm。**面積** (11.23)m² **長軸方向** N－6°－W、床面 平坦な床面。硬化面あり。周溝は北壁側の調査区外を除き巡っている。**柱穴** 検出されなかった。**貯蔵穴** 南東隅に検出。長径43cm、短径41cm、深さ41cmの楕円形。**カマド** 東壁側に位置し、主軸方向 N－75°－E、全長130cm、最大幅116cm、焚口部幅46cm。**遺物** 図示した遺物は、土師器坏(No.1．2)などがある。

H－2号住居跡〔第12図〕

位置 CC－1・2グリッド **重複** H－1号住居跡と一部分重複、掘り込んでいる。**形状** [長方形]を呈す。南壁側は調査区外。**規模** 長軸(2.52)m、短軸(2.34)m、確認面から床面までの壁高25～30cm。**面積** (4.52)m² **長軸方向** [N－3°－E]、**床面** 平坦な床面で、周溝は東壁、北壁と西壁の一部を巡っている。**柱穴、貯蔵穴** 検出されなかった。**カマド** 東壁側に位置し、主軸方向 N－99°－E、全長85cm、最大幅(27)cm、焚口部幅(14)cm、南側は調査区外で不明。**遺物** 図示した遺物は、土師器甕No.1などがある。

H－5号住居跡〔第13図、図版5〕

位置 CD・E－5・6グリッド **形状** [長方形]を呈す。**規模** 長軸(3.70)m、短軸(3.40)m、確認面から床面までの壁高26～33cm。**面積** (11.67)m² **長軸方向** N－8°－E、**床面** 平坦で堅緻な床面。周溝は東壁の一部、北壁、西壁に巡っている。**柱穴** 北壁、南壁側に検出。P－1長径40cm、短径35cm、深さ20cmの楕円形。P－2長径35cm、短径34cm、深さ 25cmの円形。P－3長径35cm、短径32cm、深さ36cmの楕円形。**貯蔵穴** 検出されなかった。**カマド** 東壁側に並んで2基検出した。北カマド 東壁中央やや南寄りに位置し、主軸方向 N－113°－E、全長134cm、最大幅107cm、焚口部幅 39cm。南カマド 東壁側で北カマドの南側に位置し、左袖は北カマドの右袖にあたる。右袖は不明である。残存状況から作り替えによって壊された可能性がある。主軸方向 N－113°－E、全長(100)cm、最大幅 不明。焚口部幅 不明。**遺物** 図示した遺物は、須恵器坏No.1、土師器坏No.2、刀子(鉄製品)No.3などがある。

H－9号住居跡〔第13図、図版4・5〕

位置 BA－24、BB－23・24グリッド **形状** [長方形]を呈す。南壁側は調査区外。**規模** 長軸(3.50)m、短軸(2.84)m、確認面から床面までの壁高60～62cm。**面積** (6.97)m² **長軸方向** [N－91°－E]、**床面** カマド前に硬化面が見られる平坦な床面。周溝は北壁、西壁の一部を巡っている。**柱穴、貯蔵穴** 検出されなかった。**カマド** 東壁のやや

南寄りに位置し、右袖に土師器長胴甕を、左袖に割り石を使用している。主軸方向 N-90°-E、全長113cm、最大幅 不明。焚口部幅25cm。**遺物** 図示した遺物は、土師器甕№1などがある。

注）［　　］は推定、（　　）は検出値を表す。

掲載以外の住居跡は一覧表を参照。また、その他の各遺構については、計測表にまとめて報告する。

3．まとめ

今回の調査は、道路部分にあたるため完全な形状での検出は少なく、特に住居跡は部分的に調査区外にあるものがほとんどである。

縄文時代では、住居跡1軒（J-1）と土坑（D-2・3）の検出があった。住居跡からは床面に埋甕が2ヶ所検出され、一方からは、覆土中に焼土、炭化物の検出があることで炉跡と考えられ、もう一方からは、炭化物の検出がなかったことで、炉跡ではなく埋甕としての使用と思われる。遺物は縄文中期に属する土器が出土している。土坑（D-2・3）は、形状が楕円形で掘り込みが深いものと一部調査区外にあるものが検出された。遺物はD-2・3から縄文中期の深鉢が出土した。

古墳～奈良・平安時代では、住居跡9軒の検出があった。部分検出のものが多い中で、7軒にカマドを検出した。東壁側の中央やや南寄りに作られているものがほとんどであり、その中でH-9号住居跡のカマドは燃焼部が方形状に掘られ、右袖に長胴甕を逆さにふせて使用し、左袖には割り石を構築材としていた。さらに、支脚石も燃焼部内に傾いた状態で検出した。また、各住居跡の時期については、H-7～9号住居跡からは土師器坏や長胴甕など7世紀前半～後半代の土器が出土している。その他ではH-1・3・5・6号住居跡からは土師器「く」の字状口縁の甕片や丸底の坏など8世紀代の土器が出土している。また、H-2・4号住居跡からは土師器「コ」の字状口縁の甕片や灰釉の埦など9世紀中葉～10世紀代の土器が出土した。

土坑はD-1～3以外は、東側で柱穴群の周りに位置するものが多く検出されている。D-1からは縄文土器片の出土があったが覆土にカクランを伴うため時期は特定できなかった。D-2・3は縄文の土坑である。その他はD-9・10・12・13・15から土師器、須恵器片の出土があったが時期を特定するには至らなかった。

柱穴はH-5・6号住居跡の間に多数検出した。その状況から掘立柱建物跡の存在が考えられたが、列状に並び組める状況のものはなく、遺物も伴わないものがほとんどで時期を特定するには至らなかった。

溝（W-1）は道路を挟んだ西側に検出した。方向は南北方向で幅も狭く掘り込みも浅いもので、近代の遺物が出土した新しい溝である。

道路建設部分の狭い範囲に縄文～古墳、奈良・平安時代にかけての住居跡が、多数検出したことで調査区外にも同時代の住居跡が存在する可能性が考えられる。また、縄文時代のものは少数検出だが、その後古墳時代後期から奈良・平安時代へと継続する住居跡が多く検出したことで、調査区の南側80m程に位置する五代木福II遺跡（平成12年度調査）でも古墳時代後期～奈良・平安時代の住居跡が多く検出されている状況から、本調査区を含めて大集落があったことが推測される。また、縄文時代中期後半以降からの住居跡は一端途絶えるが、古墳時代後期から奈良・平安時代にかけての住居跡が出現することは、古墳時代に入り大陸文化の影響や政治のしくみの変化、生産力を高めるための周辺地域への水田開発の拡大などが背景にあると考えられる。さらに律令時代に入った8世紀以降に住居跡が増加する傾向が見られることは、五代木福II遺跡などの遺構検出状況と一致し、空白の時期を除いた住居跡の出現状況などに共通性がうかがえる。

第10表　住居跡一覧表

[　　] は推定、(　　) は検出値を表す。

□石製品　△鉄製品　○土師器　●須恵器

住居番号	住居検出位置	平面形	長軸方向	規模(cm)	面積(m²)	柱穴数・最大最小寸法(cm)				貯蔵穴数・最大最小寸法(cm)				カマド位置・構築材	重複	出土遺物の種類					
						数	長径	短径	深さ	数	長径	短径	深さ			壺	甕	坏	埦	鉄製品	その他
1	CB・C-1・2	[長方形]	N-6°-W	(412) (329)	(11.23)					1	43	41	41	東壁側	J-1 H-2		○	○			
2	CC-1・2	[長方形]	[N-3°-E]	(252) (234)	(4.52)									東壁側 南側調査区外	H-1		○ ●	○			須恵器盤 須恵器蓋
3	CC・D-2・3	不　明		(315) (314)	(5.26)									東壁側			○	○			
4	CC・D-4・5	[長方形]	N-12°-E	(340) (299)	(8.46)					1	55	不明	17	東壁側			○ ●	●	●		須恵器長頸壺 灰釉陶器、高台埦
5	CD・E-5・6	[長方形]	N-8°-E	(370) (340)	(11.67)	3	40 35	35 32	36 20					東壁側に2基あり。作り替？			○ ●	○ ●		△ 刀子	コモ石
6	CE-8・9	不　明		(285) (230)	(3.78)	4	41 30	31 20	39 12					不明		●	○ ●	○			
7	CE・F-10	不　明		(160) (150)	(1.75)									不明			○ ●	○	●		コモ石
8	CF・G-9・10	[長方形]	N-20°-W	(470) (450)	(13.99)	1	50	45	42	1	85	77	27	東壁中央よりの南寄り			○ ●	○ ●		△ 刀子	コモ石
9	BA-24 BB-23・24	[長方形]	[N-91°-E]	(350) (284)	(6.97)									東壁側、右袖に長胴甕、左袖に割り石を使用。			○ 長胴甕	○			コモ石

住居番号	住居検出位置	平面形	長軸方向	規模(cm)	面積(m²)	柱穴数・最大最小寸法(cm)				貯蔵穴数・最大最小寸法(cm)				カマド位置・構築材	重複	出土遺物の種類
						数	長径	短径	深さ	数	長径	短径	深さ			
J-1	CB・C-2・3	[隅丸方形]	[N-112°-E]	(436) (203)	(7.01)	2	40	39 36	19 16					住居の中央 一部査区外	H-1	縄文埋甕、磨石

注）住居番号は報告書の付番、住居検出位置は調査時のグリッドを表す。

第11表　溝計測表

(　　) は検出値、N-S-W-Eは方向を表す。

溝番号	溝の位置	長さ(m)	深さ(cm)	底のレベル(m)	勾配(‰)	上幅 下幅(cm)	流水方向	備考
W-1	CA-0～BB-24、 CB-0	(5.1)	(5～12)	N134.65 S134.47	(35.3)	(30～34) (8～18)	N→S	近代の遺物出土

第12表　柱穴計測表

[　　] は推定、(　　) は検出値を表す。

柱穴番号	遺構位置	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	形　状	備　　考
P-1	CC-2	39	37	25	円　形	
P-2	CD-5	36	36	28	円　形	
P-3	CD-5・6	30	30	11	円　形	
P-4	CD-5	32	28	19	楕円形	
P-5	CD-6	30	25	8	楕円形	
P-6	CD-7	32	32	20	円　形	P-7と重複
P-7	CD-7	(42)	(37)	51	[楕円形]	P-6、P-48と重複
P-8	CE-7	29	(27)	31	[楕円形]	P-49と重複
P-9	CE-6	23	20	28	[円　形]	P-10と重複
P-10	CE-6	(22)	20	18	[円　形]	P-9と重複
P-11	CE-6	30	27	30	楕円形	
P-12	CE-6・7	54	48	72	楕円形	
P-13	CE-6	(26)	25	22	[円　形]	P-14と重複
P-14	CE-6	(30)	27	31	[楕円形]	P-13と重複
P-15	CE-6	31	25	41	楕円形	
P-16	CE-6	45	37	51	楕円形	
P-17	CE-6	28	17	21	楕円形	
P-18	CE-7	34	28	34	楕円形	
P-19	CE-7	34	31	36	円　形	
P-20	CE・F-7	32	22	43	楕円形	
P-21	CE・F-7	40	27	33	楕円形	
P-22	CE-7	37	32	18	楕円形	
P-23	CE-7	45	30	55	楕円形	
P-24	CE-7	34	30	55	楕円形	
P-25	CE-7	26	24	34	円　形	
P-26	CE-7	17	17	8	円　形	
P-27	CE-7	30	25	5	楕円形	
P-28	CE-7	38	34	32	楕円形	
P-29	CE-7	39	36	42	楕円形	
P-30	CE-7	(24)	(19)	18	[楕円形]	P-31と重複
P-31	CE-7	(18)	14	9	[楕円形]	P-30と重複
P-32	CD・E-7	33	33	24	円　形	
P-33	CD・E-7	26	21	27	楕円形	
P-34	CD-7	37	36	35	円　形	
P-35	CE-7	26	20	25	楕円形	
P-36	CD-7	28	23	15	楕円形	
P-37	CE-7	30	30	40	楕円形	
P-38	CE-7	33	24	25	楕円形	
P-39	CE-8	35	34	48	円　形	
P-40	CE-8	32	30	28	円　形	
P-41	CE-8	(34)	(32)	21	[円　形]	P-53と重複
P-42	CE-8	32	27	10	楕円形	
P-43	CF-8	(52)	(20)	(15)	[楕円形]	南側調査区外
P-44	CF-9	40	40	15	円　形	
P-45	CE-7	28	26	13	円　形	
P-46	CD・E-5	54	43	28	楕円形	
P-47	CC-3	40	35	19	楕円形	縄文片
P-48	CD-6・7	(29)	(29)	19	[円　形]	P-7と重複
P-49	CE-6・7	51	45	58	楕円形	P-8と重複
P-50	CE-7	31	30	14	円　形	
P-51	CE-7	(32)	30	(50)	[楕円形]	南側調査区外
P-52	CE-7	34	25	34	楕円形	
P-53	CE-8	(30)	(24)	30	[楕円形]	P-41と重複
P-54	CE-8	25	20	37	楕円形	
P-55	CF-8	32	26	16	楕円形	
P-56	CD・E-7	30	25	19	楕円形	
P-57	CE-7	45	33	58	楕円形	

第13表　土坑計測表

[　　] は推定、(　　) は検出値を表す。

土坑番号	遺構位置	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	形　状	備　　考
D-1	AY-21	154	85	34	楕円形	埋土から縄文片、土師器片出土
D-2	AY-22 BA-22	180	167	80	楕円形	縄文片多数、石器2点
D-3	AY-21・22	(133)	(60)	(50)	[楕円形]	縄文片多数、石(チャート)1点、北側調査区外
D-4	CB-1	(108)	(71)	(32)	[楕円形]	西側調査区外(道路)
D-5	CD-4	50	50	14	円　形	
D-6	CD-5	50	50	56	円　形	
D-7	CD-6	107	52	14	楕円形	
D-8	CD-6	72	50	19	不整形	
D-9	CE-8	111	47	103	楕円形	
D-10	CE・F-8	73	70	27	円　形	
D-11	CE・F-8	59	50	18	楕円形	
D-12	CF-8	100	72	29	楕円形	
D-13	CE-8	52	51	37	円　形	須恵器片
D-14	CF-8	55	47	51	楕円形	
D-15	CF-8・9	(80)	(74)	(26)	[楕円形]	

注) D-2・3は、縄文土坑。

第14表　出土土器観察表

法量は①口径②底径③器高④長さ⑤幅⑥厚さ⑦重さを表す。

出土位置-No.	器　形	法　　量	①胎土②焼成③色④残存	成・整形方法		備　　考	実測図	図版
				口縁・胴部(体部)	底　部			
H-1-1 カマド内	土師器 坏	①12.7 ③3.7	①細粒②良好(酸化) ③5YR6/8橙④口～底3/5	口縁直立気味、横撫で。体部内面撫で。	体～底部篦削り 丸底	カマド右袖及びその脇の床直から出土	14	6
H-1-2	土師器 坏	①(12.8) ③3.3	①細粒②良好(酸化) ③5YR6/8橙④口～底2/5	口縁内湾気味、内外面横撫で。	体～底部篦削り 平底気味	南壁中位から出土	14	6
H-2-1 カマド内	土師器 甕	①(24.0) ③(13.4)	①中粒②良好(酸化) ③明赤褐5YR5/8 ④口縁から胴部1/6	「コ」の字状口縁。内外面横撫で。頸部指押さえ痕。			14	6
H-3-1	土師器 坏	①(12.0) ③(2.6)	①細粒②良好(酸化) ③5YR6/8橙 ④口縁から底部1/6	口縁内外面横撫で。内面体部撫で。	篦削り		14	6

出土位置-No.	器形	法量	①胎土②焼成③色④残存	成・整形方法		備考	実測図	図版
				口縁・胴部(体部)	底部			
H-4-1	須恵器 甕	③(8.9)	①細粒②良好(還元) ③5YR6/1灰白色 ④(頸部)破片	内外面ロクロ成整形。口縁外反する。		頸、胴部の接部	14	6
H-5-1	須恵器 坏	①(14.4)②(9.0) ③3.5	①細粒②良好(還元) ③5Y6/1灰④口～底2/5	若干上げ底。体部内湾して立ち上がる。ロクロ整形。	左回転 篦切り	外面ザラザラしている。炭化物付着	14	6
H-5-2	土師器 坏	①13.2 ③3.4	①細粒②良好(酸化) ③5YR6/8橙 ④完形	口縁内外面横撫で。体部に丸みをもつ。	体～底部篦削り 丸底気味	外面口縁煤付着	14	6
H-5-3	鉄製品 刀子	④20.3⑤1.5 ⑥0.25⑦45.16	④ほぼ完形			断面三角形	14	6
H-6-1	須恵器 壺	①(12.6)②9.5 胴部最大径21.1 (下から10cm位) 頸部径9.8③20.1	①粗粒②良好(還元) ③灰④ほぼ完形3/4欠損	内外面撫で。			14	6
H-6-2	土師器 坏	①(13.0) ③4.0	①細粒②良好(酸化) ③5YR6/8橙 ④口～底4/5	口縁部内外面横撫で。体部篦削り。口縁内湾気味。	体～底部篦削り 丸底		14	6
H-7-1	土師器 坏	①12.4 ③3.8	①細粒②良好(酸化) ③5YR6/8橙④口～底4/5	口縁内外面横撫で。体部撫で。	体～底部篦削り		14	6
H-8-1 P-1内	土師器 坏	①(11.3) ③(7.0)	①細粒②良好(酸化) ③5YR7/8橙 ④口～底1/2弱	口縁内湾気味。口縁横撫で。体部篦削り。	平底気味		14	6
H-8-2	鉄製品 刀子	④(6.5)⑤1.0 ⑥0.4⑦5.29				一部欠損断面三角形	14	6
H-9-1	土師器 甕	①(22.1) 胴部最大径18.0 頸部径17.0 ③(29.6)	①細粒②良好(酸化) ③5YR6/8橙④底部なし 口～胴3/5	外面口縁横撫で。胴部斜位の篦削り。		カマドの右袖として使用、倒位	14	6

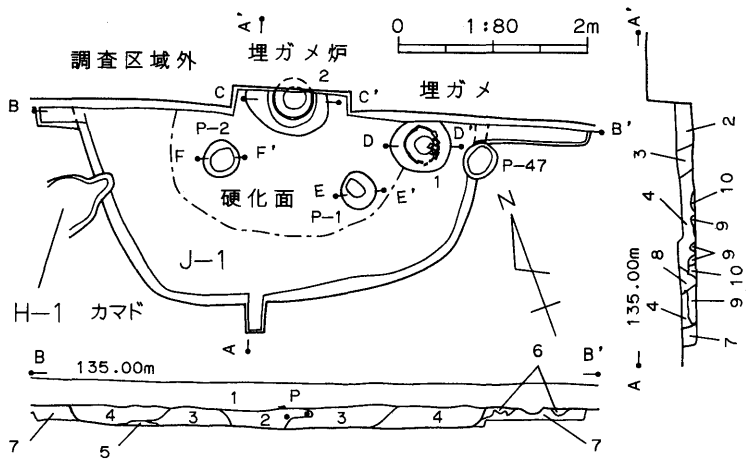
第15表　石器観察表

D-2-1 (一括)	打製石斧	④8.5⑤3.9 ⑥1.4⑦58.26	黒色頁岩 ④一部欠損			14	6

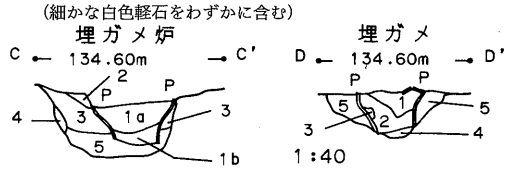
第16表　縄文土器観察表

出土位置-No.	器種	①胎土②焼成③色調④残存 ⑤器高×口径×底径(cm)	器形の特徴	実測図	図版
J-1-1	深鉢	①細粒②良好 ③10YR6/6明黄褐④口縁～胴部 ⑤(22.0)×(35.0)×—	波状口縁。楕円区画文で構成されている。口縁部は4単位の波状口縁で内湾し、胴部中位にくびれを有する。口縁部文様帯は隆帯と巾広沈線の楕円区画文で構成され区画内は縄文RL横位で充塡。胴部は器面割付後区画内に縄文RLを充塡し、無文帯両側に沈線を引き直している。加曾利EⅢ。	14	6
J-1-2	深鉢	①細粒②良好 ③5YR6/6橙④口縁、底部なし ⑤(20.0)×(43.5)×—	キャリパー形？胴部隆帯文。充塡縄文。住居跡中央部炉体土器。加曾利EⅢ。	14	6
D-2-2 (一括)	浅鉢か？	①細砂②良好③5YR6/6橙 ④口縁部のみ⑤器高(11.9)口径(30.0)	縄文の地文。口縁に一条の沈線。羽状縄文か？波状口縁？	14	6
D-3-1	鉢	①細粒②良好 ③5YR6/8橙④口縁のみ ⑤器高(7.4)口径(26.0)	縄文の地文。	14	6
D-3-2 (一括)	浅鉢か？	①細粒②良好 ③2.5YR6/3にぶい黄④口縁のみ ⑤器高(15.5)口径(36.0)	縄文の地文のみ。	14	6

注）出土土器観察表の記載は以下の基準で行った。
①胎土は、細粒(0.9mm以下)、中粒(1.0～1.9mm)、粗粒(2.0mm以上)とした。
②焼成は、極良、良好、不良の3段階。
③法量の単位はcm、g、(　)は現存値を記載した。
観察表の出土位置-No.は各遺構ごとの番号を表す。



J-1 土層注記 (A-A′、B-B′断面)
1. 暗褐色土層 粘性なし、締まりあり、白色軽石 φ 1㎜を少量含む (耕作土)
2. 暗褐色土層 粘性なし、締まりややあり、細かな白色軽石、焼土粒、炭化物粒を僅かに含む
3. 褐色土層 粘性ややあり、締まりあり、細かな白色軽石、焼土粒、焼土ブロック、炭化物粒を僅かに含む
4. 褐色土層 粘性ややあり、締まりあり、細かな白色軽石、炭化物粒を僅かに含む
5. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりややあり、ローム粒を少量、炭化物粒を僅かに含む
6. 鈍い黄褐色土層 ローム粒をやや多く含む
7. 黄褐色土層 粘性ややあり、締まりあり、ソフトローム(地山)
8. 褐色土層 粘性、締まりややあり、白色軽石をわずかに含む
9. 鈍い黄褐色土層 粘性あり、締まりややあり、白色軽石をわずか、ローム粒をやや多く含む
10. 黄色土層 粘性ややあり、締まりあり、ロームブロック (細かな白色軽石をわずかに含む)

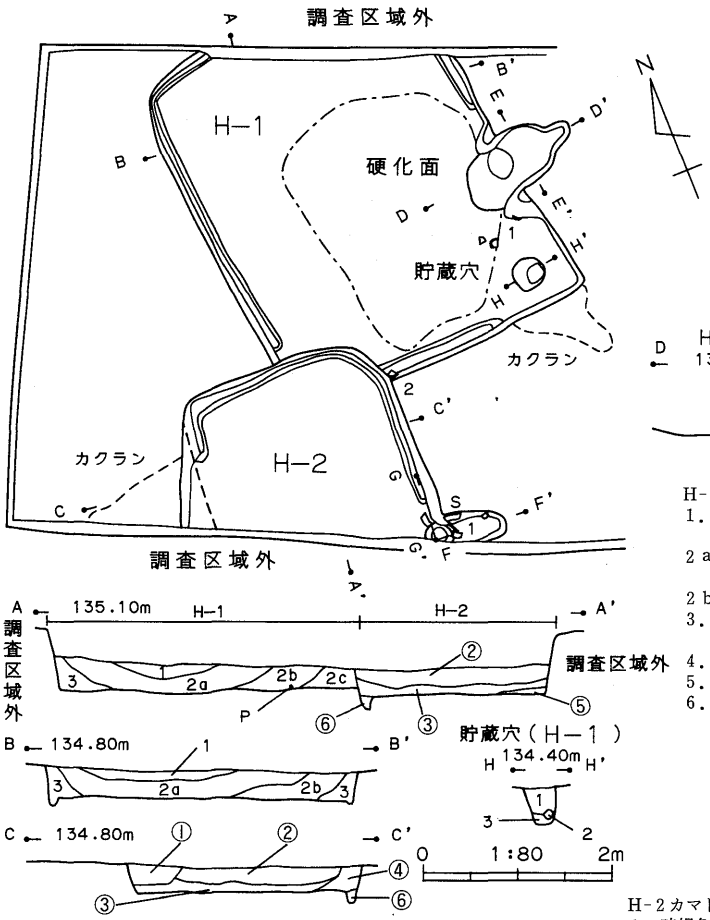


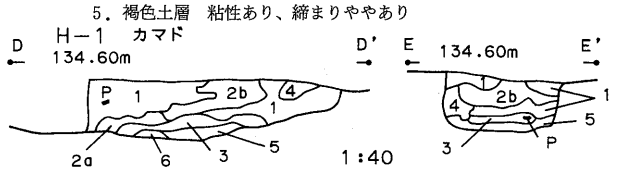
J-1 埋甕炉 土層注記 (C-C′断面)
1a. 褐色土層 粘性、締まりややあり、細かな白色軽石、焼土粒、炭化物粒を僅か含む
1b. 褐色土層 粘性ややあり、締まり良く硬い、細かな白色軽石、焼土粒、炭化物粒を僅か含む
2. 暗褐色土層 粘性なし、締まりあり、ローム粒、焼土粒、炭化物粒をわずかに含む
3. 鈍い赤褐色土層 粘性なし、締まり良く硬い、ローム粒、炭化物粒をわずかに、焼土粒を少量含む
4. 黄褐色土層 粘性、締まりややあり、ローム粒をやや多く含む
5. 鈍い赤褐色土層 粘性ややあり、締まり良く硬い、ローム粒、焼土粒、炭化物粒をわずかに含む

J-1 P-1 土層注記 (E-E′断面)
1. 褐色土層 粘性なし、締まりあり、焼土粒、炭化物粒をわずかに含む
2. 褐色土層 粘性ややあり、締まり良く硬い
3. 黄褐色土層 粘性ややあり、締まり良く硬い

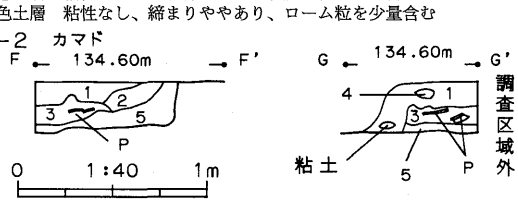
J-1 P-2 土層注記 (F-F′断面)
1. 褐色土層 粘性なし、締まりあり、炭化物粒を少量、土器片あり

J-1 埋甕 土層注記 (D-D′断面)
1. 褐色土層 粘性なし、締まりあり、細かな白色軽石をわずかに、ローム粒をやや多く含む
2. 黒褐色土層 粘性なし、締まり良く硬い、細かな白色軽石、ローム粒わずかに含む
3. 黄褐色土層 粘性ややあり、締まり良く硬い、ハードロームブロック
4. 黄褐色土層 締まり良く硬い
5. 褐色土層 粘性あり、締まりややあり





H-1カマド 土層注記 (D-D′、E-E′断面)
1. 褐色土層 粘性なし、締まりあり、白色軽石粒をわずかに、ローム粒、ロームブロックを少量含む
2a. 鈍い黄褐色土層 粘性あり、締まりややあり、ローム粒、焼土粒をわずかに、白色粘土粒をやや多く含む
2b. 鈍い黄褐色土層 粘性ややあり、締まりあり、2aに焼土粒を含まない
3. 暗赤褐色土層 粘性ややあり、締まりあり、焼土粒、焼土ブロック、白色粘土粒を少量含む、土師器片あり
4. 暗褐色土層 粘性、締まりややあり、焼土粒、焼土ブロックを少量含む
5. 黒褐色土層 粘性ややあり、締まりなし、焼土粒を少量含む
6. 黒褐色土層 粘性なし、締まりややあり、ローム粒を少量含む



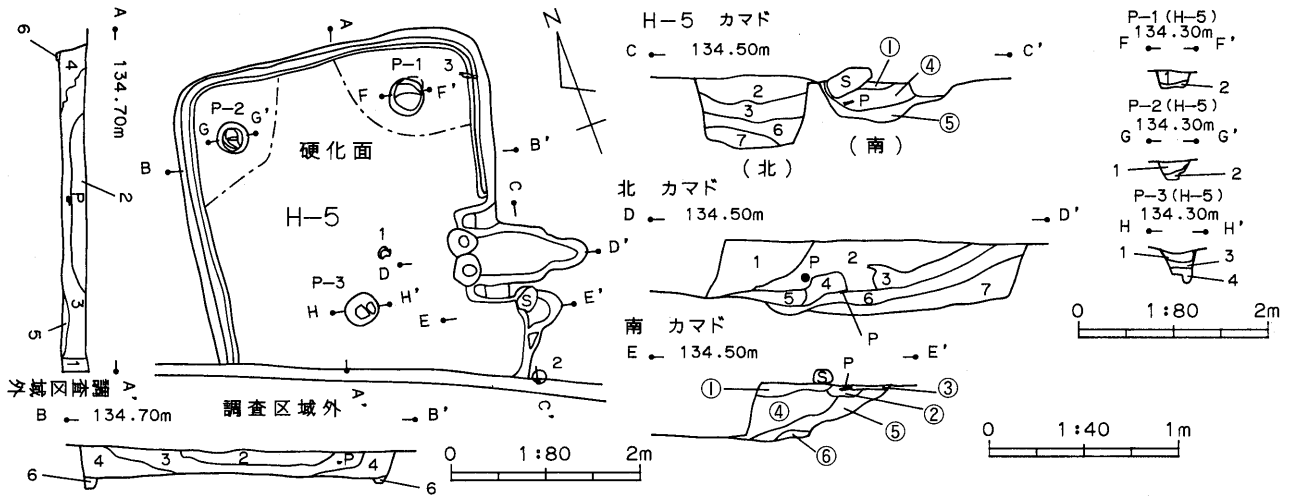
H-2カマド 土層注記 (F-F′、G-G′断面)
1. 暗褐色土層 粘性なし、締まりあり、ローム粒、焼土粒をわずかに含む
2. 暗褐色土層 粘性、締まりややあり、焼土粒、焼土ブロックをわずかに含む
3. 褐灰色土層 粘性、締まりややあり、白色粘土をやや多く、焼土粒をわずかに含む
4. 明黄褐色土層 粘性なし、締まりあり、ロームブロック
5. 暗褐色土層 粘性あり、締まりなし、焼土粒、焼土ブロックを少量含む

H-1 土層注記 (A-A′、B-B′断面)
1. 褐色土層 粘性なし、締まりあり、白色軽石1～2㎜をやや多く含む
2a. 暗褐色土層 粘性、締まりややあり、ロームブロックをやや多く含む
2b. 暗褐色土層 粘性、締まりややあり、ロームブロックを少量含む
2c. 暗褐色土層 粘性、締まりややあり、ロームブロックをわずかに含む
3. 褐色土層 粘性、締まりややあり、ロームブロックを少量含む

H-1 貯蔵穴 土層注記 (H-H′断面)
1. 褐色土層 粘性ややあり、締まりなし、ローム粒、ロームブロックを少量含む
2. 明黄褐色土層 粘性ややあり、締まりなし、ロームブロック
3. 褐色土層 粘性、締まりややあり、ローム粒をやや多く含む

H-2 土層注記 (A-A′、C-C′断面)
①. 黒褐色土層 粘性なし、締まりあり、白色軽石をやや多く、ロームブロックをわずかに含む
②. 暗褐色土層 粘性ややあり、締まりあり、白色軽石、ロームブロックを少量含む
③. 褐色土層 粘性、締まりややあり、白色軽石、ロームブロックをわずかに含む
④. 暗褐色土層 粘性、締まりややあり、白色軽石 φ 1㎜を少量含む
⑤. 褐色土層 粘性あり、締まりややあり、ロームブロックをわずかに含む
⑥. 暗褐色土層 粘性、締まりなし、ローム粒を少量含む

第12図 J-1号、H-1・2号住居跡、P-47号平面・断面図

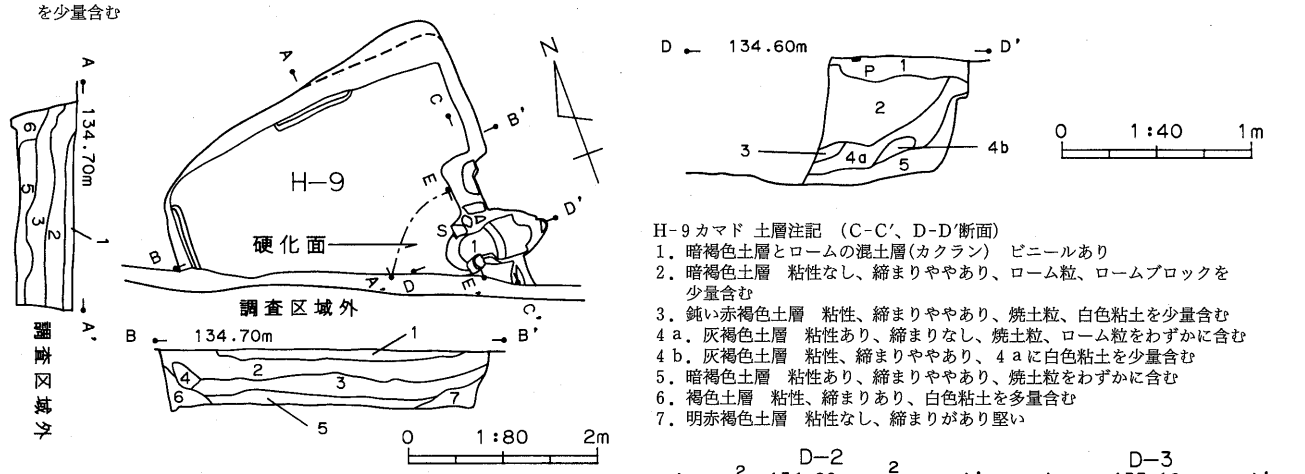


H-5 土層注記 (A-A′、B-B′断面)
1. 黒褐色土層 粘性、締まりややあり、白色軽石をわずかに含む
2. 黒褐色土層 粘性なし、締まりあり、白色軽石をやや多く、ロームブロックをわずかに含む
3. 暗褐色土層 粘性ややあり、締まりあり、白色軽石、ロームブロックを少量含む、土器片あり
4. 褐色土層 粘性、締まりややあり、白色軽石、ロームブロックをわずかに含む
5. 灰黄褐色土層 粘性、締まりあり、白色軽石 φ 1〜2㎜をわずかに含む
6. 褐色土層 粘性なし、締まりややあり、ローム粒をやや多く含む (周溝)

H-5北カマド 土層注記 (C-C′、D-D′断面)
1. 暗褐色土層 粘性なし、締まりあり、白色軽石 φ 1〜2㎜を少量、焼土粒、炭化物粒をわずかに含む
2. 暗褐色土層 粘性なし、締まりあり、白色軽石、ローム粒、焼土粒、炭化物粒をわずかに含む、土器片あり
3. 褐色土層 粘性、締まりややあり、焼土粒、焼土ブロックをやや多く含む
4. 鈍い赤褐色土層 粘性、締まりややあり、白色粘土、焼土粒、焼土ブロックをやや多く含む、土器片あり
5. 黒褐色土層 粘性なし、締まりややあり、ローム粒、焼土粒をわずかに含む
6. 黒褐色土層 粘性あり、締まりややあり、焼土粒を少量含む
7. 黒褐色土層 粘性あり、締まりややあり、白色粘土、ローム粒を少量含む

H-5南カマド 土層注記 (C-C′、E-E′断面)
①. 褐色土層 粘性なし、締まり良く硬い、白色軽石をわずかに含む
②. 赤褐色土層 粘性なし、締まりややあり、焼土粒、焼土ブロックを多量に含む
③. 暗褐色土層 粘性なし、締まりあり、焼土粒を少量含む
④. 暗褐色土層 粘性なし、締まりややあり、白色軽石、焼土、炭化物粒をわずかに含む
⑤. 暗褐色土層 粘性、締まりややあり、焼土粒をわずか、ロームブロック少量含む
⑥. 明褐色土層 粘性、締まりなし、焼土粒を少量含む

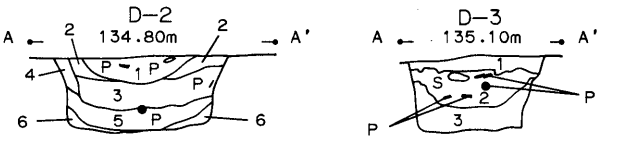
H-5 P-1〜3 土層注記 (F-F′〜H-H′断面)
1. 暗褐色土層 粘性、締まりややあり、ローム粒を少量、焼土粒、炭化物粒をわずかに含む
2. 灰黄褐色土層 粘性、締まりややあり、ローム粒をやや多く含む
3. 暗褐色土層 粘性、締まりなし、ローム粒を僅かに含む
4. 褐色土層 粘性、締まりややあり、ローム粒をやや多く含む



H-9 土層注記 (A-A′、B-B′断面)
1. 褐色土層 粘性なし、締まりあり、白色軽石をわずかに含む
2. 褐色土層 粘性なし、締まりあり、白色軽石、ローム粒をわずかに含む
3. 暗褐色土層 粘性、締まりややあり、白色軽石をわずかに、ロームブロックを少量含む
4. 黒褐色土層 粘性、締まりややあり、白色軽石、ローム粒をわずかに含む
5. 暗褐色土層 粘性、締まりあり、白色軽石をわずか、ロームブロックをやや多く含む
6. 暗褐色土層 粘性あり、締まりややあり、ローム粒を少量含む
7. 褐色土層 粘性、締まりややあり、ローム粒をやや多く含む

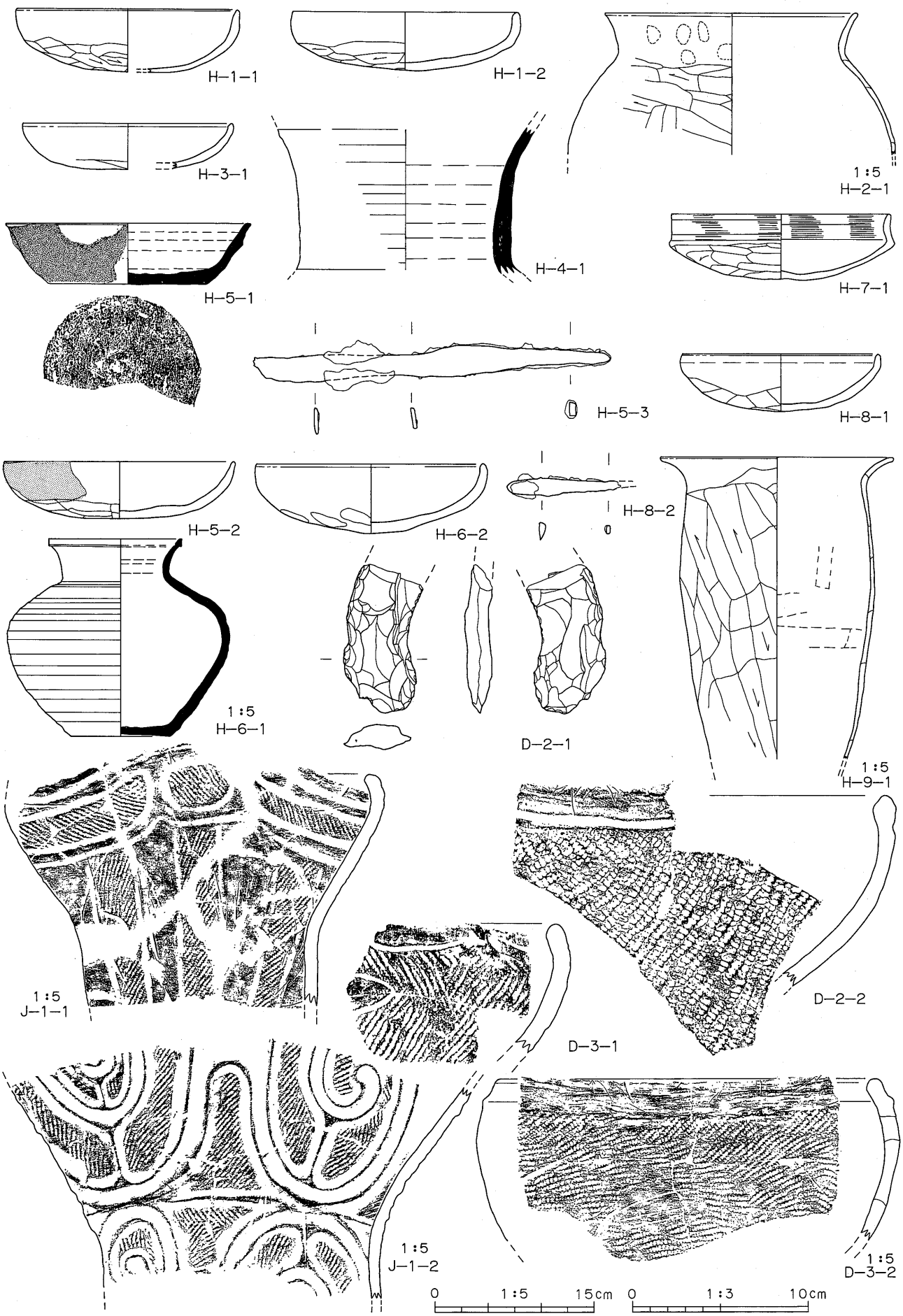
D-3 土層注記 (A-A′断面)
1. 鈍い黄褐色土層 粘性なし、締まりあり、耕作土
2. 鈍い黄褐色土層 粘性なし、締まり良く硬い、ローム粒、焼土粒をわずかに、炭化物粒を少量含む
3. 黄褐色土層 粘性あり、締まり良く硬い、ローム粒をやや多く、焼土粒、炭化物粒をわずかに含む

H-9カマド 土層注記 (C-C′、D-D′断面)
1. 暗褐色土層とロームの混土層(カクラン) ビニールあり
2. 暗褐色土層 粘性なし、締まりややあり、ローム粒、ロームブロックを少量含む
3. 鈍い赤褐色土層 粘性、締まりややあり、焼土粒、白色粘土を少量含む
4 a. 灰褐色土層 粘性あり、締まりなし、焼土粒、ローム粒をわずかに含む
4 b. 灰褐色土層 粘性、締まりややあり、4 a に白色粘土を少量含む
5. 暗褐色土層 粘性あり、締まりややあり、焼土粒をわずかに含む
6. 褐色土層 粘性、締まりあり、白色粘土を多量含む
7. 明赤褐色土層 粘性なし、締まりがあり堅い

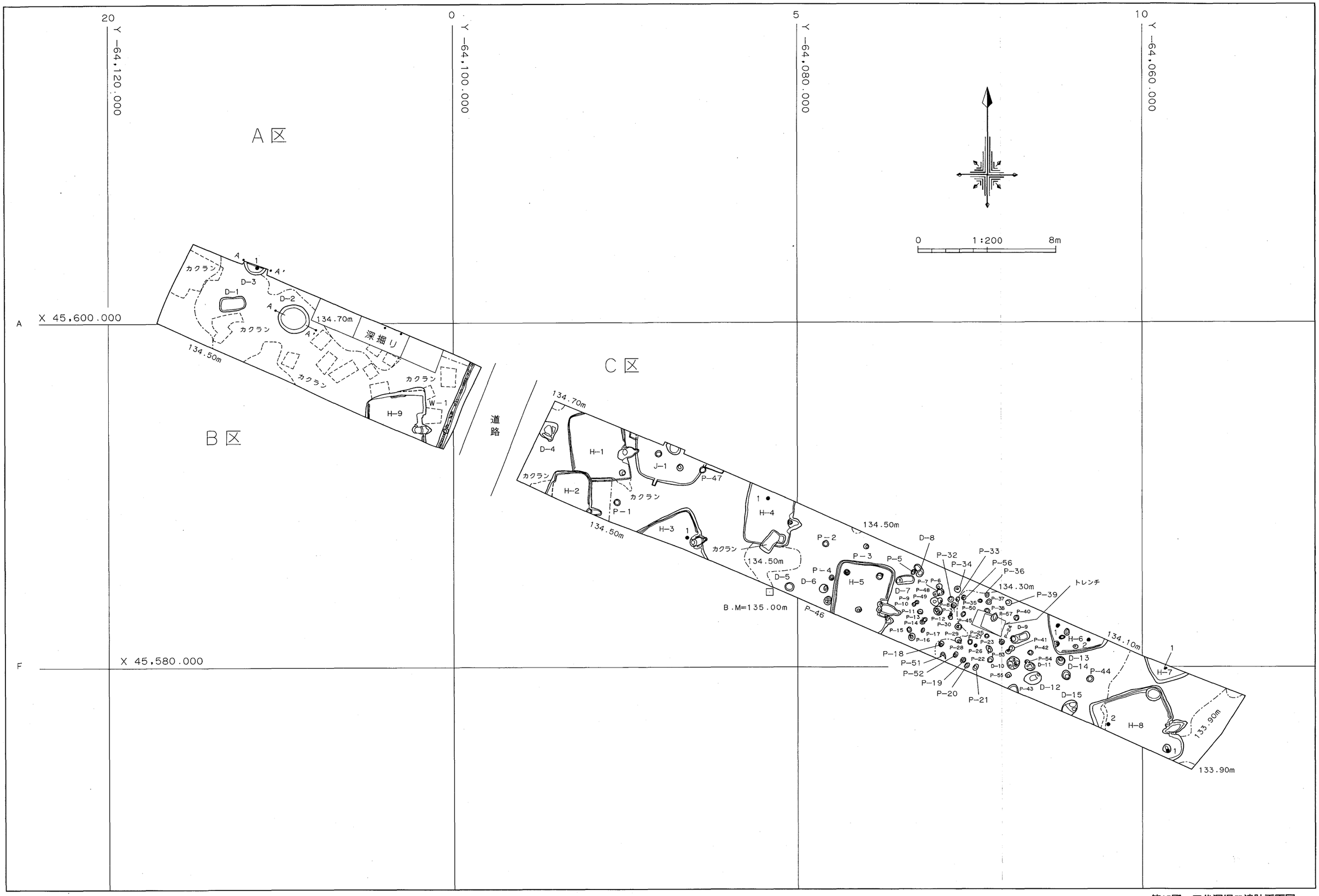


D-2 土層注記 (A-A′断面)
1. 褐色土層 粘性なし、締まりあり、ローム粒、焼土粒をわずかに、炭化物粒を多量に含む、縄文土器片あり
2. 褐色土層 粘性なし、締まりあり、ローム粒、焼土粒、炭化物粒をわずかに含む
3. 暗褐色土層 粘性ややあり、締まり良く硬い、細かな白色軽石を少量、ロームブロック、焼土粒、炭化物粒をわずかに含む
4. 黄褐色土層 粘性ややあり、締まり良く硬い、ローム粒をやや多く、焼土粒、炭化物粒をわずかに含む
5. 褐色土層 粘性ややあり、締まり良く硬い、ローム粒、焼土粒、炭化物粒をわずかに含む、縄文土器片あり
6. 鈍い黄褐色土層 粘性あり、締まり良く硬い、ローム粒をやや多く含む

第13図 H-5・9号住居跡、D-2・3号平面・断面図



第14図　J-1号、H-1～9号住居跡、D-2・3号遺物実測図



第15図　五代深堀Ⅱ遺跡平面図

Ⅶ　五代中原Ⅰ遺跡

1．概　　観

調査区は、北側に大正用水を挟んで芳賀東部団地遺跡が位置する南側にある。調査では１・２面通して縄文時代の竪穴住居跡や土坑、古墳、平安時代の竪穴住居跡と掘立柱建物跡、土坑、柱穴、竪穴状遺構などを検出した。また、調査区は後世の掘削整地、カクランを受けているため、遺構の残りは調査区西側の平坦な面は良くなかった。

2．遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

①縄文時代

Ｊ－１号住居跡〔第17図〕

位置 DB・C－2・3・4グリッド **形状** 北東～南東方向へ細長い隅丸方形。**規模** 長軸5.38m、短軸4.32m、確認面から床面までの壁高40～60cm。**面積** 19.21m² **長軸方向** N－39°－E、**床面** 平坦で堅緻な床面。**柱穴** 四隅の壁近くに検出。P－1長径77cm、短径57cm、深さ15cmの楕円形。P－2長径27cm、短径18cm、深さ12cmの楕円形。P－3長径40cm、短径23cm、深さ14cmの楕円形。P－4長径38cm、短径31cm、深さ23cmの楕円形。P－5径20cm、深さ16cmの円形。P－6長径58cm、短径56cm、深さ17cmの楕円形。**炉跡** 南壁側中央付近に位置し、大小の焼けた石2個検出。覆土には炭化物含む。径40cm、深さ床面より9cm、**遺物** 図示した遺物は、鉢№1、凹石№2などがある。

Ｊ－２号住居跡〔第17図、図版7〕

位置 BD・E－24～DD・E・F－0・1グリッド **形状** 南壁側はやや丸味を持つ長方形。**規模** 長軸6.81m、短軸5.94m、確認面から床面までの壁高44～74cm。**面積** 35.74m² **長軸方向** N－38°－E、**床面** 部分的に硬化面あり。中央付近に焼土面あり。**柱穴** 四隅と壁際に検出。P－1長径34cm、短径31cm、深さ33cmの楕円形。P－2長径61cm、短径59cm、深さ32cmの楕円形。P－3長径54cm、短径49cm、深さ42cmの楕円形。P－4長径20cm、短径18cm、深さ16cmの楕円形。P－5長径57cm、短径46cm、深さ29cmの楕円形。P－6長径50cm、短径45cm、深さ24cmの楕円形。P－7径38cm、深さ17cmの円形。P－8径50cm、深さ27cmの円形。**炉跡** 南壁寄り中央に大小の焼けている石3個配して検出。長径47cm、短径34cm、深さ床面より11cmの楕円形。**炉跡** 中央に位置し、長径58cm、短径54cm、深さ床面より13cmの楕円形。**埋甕** 深鉢、北東隅に長径23cm、短径21cm、深さ23cmの掘り方が見られる。土器は口縁部がわずかに残り底部は欠損している。**遺物** 図示した遺物は、深鉢№1、深鉢(Ｊ－3の鉢と接合する)№2、石鏃№3などがある。

Ｊ－３号住居跡〔第18図〕

位置 BF・G・H－21・22グリッド **重複** W－1とH－22と重複する。**形状** 楕円形を呈す。**規模** 長軸5.54m、短軸5.12m、確認面から床面までの壁高65～92cm。**面積** 22.50m² **長軸方向** N－1°－E、**床面** 平坦で堅緻な床面。**柱穴** 壁際に円形状に巡っている。P－1長径27cm、短径23cm、深さ19cmの楕円形。P－2長径24cm、短径20cm、深さ12cmの楕円形。P－3長径23cm、短径18cm、深さ15cmの楕円形。P－4長径27cm、短径22cm、深さ13cmの楕円形。P－5長径37cm、短径30cm、深さ12cmの楕円形。P－6長径31cm、短径28cm、深さ20cmの楕円形。P－7長径28cm、短径21cm、深さ22cmの楕円形。P－8径31cm、深さ10cmの円形。P－9長径22cm、短径19cm、深さ18cmのほぼ円形。P－10径23cm、深さ17cmの円形。**土坑** 南壁に検出。D－1長径103cm、短径92cm、深さ22cmの楕円形。**炉跡** ほぼ中央に石3個を配して検出。長径60cm、短径56cm、深さ床面より3cmの楕円形。**遺物** 図示した遺物は、浅鉢？№1、棒状石器№2、石鏃№3などがある。

②古墳時代

H－12号住居跡〔第18図、図版7〕

位置 BF・G－11・12グリッド **形状** 長方形を呈す。**規模** 長軸5.15m、短軸4.85m、確認面から床面までの壁高21～34cm。**面積** 23.17m² **長軸方向** N－77°－E、**床面** 中央部分が堅緻な床面。周溝は検出されなかった。**柱穴** 四隅と西壁側に検出。P－1長径48cm、短径29cm、深さ17cmの楕円形。P－2長径53cm、短径35cm、深さ29cmの楕円

形。P－3長径44cm、短径36cm、深さ46cmの楕円形。P－4径40cm、深さ28cmの円形。P－5長径40cm、短径38cm、深さ57cmのほぼ円形。**貯蔵穴** 南西隅に検出。長径80cm、短径63cm、深さ45cmの楕円形。**炉跡** 北壁寄りの中央に位置し、北側に石を1個検出。長径56cm、短径49cm、深さ床面から11cmの楕円形。**遺物** 図示した遺物は、土師器高坏(脚部)No.1．3、甕No.2．4などがある。

H－15号住居跡〔第19図〕

位置 BI-11、BJ-11・12グリッド **形状** 推定長方形を呈す。**規模** 長軸(3.72)m、短軸(2.82)m、確認面から床面までの壁高6～28cm。**面積** (7.57)m² **長軸方向** N-15°-W、**床面** 南壁側は掘削を受けて不明。残りの部分は平坦な床面。周溝は検出されなかった。**柱穴** 南壁側に検出。P－1長径64cm、短径60cm、深さ39cmの楕円形。**貯蔵穴** 検出されなかった。**カマド** 検出されなかった。**遺物** 図示した遺物は、土師器高坏(脚部)No.1、甕No.2．3、有孔円板No.4などがある。

H－21号住居跡〔第19図〕

位置 BH・I－17・18グリッド **形状** 長方形を呈す。**規模** 長軸4.75m、短軸3.82m、確認面から床面までの壁高6～17cm。**面積** 16.56m² **長軸方向** N-57°-E、**床面** 平坦で堅緻な床面。周溝は検出されなかった。**柱穴** 四隅に検出。P－1長径66cm、短径61cm、深さ50cmのほぼ円形。P－2長径71cm、短径54cm、深さ20cmの楕円形。P－3長径68cm、短径65cm、深さ47cmのほぼ円形。P－4長径70cm、短径68cm、深さ34cmの楕円形。**貯蔵穴** 検出されなかった。**炉跡** 北西壁側に位置する。長径67cm、短径64cm、深さ床面より8cmのほぼ円形。**遺物** 図示した遺物は、土師器高坏(坏部)No.1、甕No.2、坩？No.3などがある。

③平安時代

H－4号住居跡〔第20図〕

位置 AP・Q-24、CP-0、CQ-0・1グリッド **形状** 長方形を呈す。**規模** 長軸4.94m、短軸3.92m、確認面から床面までの壁高33～73cm。**面積** 17.57m² **長軸方向** N－0°、**床面** 中央、東西方向平坦で堅緻な床面。周溝は北壁、東壁、西壁側の一部を除き巡っている。**柱穴** 南東隅に検出。P－1長径49cm、短径36cm、深さ21cmの楕円形。**貯蔵穴** 検出されなかった。**カマド** 東壁の中央やや南寄りに位置する。主軸方向 N-88°-Eで、全長142cm、最大幅97cm、焚口部幅58cm、**遺物** 図示した遺物は、土師器台付甕(台部)No.1、甕No.2などがある。

H－5号住居跡〔第20図、図版8〕

位置 CQ-3、CR-2・3・4グリッド **形状** ほぼ方形を呈す。**規模** 長軸3.96m、短軸3.60m、確認面から床面までの壁高45～52cm。**面積** 13.83m² **長軸方向** N-23°-E、**床面** 中央、東西方向堅緻な床面。周溝はほぼ全周する。**柱穴** 検出されなかった。**貯蔵穴** 南東隅に検出。長径85cm、短径70cm、深さ34cmの楕円形。**カマド** 東壁の中央やや南寄りに位置する。主軸方向 N-112°-Eで、全長147cm、最大幅85cm、焚口部幅48cm、**遺物** 図示した遺物は、土師器坏(No.1．2)などがある。

注)(　　)は、検出値を表す。掲載以外の住居跡は一覧表を参照。

(2) 掘立柱建物跡

B－1〔第16・21図〕

位置 CN・O・P－1・2グリッド **形状** 東西方向1間×南北方向1・2間の長方形。**長軸方向** N－8°-E、**推定面積** [18.82]m²を測る。**柱間寸法** 東西方向1間のP-14・44間 3.94m、P-18・22間 3.81m、南北方向1・2間 P-18・44間 4.96m、P-14・23・22間 2.28m＋2.55mで4.83mを測る。**柱穴** 平面は円、楕円形を呈し掘り込みはU字形である。径は長径38～48cm、短径36～45cm、深さ21～51cmを測る。**遺物** 出土しなかった。

B－2〔第16・21図〕

位置 CP・Q－4・5グリッド **形状** 東西方向1間×南北方向2間の長方形。**長軸方向** N-20°-E、**推定面積** [16.

33]㎡を測る。**柱間寸法** 東西方向1間のP-29・31間 3.25m、P-45・46間 2.96m、南北方向2間のP-29・30・45間 1.98m＋3.03mで5.01m、P-31・32・46間 2.46m＋2.99mで5.45mを測る。**柱穴** 平面は円、楕円形を呈し掘り込みはU字形、鍋底形である。径は長径33～57㎝、短径30～48㎝、深さ18～32㎝を測る。**遺物** 出土しなかった。

B-3〔第16・21図、図版8〕

位置 CS-4、CT・U-4・5グリッド **形状** 北西～南東方向2間×北東～南西方向2間の長方形。**長軸方向** N-70°-W、**推定面積** [17.52]㎡を測る。**柱間寸法** 北西～南東方向2間のP-33・34・35間 2.00m＋2.50mで4.50m、P-48・49・40間 1.84m＋2.60mで4.44m、北東～南西方向2間のP-33・47・48間 2.01m＋1.80mで3.81m、P-35・50・40間 1.89m＋2.06mで3.95mを測る。**柱穴** 平面は円、楕円形を呈し掘り込みは鍋底形である。径は長径37～62㎝、短径36～54㎝、深さ14～24㎝を測る。**遺物** 出土しなかった。

B-4〔第16・21図〕

位置 AL-17グリッド **形状** 東西～南北方向1間×南北方向1間の長方形。**長軸方向** N-79°-W、**推定面積** [2.73]㎡を測る。**柱間寸法** 東西方向1間のP-1・2間 1.88m、P-4・5間 1.72m、南北方向1間のP-1・5間 1.56m、P-2・4間 1.48mを測る。**柱穴** 平面は円、楕円形を呈し掘り込みはU字形である。径は長径24～40㎝、短径22～35㎝、深さ18～38㎝を測る。**遺物** 出土しなかった。

注）[　　] は柱穴を囲んだ面積。

本文に掲載以外の各遺構については、計測表にまとめて報告する。

3．まとめ

本調査区は、標高は135.60m～141.20mの間にある。西側の台地部分は、土地改良などでローム面が削り取られた状況が見られ、中央付近から南東方向は緩やかな傾斜地となっている。検出した遺構は第1面、第2面合わせて竪穴住居跡、縄文時代3軒、古墳時代6軒、平安時代18軒、土坑6基(縄文1基)、竪穴状遺構2ヶ所、掘立柱建物跡4棟、柱穴50基と溝跡1条などがある。

縄文時代では傾斜面にJ-1～3号を検出した。形状は方形や楕円形で規模は4.32m～6.81m程のものがある。3軒からは、石を使った炉跡が床面の中央付近や壁寄りに検出した。さらに一番大きいJ-2号住居跡からは、石を使用していない炉跡や北東側に埋甕も検出した。また、柱穴も各住居跡に検出され、J-1・2号は径が大きく掘り込みの深いものを四隅に検出した。J-3号住居跡は径が小さく壁に沿って柱穴を円形状に配列していた。遺物は縄文前期の諸磯b、c土器が石器とともに出土した。

古墳時代では、H-12・18・21号住居跡から石を1～2個配した炉跡が検出され、いずれも炭化物、焼土等を含む土層で埋まっていた。また、カマドを伴うH-14号住居跡やカマド・炉跡の検出のないH-15号住居跡などもあり、H-18号住居跡は、H-17号住居跡と重複して掘り込まれていた。形状は方形状に掘り込まれているものがほとんどで、その規模は大型のH-12号住居跡で4.85×5.15m、その他H-18・21号住居跡で2.83～4.75mまでのものが検出されている。遺物は土師器坏、甕、高坏と石製模造品の有孔円板など5～6世紀頃と思われるものが出土した。また、H-18号住居跡と重複しているH-17号住居跡からは、まとまった遺物の出土はなかった。住居は、後世の掘削やカクランを受け残りが悪かったが東壁側にカマドの検出があったことで、時期的に後出のものであるとみられる。H-18号住居跡が5世紀前半とみられることからH-18号住居跡よりも新しい6世紀のものとしてとらえたい。

平安時代では規模が2.66～4.92mまでのものがあり、形状は南北方向がやや細長くカマドを東壁側に作り出している。また周溝が回るものや柱穴、貯蔵穴の検出もあった。遺物は土師器の平底の坏や「コ」の字状口縁の甕片、須恵器高台埦、糸切痕が残る坏片など9世紀代を中心とした時期のものが出土した。また、石製紡錘車や鉄製品の出土もあった。

溝は調査区の南寄りに検出し向きは東西方向である。全長約78.5m、上幅53～64㎝、深さは残りの良い所で62㎝、部分的に残る所で5㎝を測り、西側は台地部分に位置し後世のカクランを伴う部分が多く、形状は底がわずかに残る程度である。また、J-3号住居跡、H-22号住居跡と傾斜面で重複し掘り込んでいる。遺物は、須恵器、

土師器片などが覆土から出土している。時期は重複住居跡や遺物から推定して平安時代以降の溝と思われる。

柱穴、土坑等は、調査区の北側に集中して検出した。その中で掘立柱建物跡を組めた柱穴列は4棟あった。土坑は6基検出した。そのうちの1基は第2面調査範囲からの検出で、縄文時代前期諸磯cの底部と思われる土器が1点出土した。他にはH-18号住居跡を掘り込んでいるD-3からは平安時代の土器片の出土があったが他は出土していない。第二面検出の土坑以外は時期不明である。また、一面で東壁側に隅丸方形状にローム面を掘り込んだ遺構の検出があった。柱穴や遺物などの検出はなく時期不明の竪穴状遺構とした。同じく第二面からもローム土層を楕円形に掘り込んだ遺構を検出した。床面と思われる所に柱穴状の掘り込みが検出されたが、遺構に伴うものか不明で遺物の出土もなく形状から竪穴状遺構とした。

全体に西側の台地状部分と東側に傾斜する所に遺構が散在し、西側は土地改良時の掘削や後世のカクラン等で遺構確認面まで掘削整地を受けて残りが悪く、傾斜面の所はカクラン部分が少なく遺構の残りは良かった。その中で住居跡は、調査区の中心を除いた壁に近い所に検出されている。その状況は縄文時代では東側の傾斜地に、古墳時代では南西隅に集中し、平安時代では調査区全体に環状に位置している状況が見られたが、奈良時代の遺物を伴う住居跡の検出はなく古墳時代以降、平安時代にかけての住居跡が散在し時代とともに増加している状況が見られた。また、住居跡の形態も縄文時代では円形や楕円形で、古墳時代の5～6世紀代の住居跡では、方形状のものが多く検出され、平安時代では正方形から横長のもの（大多数が南北方向に長い）が検出されている。また、縄文～古墳時代では炉跡の検出があり、平安時代では東方向へカマドを構築しているものが検出された。このように住居の形態や規模などに変化が見られ、特に律令期以降の住居跡（9世紀代）に変化が見られ、集落も数軒単位でまとまっている状況が推測され、住居跡との間隔もやや距離をおいて位置している状況が見られる。また、検出した掘立柱建物跡なども平安時代の住居跡に近接していることから付随するものと思われ、小グループでの協同使用も考えられる。また、本遺跡の北に位置する芳賀東部団地遺跡からは、縄文～古墳、奈良・平安時代へと続く住居跡の検出があり、本遺跡も同時代の遺構の検出があることから、芳賀東部団地遺跡の南側台地部分にあたると推測でき、集落の一部に含まれる可能性が考えられる。

（五代伊勢宮Ⅲ、五代深堀Ⅱ、五代中原Ⅰ遺跡　参考文献）

芳賀東部団地遺跡Ⅰ	―古墳～平安時代その1―	1984	前橋市教育委員会
芳賀東部団地遺跡Ⅱ	―古墳～平安時代その2―	1988	前橋市教育委員会
芳賀東部団地遺跡Ⅲ	―縄文・中近世編―	1990	前橋市教育委員会
芳賀西部団地遺跡		1991	前橋市教育委員会
芳賀北部団地遺跡Ⅰ	―古墳・奈良・平安時代編―	1994	前橋市教育委員会
芳賀東部団地遺跡		1998	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
鳥取福蔵寺遺跡		1997	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡		1998	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
五代江戸屋敷遺跡		2000	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
八幡中原遺跡		1982	高崎市教育委員会
群馬の考古学		1988	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
群馬県史　通史編1	原始古代1	1990	群馬県史編さん委員会
群馬県史　通史編2	原始古代2	1991	群馬県史編さん委員会
第9回企画展　古代の集落　しもつけのムラとその生活		1995	栃木県立しもつけ風土記の丘資料館

第17表　住居跡一覧表

[　　] は推定、(　　) は検出値を表す。

□石製品　△鉄製品　○土師器　●須恵器

住居番号	住居検出位置	平面形	長軸方向	規模(cm)	面積(m²)	柱穴数・最大最小寸法(cm)				貯蔵穴数・最大最小寸法(cm)				土坑数・最大最小寸法(cm)				カマド・炉跡位置・構築材	重複	出土遺物の種類								
						数	長径	短径	深さ	数	長径	短径	深さ	数	長径	短径	深さ			甕	高坏	坏	埦	坩	石製模造品	紡錘車	鉄製品	その他
1	AL・M-18・19	長方形	N-20°-E	364 298	9.92	3	68 54	65 38	(28) 17					1	113	91	18	東壁の中央やや南寄り		○		● ○	●			□		土師器台付甕
2	AM-18・19 AN-18	長方形	N-20°-E	(445) (346)	(14.40)	3	32 24	31 23	23 10					2	103 100	90 75	20 16	東壁のやや南寄り		○		●	●		砥石 □			須恵器蓋
3	AO・P-15・16	不明			(8.46)	1	42	38	27					1	107	85	17	東壁の中央やや南寄り。構築材あり		○ ●			●				△	灰釉皿
4	AP・Q-24 CP-0	長方形	N-0°	494 392	17.57	1	49	36	21									東壁の南寄り		○		●						土師台付甕 結晶片岩
5	CQ-3 CR-2・3・4	長方形	N-23°-E	396 360	13.83					1	85	70	34					東壁の南寄り		○		○ ●						須恵器蓋
6	CR・S-8・9	不明			(4.29)	1	82	68	21									不明		○		○ ●	●					
7	AV-13・14 AW-13	長方形	N-5°-W	338 280	8.92	3	53 40	45 37	20 10	1	77	70	25					東壁の中央やや南寄り		○ ●		○	●				△釘	
8	AU・V-17	[長方形]	[N-18°-W]	(338) (266)	(7.74)	1	35	26	14									東壁の南寄り		○			●					長頸壺
9	AW-16・17 AX-17	長方形	N-16°-E	376 340	11.83													東壁の中央やや南寄り		○		●						
10	CY-2・3 DA-2・3	長方形	N-18°-E	422 322	12.52	3	33 23	30 23	41 20	1	74	61	24					東壁の南寄り		○		○ ●	●					
11	BD-11・12 BE-12	正方形	N-1°-W	356 352	11.12					1	61	60	33					東壁の中央寄り		○			●					
12	BF・G-11・12	長方形	N-77°-E	515 485	23.17	5	53 40	40 29	57 17	1	80	63	45					炉跡 北東寄り		○	○				砥石 □			蛇紋岩
13	BH・I-8・9	不明			(6.65)	1	50	45	19									北側がわずかに残る		○			●					
14	BI・J-10・11	不明			(2.40)	1	43	33	10									東壁		○								小型甕
15	BI-11 BJ-11・12	[長方形]	[N-15°-W]	(3.72) (2.82)	(7.57)	1	64	60	39									不明		○	○				有孔円板			
16	BH・I-13・14	長方形	N-5°-E	402 330	10.86	2	63 47	50 44	18 5					1	180	131	22	東壁のやや南寄り		○		●	●					朱塗付甕
17	BG・H-13・14	[長方形]	[N-2°-E]	(395) (299)	(10.92)													東壁の南寄り	H-18	○								
18	BF・G-13・14	[長方形]	[N-84°-E]	(310) (283)	(8.40)	1	108	100	55									炉跡 焼土面あり 石が2個あり	H-17	○	○			○				
19	BD・E-15・16	[長方形]	[N-8°-E]	(385) (302)	(10.65)									2	134 108	101 87	18 17	東壁の南寄り	W-1	○		○						
20	BF-18・19 BG-18	長方形	N-2°-E	364 309	9.91	4	60 40	52 32	47 9					2	93 90	68 67	20	東壁の南寄り 石3個あり		○		○	●					
21	BH・I-17・18	長方形	N-57°-E	475 382	16.56	4	71 66	68 54	50 20									炉跡？焼石と炭化物範囲あり		○	○			○				

住居番号	住居検出位置	平面形	長軸方向	規模(cm)	面積(m²)	柱穴数・最大最小寸法(cm)				貯蔵穴数・最大最小寸法(cm)				土坑数・最大最小寸法(cm)				カマド・炉跡位置・構築材	重複	出土遺物の種類								
						数	長径	短径	深さ	数	長径	短径	深さ	数	長径	短径	深さ			甕	高坏	坏	埦	坩	石製模造品	紡錘車	鉄製品	その他
22	BG・H-22・23	長方形	N-2°-W	492 358	16.26					1	60	58	27					東壁の中央南寄り	W-1 J-3	○		○ ●	●					灰釉皿
23	AK・L-24 CK・L-0	長方形	N-15°-E	440 384	14.69					1	140	91	40	1	110	98	20	東壁の中央やや南寄り。燃焼部右壁側に1石あり		○		●	●				鉄滓 △	灰釉皿
24	BM・N-24・25	長方形	N-10°-E	438 362	14.13	2	44 26	38 20	30 20									東壁の中央やや南寄り。燃焼部に2石あり		○		○ ●	●					

注）住居番号は報告書の付番、住居検出位置は調査時のグリッドを表す。

住居番号	住居検出位置	平面形	長軸方向	規模(cm)	面積(m²)	柱穴数・最大最小寸法(cm)				貯蔵穴数・最大最小寸法(cm)				土坑数・最大最小寸法(cm)				カマド・炉跡位置・構築材	重複	出土遺物の種類
						数	長径	短径	深さ	数	長径	短径	深さ	数	長径	短径	深さ			
J-1	DB・C-2・3・4	隅丸 長方形	N-39°-E	538 432	19.21	6	77 20	57 18	23 12									南壁側、大小の焼け石2個あり。		深鉢、諸磯b、c
J-2	BE-24、 DD・E・F-0・1	隅丸 長方形	N-35°-E	681 594	35.74	8	61 20	59 18	42 16									中央と南壁側に2基。		深鉢、諸磯c、埋設土器あり
J-3	BF・G・H-21・22	楕円形	N-1°-E	554 512	22.50	10	37 22	31 18	20 10					1	103	92	22	中央部	H-22 W-1	鉢、諸磯b、c、石器
T-1	CW・X-7	隅丸方形	N-22°-E	294 231	6.10															
T-2	BA-15・16	[円形]		(313) (312)	(7.58)	4	40 35	36 30	27 15											

注）住居番号は報告書の付番、住居検出位置は調査時のグリッドを表す。また、住居番号の中に竪穴状遺構(T)の記載を含む。

第18表　土坑計測表

（　）は検出値を表す。

土坑番号	遺構位置	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	形状	備考	土坑番号	遺構位置	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	形状	備考
D-1	AL-17	101	56	34	楕円形		D-4	CT・U-6	121	68	50	楕円形	
D-2	AM-20・21	125	92	14	楕円形		D-5	CT-7 CU-6・7	156	116	36	楕円形	
D-3	BF・G-13	217	92	61	長方形	H-10を掘り込んでいる。遺物2点	J・D-1	AY-16 BA-16	(236)	(232)	(39)	楕円形	遺物：縄文2点

第19表　溝計測表

（　）は検出値、N-S-W-Eは方向を表す。

溝番号	溝の位置	長さ(m)	深さ(cm)	底のレベル(m)	勾配(‰)	上幅 下幅(cm)	流水方向	備考
W-1	BB・C-11 ～DK-2	(78.5)	(5～62)	NW139.31 SE136.05	(41.5)	(53～64) (31)	NW→SE	須恵器坏、土師器片、J-3、H-22を切っている

第20表　柱穴計測表

柱穴番号	遺構位置	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	形　状	備　　考
P-1	AL-17	26	25	38	円　形	掘立柱建物跡(B-4)
P-2	AL-17	28	22	22	楕円形	掘立柱建物跡(B-4)
P-3	AL-17	36	28	18	楕円形	
P-4	AL-17	40	35	18	円　形	掘立柱建物跡(B-4)
P-5	AL-17	24	24	22	円　形	掘立柱建物跡(B-4)
P-6	AL-17	33	31	16	円　形	
P-7	AM-16・17	58	47	26	楕円形	
P-8	AM-16	37	25	13	楕円形	
P-9	AM-16	40	37	19	楕円形	
P-10	AN-16	49	44	28	楕円形	
P-11	AM・N-20	38	36	19	円　形	
P-12	AS-16	49	40	13	楕円形	
P-13	AS-16	49	46	24	円　形	
P-14	CN・O-1	38	38	28	円　形	掘立柱建物跡(B-1)
P-15	CO-1	35	32	34	円　形	
P-16	CO-2	37	35	15	円　形	
P-17	CO-2	57	55	46	円　形	
P-18	CP-2	41	36	21	楕円形	掘立柱建物跡(B-1)
P-19	CP-1・2	32	31	24	円　形	
P-20	CP-1	33	32	12	円　形	
P-21	CP-1	45	38	12	楕円形	
P-22	CP-1	51	45	51	楕円形	掘立柱建物跡(B-1)
P-23	CO-1	42	37	26	楕円形	掘立柱建物跡(B-1)
P-24	CQ-1	34	34	18	円　形	
P-25	CQ-1	37	34	19	円　形	
P-26	CO-3	35	30	43	楕円形	
P-27	CP-3	45	37	34	楕円形	
P-28	CP-4	30	23	24	楕円形	
P-29	CP-4	34	31	27	円　形	掘立柱建物跡(B-2)
P-30	CP-4	33	30	18	円　形	掘立柱建物跡(B-2)
P-31	CP-5	34	33	31	円　形	掘立柱建物跡(B-2)
P-32	CP・Q-5	53	48	28	楕円形	掘立柱建物跡(B-2)
P-33	CS・T-4	38	36	24	円　形	掘立柱建物跡(B-3)
P-34	CT-5	37	36	20	円　形	掘立柱建物跡(B-3)
P-35	CT-5	44	39	24	楕円形	掘立柱建物跡(B-3)
P-36	CT-6	39	37	25	円　形	
P-37	CP-1	47	43	19	円　形	
P-38	CU-6	41	31	34	楕円形	
P-39	CU-5・6	39	34	26	楕円形	
P-40	CU-5	45	36	23	楕円形	掘立柱建物跡(B-3)
P-41	CT-4	47	47	32	円　形	
P-42	CU-2・3	43	43	29	円　形	
P-43	CU-2	58	51	46	楕円形	
P-44	CO-2	48	36	22	楕円形	掘立柱建物跡(B-1)
P-45	CQ-4	57	46	32	楕円形	掘立柱建物跡(B-2)
P-46	CQ-4	45	42	22	楕円形	掘立柱建物跡(B-2)
P-47	CT-4	40	36	14	楕円形	掘立柱建物跡(B-3)
P-48	CT-4	58	54	21	楕円形	掘立柱建物跡(B-3)
P-49	CT・U-4	62	48	23	楕円形	掘立柱建物跡(B-3)
P-50	CT-5	53	45	22	楕円形	掘立柱建物跡(B-3)

第21表　石製品観察表

出土位置-No.	器　種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔(cm)	重さ(g)	材　質	特　　徴	備　　考	実測図	図版
H-2-3	砥石	5.8	3.7	1.7	0.25 ～0.6	66.69	砥沢石	4面使用 腰下げ用の孔あり	孔一部欠損	24	11
H-15-4	有孔円板	縦2.3 横2.2		0.2	0.13 ～0.15	2.46	滑石製	孔2ケ所		24	11

注）石製品観察表の出土位置-No.は各遺構ごとの番号を表す。

第22表　紡錘車観察表

出土位置-No.	径(cm)		厚さ(cm)	孔(cm)		重さ(g)	材　質	特　　徴	備　　考	実測図	図版
	上	下		上	下						
H-1-3	3.5	4.8	1.4	1.0	0.9	54.51	蛇紋岩	偏平台形		24	11
P-10-1 (一括)	2.6	4.0	1.3	0.8	0.8	24.12	蛇紋岩	偏平台形	一部欠損	24	11

注）紡錘車観察表の出土位置-No.は各遺構ごとの番号を表す。

第23表　石器観察表

（　　）は現存値を表す。

出土位置-No.	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石　材	特　　徴	実測図	図版
J-1-2	凹石	11.3	7.6	3.0	250.0	安山岩	4つの凹あり。表2ケ所。裏2ケ所	24	11
J-2-3	石鏃	(1.4)	(1.3)	0.3	0.41	黒曜石	凹基無茎鏃、先端部欠損	24	11
J-3-2	棒状石器	19.1	4.0	2.4	245.0	結晶片岩	断面は楕円状で全体をよく磨成形しており特に両先端部分はなめらかである。	24	11
J-3-3 (一括)	石鏃	2.4	1.5	0.5	1.19	黒曜石	凹基無茎鏃	24	11

注）石器観察表の出土位置-No.は各遺構ごとの番号を表す。

第24表　出土土器観察表

法量は①口径②底径③高台径④器高⑤長さ⑥幅⑦厚さ⑧重さを表す。

出土位置-No.	器形	法量	①胎土②焼成③色④残存	成・整形方法		備考	実測図	図版
				口縁・胴部(体部)	底部			
H-1-1	須恵器 埦	①(13.8)③(7.0) ④6.0	①細粒②良好(還元) ③7.5Y8/2灰白④1/3	口縁部外傾、体部には輪積状ロクロ調整痕あり。	糸切り後付高台		22	9
H-1-2	土師器 甕	①(21.0)④(9.0)	①細粒②良好(酸化) ③5YR7/6橙④口縁1/3	口縁「コ」の字状、頸部中央に膨らみをもつ。薄手の器厚。外面口縁部横撫で。肩部に横方向段状(キャタピラ)篦削り痕あり。外面篦削り撫で調整。			22	9
H-2-1	須恵器 埦	①(13.8) ③(7.0)④5.5	①中粒②良好(還元) ③10Y7/1灰白④1/2	口縁外傾、底部からの立ち上がりはやや丸味を帯びる。体部は直線的に外傾し口縁に至る。内外面ロクロ成整形。	回転糸切り後付高台		22	9
H-2-2	土師器 甕	①(21.8) ④(8.5)	①細粒②良好(酸化) ③2.5YR5/8明赤褐④口縁部から胴部にかけての破片1/4	口縁「コ」の字状、外面口～頸部横撫で。肩から篦削り。内面撫で。			22	9
H-3-1 カマド内	須恵器 埦	①(13.8) ③(7.0)④5.5	①細粒②良好(還元) ③5Y8/1灰白④1/2	底部から丸味をもち外傾して立ち上がり口縁に至る。口縁外反。内外面ロクロ成整形。調整痕あり。	回転糸切り後付高台		22	9
H-3-2 カマド内	土師器 甕	①(19.0) ④(9.0)	①細粒②良好(酸化) ③7.5YR7/4にぶい橙 ④口～胴片(口縁部約1/2)	口縁緩やかな「コ」の字状。 外面口縁部篦削り横撫で調整。 内面指撫で。			22	9
H-4-1	土師器 台付甕の 台部	②(10.0) ④(3.5)	①細粒②良好(酸化) ③5YR6/3にぶい橙④台部1/2	外面篦削り横撫で。指頭圧痕。 内面横撫で。			22	9
H-4-2	土師器 甕	①(20.8) ④(10.0)	①細粒②良好(酸化) ③5YR6/6橙④口～胴部片	口縁「コ」の字状、頸部指頭圧痕あり。頸部中央膨らみ肩部にややはりがある。外面口縁部横撫で。胴部篦削り。内面篦削り後撫で調整。			22	9
H-5-1 カマド内	土師器 坏	①12.0②8.0 ④3.5	①細粒②良好(酸化) ③5YR6/6橙④3/4	底部から体部にかけて丸味をつけて立ち上がり外傾しながら口縁に至る。口縁はやや内湾気味で外面口縁横撫で。篦削り。指頭圧痕。内面横撫で。	篦削り	煤付着	22	9
H-5-2 貯蔵穴内	土師器 坏	①12.0②8.4 ④3.5	①細粒②良好(酸化) ③5YR6/6橙④完形	底部から体部かけては底から丸味をつけて立ち上がり外傾しながら口縁に至る。口縁はやや直立気味。外面口縁～体部指頭調整横撫で。篦削り。内面指頭調整横撫で。底部面に指頭圧痕あり。	平底	煤付着	22	9
H-6-1	土師器 甕	①(17.8) ④(8.0)	①中粒②良好③5YR5/8明赤褐 ④口縁から頸部破片	口縁から頸部にかけて屈曲し肩の部分ははりがない。外面口縁横撫で。頸部篦削り。			22	9
H-6-2	須恵器 埦	①(13.0) ③(6.6)④(4.5)	①中粒②良好(還元) ③10YR3/1黒褐色 ④底部～体部の一部1/3 (底部1/2)	底部から立ち上がりはやや丸味をもち外傾している。内外面ロクロ成形。	回転糸切り後付高台		22	9
H-7-1	須恵器 埦	①(14.8) ③6.5④5.0	①細粒②良好(酸化) ③10YR7/4にぶい黄橙④3/5	底部から体部はやや丸味をもち立ち上がり、口縁部で外反する。内外面ロクロ成整形。	回転糸切り後付高台		22	9
H-7-2	須恵器 埦	①(14.0) ③(7.3)④5.5	①中粒②良好(酸化) ③10YR8/3浅黄橙④1/2	底部からの立ち上がりはやや丸味をもち体部外傾して口縁で外反する。内外面ロクロ成整形。	回転糸切り後付高台		22	9
H-7-3	鉄製品 轡？	⑤10.8⑥0.65 ⑦0.65⑧33.34		一部分			22	9
H-8-1 カマド内	土師器 甕	①19.0 ④9.0	①細粒②良好(酸化) ③5YR7/3にぶい橙～2.5YR6/6橙④口～胴部、口縁約1/2	口縁「コ」の字状。外面篦削り撫で頸部指頭圧痕。内面篦削り撫で調整。			22	9
H-8-2	須恵器 埦	①(13.8)③(7.0) ④5.6	①細粒②良好(還元) ③7.5Y7/1灰白④1/2	体部は底から直線的に立ち上がり口縁に至る。口縁はやや外反する。内外面ロクロ成整形。	回転糸切り後付高台		22	9
H-9-1	土師器 甕	①(20.8) ④(7.0)	①中粒②良好(酸化) ④口～胴の破片	口、頸、胴部にかけて「S」字の緩やかな湾曲、肩のはりがあまりない。外面口から頸部横撫で。胴部篦削り。指頭圧痕。内面篦削り後撫で調整。			22	9
H-10-1	須恵器 埦	①(10.2)②(5.6) ④(3.8)	①中粒②良好 ③外面5Y8/1白、内面10YR6/1褐灰色④1/4(口～底)	底部から丸味をもち外傾し立ち上がり口縁部で外反する。外面一部分灰釉。内外面ロクロ成整。	回転糸切り		22	9

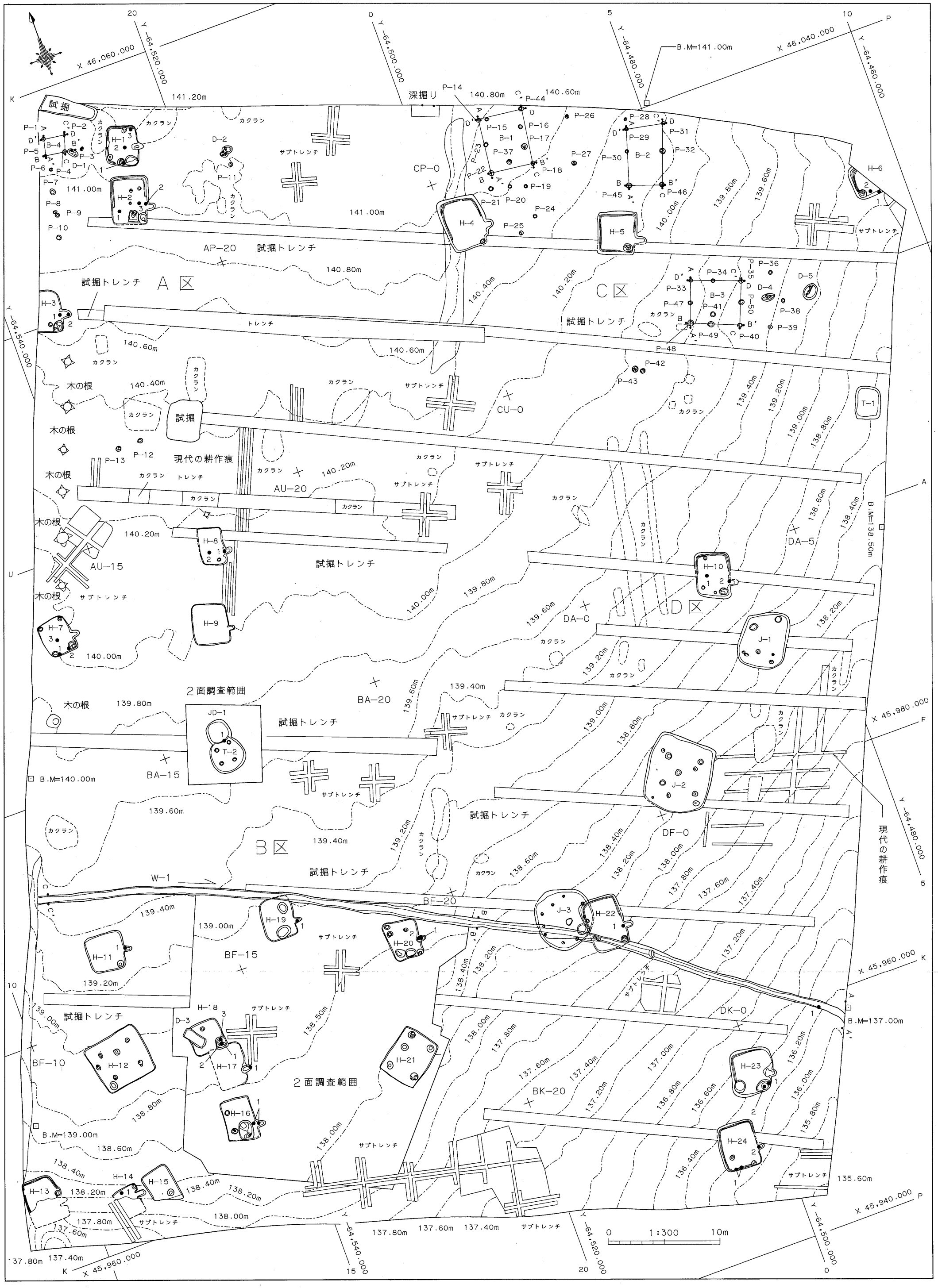
出土位置-No.	器形	法量	①胎土②焼成③色④残存	成・整形方法		備考	実測図	図版
				口縁・胴部(体部)	底部			
H-10-2 カマド内	土師器 坏	①12.0②9.0 ④3.1	①中粒②良好 ③5YR4/8赤褐 ④1/3(口～底部)	体部は底から丸味をつけて立ち上がり外傾しながら口縁に至る。外面口縁から体部指頭調整撫で。内面指頭調整撫で。	平底 篦削り撫で		22	9
H-11-1 カマド内	須恵器 椀	①14.4 ③7.0④4.9	①中粒②良好(還元) ③7.5YR7/1灰白 ④3/4	底部から体部にかけてやや丸味をもって立ち上がり口縁に至る。口縁やや外反気味。内外面ロクロ成整形。	右回転糸切り後付高台		22	9
H-12-1 貯蔵穴内	土師器 高坏脚部	②13.8 ④(9.6)	①中粒②良好(酸化) ③朱塗10YR6/6赤橙 ④4/5脚～裾	脚直線的、裾部は内湾し椀を伏せた形状を呈す。脚部篦削り撫で。裾部は篦削り横撫で。篦磨き。脚部内面の篦押し痕は荒々しい。		外面朱塗付	23	10
H-12-2	土師器 甕	①15.3②6.6 ④22.7	①中粒②良好(酸化) ③10YR6/6明黄褐 ④9/10	口縁「く」の字で外に開く。胴部は肩から丸味をもつ。下半部から底部に向かい尻すぼみ状。底部平底で小さい。外面口縁部横撫で、胴部篦削り撫で。頸部指頭圧痕あり。内面篦削り撫で。	篦切		23	10
H-12-3	土師器 高坏脚部	②13.9 ④(8.2)	①中粒②良好(酸化) ③朱塗10R6/6赤橙 ④脚～裾	脚部は膨らみをもちずんぐり型。裾部先端はやや反りかえる形状。外面脚部篦削り撫で調整。裾部篦削り横撫で。		外面朱塗付	23	10
H-12-4	土師器 甕	①16.1②6.2 ④19.1	①中粒②良好(酸化) ③5YR7/6橙 ④ほぼ完形	口縁「く」の字状に外に開く。胴部は肩から丸味をもつ。下半部から底部に向かい尻すぼみ状。底部平底で小さい。外面口縁部横撫で。胴部篦削り撫で。内面篦削り撫で。	篦切、内部まで達しない程度に中心に丸い穴あり		23	10
H-14-1	土師器 小型甕	①13.5②(4.4) ④15.5	①中粒②良好(酸化) ③5YR7/4にぶい橙④1/2	口縁「く」の字状。体部縦形卵状を呈す。胴部に二次焼痕あり。外面口縁部横撫で。胴部篦削り撫で調整。内面篦削り撫で調整。	小さく上底	外面煤付着	23	10
H-15-1	土師器 高坏脚部	②15.5 ④(10.4)	①中粒②良好(酸化) ③7.5YR7/6橙 ④脚部	脚部膨らみあり。脚内面(空洞)篦削り痕荒々しくあり。裾部篦撫で調整痕あり。内外面篦削り。			23	10
H-15-2	土師器 甕	①16.8 ④(17.5)	①中粒②良好(酸化) ③10YR8/4浅黄橙 ④1/3	口縁「く」の字状、肩部にはりあり。丸形でやや小型。胴下部から底部欠損。胴部にハケ目撫で痕あり。外面口縁部横撫で。胴部篦削り撫で。ハケ目痕あり。	欠損		23	10
H-15-3	土師器 甕	①19.0 ④(21.6)	①中粒②良好(酸化) ③2.5YR5/6明赤褐 ④1/3	口縁「く」の字状、肩部にはりあり。丸形甕。胴下部から底部欠損。外面口縁部横撫で。胴部篦削り調整。内面篦削り調整。	欠損		23	10
H-16-1 カマド内	土師器 甕	①(20.8) ④(21.6)	①中粒②良好 ③7.5YR6/8橙 ④口～胴1/5	口縁「く」の字状に外に開く。肩のはりはあまりない。内外面篦削り横撫で。			23	10
H-17-1 カマド内	土師器 坩	①(13.0) ④(5.4)	①中粒②良好 ③5YR6/6橙 ④口縁1/3	頸部中央でわずかに湾曲しロート形を呈す。外面篦削り横撫で。指頭圧痕あり。内面横撫で篦削り。			23	10
H-18-1	土師器 甕	①15.0②6.8 ④21.5	①細粒②良好(酸化) ③内面10YR8/3浅黄橙 ④完形	口縁「く」の字状、胴部は丸味をもち胴下部で尻すぼみ状を呈す。口縁部横撫で胴部篦削り後撫で。内面篦削り痕撫で。	小さい平底		23	10
H-18-2	土師器 坏	①13.0②2.8 ④7.1	①細粒②良好(酸化) ③内面10YR8/6黄橙 ④完形	外面中凹み、体部は底から丸味をもって立ち上がり頸部でやや内湾状となり口縁は外傾する。外面口縁部横撫で。体部篦削り後撫で。内面篦削り及び指頭調整撫で。(丁寧な撫で)	小さい平底		23	10
H-18-3	土師器 坏	①14.9②4.6 ④5.6	①中粒②良好(酸化) ③内面部分2.5YR5/6明赤褐を呈す。外面2.5YR7/4淡赤橙 ④完形	体部は底から直線的に立ち上がり高さ2/3程で丸味をつけ口縁は直立する。形状は漏斗状を呈す。外面篦削り撫で。内面指頭調整後篦磨き。	小さい平底 篦削り		23	10

出土位置-No.	器形	法量	①胎土②焼成③色④残存	成・整形方法		備考	実測図	図版
				口縁・胴部(体部)	底部			
H-19-1 カマド内	土師器 甕	①(19.9) ④(4.3)	①中粒②良好 ③5YR6/6④口～頸部破片	口縁緩やかな「コ」の字状。外面横撫で。篦削り。指頭圧痕あり。内面指頭圧痕撫で。			23	10
H-20-1 カマド内	土師器 小型甕	①(13.7) ④(10.0)	①細粒②良好(酸化) ③5YR6/4にぶい橙 ④1/3弱	口縁「コ」の字状、肩部から胴部膨らみをもち底部は尻すぼみ状に向かう。			23	10
H-20-2 カマド内	土師器 小型甕	①(17.0) ④(11.5)	①中粒②良好(酸化) ③7.5YR7/4にぶい橙 ④1/3弱	口縁「コ」の字状、肩部から膨らみをもち底部に向かう。			23	10
H-21-1	土師器 高坏 (坏部)	①16.8②(3.5) ④(6.0)	①中粒②良好 ③10YR7/4にぶい黄橙 ④坏部ほぼ完形	体部中央でわずかに屈折し緩い「く」の字状の漏斗形を呈す。内外面篦削り後全体的に横撫で調整。			23	10
H-21-2	土師器 甕	①(17.0) ④(10.7)	①中粒②良好(酸化) ③7.5YR7/4にぶい橙 ④口縁の3/4	口縁「く」の字状、肩部にはりあり。外面口縁横撫で。篦削り。			23	10
H-21-3 P-3内	土師器 坩？	①(6.5)②5.0 ④(9.7)	①中粒②良好(酸化) ③5YR7/4にぶい橙 ④9/10(口縁部欠損)	胴部は偏球形状を呈す。外面篦削り後丁寧な撫で調整。内面指頭調整。	小さい円形凹状		23	11
H-22-1 カマド内	土師器 甕	①(21.0) ④(8.2)	①中粒②良好(酸化) ③5YR6/8橙 ④(口～胴部)破片(口縁2/5)	口縁「く」の字状、肩のはりはあまりない。外面口縁、頸部横撫で。胴部篦削り。内面篦削り撫で。指頭圧痕あり。			23	11
H-23-1 貯蔵穴内	須恵器 坏	①(13.0)②(7.0) ④4.0	①中粒②良好(還元) ③10YR7/1灰白 ④(口～底部)1/4	底部から丸味をもって立ち上がり胴部中心で外へわずかに湾曲し口縁は外反する。外面ロクロ成整形。内面ロクロ成整形。	回転糸切り		24	11
H-23-2 貯蔵穴内	土師器 甕	①(22.0) ④(12.8)	①中粒②良好(酸化) ③内面7.5YR7/3にぶい橙 ④口～胴部片	口縁「コ」の字状。外面口縁部篦横撫で。胴部内外面櫛状の篦工具による削り撫で調整。			24	11
H-24-1	須恵器 埦	①15.8③7.5 ④5.5	①細粒②良好(還元) ③5YR8/2灰白④2/3	底部から体部の立ち上がりは丸味をもち、やや直線的に外傾して口縁に至る。内外面ロクロ成整形。	回転糸切り後付高台		24	11
H-24-2 カマド内	土師器 甕	①(20.0) ④(9.4)	①細粒②良好(酸化) ③5YR7/4にぶい橙 ④口縁部の1/2 (胴部わずかに付)	口縁「コ」の字状、頸部中央に膨らみをもつ。肩のはり小さい。外面口縁部横撫で。篦削り撫で調整。内面撫で丁寧。			24	11
W-1-1	須恵器 坏	①(13.6)②(6.5) ④3.6	①細粒(鉱物 白色大粒あり) ②良好(還元)③2.5Y7/2灰黄 ④1/2	平底、体部は底から丸味をもって立ち上がり外傾して口縁に至る。内外面ロクロ成整形。	回転糸切り上げ底		24	11
BK-14グ	土師器 坏	①12.8 ④3.8	①細粒②良好(酸化) ④3/4強	口縁直立、体部に稜をもち丸底。外面口縁横撫で。篦削り篦撫で。内面篦削り指頭調整。			24	11

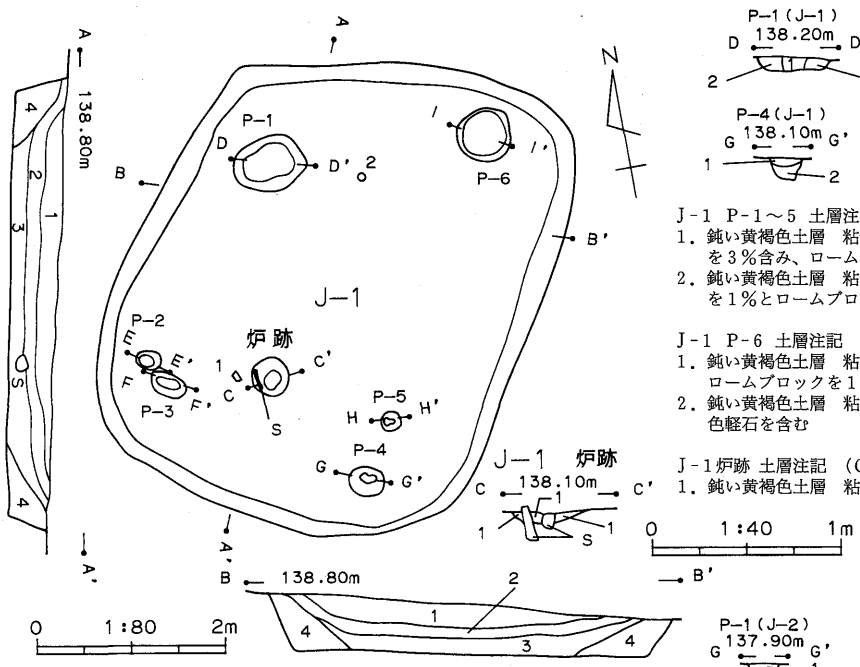
第25表　縄文土器観察表

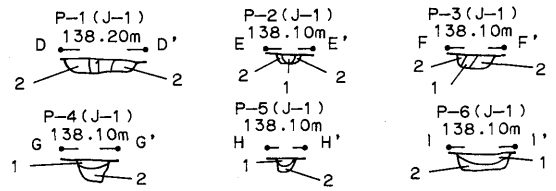
出土位置-No.	器種	①胎土②焼成③色調④残存 ⑤器高×口径×底径(cm)	器形の特徴・文様要素・文様構成	実測図	図版
J-1-1	鉢	①中粒②良好③10YR7/4にぶい黄橙 ④胴部破片⑤器高(6.2)厚(0.6～0.8)	無紋部分と細く浅い平行沈線を横位施文。諸磯C。	24	11
J-2-1	深鉢	①中粒②良好 ③2.5YR6/3にぶい赤褐 ④4/5⑤(18.1)×(22.1)×(14.6)	深鉢胴部、胴部全体に細く浅い平行沈線を横位施文。口縁・底部欠損。諸磯C。	24	11
J-2-2	深鉢	①中粒②良好③にぶい赤褐色2.5Y6/3 ④口縁1/5⑤(5.3)×(22.0)×—	口縁から頸は「S」字状に成形され、口縁は矢羽状の文様。頸部から胴は平行沈線を横位に施文し、口縁は粘土瘤による突起などの装飾を施している。諸磯C。J-3号の土器と接合する。	24	11
J-3-1	浅鉢型	①中粒②良好③10YR7/3にぶい黄橙 ④口縁一部⑤器高(5.8)	諸磯b。渦巻文、浮線文あり。 最大径(44)	24	11
J・D-1-1	深鉢	①中粒②良好③7.5YR7/6 ④胴～底⑤(7.3)×(9.7)×9.5	平行沈線文。諸磯C。	24	11

注）出土土器観察表の記載は以下の基準で行った。
①胎土は、細粒(0.9㎜以下)、中粒(1.0～1.9㎜)、粗粒(2.0㎜以上)とした。
②焼成は、極良、良好、不良の3段階。
③法量の単位はcm、g、( ) は現存値を記載した。
観察表の出土位置-No.は各遺構ごとの番号を表す。



第16図　五代中原Ⅰ遺跡平面図



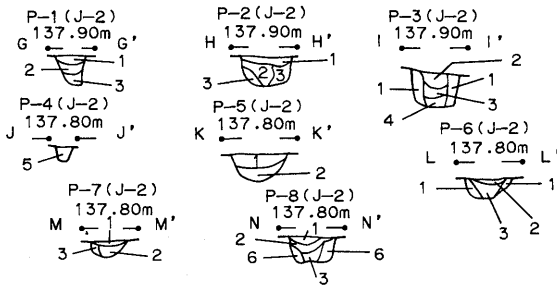


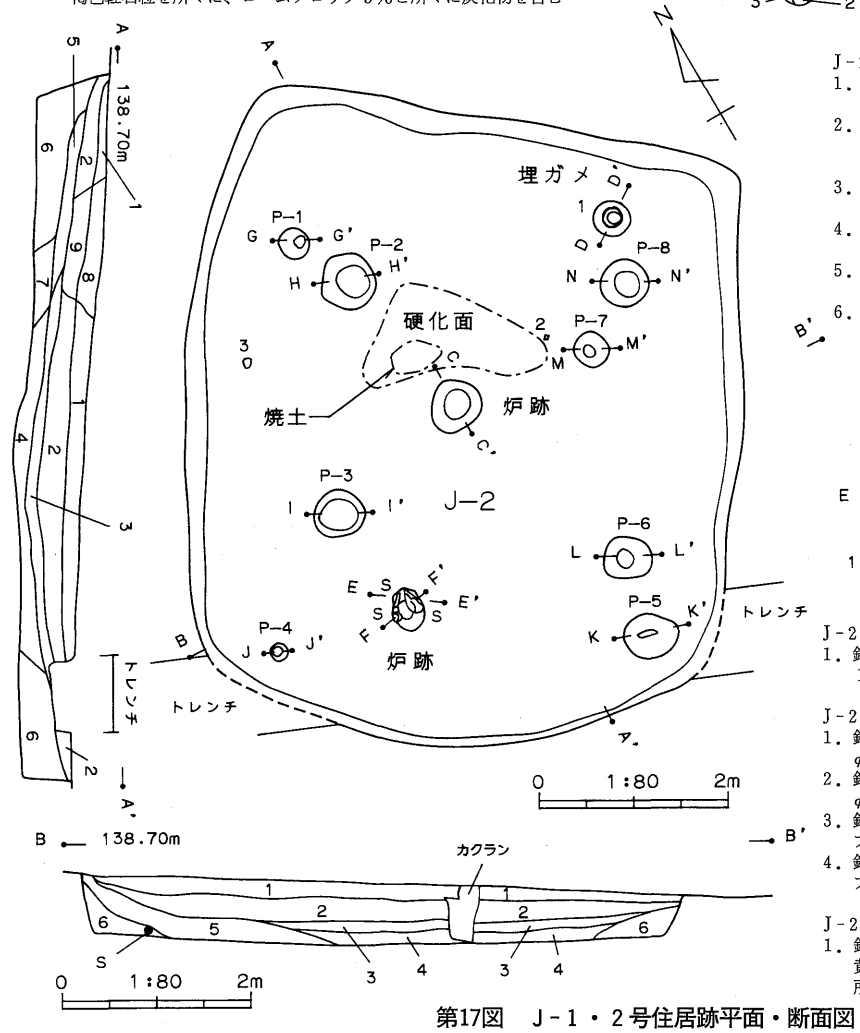
J−1 P−1～5 土層注記 (D-D′～H-H′断面)
1. 鈍い黄褐色土層 粘性ややあり、締まりあり、黄色軽石 φ 1～2㎜を3％含み、ロームブロックを3％と黒褐色土ブロック1％含む
2. 鈍い黄褐色土層 粘性ややあり、締まりあり、黄色軽石 φ 1～2㎜を1％とロームブロック5％含む

J−1 P−6 土層注記 (I-I′断面)
1. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりあり、黄色軽石 φ 1～3㎜を3％含み、ロームブロックを1％とわずかに炭化物粒を含む
2. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりあり、黄色軽石 φ 1～2㎜を1％と褐色軽石を含む

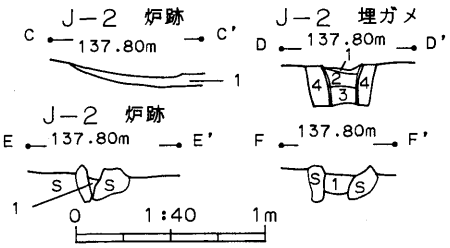
J−1炉跡 土層注記 (C-C′断面)
1. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりややあり、炭化物を1％含む

J−1 土層注記 (A-A′、B-B′断面)
1. 黒褐色土層 粘性、締まりなく、白色軽石粒3％とロームブロックを1％含み、細砂を含む
2. 灰黄褐色土層 粘性ややあり、締まりあり、白色軽石粒1％と黄色軽石1％、ロームブロック10％含む
3. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりややあり、黄色軽石 φ 1～2㎜を1％と褐色軽石粒1％とロームブロック10％、わずかに炭化物を含む
4. 黄褐色土層 粘性、締まりややあり、黄色軽石 φ 1～2㎜を1％と褐色軽石粒を所々に、ロームブロック3％と所々に炭化物を含む





J−2 P−1～8 土層注記 (G-G′～N-N′断面)
1. 鈍い黄褐色土層 粘性なく、締まりあり、黄色軽石 φ 1～2㎜を1％とロームブロックを3％含む
2. 鈍い黄褐色土層 粘性なく、締まりあり、黄色軽石 φ 1～2㎜を1％と褐色軽石、ロームブロック1％を含む
3. 鈍い黄褐色土層 粘性なく、締まりあり、黄色軽石 φ 1～2㎜を所々に含み、褐色軽石を1％含む
4. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりあり、わずかに黄色軽石粒と、ロームブロックを含む
5. 黒褐色土層 粘性、締まりあり、黄色軽石粒を1％とロームブロック3％含む
6. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりあり、ロームブロックを3％含む



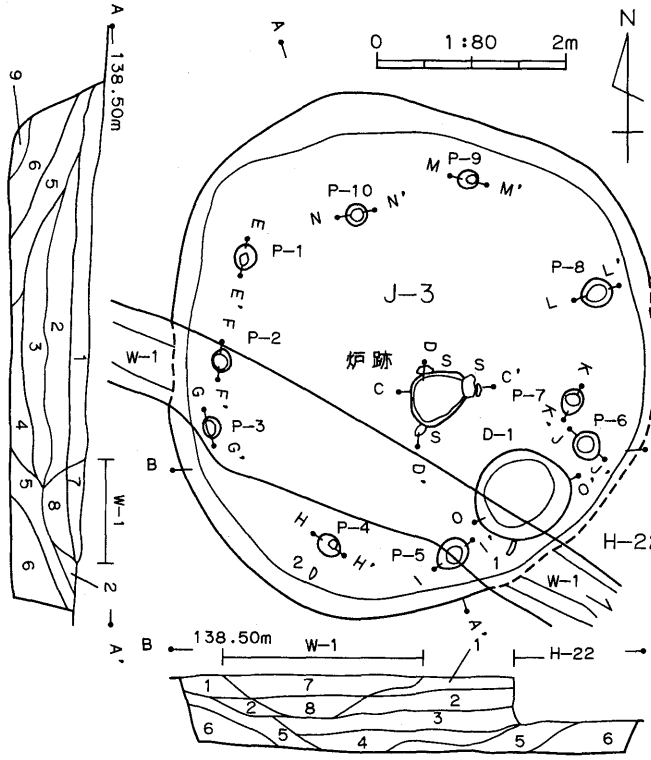
J−2炉跡 土層注記 (C-C′断面)
1. 鈍い赤褐色土層 粘性、締まりややあり、炭化物を1％とロームブロックを1％、わずかに焼土粒を含む

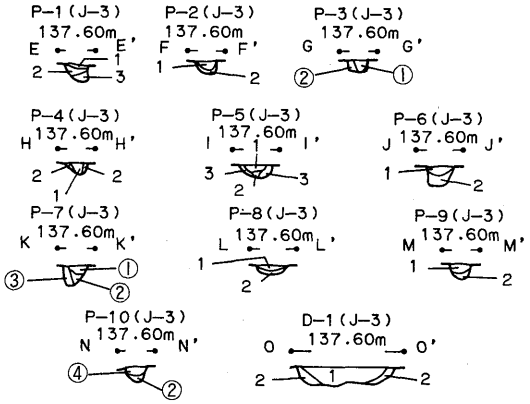
J−2埋甕 土層注記 (D-D′断面)
1. 鈍い黄褐色土層 粘性なく、締まりあり、黄色軽石 φ 1～2㎜を1％とロームブロック3％含む
2. 鈍い黄褐色土層 粘性なく、締まりあり、黄色軽石 φ 1～2㎜を1％とロームブロック1％含む
3. 鈍い黄褐色土層 粘性なく、締まりあり、ロームブロックを1％含む
4. 鈍い黄褐色土層 粘性なく、締まりあり、ロームブロックを1％と褐色軽石を1％含む

J−2炉跡 土層注記 (E-E′、F-F′断面)
1. 鈍い黄褐色土層 粘性ややあり、締まりあり、黄色軽石 φ 1～2㎜を1％とロームブロックを所々に含み、わずかに炭化物を含む

第17図 J−1・2号住居跡平面・断面図

J-2 土層注記 (A-A′、B-B′断面)
1. 灰黄褐色土層 粘性なく、締まりあり、白色軽石 φ 1～2㎜を3%、細砂を含む
2. 黒褐色土層 粘性なく、締まりあり、白色軽石 φ 1～3㎜を3%とローム粒1%、細砂を含む
3. 黒褐色土層 粘性なく、締まりあり、白色軽石 φ 1～2㎜を5%、ロームブロック3%含み、細砂を含む
4. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりあり、白色軽石 φ 1～2㎜を1%と褐色軽石を所々に含み、ロームブロックを10%含む
5. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりあり、白色軽石、黄色軽石粒を3%、ロームブロック5%を含む
6. 黄褐色土層 粘性なく、締まりあり、白色軽石 φ 1～3㎜を3%とハードロームブロック粒10%、褐色軽石粒を所々に含む
7. 黄褐色ソフトローム 黄色軽石を1%含む
8. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりなく、白色、黄色軽石粒を1%、細砂を含む
9. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりなく、白色、黄色軽石を3%、細砂を含む

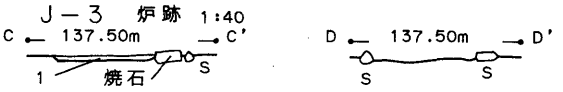




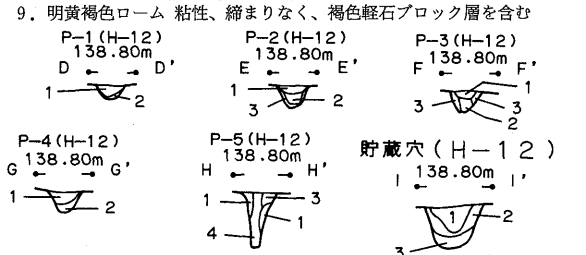
J-3 P-1・2・4～6・8・9 土層注記 (E-E′、F-F′、H-H′～J～J′、L-L′、M-M′断面)
1. 鈍い黄褐色土層 粘性ややあり、締まりあり、ロームブロック1%と黄色軽石粒を含む
2. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりあり、ロームブロック1%とわずかに黄色軽石粒を含む
3. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりあり、わずかに軽石粒を含む

J-3 P-3・7・10 土層注記 (G-G′、K-K′、N-N′断面)
①. 灰黄褐色土層 粘性なく、締まりややあり、わずかに黄色軽石粒、ロームブロックを3%含む
②. 灰黄褐色土層 粘性、締まりあり、ロームブロックを1%含む
③. 灰黄褐色土層 粘性、締まりあり、わずかに黄色軽石粒を含み、ロームブロックを所々に含む
④. 灰黄褐色土層 粘性なく、締まりあり、黄色軽石ブロックを3%含む

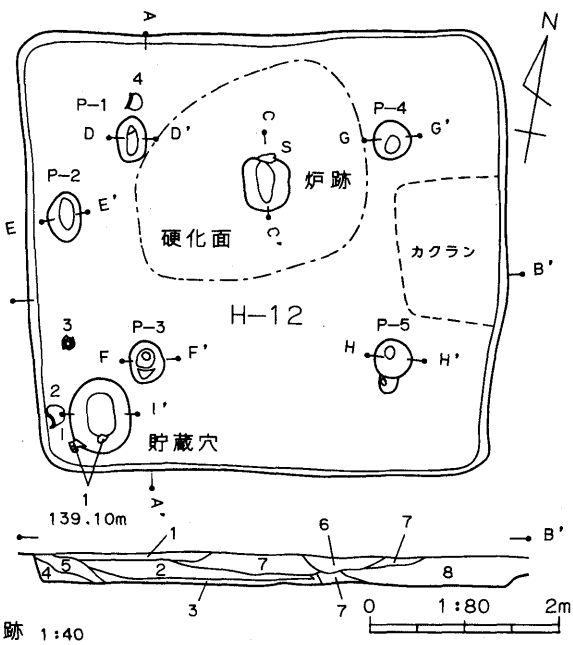
J-3 D-1 土層注記 (O-O′断面)
1. 灰黄褐色土層 粘性なく、締まりあり、黄色軽石 φ 1～2㎜を1%と汚れたロームブロック5%含む
2. 灰黄褐色土層 粘性なく、締まりあり、ロームブロック3%含む

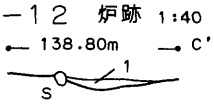


J-3 土層注記 (A-A′、B-B′断面)
1. 褐灰色土層 粘性、締まりなく、白色軽石 φ 1～3㎜を5%と細砂を含む
2. 黒褐色土層 粘性、締まりなく、白色軽石 φ 1～3㎜を3%と1層のブロック、細砂を含む
3. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりあり、白色軽石 φ 1～3㎜を1%と炭化物粒1%以下とロームブロックを含む
4. 黄褐色土ソフトローム 粘性、締まりややあり、わずかに炭化物粒と3層ブロックを含む
5. 鈍い黄褐色土層 粘性なく、締まりあり、灰色軽石 φ 1～2㎜を1%と黄色軽石粒を3%含み、ロームブロック5%含む
6. 黄褐色ローム土層 粘性ややあり、締まりあり、黄色軽石粒3%と褐色軽石1%含み、わずかに炭化物粒を含む
7. 黒褐色土層 粘性、締まりなく、白色軽石 φ 1～3㎜を3%と褐灰色土ブロックとロームブロックを1%含み、細砂を多く含む(W-1)
8. 黒褐色土層 粘性、締まりなく、白色軽石 φ 2～5㎜を1%とロームブロック1%、細砂を多く含む(W-1)
9. 明黄褐色ローム 粘性、締まりなく、褐色軽石ブロック層を含む



H-12 土層注記 (A-A′、B-B′断面)
1. 褐灰色土層 粘性なく、締まりややあり、白色軽石 φ 2～5㎜を5%とロームブロック、細砂を含む
2. 黒褐色土層 粘性なく、締まりややあり、白色軽石 φ 2～5㎜を10%とロームブロック、細砂を含む
3. 鈍い黄褐色土層 粘性なく、締まりややあり、白色軽石 φ 2～5㎜を3%とロームブロック1%以上含む
4. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりなく、ロームブロックを1%含む
5. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりなく、ロームブロックを1%と白色軽石 φ 2～3㎜を1%含む
6. 褐灰色土層 ロームブロック、細砂、軽石粒を含む(カクラン)
7. 褐灰色土層 ロームブロックと1、2層を含む(カクラン)
8. 灰黄褐色土層 粘性、締まりなく、白色軽石 φ 1～2㎜と細砂、ローム粒を含む(カクラン)





J-3炉跡 土層注記 (C-C′断面)
1. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりややあり、炭化物を1%含む

H-12炉跡 土層注記 (C-C′断面)
1. 焼土層 灰褐色土ブロック1%とロームブロック1%含む

第18図 J-3号、H-12号住居跡、W-1号平面・断面図

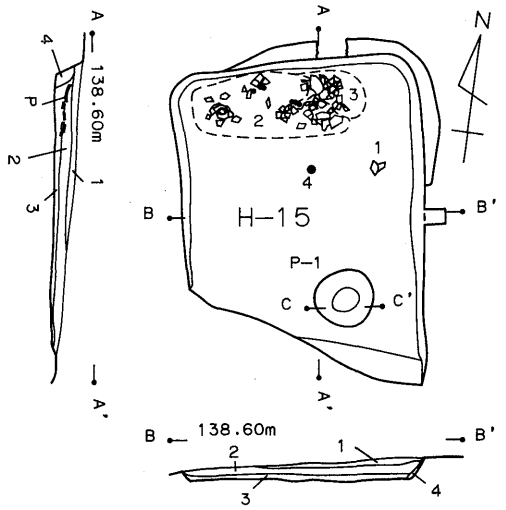
H-12 P-1 土層注記 (D-D′断面)
1. 灰黄褐色土層 粘性、締まりなく、黒褐色土ブロック、ロームブロックを3%含む
2. 黄褐色ソフトローム 黒褐色土を1%含む

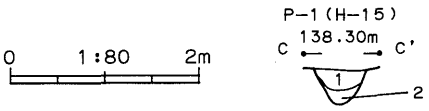
H-12 P-2 土層注記 (E-E′断面)
1. 灰黄褐色土層 粘性、締まりなく、白色軽石 φ 1～2㎜を1%とローム粒、黒褐色土ブロックを含む
2. 灰黄褐色土層 粘性、締まりなく、黒褐色土ブロック3%、ロームブロック1%含む
3. 黄褐色ソフトローム 黒褐色土ブロックを1%含む

H-12 P-3 土層注記 (F-F′断面)
1. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりなく、ローム粒と黒褐色土ブロックを1%含む
2. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりなく、ローム粒を1%含む
3. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりなく、ロームブロックを3%とわずかに黒褐色土ブロックを含む

H-12 P-4・5 土層注記 (G-G′、H-H′断面)
1. 黄褐色土層 粘性、締まりなく、黄色軽石粒1%とロームブロックを1%含む
2. 黄褐色土層 粘性、締まりなく、ローム粒を1%含む
3. 黄褐色土層 粘性、締まりなく、黄色軽石 φ 1～2㎜を2%とロームブロックを1%含む
4. 黄褐色土層 粘性、締まりなく、黄色軽石 φ 1～2㎜を1%とロームブロックを3%含む

H-12 貯蔵穴 土層注記 (I-I′断面)
1. 灰黄褐色土層 粘性なく、締まりあり、白色軽石 φ 1～2㎜を1%とローム粒3%含む
2. 灰黄褐色土層 粘性、締まりなく、白色軽石 φ 1～2㎜を1%、ロームブロック1%含む
3. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりなく、ロームブロックを1%と灰黄褐色土を含む





H-15 P-1 土層注記 (C-C′断面)
1. 黒褐色土層 粘性、締まりなく、白色軽石 φ 2～3㎜を3%含み、ローム粒を含む
2. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりなく、ロームブロックを10%含む

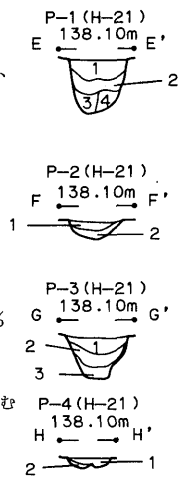
H-15 土層注記 (A-A′、B-B′断面)
1. 灰黄褐色土層 粘性なく、締まりややあり、白色軽石 φ 1～3㎜を10%とロームブロック1%含み、細砂を含む
2. 灰黄褐色土層 粘性なく、締まりややあり、白色軽石 φ 1～5㎜を5%とロームブロック3%含み、細砂を含む
3. 灰黄褐色土層 粘性なく、締まりややあり、ロームブロック5%含み、白色軽石 φ 1～3㎜を1%含む
4. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりなく、ロームブロック1%含む

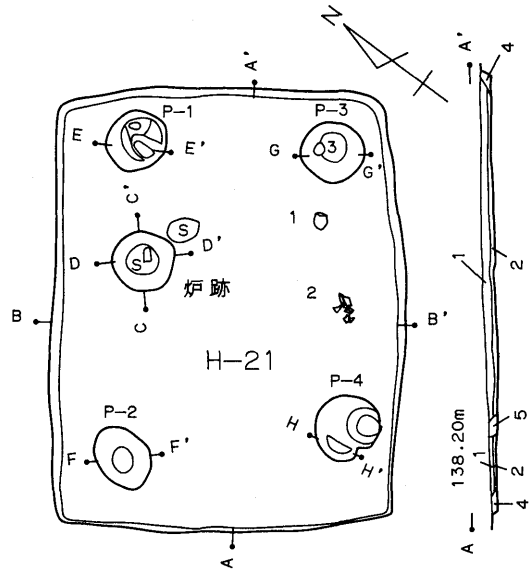
H-21 P-1 土層注記 (E-E′断面)
1. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりなく、黄色軽石 φ 2～5㎜を3%と細砂、ローム粒を含む
2. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりなく、ロームブロックを3%含み、細砂を含む
3. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりなく、わずかにロームブロック、細砂を含む
4. 黒褐色粘質土層 白色軽石を含む

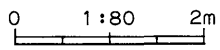
H-21 P-2 土層注記 (F-F′断面)
1. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりなく、ロームブロック3%と微砂を含む
2. 1層とロームの混土層

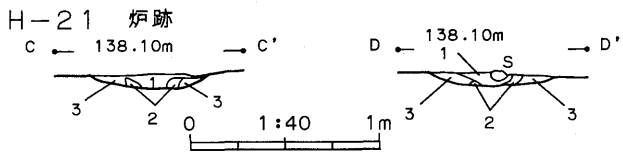
H-21 P-3 土層注記 (G-G′断面)
1. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりなく、黄色軽石 φ 2～5㎜を3%とロームブロック1%、焼土、炭化物1%含む
2. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりなく、ロームブロック3%と黄色軽石 φ 2～5㎜、炭化物1%含む
3. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりややあり、ロームブロック3%含む

H-21 P-4 土層注記 (H-H′断面)
1. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりなく、ロームブロック5%を含む
2. 黄褐色ローム土層 わずかに黄褐色土ブロックを含む (カクラン含む)





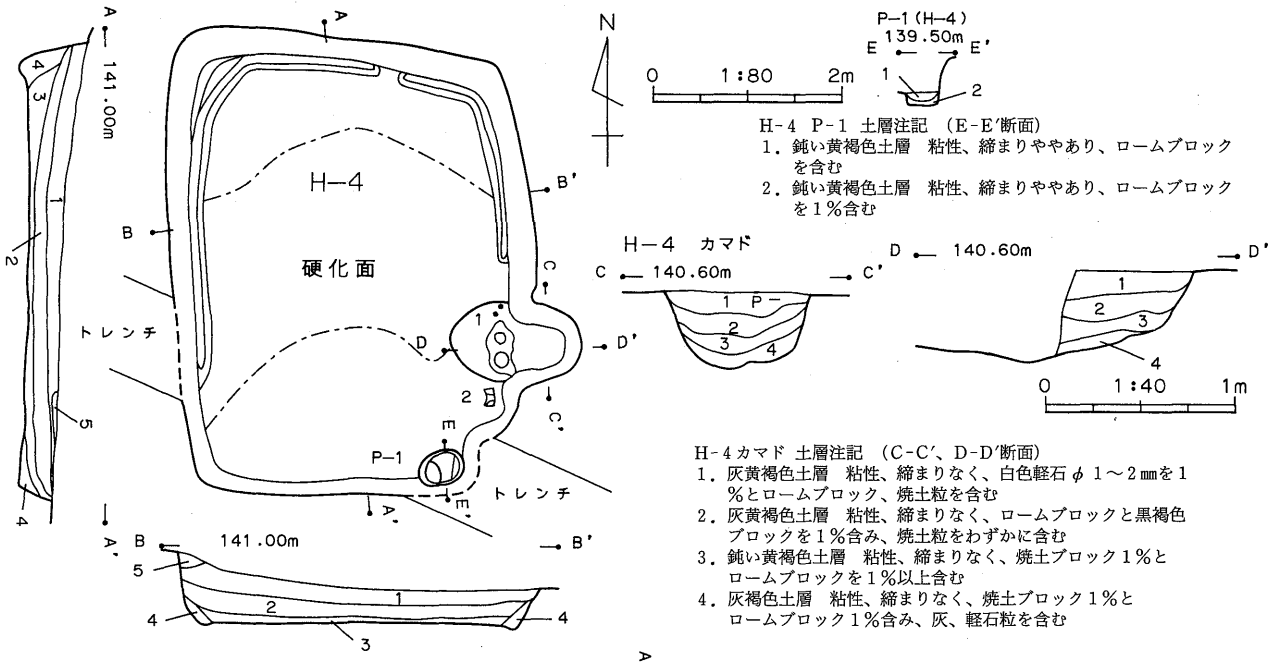




H-21炉跡 土層注記 (C-C′、D-D′断面)
1. 灰黄褐色土層 粘性なく、締まりややあり、焼土粒、炭化物粒を3%とローム粒、軽石粒を1%含む
2. 橙色 焼土ブロック
3. 鈍い黄褐色土層 粘性なく、締まりややあり、焼土ブロックとロームブロック1%含み、軽石粒と炭化物を所々に含む

H-21 土層注記 (A-A′、B-B′断面)
1. 黒褐色土層 粘性、締まりなく、白色軽石 φ 2～3㎜を3%とロームブロック1%含む
2. 鈍い黄褐色土層 粘性なく、締まりあり、白色軽石 φ 1～2㎜を1%とロームブロックを5%含み、所々に炭化物粒を含む
3. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりなく、白色軽石粒 φ 1～2㎜とロームブロックを1%、炭化物粒を1%含む
4. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりなく、ロームブロック3%含む
5. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりなく、焼土ブロック、炭化物粒を1%含む
6. 鈍い黄褐色土層 ロームブロック、炭化物を含む
7. 鈍い黄褐色土と明黄褐色ハードロームの混土層 所々に炭化物を含む (貼り床、硬く締まっている)

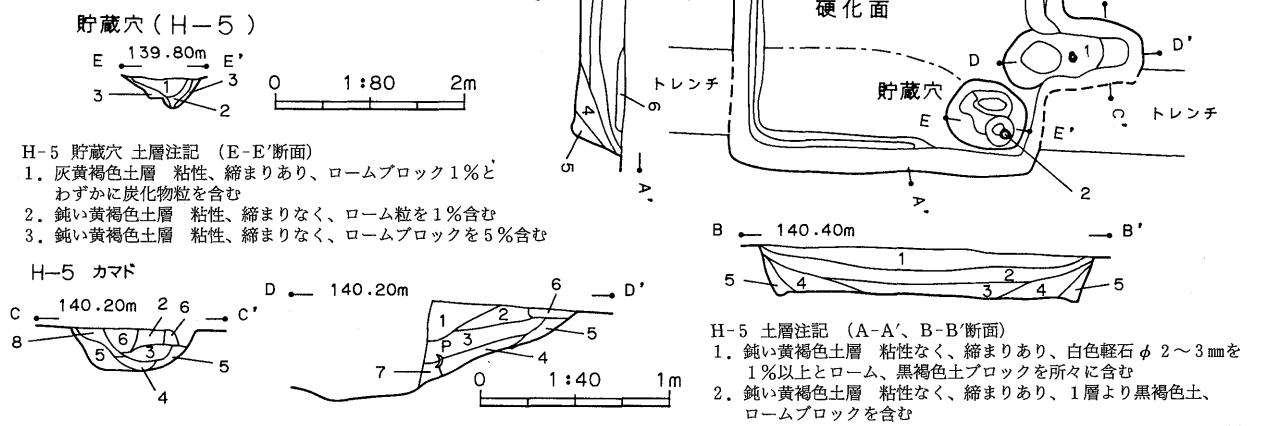
第19図 H-15・21号住居跡平面・断面図



H−4 P−1 土層注記 (E-E′断面)
1. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりややあり、ロームブロックを含む
2. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりややあり、ロームブロックを1%含む

H−4カマド 土層注記 (C-C′、D-D′断面)
1. 灰黄褐色土層 粘性、締まりなく、白色軽石 φ 1〜2㎜を1%とロームブロック、焼土粒を含む
2. 灰黄褐色土層 粘性、締まりなく、ロームブロックと黒褐色ブロックを1%含み、焼土粒をわずかに含む
3. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりなく、焼土ブロック1%とロームブロックを1%以上含む
4. 灰褐色土層 粘性、締まりなく、焼土ブロック1%とロームブロック1%含み、灰、軽石粒を含む

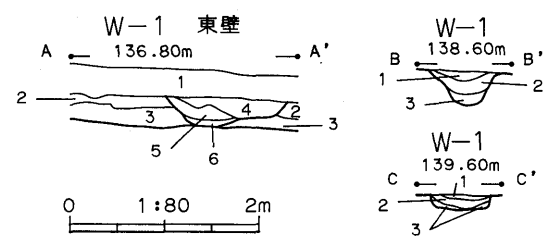
H-4 土層注記 (A-A′、B-B′断面)
1. 鈍い黄褐色土層 粘性なく、締まりややあり、白色軽石 φ 1〜3㎜を3%と灰黄褐色土ブロックとロームブロックを含む
2. 鈍い黄褐色土層 粘性なく、締まりややあり、白色軽石 φ 1〜3㎜を1%と灰黄褐色土ブロックとロームブロックを1層より多く含む
3. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりあり、白色軽石粒を1%以下と灰黄褐色ブロック、ロームブロックを所々に含む
4. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりなく、軽石、ローム粒を1%含む
5. 黄褐色ロームと鈍い黄褐色土の混土層 (カクラン層)



H-5 貯蔵穴 土層注記 (E-E′断面)
1. 灰黄褐色土層 粘性、締まりあり、ロームブロック1%とわずかに炭化物粒を含む
2. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりなく、ローム粒を1%含む
3. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりなく、ロームブロックを5%含む

H-5カマド 土層注記 (C-C′、D-D′断面)
1. 灰黄褐色土層 粘性、締まりややあり、白色軽石 φ 1〜2㎜を1%含み、黒褐色土ブロックを1%以下含む
2. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりややあり、白色軽石 φ 1〜2㎜を1%以下と焼土粒を含む
3. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりややあり、焼土粒1%と炭化物を所々に含む
4. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりなく、焼土ブロック1%と灰、ロームブロックを1%以下含む
5. 明黄褐色ソフトローム 軽石粒を1%以下含む
6. 褐灰色土層 粘性、締まりなく、細砂を多く含む
7. 焼土ブロックと灰、鈍い黄褐色土の混土層
8. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりややあり、ロームブロックを1%以下含む

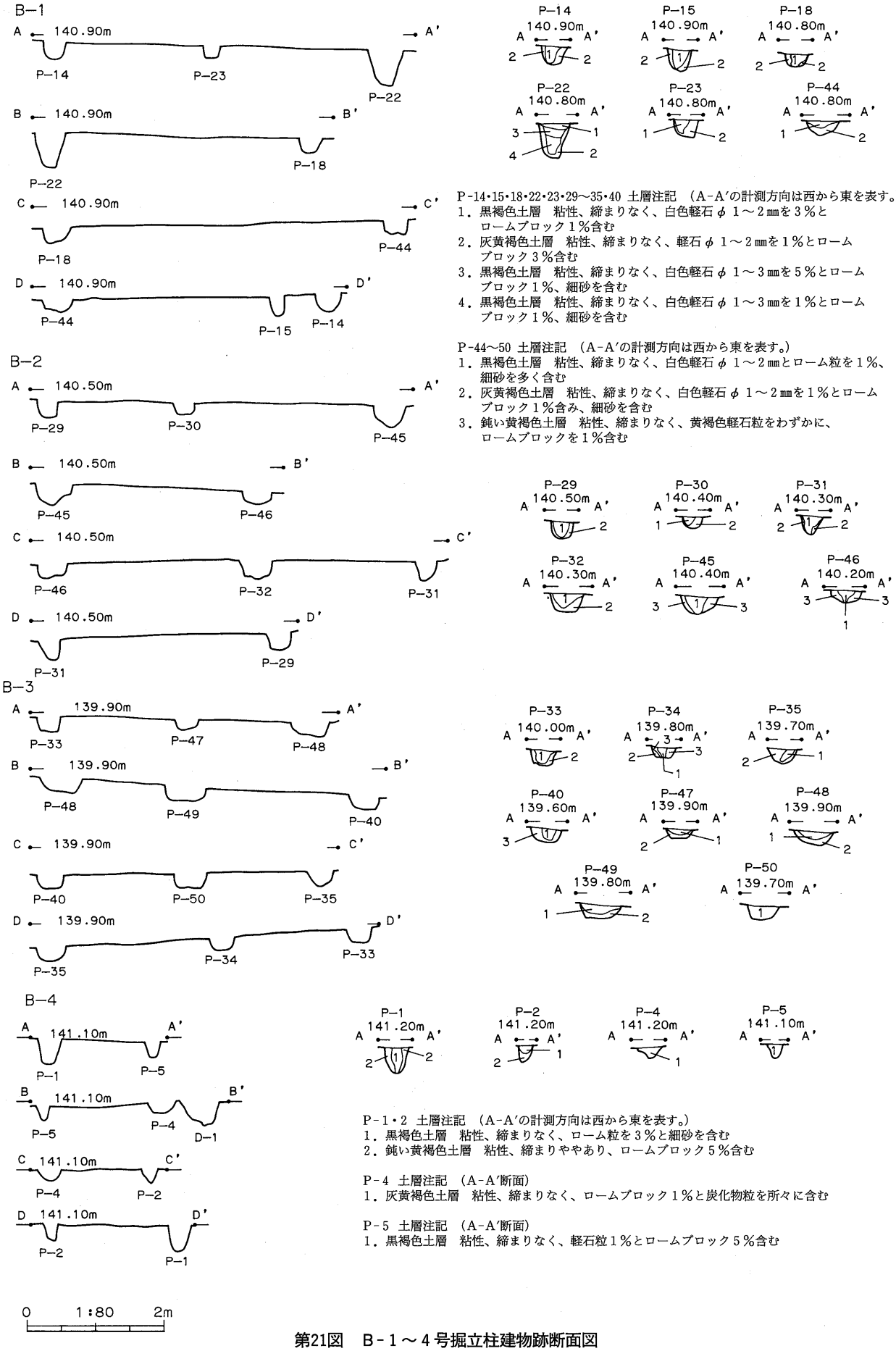
H-5 土層注記 (A-A′、B-B′断面)
1. 鈍い黄褐色土層 粘性なく、締まりあり、白色軽石 φ 2〜3㎜を1%以上とローム、黒褐色土ブロックを所々に含む
2. 鈍い黄褐色土層 粘性なく、締まりあり、1層より黒褐色土、ロームブロックを含む
3. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりあり、白色軽石 φ 2〜3㎜を1%と黒褐色土ブロック、ロームブロックを所々に含む
4. 灰黄褐色土層 粘性、締まりややあり、白色軽石 φ 1〜2㎜を1%以下とロームブロック、鈍い黄褐色土ブロックを所々に含む
5. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりなく、ローム粒と白色軽石粒を1%以下含む
6. 鈍い黄褐色土層 (カクラン層)



W-1 東壁 土層注記 (A-A′断面)
1. 灰黄褐色土層 粘性なく、締まりややあり、白色軽石 φ 2〜3㎜を1%と細砂を含む(耕作土)
2. 黒褐色土層 粘性なく、締まりややあり、白色軽石 φ 1〜3㎜を5%と細砂ブロックを含む
3. 鈍い黄褐色土層 粘性、締まりあり、ロームブロック5%含む
4. 灰黄褐色土層 粘性、締まりなく、黄色軽石 φ 1〜2㎜を1%と細砂を多く含む
5. 灰黄褐色土層 2層のブロックと黄色軽石 φ 2〜3㎜を3%含み、細砂を含む
6. 灰黄褐色土層 粘性、締まりなく、2層のブロックと細砂を1%以上含み、軽石粒を1%含む
※(4、5、6層 W-1)

W-1 土層注記 (B-B′、C-C′断面)
1. 灰黄褐色土層 粘性、締まりなく、白色軽石1%とロームブロック、細砂を含む
2. 灰黄褐色土層 粘性、締まりなく、白色軽石 φ 1〜5㎜を5%とロームブロック、細砂ブロックを含む
3. 灰黄褐色土層 ロームブロックを3%と細砂を多く含む

第20図 H-4・5号住居跡、W-1号平面・断面図



P-14・15・18・22・23・29～35・40 土層注記 （A-A′の計測方向は西から東を表す。）
1．黒褐色土層　粘性、締まりなく、白色軽石 φ 1～2㎜を3％とロームブロック1％含む
2．灰黄褐色土層　粘性、締まりなく、軽石 φ 1～2㎜を1％とロームブロック3％含む
3．黒褐色土層　粘性、締まりなく、白色軽石 φ 1～3㎜を5％とロームブロック1％、細砂を含む
4．黒褐色土層　粘性、締まりなく、白色軽石 φ 1～3㎜を1％とロームブロック1％、細砂を含む

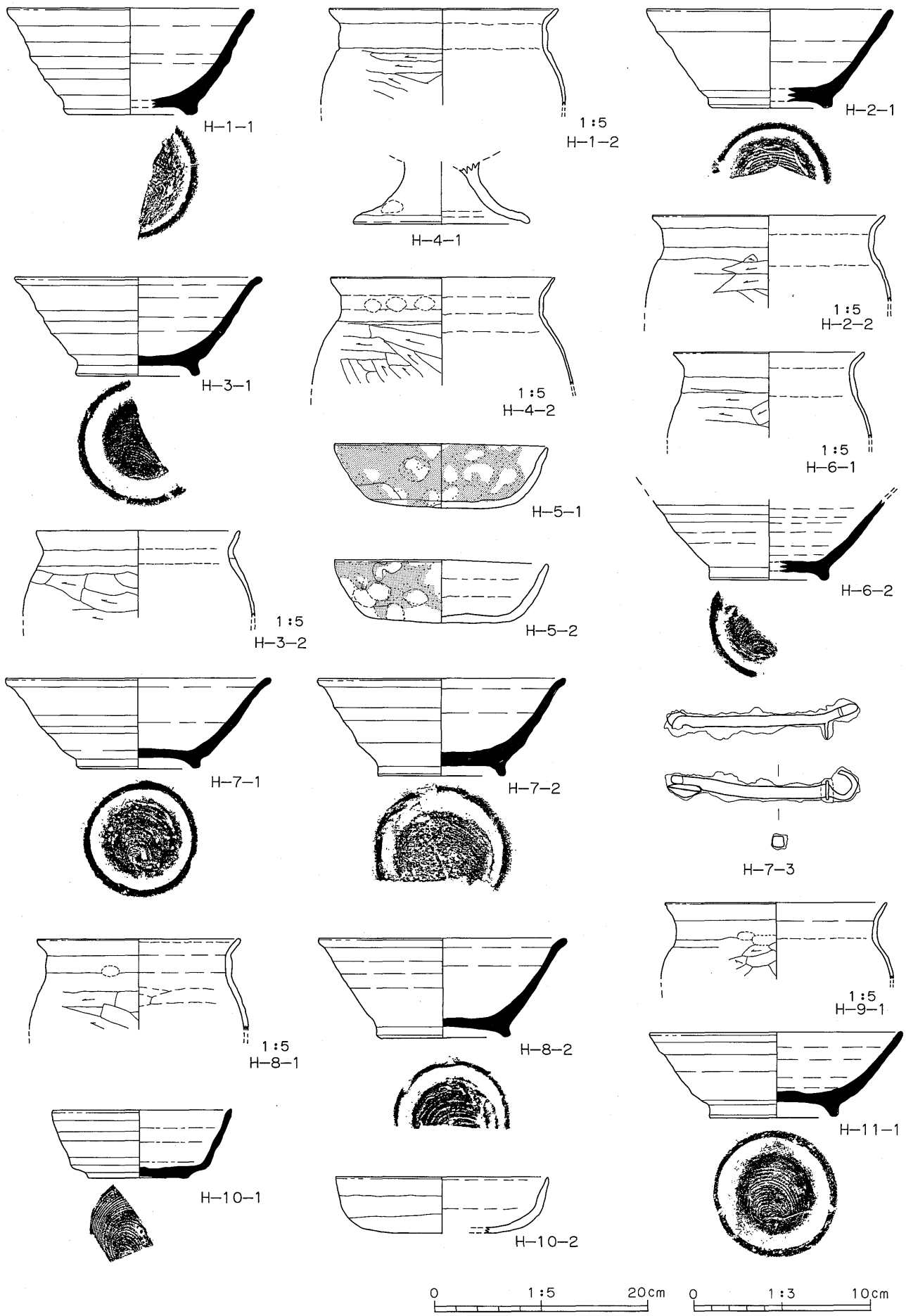
P-44～50 土層注記 （A-A′の計測方向は西から東を表す。）
1．黒褐色土層　粘性、締まりなく、白色軽石 φ 1～2㎜とローム粒を1％、細砂を多く含む
2．灰黄褐色土層　粘性、締まりなく、白色軽石 φ 1～2㎜を1％とロームブロック1％含み、細砂を含む
3．鈍い黄褐色土層　粘性、締まりなく、黄褐色軽石粒をわずかに、ロームブロックを1％含む

P-1・2 土層注記 （A-A′の計測方向は西から東を表す。）
1．黒褐色土層　粘性、締まりなく、ローム粒を3％と細砂を含む
2．鈍い黄褐色土層　粘性、締まりややあり、ロームブロック5％含む

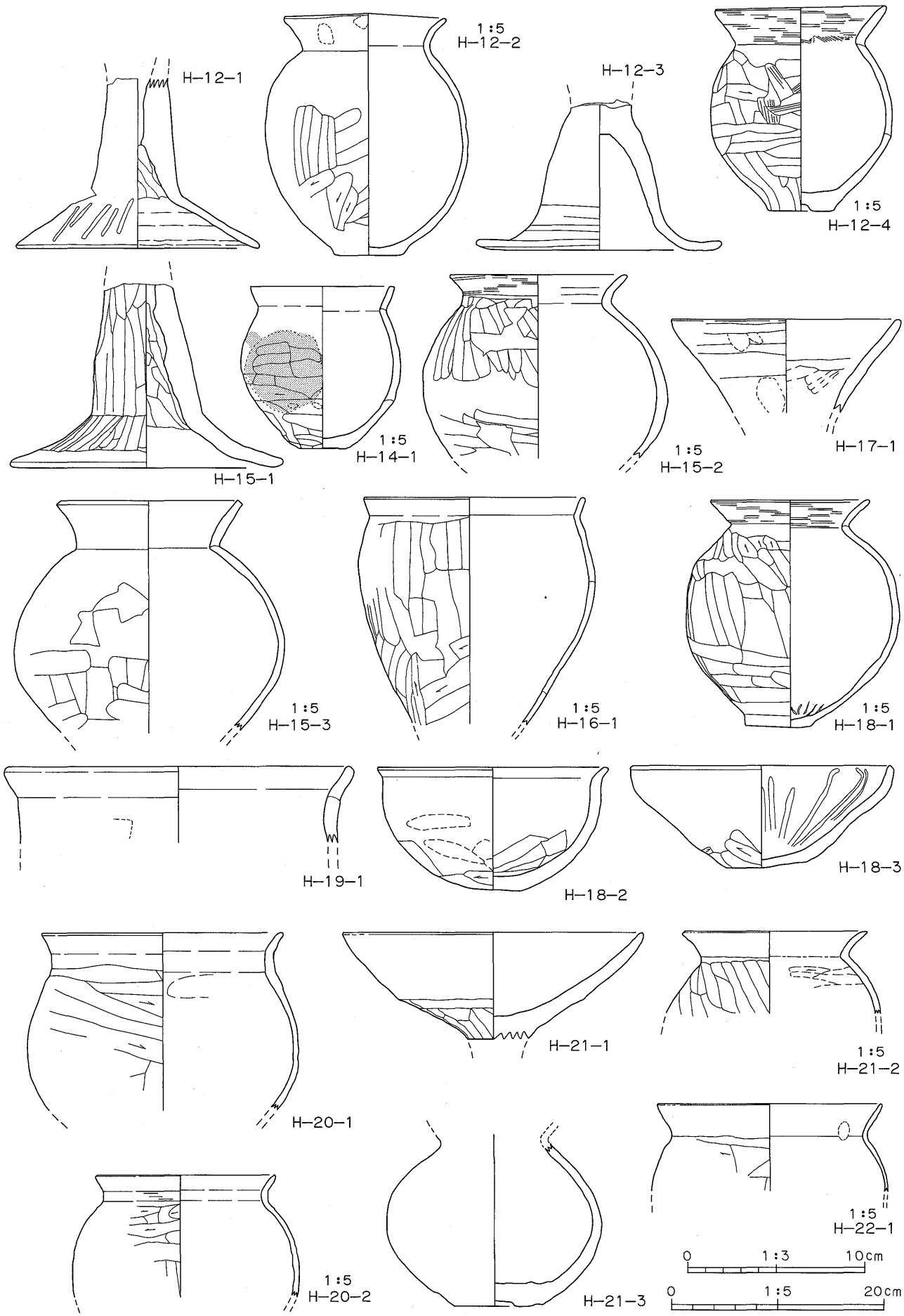
P-4 土層注記 （A-A′断面）
1．灰黄褐色土層　粘性、締まりなく、ロームブロック1％と炭化物粒を所々に含む

P-5 土層注記 （A-A′断面）
1．黒褐色土層　粘性、締まりなく、軽石粒1％とロームブロック5％含む

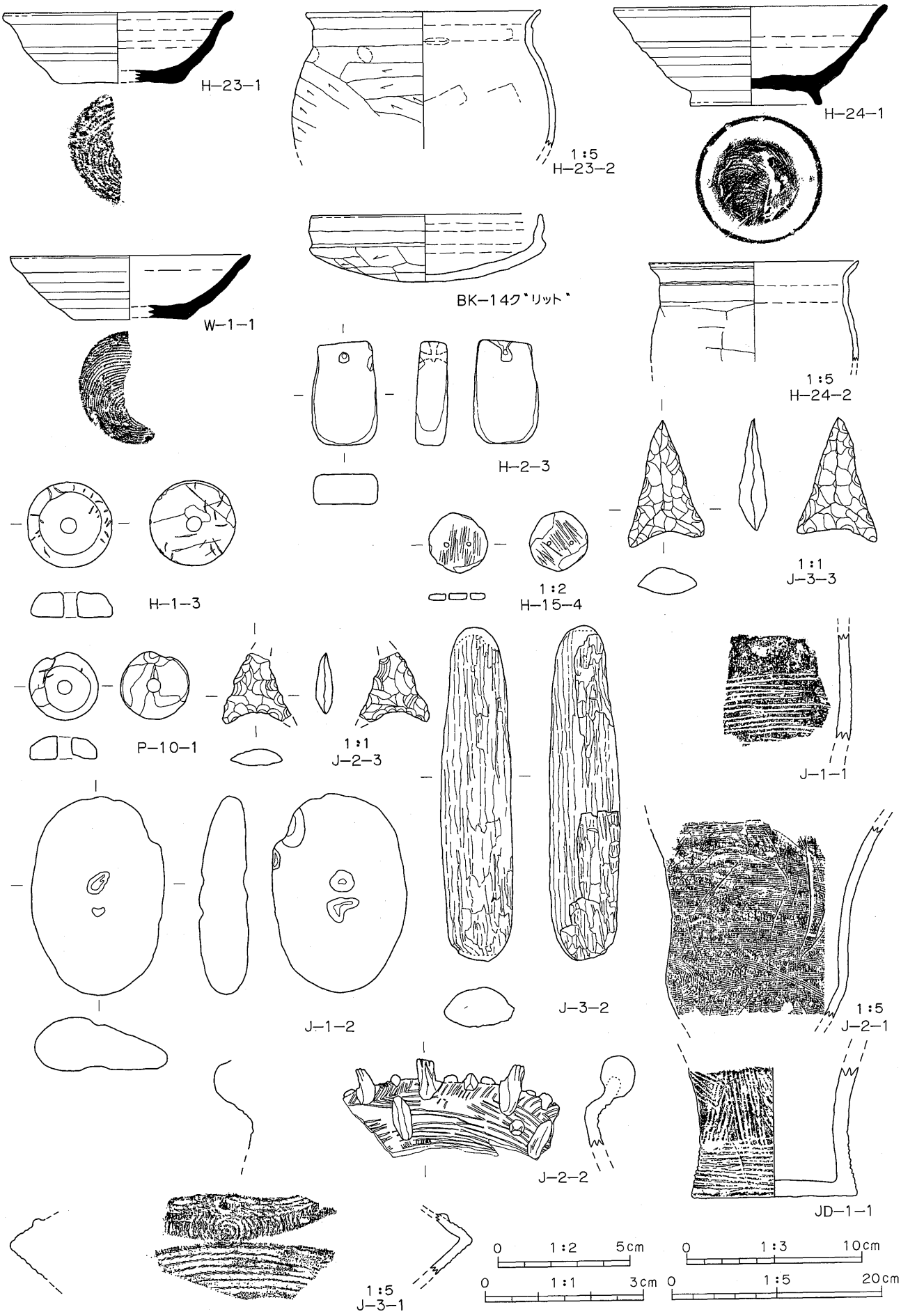
第21図　B-1～4号掘立柱建物跡断面図



第22図　H－1～11号住居跡遺物実測図



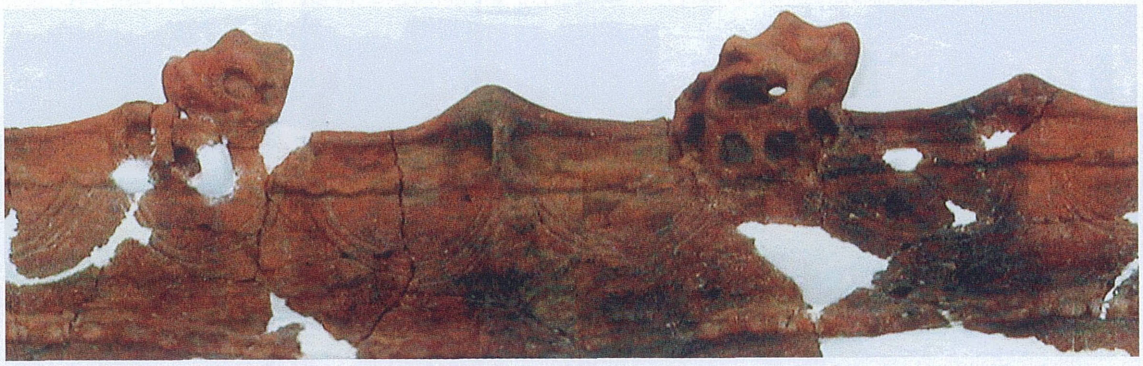
第23図　H-12・14～22号住居跡遺物実測図



第24図　J-1～3号、H-1・2・15・23・24号住居跡、P-10号、JD-1号、W-1号、グリッド遺物実測図

Ⅷ　五代伊勢宮Ⅳ遺跡

遺物No.３展開写真



遺物No.52展開写真

1．概　　観

縄文時代の遺構は中期に属するもので、竪穴住居跡３軒、土坑194基、埋甕３基、集石３ヶ所等が検出されている。平安時代以降の遺構としては竪穴住居跡１軒、土坑35基、柱穴60基、溝状遺構６条、道路跡１ヶ所がある。

2．縄文時代の遺構と遺物

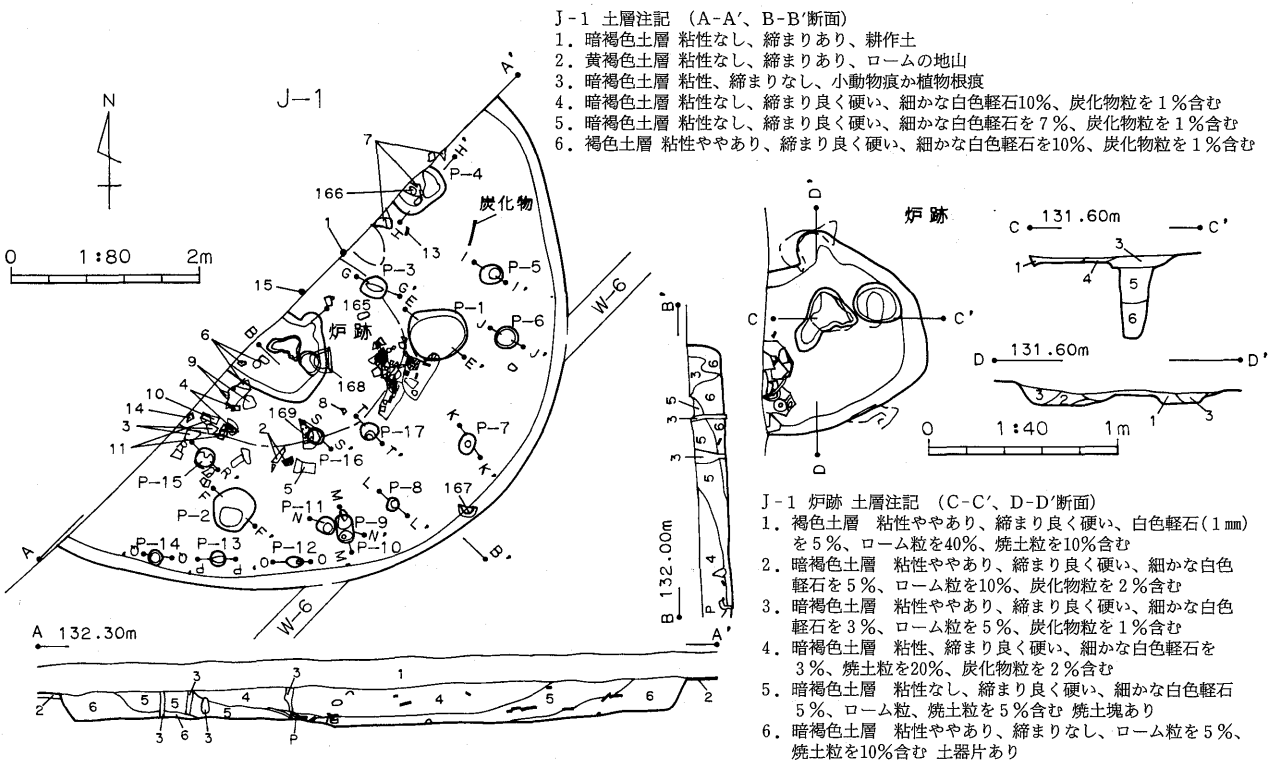
(1)　竪穴住居跡

Ｊ－１号住居跡〔第25・26図、図版12〕

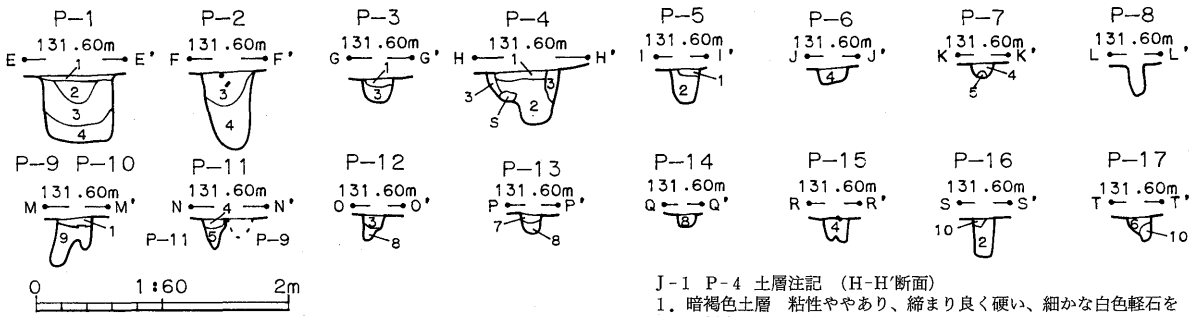
位置 BC・BD-10・11グリッドに位置する。**形状** 西半分が調査区外のため全体の規模は不明だが、円形を呈するものと思われる。**規模** 南北6.37m、東西は検出値で2.98m。壁高は22～34cmを測る。**面積** 検出値で13.1m²。**長軸方向** 不明。**床面** 締まりが良く堅い床を炉跡周辺に検出した。**柱穴** 17基検出した。Ｐ－１は径62×53cm、深さ52cmの楕円形、Ｐ－２は径48×42cm、深さ64cmの楕円形、Ｐ－４は検出値で径57×30cm、深さ43cmの楕円形を呈し、主柱穴と考えられる。柱穴間は芯々で、Ｐ－１～２が2.90m、Ｐ－１～３が1.62mを測る。Ｐ－３・５～17は小柱穴である。**炉跡** 中央部に位置するものと思われる。規模は、検出値で径107×86cm、深さ８cmの浅い皿状の掘り込みである。また径25×20cm、深さ33cmの円形の柱穴も検出した。**重複** W－６に切られる。**遺物** 土器は、浅鉢(No.６)が床面から、深鉢(No.９)が炉跡付近から出土している。その他は、埋土からのものである。石器は、石皿・多孔石片(No.168)が床直で、打製石斧(No.165)、削器(No.174)等が埋土から出土している。

Ｊ－２号住居跡〔第27図、図版12〕

位置 AY・BA-14・15グリッドに位置する。**形状** 楕円形を呈する。**規模** 長軸4.99m、短軸3.76m。壁高は27～40cmを測る。**面積** 14.3m²。**長軸方向** N-49°-E。**床面** 堅く締まっているが、南東側は北西側に比べ15cmほど高い。**柱穴** ４基検出しているが、住居跡との関係は不明である。Ｐ－１は径30×29cm、深さ27cmの円形、Ｐ－２は径27×25cm、深さ21cmの円形、Ｐ－３は径49×45cm、深さ31cmの楕円形、Ｐ－４は径35×25cm、深さ17cmの楕円形を呈する。**炉跡** 確認できなかったが、中央付近に径110×65cmの楕円形を呈する焼土範囲がみられた。**重複** D-92・W－６に切られる。**遺物** 土器は、埋土から小片を多量に出土。石器は、床面から石鏃(No.178.179)が出土し、埋土から石鏃(No.177.189)、石匙(No.186)、打製石斧(No.181.182.184)、石皿片等が出土している。



第25図　Ｊ－１号住居跡平面・断面図



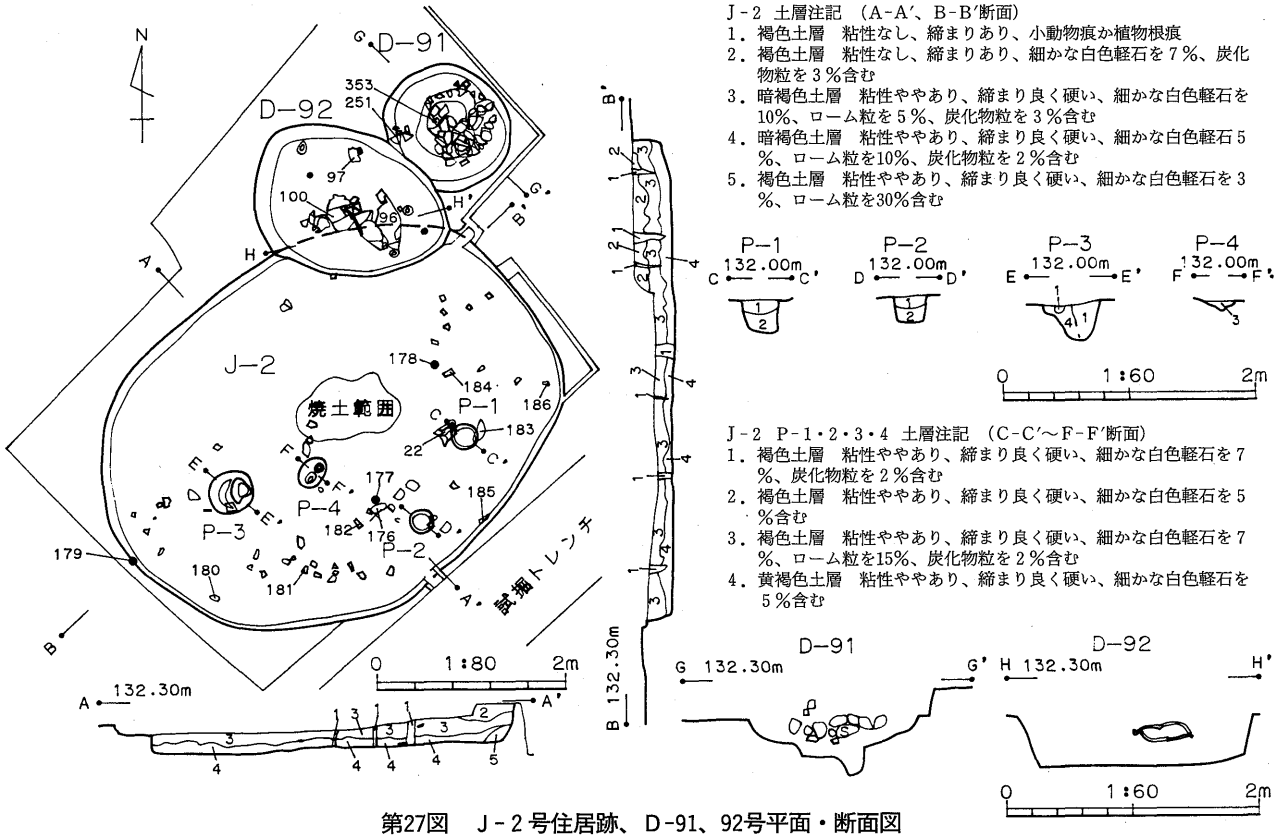
J-1 P-1・2 土層注記 (E-E′、F-F′断面)
1. 褐色土層 粘性なし、締まり良く硬い、細かな白色軽石を7%、炭化物粒を2%含む
2. 黄褐色土と3層との混土層 粘性なし、締まり良く硬い、細かな白色軽石を3%、炭化物粒を1%含む
3. 暗褐色土層 粘性ややあり、締まり良く硬い、細かな白色軽石を5%、炭化物粒を1%含む
4. 褐色土層 粘性あり、締まり良く硬い、細かな白色軽石を2%、ローム粒を10%、炭化物粒を3%含む

J-1 P-3・5・6・7 土層注記 (G-G′、I-I′〜K-K′断面)
1. 暗褐色土層 粘性なし、締まり良く硬い、細かな白色軽石を7%、炭化物粒を1%含む
2. 暗褐色土層 粘性なし、締まり良く硬い、細かな白色軽石を7%、炭化物粒を3%含む
3. 暗褐色土層 粘性ややあり、締まり良く硬い、ローム粒を30%含む
4. 褐色土層 粘性なし、締まり良く硬い、細かな白色軽石を3%、炭化物粒を2%含む
5. 黄褐色土層 粘性ややあり、締まり良く硬い、ロームブロック

J-1 P-4 土層注記 (H-H′断面)
1. 暗褐色土層 粘性ややあり、締まり良く硬い、細かな白色軽石を7%含む
2. 暗褐色土層 粘性ややあり、締まり良く硬い、細かな白色軽石を10%を含む
3. 暗褐色土層 粘性ややあり、締まり良く硬い、細かな白色軽石を3%、ローム粒を20%含む

J-1 P-9・10・11・12・13・14・15・16・17 土層注記 (M-M′〜T-T′断面)
1. 暗褐色土層 粘性ややあり、締まり良く硬い、細かな白色軽石を3%含む
2. 暗褐色土層 粘性ややあり、締まり良く硬い、細かな白色軽石を2%、ローム粒を15%含む
3. 褐色土層 粘性ややあり、締まり良く硬い、細かな白色軽石を2%含む
4. 褐色土層 粘性なし、締まり良く硬い、細かな白色軽石を2%、ローム粒を10%含む
5. 褐色土層 粘性ややあり、締まり良く硬い、細かな白色軽石を2%、ローム粒を5%含む
6. 褐色土層 粘性なし、締まり良く硬い、細かな白色軽石を5%、ローム粒を10%含む
7. 褐色土層 粘性ややあり、締まり良く硬い、ローム粒を5%含む
8. 褐色土層 粘性ややあり、締まり良く硬い、ローム粒を10%含む
9. 褐色土層 粘性あり、締まり良く硬い、ローム粒を20%含む
10. 黄褐色土層 粘性ややあり、締まり良く硬い、ロームブロック

第26図 J-1号住居跡柱穴断面図



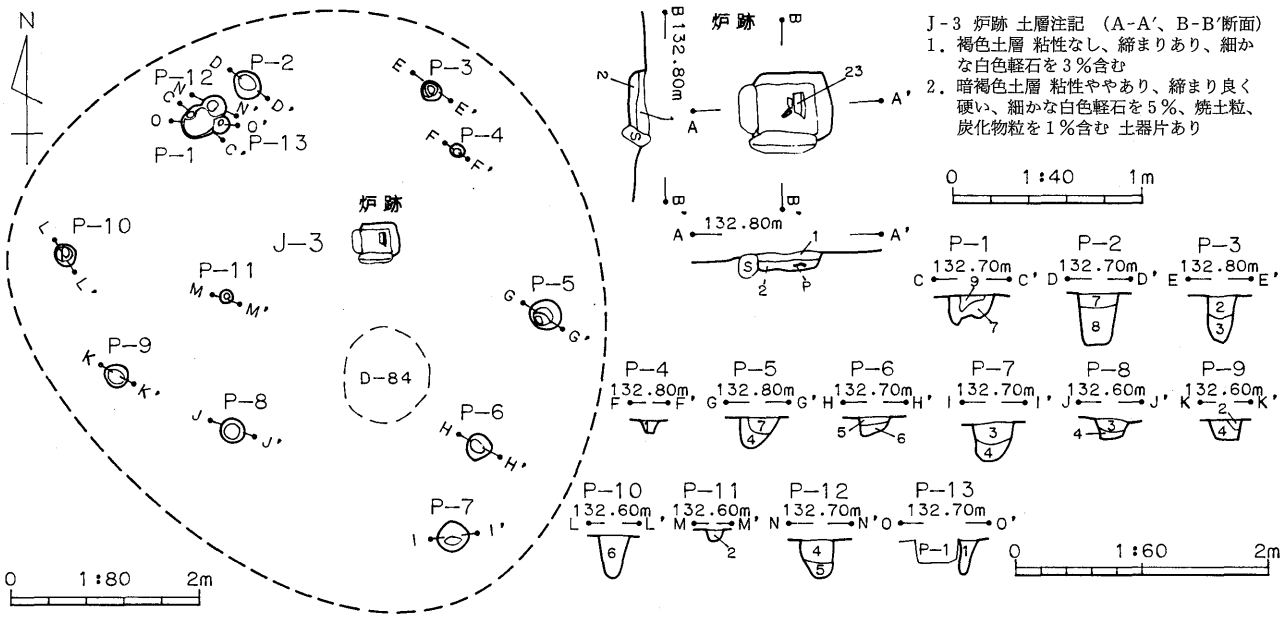
J-2 土層注記 (A-A′、B-B′断面)
1. 褐色土層 粘性なし、締まりあり、小動物痕か植物根痕
2. 褐色土層 粘性なし、締まりあり、細かな白色軽石を7%、炭化物粒を3%含む
3. 暗褐色土層 粘性ややあり、締まり良く硬い、細かな白色軽石を10%、ローム粒を5%、炭化物粒を3%含む
4. 暗褐色土層 粘性ややあり、締まり良く硬い、細かな白色軽石5%、ローム粒を10%、炭化物粒を2%含む
5. 褐色土層 粘性ややあり、締まり良く硬い、細かな白色軽石を3%、ローム粒を30%含む

J-2 P-1・2・3・4 土層注記 (C-C′〜F-F′断面)
1. 褐色土層 粘性ややあり、締まり良く硬い、細かな白色軽石を7%、炭化物粒を2%含む
2. 褐色土層 粘性ややあり、締まり良く硬い、細かな白色軽石を5%含む
3. 褐色土層 粘性ややあり、締まり良く硬い、細かな白色軽石を7%、ローム粒を15%、炭化物粒を2%含む
4. 黄褐色土層 粘性ややあり、締まり良く硬い、細かな白色軽石を5%含む

第27図 J-2号住居跡、D-91、92号平面・断面図

J-3号住居跡〔第28図、図版12〕

位置 AY・BA-17・18グリッドに位置する。**形状・規模** 推定で、長径6.50mの楕円形を呈するものと思われる。**面積** 推定で30.2m²。**長軸方向** 推定でN-140°-E。**柱穴** 平均径25×24×深さ26cmの柱穴が13基確認されたので、その範囲を推定プランとした。主柱穴配置は不明である。**炉跡** 長方形の石囲い炉の2石を確認し、径50×40cmを測る。**重複** D-84と重複し、D-84が古いと考える。**遺物** 炉跡内から深鉢片(No.23)を出土。



J-3 炉跡 土層注記 (A-A′、B-B′断面)
1. 褐色土層 粘性なし、締まりあり、細かな白色軽石を3%含む
2. 暗褐色土層 粘性ややあり、締まり良く硬い、細かな白色軽石を5%、焼土粒、炭化物粒を1%含む 土器片あり

J-3 P-1・2・3・10・12・13 土層注記 (C-C′～E-E′、L-L′、N-N′、O-O′断面)
1. 暗褐色土層 粘性ややあり、締まり良く硬い、細かな白色軽石5%、炭化物粒2%含む
2. 暗褐色土層 粘性ややあり、締まり良く硬い、黄色軽石と細かな白色軽石を2%、炭化物粒を1%含む
3. 暗褐色土層 粘性あり、締まり良く硬い、細かな白色軽石を僅かに含む
4. 暗褐色土層 粘性ややあり、締まり良く硬い、細かな白色軽石を5%、ローム粒、ロームブロック(5～10mm)を10%、炭化物粒を2%含む
5. 暗褐色土層 粘性あり、締まり良く硬い、ローム粒20%、炭化物粒を2%含む
6. 褐色土層 粘性ややあり、締まり良く硬い、黄色軽石(1mm)を3%含む
7. 褐色土層 粘性ややあり、締まり良く硬い、黄色軽石(1～2mm)3%、炭化物粒2%含む
8. 褐色土層 粘性ややあり、締まり良く硬い、細かな白色軽石を5%、炭化物粒1%含む
9. 黄褐色土層 粘性ややあり、締まり良く硬い、ロームブロック

J-3 P-4・5・6・7・8・9・11 土層注記 (F-F′～K-K′、M-M′断面)
1. 暗褐色土層 粘性ややあり、締まり良く硬い、細かな白色軽石を7%、ローム粒を30%含む
2. 暗褐色土層 粘性ややあり、締まり良く硬い、細かな白色軽石5%含む
3. 褐色土層 粘性ややあり、締まり良く硬い、細かな白色軽石を5%、炭化物粒を2%含む
4. 褐色土層 粘性あり、締まり良く硬い、細かな白色軽石を2%含む
5. 黄褐色土層 粘性ややあり、締まり良く硬い、細かな白色軽石を3%、炭化物粒を2%含む
6. 黄褐色土層 粘性あり、締まり良く硬い、細かな白色軽石を5%、炭化物粒を1%含む
7. 黄褐色土層 粘性ややあり、締まり良く硬い、ロームブロック

第28図 J-3号住居跡平面・断面図

(2) 土 坑〔第29・30図、第28・29表、図版12～14〕

縄文時代の土坑は194基を検出し、多くの遺物を出土している。その分布状況は、疎密の差はあるが遺跡全体に広がっていると言える。平面的な形状は円形や楕円形のものがほとんどで、断面形状は袋状、直下り、台形状、皿状、不整形等のものがみられる。また、その所属時期は、中期中葉に属するものがほとんどと考える。

紙面と時間的な制約から一部の土坑についてのみの記載となるため、各土坑の計測値等を第28表にまとめた。

D-40号土坑 平面形はほぼ円形で、断面形は直下りを呈す。底面は平らで、掘り込みも深くしっかりしている。遺物は、深鉢(No.24.25.27.28.32.36)、石皿・多孔石片、打製石斧等が出土している。

D-51・52号土坑 D-51とD-52は僅かに重複している。D-51は、平面形は楕円形で断面形は袋状を呈す。底面は平ら。土器片が多量に出土し、その中に焼土塊も観察された。深鉢(No.52)は中層から横位で出土した。深鉢片(No.53)は底面付近からのもので、深鉢(No.54)は破片を接合した結果のものである。石器も打製石斧(No.214.216)、削器等が出土している。D-52は、平面形は楕円形で、断面形は袋状を呈す。土器片は僅かで、打製石斧が中層から、磨・敲石が底面付近から出土している。

D-56号土坑 平面形は楕円形で、断面形は袋状を呈す。多数の土器片が出土し、深鉢(No.59.60.61.62)が復元できた。石器類では石皿・多孔石、磨・敲石とともに自然石も出土している。

D-58号土坑 平面形は楕円形で、断面形は袋状を呈す。底面は平ら。土器片は多量に出土している。No.69は焼町系の香炉形土器の脚台部である。No.66は倒位で出土の小型浅鉢。No.67.68は深鉢である。いずれも中層から出土している。また、礫も41個出土。

D-64号土坑 調査区東側中央付近に位置する。P-13と重複するがD-64の方が古い。平面形は楕円形で、断面形は袋状を呈す。底面は西側が東側より3cmほど低い。遺物は深鉢(No.71.72)、浅鉢(No.70)、棒状石器、打製石斧等が出土している。中層にはロームブロックを多量に含む層が確認でき、その下層には194個の礫が敷かれたような状態で検出された。

D-91号土坑〔第27図参照〕　D-92と僅かに重複する。平面形はほぼ円形で、断面形は皿状で段をもうける。また底面付近には小ピットも見られる。遺物は土器片は僅かで、熱を受けた礫が多量に出土しその中に磨製石斧(No.353)、打製石斧等を含んでいる。

D-92号土坑〔第27図参照〕　J-2と重複する大型の土坑で、J-2を切る。D-91とも僅かに重複。平面形は楕円形で、断面形は台形を呈す。平らな底面に小ピットが見られるが植物根跡と思われる。遺物は、大型の深鉢(No.96)が潰れた状態で出土している。

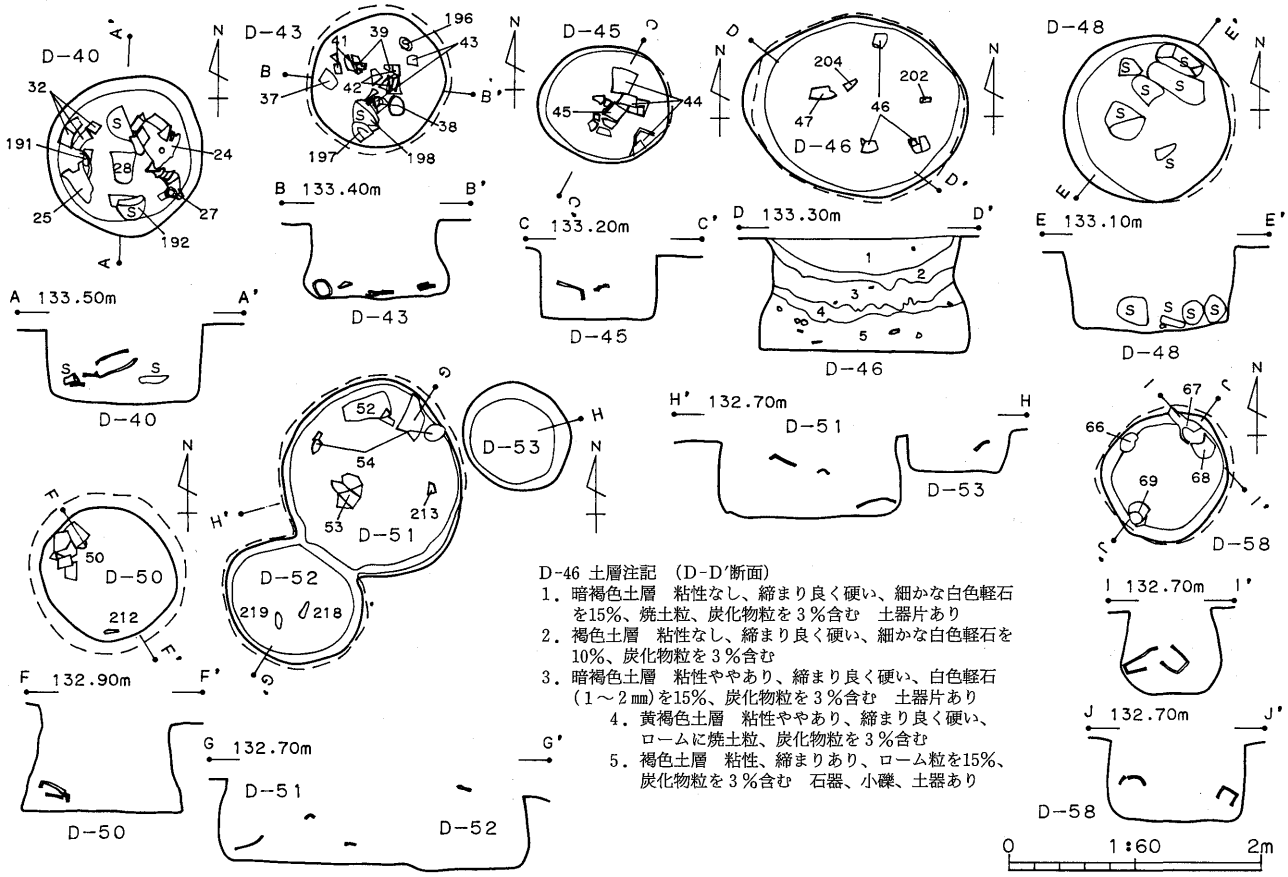
D-93号土坑　J-2の東側で検出された。平面形は楕円形で、試掘トレンチにより北側の一部を削られているが本来は袋状を呈するものと思われる。底面はほぼ平ら。遺物は中層より深鉢が3個体出土する。No.100の深鉢はD-92内出土の土器と接合する。No.98の深鉢は、No.99の深鉢片の中に入れられている様な状態で出土。

D-113号土坑　平面形はややゆがんだ楕円形で、断面形は直下りを呈す。底面は凹凸。遺物は大量の土器片が出土し、接合の結果、深鉢(No.104.105.107)などが出土していることがわかった。石器類では石鏃、打製石斧、磨石、砥石(No.271)等とともに自然石も数多く見られた。

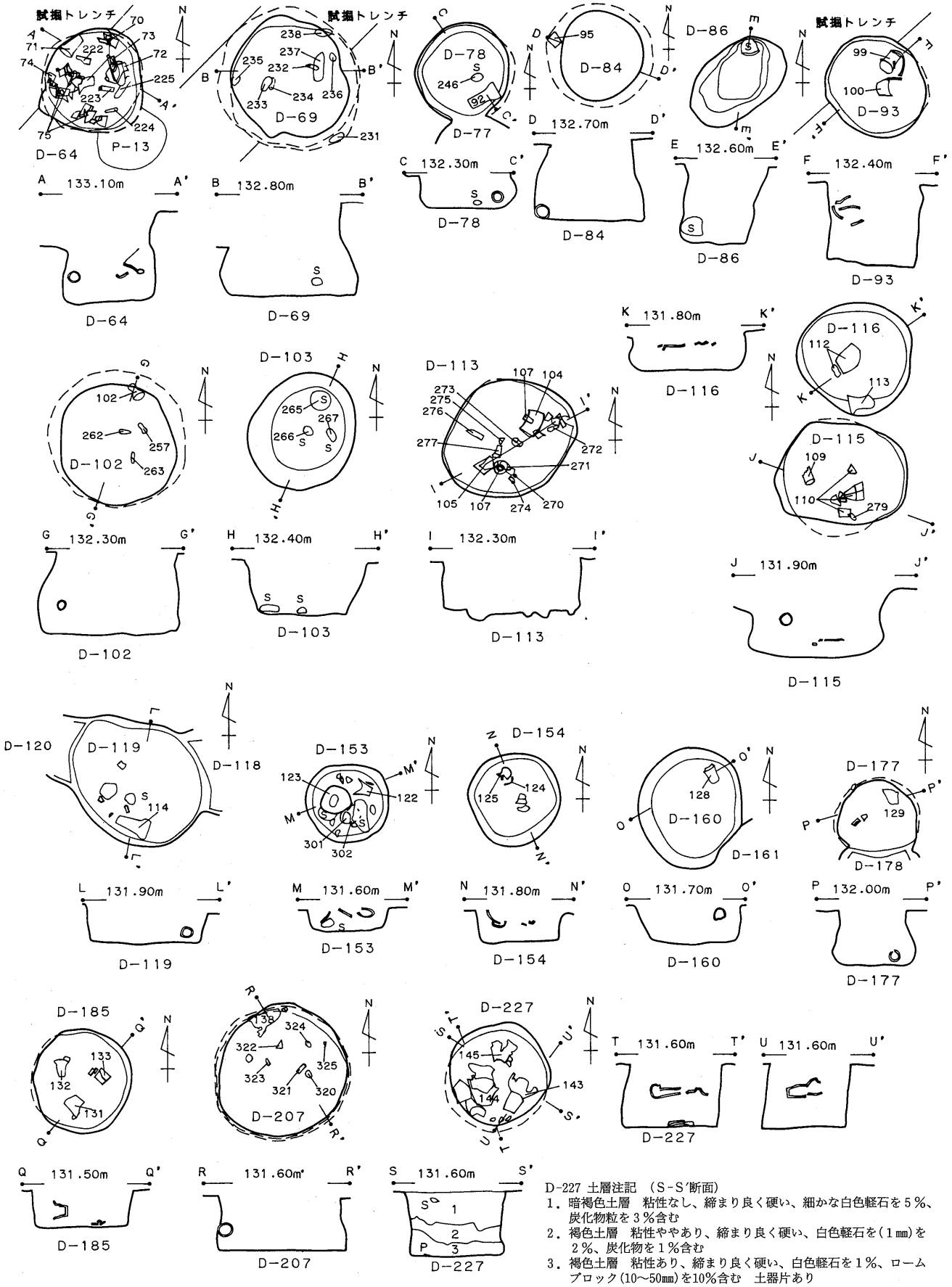
D-118・119・120号土坑　D-119がD-118・120を切ると思われる。D-118は、平面形は楕円形で断面形は台形状を呈す。D-119は、平面形は楕円形で断面形は台形状を呈す。D-120は、平面形は隅丸方形で、断面形は皿状を呈するものと思われる。遺物は全体的に少ない。D-118からは石皿・多孔石片(No.284.285.286)が出土している。D-119からは完形の深鉢(No.114)が横位で出土し、石器では削器等が出土。D-120からは打製石斧が出土している。

D-177・178号土坑　D-178の発掘終了間際にD-177を検出したため、切り合いは確認できなかった。D-177の平面形は円形で、断面形は袋状を呈す。底面は平ら。遺物は、深鉢(No.129)の胴～底部が底面付近から出土している。一括遺物の中に顔料の付いた浅鉢片がみえる。D-178の平面形は楕円形で、断面形は直下りを呈す。底面は平ら。遺物は、中層から磨・凹石等が出土している。

D-207号土坑　平面形はほぼ円形で、断面形は袋状を呈す。底面は平ら。ほぼ完形の深鉢(No.138)が、北壁に付くように横位で中層から出土する。また中層から礫178個、打製石斧、石錐(No.325)等も出土。



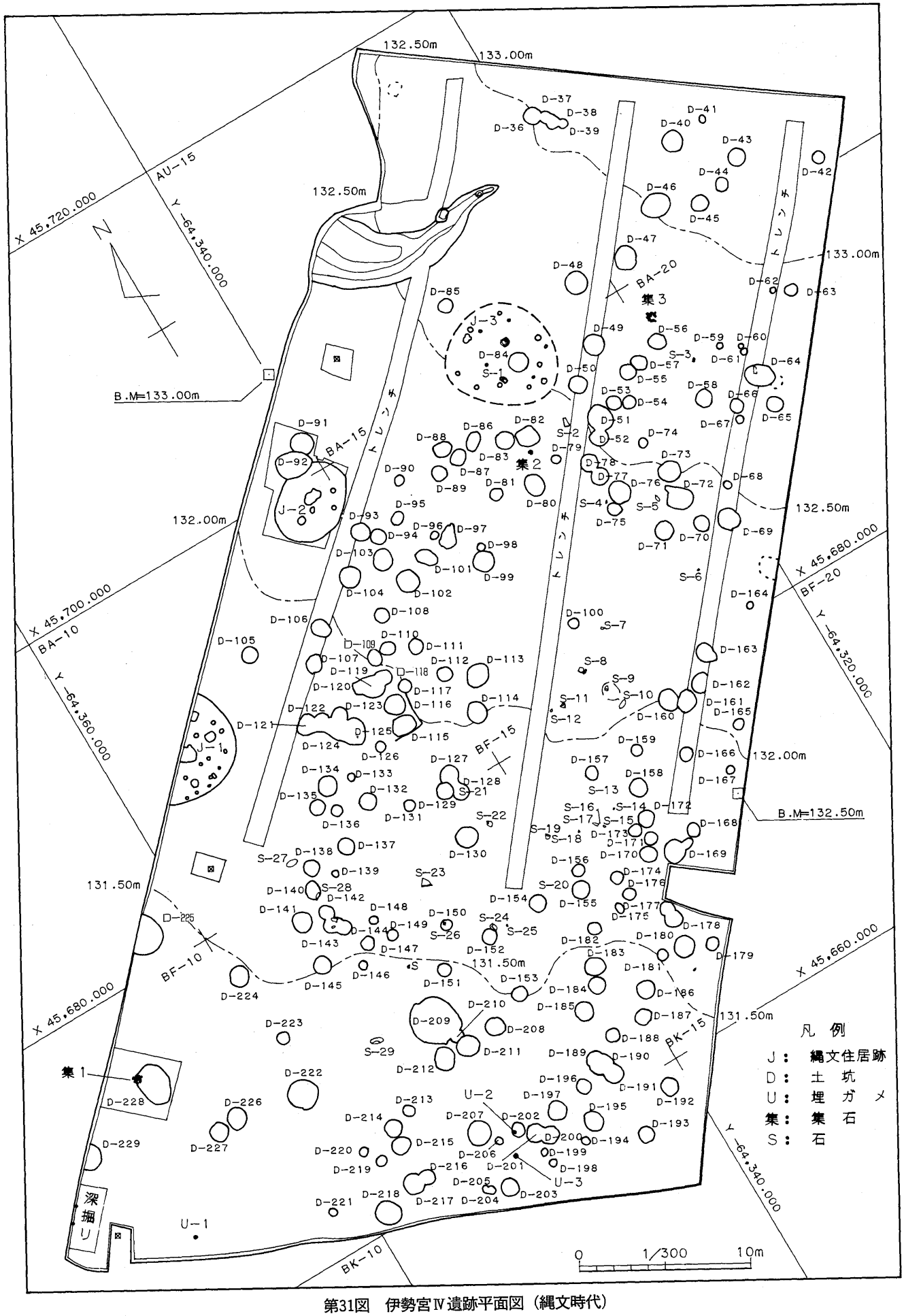
第29図　縄文土坑平面・断面図（その1）



D-227 土層注記 (S-S′断面)

1. 暗褐色土層　粘性なし、締まり良く硬い、細かな白色軽石を5%、炭化物粒を3%含む
2. 褐色土層　粘性ややあり、締まり良く硬い、白色軽石を(1㎜)を2%、炭化物を1%含む
3. 褐色土層　粘性あり、締まり良く硬い、白色軽石を1%、ロームブロック(10～50㎜)を10%含む　土器片あり

第30図　縄文土坑平面・断面図（その2）



第31図　伊勢宮Ⅳ遺跡平面図（縄文時代）

(3) 埋　甕〔第32図〕

U-1号埋甕　BI-7グリッドに位置する。深鉢の口縁～底部(№148)を正位で出土した。

U-2号埋甕　BJ-12グリッドに位置する。深鉢の胴～底部(№149)を正位で出土した。D-202と重複するが、U-2出土時には土坑として確認出来なかったため、別の遺構として取り扱った。

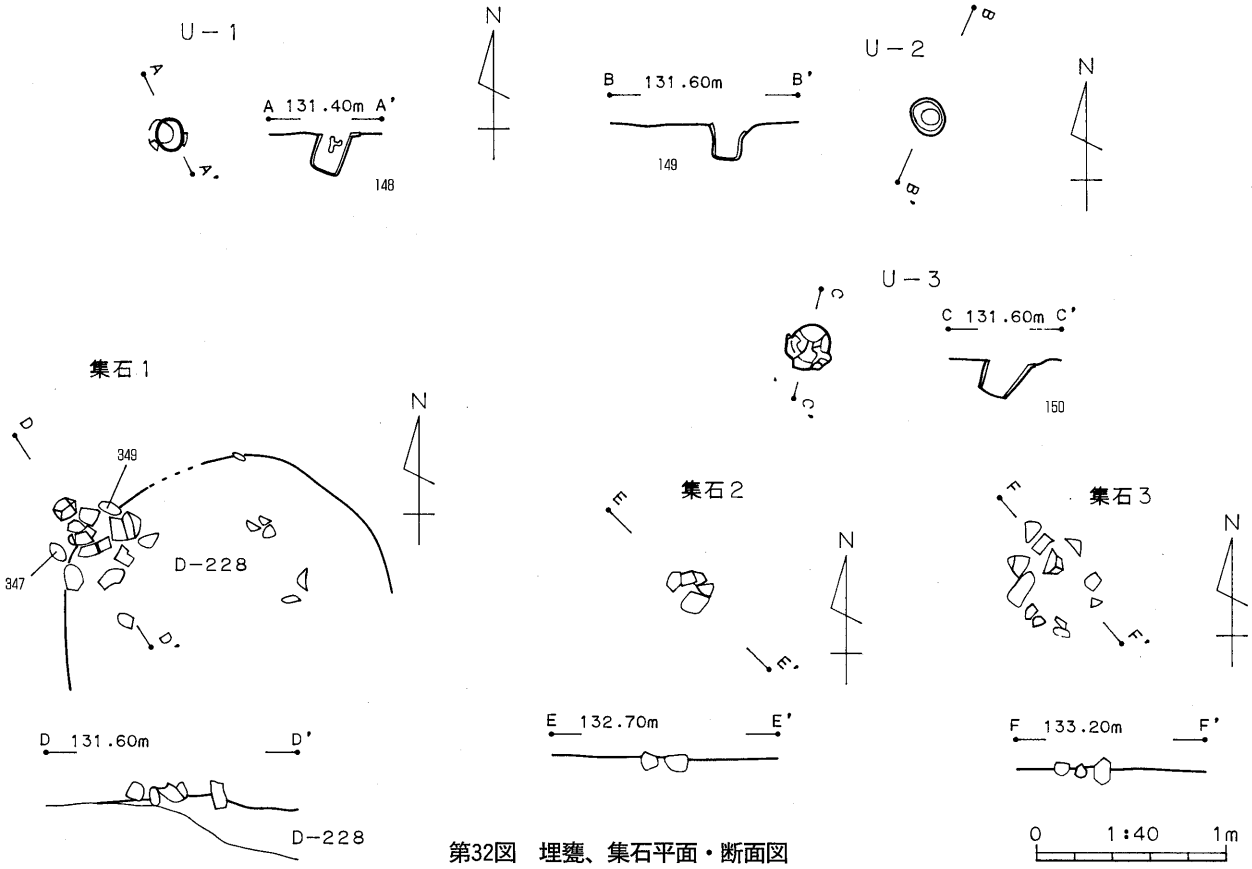
U-3号埋甕　BJ-12グリッドに位置する。鉢の口縁～底部(№150)を正位で出土した。

(4) 集　石〔第32図〕

1号集石　BG-8グリッドにおいてD-228と重複して検出された。16個のこぶし大の石で、自然石の他に石皿・多孔石・棒状石器片や磨石(№347.349)を含み、熱を受けているものが多い。

2号集石　BB-17グリッドに位置する。こぶし大の自然石を20個検出する。

3号集石　BA-20グリッドに位置する。こぶし大の自然石を12個検出する。



第32図　埋甕、集石平面・断面図

(5) 遺　物

土　器〔第33～37図、第26表、図版15～17〕

当遺跡からは、多量の土器が出土している。その大半は中期中葉から後半に属するものである。これらの土器を、VI群に大別した。尚、詳細はまとめに記した。

I群　中期中葉に属する土器群。	IV群　中期後半に属する土器群。
II群　在地系深鉢中型土器群。	V群　小型の深鉢形土器群。
III群　口縁部に突起を持つ土器群。	VI群　深鉢以外の器形の土器群。

石　器〔第38・39図、第27表、図版17〕

出土した石器類は、剥片・細片を含め総数596点を数える。これらのうち石器と考えられる石鏃24点、石錐1点、石匙3点、打製石斧112点、磨製石斧2点、削器11点、磨石47点、凹石4点、石皿16点、棒状石器14点、加工痕・使用痕のある剥片3点、尖頭器2点、その他22点の計261点を観察表に掲載した。なお、磨石のうち凹石・敲石を兼ねるものが22点、石皿のうち多孔石を兼ねるものが12点ある。

第26表　縄文土器観察表

胎土は細粒(0.9㎜以下)、中粒(1.0～1.9㎜)、粗粒(2.0㎜以上)とした。焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。
観察表の遺構番号は報告書の付番、台帳番号は調査時の付番を表す。(　　)は現存値・推定値を表す。

遺物番号	遺構番号	台帳番号	器種	①胎土②焼成③色調④残存⑤器高×口径×底径(cm)	器形の特徴・文様要素・文様構成
1	J-1	BJ-1 No.173 BD-66No.2・8・11	深鉢	①中粒②良好③橙 ④4/5残⑤39.8×19.0×10.2	口縁部に中空状の主突起を1対置き、その間に横S字状隆線の副突起を1対配す。地文は縄文RL。頸部に1条の隆帯を巡らせ、胴部は縄文LRを施文。
2	J-1	BJ-1 No.24・29・35・36・129・一括	深鉢	①中粒②良好③にぶい赤褐 ④口縁部片 ⑤(20.5)×(29.5)×-	4単位の波状口縁。突起は欠損して不明。口縁部は連続中空突起がまわる。頸部は縄文RL。外面煤付着。
3	J-1	BJ-1 No.1・15・20・一括	深鉢	①中粒②良好③明赤褐④口縁部片⑤(23.0)×(30.0)×-	大型主突起と眼鏡状副突起を4単位付ける。文様は曲隆線と沈線、山形状隆線の底部に円環文を付ける。
4	J-1	BJ-1 No.24・125・129・一括	深鉢	①中粒②良好③にぶい橙④口縁部片⑤(17.5)×(25.0)×-	平口縁。大型の中空状突起を付す。文様は、山形隆線文・三叉文・沈線による渦巻文等を配す。No.5と同一個体。
5	J-1	BJ-1 No.13・77・一括	深鉢	①中粒②良好③にぶい橙 ④胴部片⑤(23.0)×-×-	胴部は、隆線を垂下し曲隆線・沈線で渦巻文等を配す。No.4と同一個体。
6	J-1	BJ-1 No.1・19・25・48・97・131・134	浅鉢	①中粒②良好③淡黄④1/2残 ⑤10.5×16.0×7.4	口縁は直立し、口唇は丸く肥厚気味。頸部正面に円錐形の小突起を2つ付け、脇に微隆帯を付す。右側小突起の微隆帯はやや離れて弧状を呈す。内外面丁寧な調整。底部内外面煤付着。
7	J-1	BJ-1 No.141・142・147・170・172	深鉢 大型	①中粒②良好③にぶい橙 ④口縁～胴部3/4残 ⑤(41.5)×30.5×-	口唇は平坦で幅広。突起は2ヶ所。口縁部は狭く無文。胴部は筒状で横帯文により多段に区画される。最上段は撚糸。その上下に半截竹管状工具による逆U字状の爪形文を巡らす。2段目は沈線による楕円区画文を6単位。中に沈線による重弧文・円形文を配し、中心に刻目入りの小突起を置く。3段目は無文。4段目は1対の小楕円区画文を6単位配すものと思われ、中に縦位の沈線を施す。5段目は撚糸文を施す。内外面煤付着。
8	J-1	BJ-1 No.157	深鉢	①中粒②良好③にぶい橙 ④頸～底部3/4残 ⑤(24.0)×-×12.8	頸部に3条の深い沈線を巡らす。胴部には4条1単位のコンパス文を4単位垂下し、間に1ヵ所だけ渦巻文風の2条の沈線、その下に短めのコンパス文を配す。地文は縄文RL横位。
9	J-1	BJ-1 No.24・92・94・130	深鉢	①中粒②良好③橙 ④口縁～頸部片1/5弱残 ⑤(33.5)×頸部径(25.5)×-	平口縁。頸部に2条の隆帯を巡らし、胴部と区画する。波頂部には大型の中空状突起を付し、下端から頸部まで大型の橋状把手を置く。口縁部は3条1単位の沈線で縁取り、中に円形状・楕円状に沈線を施す。地文は縄文LR縦位。頸部隆帯上にも縄文あり。内面波状部に煤付着。
10	J-1	BJ-1 No.22	深鉢	①中粒②良③明赤褐 ④ほぼ完形 ⑤35.0×18.0×11.2	口縁は直立する。口唇下に平行沈線を巡らす。頸部は3条の沈線が巡り、口縁部に平行沈線による半円状・弧状の文様を施す。胴部にも平行沈線による渦巻状・弧状等の文様を施す。地文は縄文。
11	J-1	BJ-1 No.7・10・15・22・76・80・87・88・129	深鉢	①中粒②良好③黄橙④胴～底部1/3残⑤(21.5)×-×8.4	胴部には3本ないし4本単位の沈線を弧状または縦・横位に施す。地文に縄文LR縦位。胴上部と内面に煤付着。
12	J-1	BJ-1 一括	深鉢	①中粒②良好③橙④頸～底部1/4残⑤(23.7)×-×10.0	頸部に3条の沈線を横位に施す。胴部は4条1単位の重弧文の沈線を鱗状に施す。頂部は渦巻状の沈線を施す。地文は縄文RL縦位。
13	J-1	BJ-1 No.99	深鉢	①中粒②不良③橙 ④頸～底部1/3残 ⑤(20.5)×-×9.8	底部から筒状に立ち上がり、頸部で開く。頸部には幅広の隆帯を巡らし、その上下に沈線を施す。胴部は3条1単位の沈線を縦位またはL字状に施す。地文の縄文ははっきりしない。内面に煤付着。
14	J-1	BJ-1 No.90	深鉢	①中粒②良好③橙 ④頸～胴部片⑤(26.0)×-×-	頸部に低めの隆帯を巡らす。地文に縄文RL縦位を施すが頸部隆帯上にも縄文あり。肩部下の外面と内面頸部付近に煤付着。
15	J-1	BJ-1 No.174	深鉢 大型	①中粒②良好③橙 ④ほぼ完形 ⑤64.7×(56.0)×15.6	頸部と胴部上半には2条、胴部下半には1条の隆帯を巡らす。口端には中空状突起を6単位付すと思われ、口唇に沿う上下2条の隆線で連結する。頸部は無文。胴部上段の区画内には2本の縦位の隆線で上下を連結して細分し、中に隆線による横S字状文・渦巻文、沈線による鋸歯状文・三叉文の沈刻・縄文を施す。胴部中段も縁取りの沈線のある隆線で上下を連結し、渦巻文・縄文を施す。底部付近は縄文のみ施す。頸部外面付近に煤付着。
16	J-1	BJ-1 No.6・9・11・21・87・一括	浅鉢	①中粒②良好③にぶい橙④体～底部片⑤(6.0)×-×10.5	無文。内面顔料付着。内外面煤付着。大型の浅鉢か。
17	J-1	BJ-1 No.12・89・126・一括	浅鉢 小型	①中粒・輝石②良好③にぶい黄橙④口縁片⑤(13.5)×-×-	口唇上に突起を付し、幅広の隆線による渦巻文を施す。口縁部にも幅広の隆線による施文あり。口唇から外面に顔料付着。
18	J-1	BJ-1 No.10	浅鉢 大型	①中粒②良好③黒④体部片 ⑤(54.0)×(9.0)×-	無文。整形の際の丁寧な調整あり。
19	J-1	BJ-1 No.52・54・104・113・118・一括	深鉢 大型	①中粒②良好③明赤褐④頸部～胴部片⑤(24.0)×-×-	頸部は、沈線による三角形状文内に三叉文を沈刻する。胴部は、隆線による三角形等の区画内に沈線を施し、三叉文等を置く。内面煤付着。
20	J-1	BJ-1 No.22・100	深鉢 大型	①中粒②良好③にぶい橙④口縁～胴部片⑤(41.2)×-×-	口縁部は、縄文のみ施す。頸部やや下位に1条の隆帯を巡らせて上下を区画する。胴部上半は、隆線による渦巻文等を施す。縄文の施文あり。
21	J-1	BJ-1 No.49・50・103・108・113・116・117	深鉢 大型	①中粒・雲母②良好③にぶい橙④胴部片⑤(19.6)×-×-	全面に縄文LRを施す。
22	J-2	BJ-2 No.23・25	深鉢	①中粒・雲母②良好③にぶい橙 ④口縁突起片⑤(9.8)×-×-	隆線による円形区画内に孔あき円環文を付け、山形状沈線を横位に3条・短沈線を縦位に3条付ける。
23	J-3	BJ-3 No.1 BD-220一括	深鉢	①中粒②良好③橙④口縁部片 ⑤(6.5)×(18.0)×-	頸部から口縁部で緩くくの字状に折れて口縁部は直立気味。口縁部は、隆帯による渦巻文を付す。頸部に縄文あり。
24	D-40	AD-7 No.32・33	深鉢	①中粒②良好 ③にぶい橙④4/5残 ⑤31.9×(23.6)×10.6	口唇断面三角形。隆帯を口縁部に3条、頸部に1条巡らす。口端には環状突起と橋状把手を付し、その間に沈線による重弧文を3～4条施し連結するが、1区画のみ1条のとぎれがちの曲沈線と横走する沈線が観察され、規則性が見えない。地文は縄文。内面煤付着。
25	D-40	AD-7 No.26・27・28 BD-66No.1	深鉢	①中粒②良好③明赤褐 ④ほぼ完形 ⑤33.9×15.0×9.0	頸部に2条の隆帯、口縁部は沈線を短く縦位に施文。その下に横S字状の隆線を4単位配す。胴部は隆帯から垂下する隆線で4つに区画し、沈線による渦巻文・逆L字状文を施す。地文は縄文RL横位。外面上半部・内面底部に煤付着。

遺物番号	遺構番号	台帳番号	器種	①胎土②焼成③色調④残存⑤器高×口径×底径(cm)	器形の特徴・文様要素・文様構成
26	D-40	AD-7 No.23・一括	深鉢	①中粒②良好③にぶい橙 ④口縁部片⑤(3.8)×-×-	口唇に沿って平行沈線を一周させる。地文に縄文。
27	D-40	AD-7 No.34	深鉢	①中粒②良好③赤褐④3/4残 ⑤32.2×(18.4)×9.6	口唇部断面三角形。口縁部に中空状突起を付す。口唇に沿って2条の隆帯が巡り、間に無文帯を配す。地文は縄文RL斜位。外面上半と内面に煤付着。
28	D-40	AD-7 No.25	深鉢	①中粒②良好③にぶい黄橙 ④胴～底部3/4残 ⑤(25.6)×-×13.6	底部からやや外傾ぎみに立ち上がり、胴中央部でわずかに膨らみ頸部に向う。頸部に隆帯を1周させ押圧痕を連続させる。地文は縄文RL。
29	D-40	AD-7 No.23・一括	深鉢	①中粒②良好③橙 ④頸～胴部片⑤(17.3)×-×-	頸部無文。頸部に隆帯を一周。胴部は地文の縄文RL。隆線3条で渦巻文を配す。渦巻文の下部に縦3条の隆線、左側に隆線が2条あるが形状は不明。
30	D-40	AD-7 No.31・一括	深鉢	①中粒②良好 ③橙④頸～胴部片 ⑤(15.2)×-×-	頸部・胴部上半に隆帯を一周させ区画する。頸部は無文。胴部上段は2条の隆帯を垂下し唐草文状の隆線文を配す。下段は2条1単位の沈線による重弧文等を配す。地文は撚糸文。
31	D-40	AD-7 No.22・一括 BD-45No.6・一括 AD-143No.14・一括	有孔鍔付土器	①中粒②良好 ③にぶい橙④口縁～胴部片 ⑤(9.8)×-×-	頸部に穿孔のある土器で、1点は同一個体の胴部で孔なし。頸部に隆帯を巡らせ、胴部は縄文磨り消し帯と沈線を配す。地文は縄文RL。孔なし胴部片は円形隆帯を貼付け地文縄文RL。
32	D-40	AD-7 No.26・27・30・一括	深鉢 大型	①中粒②良好 ③にぶい橙 ④口縁～胴部片 ⑤(42.6)×33.0×-	甕型で歪みあり。口縁に沈線を添えた円形文のある三角錐状突起を2単位配す。突起は耳形(3の字状)で頸部に繋ぐ。頸部下の肩部にやや幅のある隆帯を一周させる。器全体に縄文RLを施文する。隆帯上にも縄文痕があるので縄文は最後に施文したと思われる。
33	D-40	AD-7 No.33・一括 AD-143一括	深鉢	①中粒②良好③橙④口縁～胴部片⑤(13.1)×-×-	口端に沿い3条の沈線を一周する。口縁部は、U字状沈線の中に縦位の端沈線を配す。頸部にも沈線を巡らせる。地文縄文RL。
34	D-40	AD-7一括	浅鉢 大型	①中粒②良好③橙④口縁～体部片⑤(5.1)×-×-	口唇に沿って隆帯を貼付し肥厚する。無文。内外面煤・顔料付着。
35	D-40	AD-7 No.23・25・一括 BD-45No.9・一括 AD-143一括	浅鉢	①中粒②良好③赤褐 ④口縁～体部1/3残 ⑤(10.5)×-×-	口縁はくの字状に内湾し、肥厚する。無文。
36	D-40	AD-7 No.22・23・24・33 BD-45No.9	深鉢	①中粒②良好③にぶい黄橙 ④口縁部片⑤(33.9)×(44.0)×-	平口縁。H形の中空状突起を付し、その脇に眼鏡状の副突起が付く。口縁部は、曲隆線と沈線による弧状・直線文状を配す。
37	D-43	AD-143No.15 BD-68No.9 BD-70No.1 BD-93一括	深鉢	①中粒②良好 ③橙④ほぼ完形 ⑤(28.0)×14.4×9.6	口縁は2単位の波状を呈する。1対の波頂部から垂下した隆帯は頸部にある押圧文の隆帯に連結して区画とする。区画内には太めの沈線を1本～2本施す。斜行や連弧文状の沈線で文様構成をする。地文は縄文RL斜位。内面煤付着。
38	D-43	AD-143 No.9・11	深鉢	①中粒②良好③橙④胴部1/3残⑤(19.0)×-×11.5	深鉢の胴から底部。全面に縄文RL斜位施文。
39	D-43	AD-143 No.13・14	浅鉢	①中粒②良好③橙④2/3残 ⑤17.4×33.0×14.5	無文土器。内外面とも丁寧に調整されている。内外面の一部に煤付着。
40	D-43	AD-143No.3・11・13・16・一括	深鉢	①中粒②良好③明赤褐 ④口～胴部片⑤(26.6)×-×-	波頂部に鶏頭冠状突起を付す。その下から波底部に向かい横S字状モチーフの隆線を3条1単位付す。地文は縄文RL。
41	D-43	AD-143No.13・14・一括 BD-45一括	深鉢	①中粒②良好③赤褐④口縁部片⑤(10.5)×18.0×-	口端に3条の横位沈線を巡らせた口縁部で、横S字状隆線を4単位付すと考えられる。胴部は縄文LR施文。
42	D-43	AD-143No.4・6・9・12・一括	深鉢 大型	①中粒②良好 ③橙④口縁～頸部片 ⑤(24.5)×-×-	口縁部に突起あるが欠損して形状不明。頸部は相対連弧文を配し、相対間に菱形隆線区画。上段連弧文はJ字状2重隆線と三叉文を配す。その下に沈線と縦位竹管による短隆線を施し、小さな橋状把手を配す。
43	D-43	AD-143 No.4・7・一括	深鉢 大型	①中粒②良好 ③にぶい赤褐④口縁部片 ⑤(23.1)×-×-	平口縁。口唇上に4単位の主突起を付し、その間に環状の副突起を配するものと思われる。口縁部は、曲隆線を施し、中に沈線文・刺突文・三叉文等を配す。内面煤付着。
44	D-45	AD-145 No.1・2・3・5	深鉢	①中粒②良好 ③明赤褐④3/4残 ⑤40.5×23.5×11.0	4単位の波状口縁。波頂部に中空状突起、その下に小型の橋状把手を配す。頸部に指頭圧による隆帯を巡らす。胴部は頸部隆帯より4条の隆線を垂下する。隆帯には指頭圧文を付す。地文は縄文RL斜位。内面煤付着。
45	D-45	AD-145 No.1	深鉢	①中粒②良好 ③明赤褐④口～胴部片 ⑤(19.5)×(22.0)×-	口縁部は無文。頸部は2条の沈線を横位に施し、中に刺突文・刻目文を置き、沈刻の入る環状突起を配置。胴部は環状突起から垂下した隆線に縁取りの沈線・交互刻み目・刺突を施文。区画内も沈線文・渦巻文・刺突文等を施す。
46	D-46	AD-6 No.1・4・8	深鉢	①中粒②良好 ③橙④3/4残 ⑤25.2×(13.8)×8.7	口縁部無文。その下に1条の平行沈線を巡らす。頸部には1条の隆帯を巡らし、口縁部には3本1単位の沈線によるU字状文・重弧文の組み合わせを4単位配するものと思われる。胴部にも3本1単位の沈線によるクランク状文を3単位垂下す。また1条のL字状平行沈線をクランク状文に接して置く。地文は縄文RL横位。内面煤付着。
47	D-46	AD-6 No.11	浅鉢	①中粒②良好③赤褐 ④口縁部片⑤(6.1)×-×-	口唇に沿って隆帯を貼り付け肥厚する。口縁部は太い隆線を連弧文状に配す。内面顔料付着。補修孔あり。
48	D-49	BD-2 No.7・一括 BD-65No.2	深鉢	①中粒②良好③赤褐④7/10残 ⑤(14.1)×9.8×6.9	無文。胴部縦方向のみがき痕が目立ち朱の塗布らしき跡が見える。
49	D-49	BD-2一括	浅鉢	①中粒②良好③暗赤褐 ④胴部片⑤(6.0)×-×-	無文。内面顔料付着。
50	D-50	BD-1 No.16・18	深鉢	①中粒②良好 ③橙④ほぼ完形 ⑤35.3×27.0×(12.5)	口唇部は主突起を4単位付し、その間に小突起を配す。口縁部は曲隆線で主突起と小突起を連結し、その間を平行沈線を基本とする文様で玉抱き三叉文・三叉文・刺突文を組み合わせる。胴部は底部付近まで4条1単位の沈線を縦位に配す。その沈線の両側に爪形文を縦列に重ね、17群配す。
51	D-50	BD-1 No.20・一括	深鉢	①中粒②良好③暗赤褐④口縁～頸部片⑤(10.5)×-×-	口唇に沿って2条の沈線を一周させ、縦位刻みを添える。口縁部は4条沈線を連弧文状・横位・斜位に施す。地文は縄文RL。外面煤付着。
52	D-51	BD-220 No.1	深鉢	①中粒②良好 ③明赤褐④4/5残 ⑤(36.4)×19.8×(10.0)	口端下及び頸部に押圧された隆帯を巡らせ区画する。口唇には最頂部に鶏頭冠を付した中空状把手を対に配し、その中間には小型の突起を設け、下に橋状把手を付す。口縁は無文。口縁部には3～4条の平行沈線を連弧文状に配すが施文は丁寧ではない。胴部は無文。内外面の一部に煤付着。
53	D-51	BD-220 No.2	深鉢	①中粒②良好 ③橙④口縁部片 ⑤(24.5)×(37.6)×-	平口縁。口唇断面三角形。口唇に穿孔のある突起が付くと思われる。口端と頸部に隆帯が巡り区画。そのうち口端のものはヒダ状に施文。口縁部は上下に相対し隆線と沈線による連弧文を施し、橋状把手を付す。内面全体黒色。
54	D-51	BD-220No.4・13・15・19・20	深鉢	①中粒②良好③橙④9/10残 ⑤53.0×38.0×15.4	甕型。無文。底部から直立ぎみに立ち上がり、胴部上半に強い張りを持ち、頸部で括れ、口縁は外傾する。外面上半部、内面底部に煤付着。

遺物番号	遺構番号	台帳番号	器種	①胎土②焼成③色調④残存⑤器高×口径×底径(cm)	器形の特徴・文様要素・文様構成
55	D-51	BD-220No.7・8・9・10・一括	深鉢	①中粒②良好③にぶい赤褐④口縁～頸部片⑤(9.8)×(18.6)×-	無文の口端下に2重沈線と1条の沈線で口縁部を区画し、区画内は縦位の沈線を充塡する。頸部は、縄文施文で磨り消し状を呈す。
56	D-56	BD-45 No.8・9・一括	深鉢	①中粒②良好③明赤褐④口縁部片⑤(19.0)×-×-	口縁部は隆帯で飾る。口縁部の突起は円形板状で胴部に対し庇状に付き、ブリッジにより胴部に接続する。ブリッジ下方は2本の微隆線を垂下させる。庇状突起は3本の微隆帯を半円に配し、外側3本目は縦4条の隆帯となりのの字状で終る。地文は縄文RLを施文。
57	D-56	BD-45 No.9・20	深鉢	①中粒②良好③明赤褐④頸部～胴上半部⑤(22.9)×-×-	頸部に隆帯を巡らせ指頭押えと棒状工具で鎖状とする。胴部は上記隆帯から同様形状の隆帯で分割し3～4本の沈線でクランク状・渦巻状文を描く。胴部内面煤付着。
58	D-56	BD-45 No.17	深鉢	①中粒②良好③橙④口縁部片⑤(19.2)×-×-	波状を呈する口縁部で、孔を有する突起を左右対に付すと考えられる。胴部は隆帯に突起を付したと考えられる欠損痕がある。のの字状隆帯文あり。地文に縄文。
59	D-56	BD-45No.1・4・9・14・一括 AD-6一括	深鉢	①中粒②良好③橙④口縁～胴部1/2残⑤(35.2)×21.5×-	口縁部に中空状突起を4単位付し、頸部にブリッジ状に接続。頸部に縄文RLの地文。胴部は4条沈線のクランク文・半渦巻文・J字状沈線を配す。
60	D-56	BD-45No.1・4・9・11・12・14・15・19 AD-7一括	深鉢	①中粒②良好③橙④口縁～胴部4/5残⑤(33.5)×22.0×-	口縁部は中空の変形鶏頭冠状突起を2本のブリッジで頸部に繋ぎ、主突起間は横S字隆帯で連結する文様構成。頸部は縄文RL。頸部に隆帯を一周させ、平行沈線4条のクランク文を描く。主突起に鋸歯状小突起のなごりが見える。
61	D-56	BD-45 No.10	深鉢	①中粒②良好③にぶい赤褐④胴～底部片⑤(19.5)×-×9.8	胴部中位にやや膨らみを持つ筒形で、器面に縄文RLを施す。
62	D-56	BD-45 No.9・12・17・一括	深鉢	①中粒②良好③にぶい橙④口縁部片⑤(26.0)×(43.0)×-	口縁の波頂部に中空状突起を付け両脇を3本隆線の横S字状の幅広隆で次の波長部突起に連結させる。突起は4単位。隆線の結節部には渦巻状が付く。突起はブリッジ状把手を呈し、頸部に繋ぐ。地文は縄文RL。
63	D-56	BD-45No.8	浅鉢小型	①中粒②良好③にぶい赤褐④口縁片⑤(6.5)×(18.0)×-	口唇に沿って1条の隆帯を巡らす。無文。外面に顔料付着。内外面煤付着。
64	D-57	BD-154 No.1	深鉢	①中粒・輝石②良好③橙④1/5残⑤(25.5)×-×(12.0)	筒形状の胴部片。頸部で外傾。頸部と胴部の境に指押えのある隆帯を一巡させる。胴部は縄文LR横位を施す。
65	D-57	BD-154 No.2	深鉢	①中粒②良好③明赤褐④2/3残⑤(21.1)×-×9.1	口縁部欠損。底部から筒状に立ち上がり、頸部でラッパ状に開く。頸部には細かな指圧を施した隆帯が巡る。地文は縄文RL斜位。内面煤付着。
66	D-58	BD-175 No.1・4	浅鉢	①中粒②良好③橙④ほぼ完形⑤9.2×(13.2)×6.0	平口縁。口縁に双環状突起を1つだけ付け、楕円区画を4単位貼付。外面は丁寧な磨き。内面剝離痕。突起部煤付着。
67	D-58	BD-175 No.1・2	深鉢	①中粒②良好③橙④3/4残⑤38.5×15.3×(9.4)	平口縁。口唇に環状突起を1対、その下に橋状把手を付す。頸部には押圧された波状の隆帯を巡らせ区画する。ペン先状刺突文を無文の口端下及び環状突起内面に2条巡らす。また口縁部・胴部にもペン先状刺突列による渦巻文風の文様を施す。地文は縄文L縦位。外面上半及び内面煤付着。
68	D-58	BD-175 No.2	深鉢	①中粒②良好③にぶい橙④4/5残⑤(25.5)×-×10.2	頸部には半截竹管状による5本の平行沈線が巡るものと思われる。胴部には基本は4本の平行沈線による曲折文を施すが規則性は見られない。地文は縄文RL斜位。内面煤付着。
69	D-58	BD-175 No.5	香炉形土器	①中粒②良好③にぶい橙④脚台部⑤(12.8)×脚台(14.3)×11.2	縦長の円形の孔が5穴、その間に曲隆線・太めの沈線を配し、玉入り三叉文・刺突文を施す。脚台部上面に注口状の孔の痕が対角線上に4ヶ所確認できる。
70	D-64	BD-6 No.1・2・11	浅鉢大型	①中粒②良好③にぶい赤褐④1/3残⑤(22.0)×54.0×-	口縁部内湾。口唇肥厚。口縁部に太い隆帯の横位S字状文1対と背反J字文1対を配す。他は無紋。
71	D-64	BD-6 No.5	深鉢	①中粒②良好③橙④ほぼ完形⑤23.2×13.2×(9.0)	口縁部に突起を4単位設ける。突起間を2本の隆帯で連結させ、下段は交互に押圧文を施す。胴部は縄文RL斜位。内面炭化物付着。
72	D-64	BD-6 No.12	深鉢	①中粒②良好③にぶい橙④ほぼ完形⑤21.5×17.2×8.0	口縁と頸部には押圧文を施した隆帯を巡らす。地文に縄文。外面口縁部、内面底部付近に煤付着。
73	D-64	BD-6 No.13	深鉢小型	①中粒②良好③にぶい橙④胴～底部片⑤(9.5)×-×5.5	無文。内外面の一部に煤付着。
74	D-64	BD-6 No.7	深鉢	①中粒②良好③明赤褐④口縁～頸部片⑤(13.5)×-×-	3条の沈線を巡らせ、その下に3条1単位の沈線で逆J字文を施す。地文に縄文。
75	D-64	BD-6 No.3・4・8・一括	深鉢小型	①中粒②良好③にぶい赤褐④口縁～胴部片⑤(26.0)×-×-	口唇に沿って平行沈線を施す。頸部と胴部中位に隆帯を付し区画する。口縁部は、縦位の沈線を4条1単位で付す。胴部上半は、隆線をU字状・弧状に施し縁取りの沈線を添える。胴部下半は地文の縄文のみ施す。内外面煤付着。
76	D-65	BD-153 No.1・10	深鉢大型	①中粒②良好③橙④底部片⑤(10.5)×-×19.2	厚手の器で底部大きい。地文は縄文RL。微隆帯垂下に2条沈線・3条沈線を配す。
77	D-65	BD-153 No.2・5・6・11	深鉢	①中粒②良好③橙④胴部片⑤(25.5)×-×-	縦位に2条の沈線を付し、間に平行沈線を置き区画とする。区画内は4条1単位のクランク文を配す。地文は縄文RL。
78	D-65	BD-153 No.3	深鉢	①中粒②良好③明赤褐④口縁部片⑤(21.5)×-×-	口縁部は突起部でやや波状を呈す。口端に沿い2条の微隆帯を巡らせる(断面は工の字状を呈し、口唇2段に見える)。口縁の突起は眼鏡状小円を頭に板状把手をつける。頸部から胴部は連弧状の隆帯文を相対させ菱形を作り隆帯に2～3条の沈線を添える。
79	D-65	BD-153 No.3・7・13・一括	深鉢	①中粒②良好③橙④口縁部片⑤(19.2)×(38.0)×-	平口縁。中空の鶏頭冠状突起を4単位付けると思われる。施文は、隆線による渦巻文・連弧文が見られる。
80	D-65	BD-153 No.7	深鉢	①中粒②良好③橙④口縁部片⑤(17.4)×-×-	平口縁。鶏頭冠状突起を付すが、一部欠損。口端下位は円環状突起を付す橋状把手が横位に付き、隆線に一部刻みを施す。口縁部は、隆線による相対する連弧文を施す。内外面の一部に煤付着。に隆帯による中空突起(鶏頭環状か欠損している)を付け、刻み隆帯・山形状貼付の細隆帯を配す。頸部は地文なく、連弧状に隆帯を相対させている。
81	D-65	BD-153 No.7	深鉢	①中粒②良好③橙④口縁部片⑤(23.6)×-×-	平口縁に細隆帯を配した中空状突起を付ける。隆起線で連弧状相対させて描き沈線を添える。菱形状区画内には山形沈線文を垂下させる。区画外に蕨手状文する。その周りにかすかに縄文痕あり。一部に煤付着。
82	D-65	BD-153 一括	三角柱形土製品	①中粒②良好③橙④一⑤長さ7.0×幅4.5×高さ5.0	正面は沈線による3重の長方形区画内に沈線文を施す。底面は無文でそり気味で、剝落痕と思われる。側面は、正三角形に近い形状で、沈線による2重の三角形区画内に貫通孔と小孔2つを持つ。

遺物番号	遺構番号	台帳番号	器種	①胎土②焼成③色調④残存 ⑤器高×口径×底径(cm)	器形の特徴・文様要素・文様構成
83	D-65	BD-153 No.4・5・8・9	深鉢	①中粒②良好③にぶい橙④口縁部片⑤(15.7)×(20.0)×-	口縁に中空状主突起を付す。主突起の内側に横S字状隆線。副突起は横S字状隆線を中心とした中空状突起。突起は、主・副4単位。
84	D-65	BD-153 一括	深鉢	①中粒②良好③にぶい赤褐④口縁部片⑤(21.6)×-×-	突起を支える把手下に眼鏡状突起を付し、曲隆線・太めの沈線・刺突文を付す。
85	D-65	BD-153 No.9・12	浅鉢 大型	①中粒②良好③にぶい橙④口縁～底部片⑤(9.8)×-×-	口唇に沿って1条の隆帯を巡らせ、肥厚する。体部は、隆線による楕円区画を配す。隆線に顔料付着。内外面煤付着。
86	D-65	BD-153 一括	深鉢	①中粒②良好③赤褐④口縁部片⑤(5.3)×-×-	口端には平行沈線を一周させその下に沈線による連弧文・玉抱き三叉文を配す。
87	D-65	BD-153 No.6	深鉢	①中粒②不良③橙④口縁部片⑤(6.0)×-×-	横S字状隆線を付す。
88	D-69	BD-9 No.4	鉢 小型	①細粒②良好③にぶい赤褐④口縁部片⑤(4.2)×-×-	口縁無文。頸部に浮刻による山形状文を配し、沈線を添える。
89	D-72	BD-50一括 BD-86一括 BD-96No.1	深鉢 小型	①中粒②良好③明赤褐④胴～底部片⑤(9.7)×-×8.0	沈線により人物像を胴部に描き、その周りに沈線を添える。地文に縄文。
90	D-73	BD-52 No.2	浅鉢 大型	①中粒・雲母②良好③橙④完形⑤13.5×45.8×(16.0)	口縁に沿って沈線2条を巡らす。他は縄文LR横位に全面施文。胎土に多量の雲母を含む。口縁部に補修孔1ヶ所あり。内外面煤付着。
91	D-77	BD-131 一括	深鉢 大型	①中粒②良好③にぶい褐④頸部～胴部片⑤(24.2)×-×-	1条の隆帯を巡らせて上下を区画する。頸部は、隆線上に小突起を付して連結して区画し、3～4条の縁取りの沈線を施す。また、隆帯に接して隆線による円形文を施し、中に沈線による十字文を充てる。胴部は無文。内面煤付着。
92	D-78	BD-132 No.1	深鉢	①中粒②良好③にぶい橙④ほぼ完形⑤32.8×18.0×(10.5)	平口縁。口唇部は外傾し、内面で稜を持つ。口縁部は膨らみを持ち、胴部は直線的。器面全体をRL縄文を密に施す。
93	D-78	BD-132 一括	深鉢	①中粒②良好③橙④1/5残⑤(15.8)×(12.4)×9.2	口縁部片と底部片とあるが同一個体と思われる。小型の甕形の土器で口縁部は無文。胴部に地文の縄文RL斜位を施す。内外面煤付着。
94	D-80	BD-155 No.1	浅鉢	①中粒・雲母②良好③橙④ほぼ完形⑤9.5×15.0×9.6	平口縁。口縁下部に細い刻目の隆帯を一周させ胴部と区画する。口縁に沿い板状で刻目のある隆帯を用いた半円眼鏡状突起4単位を貼付。内外面に煤付着。
95	D-84	BD-183 No.1	深鉢	①中粒②良好③橙④胴下半1/3残⑤(12.0)×-×7.7	縄文の地文に半截竹管状工具による3本の平行沈線でU字文を4単位巡らせ、その間に短い平行沈線を縦位に施す。胴下半部にも相対するように逆U字文を施している。底部に網代痕。内面一面に煤付着。
96	D-92	AD-13 No.6	深鉢 大型	①中粒②良好③にぶい橙④3/5残⑤50.0×34.4×(12.8)	平口縁。頸部で括れ、口縁部は開きぎみに立ち上がる。口縁部のみ隆線による楕円区画文を4単位付す。区画内には縁取りの沈線を2重に施す。胴部は無文。外面胴部の肩部付近に煤付着。
97	D-92	AD-13 No.7	深鉢 小型	①中粒②良好③にぶい橙④口縁部片⑤(8.6)×-×-	口縁に鼓状突起を付し、波状の隆線には刻みを施す。内面煤付着。
98	D-93	BD-13 No.1	深鉢	①中粒②良好③橙④3/4残⑤(22.2)×-×(9.0)	口縁は、波状を呈すると考えられる。口縁部と胴部とは大きく異なる。幅広の平行沈線を口縁に沿って1条と頸部に巡らせ、その中を爪形文の入った隆帯を渦巻文様に配し、間に爪形文・平行沈線文・刻目文を付す。また隆線の端部に位置する小突起を4単位配するものと思われる。胴部には縦位の平行沈線を中位まで施し、下位は無文である。
99	D-93	BD-13 No.2	深鉢	①中粒・雲母②良好③にぶい橙④1/3残⑤(13.0)×28.0×-	平口縁。口縁部は内湾し、口唇部は断面三角形を呈す。口唇に沿って幅広で低い隆帯を巡らせ、その下にV字状の突起を4単位付すと思われる。口縁部は無文。胎土に輝石と雲母を含む。内外面に煤付着。
100	D-93	BD-13No.1・2・3 AY-14グNo.1	深鉢	①中粒②良好③にぶい橙④4/5残⑤43.7×(41.5)×13.0	基本は平口縁。文様構成は頸部を境に上と下で大きく異なる。口端に大型の中空状突起を対角上に2種類付け、その中間に小突起を付し、波状隆帯で連続する。口縁には連弧文状の隆帯を向かいに合わせに巡らせ、間にRL縄文を充塡。胴部は上段に平行沈線と、その他は3本の沈線を4群巡らせ区画し、その中を連続山形文で埋める。またその施文技法は、三角形状に削り取り、文様を描出している。底部付近は無文。
101	D-93	BD-13 No.9	深鉢	①中粒②良好③にぶい赤褐④口縁部片⑤(6.8)×-×-	口唇上に突起の剝落跡。口縁部は、長方形や縦位の平行沈線文を施す。地文は縄文LR。
102	D-102	BD-65 No.18	深鉢	①中粒②良好③橙④完形⑤(18.5)×8.5×-	口端は円環状突起を1対付け、その中間には爪形文のある隆帯の渦巻文を配置する。また胴部の文様も円環状突起から垂下した爪形文の入った隆帯とJ字形の隆帯を主体としてその中を平行沈線で細かく不定形に区画し、胴下半の膨らみ部にも上下に分ける区画が見られる。区画内の施文技法としては沈線による渦巻文・斜行沈線文・爪形文がある。
103	D-104	BD-174 No.1・一括	深鉢	①中粒②良好③にぶい橙④2/5残⑤(19.9)×(23.3)×9.6	文様帯は、口縁・頸部・胴部に3分される。口端に沿い指押え隆帯を一周させ、突起は欠損しているが基部に縦位沈線と刺突文がある。地文は縄文RL。頸部は、3条の平行沈線で上下2段に巡らせる。上下の間に地文の縄文RLと円形刺突文あり。胴部は、円形刺突文を配した4条の平行沈線で5分割区画し、区画内は縄文RLを施す。
104	D-113	BD-68 No.8	深鉢	①中粒②良好③橙④完形⑤(18.7)×(57.0)×-	爪形文を施した横位の隆帯で区画され、区画内にも爪形文を施した隆帯を配し、その中に幅広で三角枠を基本とした文様の浅い沈線と三叉文を施す。
105	D-113	BD-68 No.14・20・22・一括	深鉢	①中粒②良好③橙④完形⑤22.0×11.0×9.1	口縁部は、短く直立する。口端下と頸部に深めの平行沈線で区画。連弧文・逆J字文・平行沈線を描き、連弧文内及び間の下に三角形文を配す。胴部は平行沈線による曲折文を施す。地文は縄文。外面では口縁部と胴部上半に、内面ではほぼ全面に煤付着。
106	D-113	BD-68No.20・一括 BD-45No.12 BD-50一括 BD-86一括 AD-7一括	深鉢	①中粒②良好③明赤褐④胴～底部片⑤(17.6)×-×(9.5)	2～3条の沈線を横位・縦位・弧状に施す。地文に縄文。外面煤付着。
107	D-113	BD-68 No.7・13	深鉢 大型	①中粒②良好③にぶい赤褐④口縁部片⑤(19.5)×(34.0)×-	中空上の主突起を4単位配し、その間に副突起を付すものと思われる。主突起の上部は鋸歯条でその下に大きな孔を置き、橋状把手を付ける。口縁部は、縦位・横位の沈線を施す。
108	D-114	BD-69 No.1	深鉢	①中粒②良好③にぶい橙④胴部片⑤(12.6)×-×-	3条1単位の沈線による円形文・クランク文と隆帯波状懸垂文を施す。

遺物番号	遺構番号	台帳番号	器種	①胎土②焼成③色調④残存⑤器高×口径×底径(cm)	器形の特徴・文様要素・文様構成
109	D-115	BD-141 No.1	深鉢	①中粒②良好③にぶい橙 ④1/3残⑤(15.5)×-×8.4	胴部から底部のみ残存し、筒形を呈する。縄文はRL斜位に施す。内外面煤付着。
110	D-115	BD-141 No.2・3・4	深鉢	①中粒②良好 ③橙④4/5残 ⑤26.6×19.6×10.9	頸部に1条の隆帯を巡らせ、口唇部から頸部まで2本の細隆線を縦位に4単位施し、区画する。その中に細隆帯及び口唇部に沿って3本の沈線を施す。地文に縄文が認められるが隆帯貼付後施文している。
111	D-115	BD-141 一括	浅鉢 小型	①中粒②良好③赤褐 ④口縁部片⑤(5.6)×-×-	口縁に1条の隆帯を施し、その下に円錐状小突起を2個付す。地文に縄文。内面煤付着。
112	D-116	BD-142 No.1	深鉢	①中粒②良好③橙 ④4/5残⑤(27.5)×-×10.5	口縁部欠損。頸部～口縁は幾重にも重なる弧状隆線を施文。胴部は、8の字耳朶状突起4単位を曲隆線と曲隆線渦巻文からなる。内外面煤付着。
113	D-116	BD-142 No.4	深鉢	①中粒②良好 ③橙④4/5残 ⑤25.7×14.5×8.6	口唇は肥厚。頸部には幅広の隆帯が巡り、口縁部と胴部を区画する。口縁部の文様は横位の逆S字文を5単位施すと思われる。頸部は無文。胴部は頸部隆帯から垂下する2条の隆帯で4単位に区画される。その隆帯に沿って平行沈線を施す。地文は縄文L縦位。内外面の上半及び底部内面に煤付着。
114	D-119	BD-186 No.1	深鉢	①中粒②良好 ③にぶい赤褐 ④ほぼ完形 ⑤34.9×19.4×9.0	口縁部にS字状突起を横位に付し、中空状突起を6単位設ける。頸部と胴部に3本の隆帯をめぐらせ、またその間には2本のペン先状刺突列を施す。上下を3段に区画し、胴部上半に上から下がる渦巻文を1対と、下から延びる渦巻文1対を配す。隆帯中央にペン先状刺突列を施す。地文は縄文RL斜位。底部に僅か網代痕。胴部内面に煤付着。
115	D-122	BD-66 No.2	深鉢	①中粒②良好 ③にぶい橙④口縁部片 ⑤(44.3)×-×-	主・副突起を4単位付す。主突起下には橋状把手を付す。副突起は縦位8字状(上は孔あき、下は円形くぼみ)を付ける。口縁部文様は、J字状隆帯に沿う渦巻沈線・曲隆線・沈線に囲まれた三角状文。内外面の一部煤付着。
116	D-122	BD-66No.12 AD-7一括	浅鉢	①中粒②良好③橙④口縁～体部1/3残⑤(11.3)×(36.0)×-	口縁は、くの字状に内湾する。口唇を肥厚し外面に段差を付ける。無文。外面に顔料付着。内面煤付着。
117	D-122	BD-66一括 BD-68一括	浅鉢 小型	①中粒②良好③にぶい赤褐 ④口縁部片⑤(5.1)×-×-	口唇に隆帯を貼付し肥厚する。口縁部にも隆線による施文あり。
118	D-127	BD-70No.1・一括 BD-68No.4・一括 BD-93一括	浅鉢 大型	①中粒②良好③橙 ④口縁～体部片 ⑤(15.0)×50.0×-	孔を有する双波状口縁。口唇に沿って隆帯を貼付する。無文。
119	D-141	BD-73 No.1	深鉢	①中粒・雲母②良好③にぶい橙 ④口縁～頸部片⑤(14.8)×-×-	横位の隆帯により3分割される。無文の口縁部に把手痕あり。頸部は隆線による楕円区画内に、縦位の点線を充塡する。
120	D-142	BD-74 No.1・2・一括	深鉢	①中粒・雲母②良好③にぶい橙 ④頸部～胴部片⑤(9.2)×-×-	隆線による横位の楕円区画内に逆U字状沈線、隆線上に刻みあり。橋状把手を付す。
121	D-143	BD-75 No.1・一括	深鉢	①中粒②良好③にぶい橙④口縁～胴部片⑤(18.3)×-×-	口縁部は隆線による横S字状付す。頸部に1条の隆帯を巡らす。地文に縄文あるが、隆帯にも施文。
122	D-153	BD-120 No.1	深鉢	①中粒・輝石 ②良好 ③橙 ④4/5残 ⑤17.5×16.0×8.8	口縁は大きめの波頂部を対に配し、その対角線上に小さめの波頂のものを2単位付す。口縁部は縦長の楕円形の隆帯を配し、縁取りの沈線を外側は2条、内側は1条施す。また大波頂部下とその付近からY字状に垂下する隆帯にも縁取りの沈線を2条施す。胴部は楕円形隆帯の下方のみ逆U字状隆帯を配し、対面には2条の沈線による逆U字状文を施す。また不規則に縦位・横位の数条の短い沈線を配す。地文は縄文。内面煤付着。
123	D-153	BD-120 No.2	浅鉢	①中粒・雲母②良好③明赤褐 ④2/3残⑤(8.4)×-×-	胴～底部。内外面丁寧な磨きを施す。また接合はされないが小突起を付す口縁部片が出土している。口縁・底部欠損。
124	D-154	BD-150 No.2	浅鉢 小型	①中粒・雲母②良好 ③にぶい黄橙④4/5残 ⑤5.4×12.7×5.6	口縁部は隆帯内に楕円区画文を4単位配すると思われる。区画内には長楕円と2条の沈線を施文。内面一面と外面の一部煤付着。また隆帯下に1条の沈線を横位に施し、口縁部と胴部を明瞭にしている。底面中央部は若干上げ底気味。
125	D-154	BD-150 No.1・一括	浅鉢 小型	①中粒②良好③にぶい橙 ④3/4残⑤5.4×(19.4)×6.4	口唇部は三角形で、双波状口縁を呈すると思われる。無文。内面稜あり。
126	D-154	BD-150 No.4・5	深鉢	①中粒・雲母②良好③にぶい橙④胴～底部⑤(25.1)×-×-	微隆線を垂下し、爪形文を配す。
127	D-122	BD-66一括 BC-12グ一括	浅鉢	①中粒②良好③にぶい黄橙 ④1/3残⑤(19.5)×59.6×-	4単位の双波状口縁。口唇部は外に開く。内面に稜を持つ。外面全体無文。内外面煤付着。
128	D-160	BD-99 No.1	深鉢	①中粒・雲母見えず②良好 ③にぶい橙④1/3残 ⑤(19.3)×-×9.0	文様はU字・逆U字状の隆帯を配し、横位の刻目列も多段に施す。胎土に細かな輝石を僅かに含む。内面煤付着。
129	D-177	BD-105 No.1	深鉢	①中粒②良好③橙 ④2/3残⑤(15.5)×-×9.0	隆帯をY字状・H字状に4ヶ所設け、間に篦状工具による太めの沈線で渦巻文等を施す。
130	D-182	BD-121一括	鉢	①細粒②良好③赤褐 ④口縁部片⑤(5.8)×-×-	横位の隆線を2条施す。
131	D-185	BD-209 No.1	深鉢	①中粒②良好 ③にぶい橙④4/5残 ⑤22.0×16.8×11.8	口縁部は山形状隆線と半環状隆線文を組み合わせた突起4単位。半環状隆線文4単位を板状隆帯で連結。頸部から胴上半はJ字状隆帯で先端縦の隆線で飾る瘤状止めし、これに沿う隆帯を延長させ胴部を一周させ胴下半と区画。
132	D-185	BD-209 No.2	深鉢	①中粒②良好 ③明赤褐④2/3残 ⑤(18.5)×11.8×-	平口縁。口唇部には中空状突起が付き、その下に橋状把手を置く。欠損しているが対面にも同様のものが付されていたと思われる。頸部には2条のペン先状刺突列。胴部上半は連弧文状に隆帯が4単位配され、中に円錐状突起を付す。隆帯上には刻目を施し、その両側に沈線を置く。円錐状突起の周りには2本の沈線・ペン先状刺突列を置く。円錐状突起上にも刻目が付く。内面煤付着。
133	D-185	BD-209 No.3	深鉢	①中粒②良好③橙④1/6残 ⑤(11.9)×-×8.8	爪形文を施し隆帯が3本巡るものと思われる。その上部には竹管状工具で沈線・円形刺突文や三叉文が認められる。僅か縄文あり。内面煤付着。
134	D-186	BD-113 No.1	深鉢	①中粒②良好③橙④胴～底部片⑤(8.9)×-×9.5	胴部下半から底部。欠損部に沿って結節のある隆帯が一巡している。内面全体に煤付着。
135	D-196	BD-213一括 BH-12グ一括	鉢	①細粒②良好③黒④口縁部片 ⑤(3.3)×-×-	口縁に沿って3条の沈線を巡らす。その下に斜位の沈線と刺突文を配す。
136	D-199	DB-216 一括	土製 円盤	①中粒②良好③にぶい橙④完形⑤縦4.5×横4.5×厚み1.1	深鉢胴部を打ち欠き転用。
137	D-201	BD-83 No.1	深鉢 小型	①中粒②良好③明赤褐④胴～底部片⑤(7.4)×-×5.3	無文。外面の一部と内面に煤付着。

遺物番号	遺構番号	台帳番号	器種	①胎土②焼成③色調④残存⑤器高×口径×底径(cm)	器形の特徴・文様要素・文様構成
138	D-207	D-85 No.4	深鉢	①中粒②良好 ③橙④ほぼ完形 ⑤38.1×20.5×11.6	平口縁。口縁の隆帯は波状に巡り、それに沿って1条の刺突文。口唇部には大小の突起を対比させて付す。大突起は山形で2つ付くものと思われ、両脇に円環状突起を、下に円形状の隆帯を2つ配置。小突起に円形文の隆帯を付す。大小の突起の間には2条の沈線。頸部・胴部下半は無文。胴部は爪形文のある隆帯が蛇行し、三角枠の交互配列を設け、縁取りの平行沈線を施す。三角枠内に平行沈線・爪形文・平行刺突文を施す。頸部を中心に煤付着。
139	D-209	BD-88 一括	浅鉢 小型	①細粒②良好③橙④口縁～胴部片⑤(5.1)×-×-	口縁部は2条の横位の沈線内にペン先状刺突による山形文・三叉文・キャタピラ文を配す。胴部は無文。
140	D-211	BD-51・87・88 一括	鉢	①中粒②良好③にぶい赤褐 ④口縁部片⑤(4.6)×-×-	口端に沿って横位の平行沈線を配し、その下に斜位の平行沈線を施す。
141	D-212	BD-89 No.1	深鉢	①中粒②良好 ③にぶい橙④ほぼ完形 ⑤33.0×20.5×10.0	環状の突起を4単位付け、その間に小型の副突起を配置する。器面には曲隆線をJ字状・逆J字状・渦巻状に施し、間に沈線を埋め三叉文・玉抱き三叉文を置く。胴部下半は無文。胴部下半と内面の一部に煤付着。
142	D-226	BD-43 No.1・2・一括	深鉢 小型	①中粒②良好③にぶい橙④口縁～胴部片⑤(10.1)×-×-	口唇部側面に隆帯を付し、圧痕を施す。橋状把手を付す。口縁部は無文。胴部は縄文RLを施す。
143	D-227	BD-42 No.1	深鉢	①中粒②良好 ③橙④完形 ⑤38.1×22.5×10.4	文様構成は、口縁部と胴部で2分割される。波頂部には2種類の中空状突起を交互に付け、その下に2本のブリッジで支えとしている。波底部にも小突起を付し1本のブリッジで支えている。また各々の突起の間を横S字紋が連続していると思われる。胴部は縦走する3本1単位の隆帯で4区画にわけ、上下も2本の隆帯で区画しその交差部には小さな円形の文様を付す。区画内には各々1つずつJ字状の隆帯を、下段の1区画のみ2重の隆帯を付ける。地文は縄文RL斜位。
144	D-227	BD-42 No.2	深鉢	①中粒②良好 ③橙④完形 ⑤(31.5)×21.0×(9.8)	口縁部はM字状隆帯で囲まれた眼鏡状突起が2単位付く。口縁部無文帯下位と頸部に沈線が一周する。区画内に幅広沈線円と、その中心に小円の磨り消しの円3ヶ所と磨り消しのないもの1ヶ所で4単位の施文。口唇部に突起を付したと思われるが不明。地文は縄文RL縦位。腰部は大きく張り出す。
145	D-227	BD-42 No.5・6・7・8	深鉢	①中粒②良好③にぶい赤褐 ④口縁～頸部片 ⑤(22.7)×(34.0)×-	平口縁。口縁の主突起は、眼鏡状突起の隆線を延長してハート形を形成し、4単位と考えられる。副突起は破損し、形状不明である。文様は、曲隆線・隆線・コイル状突起・玉抱き三叉文等が施文される。煤付着。
146	D-228	BD-55 No.1	深鉢	①中粒②良好③明赤褐 ④胴部片⑤(14.1)×-×-	刻みの入る横帯区画文内に蛇行隆帯文を配し、縁取りの平行沈線を添える。
147	D-228	BD-55No.8・一括 BG-7・8グNo.20	深鉢	①中粒②良好③橙 ④胴部片⑤(15.8)×-×-	2条の縦位の隆線に刻みを施し、縁取りの平行沈線が沿う。小突起あり。
148	U-1	BI-7グ No.1	深鉢	①中粒②良好 ③橙④2/3残 ⑤(45.7)×(29.0)×-	1号埋甕。波状口縁。眼鏡状突起を波頂部に付し、その下に橋状把手を置く。口唇に沿って押圧文の隆帯を置く。また眼鏡状に曲隆線が下がる。地文は縄文。また把手上にも縄文をころがす。内外面の一部に煤付着。
149	U-2	BJ-12グ No.2	深鉢	①中粒②良好③橙 ④1/3残⑤(20.0)×-×12.5	2号埋甕。口縁部欠損。無文。縦方向撫での痕跡が見える。内面煤付着。
150	U-3	BJ-12グ No.1	深鉢	①中粒②良好 ③明赤褐④2/3残 ⑤(22.9)×(24.8)×-	3号埋甕。無文の口端下に環状突起を4単位付し、その間を小突起付きの隆線で連結する。胴部には対の環状突起下から隆線を垂下し、大きく前後に区画し、その中も曲隆帯を配し分化する。隆線上には渦巻文や押圧文が見られる。隙間には縁取りの平行沈線・刻目文・三叉文の沈刻等を施す。底部欠損。
151		AY-14グ No.8・23・40	深鉢	①中粒②良好③にぶい橙④口縁～胴部片⑤(22.2)×-×-	文様は曲隆線・沈線・眼鏡状孔あき突起で、頸部に小さな橋状把手が付く。
152		BA-13グ 一括	深鉢	①中粒・雲母②良好 ③にぶい橙 ④口～胴部片 ⑤(21.8)×(22.8)×-	波状を呈する口縁と思われる。口縁部下に段を設け、段上に爪形文を巡らす。縦位に2条の押引文を施し、その縁と口唇に沿って平行沈線で区画をしている模様。中には1条の波状文の沈線を置く。胴部は段下に1～2条の平行沈線を巡らせ、その下部に逆U字状に爪形文を巡らす所もある。胴部中位には3条の沈線による渦巻文を施す。地文は縄文RL縦位で口端にも縄文あり。内面煤付着。
153		BA-14グ No.6・一括	深鉢 小型	①中粒②良好③にぶい赤褐 ④口縁部片⑤(4.2)×-×-	口唇に渦巻状の小突起を付す。口縁に沿って3条の沈線を施し、縦位の短沈線を付す。口唇上に顔料付着。
154		BA-14グ一括 BD-14グNo.1	深鉢	①中粒②良好③橙④胴部片 ⑤(17.6)×-×-	眼鏡状突起を中心に曲隆線でつなぎ太めの沈線が沿う。間に円形文・鋸歯状文の沈線を配す。
155		BB-13・14グ No.3・4・5・一括 J-1一括	深鉢 大型	①中粒②良好③橙 ④口縁～胴部片 ⑤(59.6)×-×-	口縁部は、2条1単位の隆帯を2単位巡らせ間に地文の縄文。頸部は、横位の隆起線を7条巡らせ、橋状把手を付す。胴部は、曲隆線上にコイル状・眼鏡状小突起を付し、間に隆起線・玉抱き三叉文等を配す。
156		BC-12グ 一括	浅鉢	①中粒・雲母②良好③橙 ④1/2弱残⑤9.5×16.0×11.0	口唇部は断面三角形。赤色塗彩あり。内外面丁寧な磨き。胴上半部に煤付着。
157		BD-14グ No.1・5	深鉢	①中粒②良好③橙 ④胴部片⑤(25.0)×-×-	円環状突起・キャタピラ文・ペン先状刺突文を施す。No.1と5は同一個体。
158		BE-12グ 一括	深鉢	①中粒②良好③橙 ④1/3残⑤(15.5)×-×7.5	胴中央部でわずかに膨らみ、頸部で括れ口縁部で外傾すると思われる。器面全体にLR斜位縄文施文。外面の一部と内面底部付近煤付着。
159		BF-12グ 一括	深鉢 小型	①中粒・雲母見えず②良好 ③明赤褐④胴～底部片 ⑤(15.6)×-×-	2条に沈線による方形区画。区画内には縁取りの刻み文を付す。内面煤付着。
160		BF-16グ No.1	深鉢	①中粒②良好 ③にぶい橙④1/3残 ⑤19.7×(15.5)×-	口縁に円弧状・コイル状の突起を4単位付す。頸部は無文。頸部と胴部の境に隆帯を巡らし3分割する。胴部は楕円形・弧状の隆帯を配し、縁取りの沈線を施す。また隆帯上や中に環状等の小突起を付す。
161		BF-16グ 一括	深鉢	①中粒②良好③明赤褐 ④胴部片⑤(8.0)×-×-	沈線・隆線・隆線上の刻み文。
162		BG-15グ 一括	浅鉢 小型	①細粒②良好③にぶい橙 ④口縁部片⑤(5.5)×-×-	波状口縁。無文。
163		BH-16グ一括	深鉢	①中粒・雲母②良好 ③にぶい赤褐 ④胴部片⑤(21.3)×-×-	胴部は、Y字状・波状の懸垂文で区画し、横位の爪形状の刻み目列を施す。内外面煤付着。
164		BI-14グ 一括	深鉢	①中粒②良好③明赤褐 ④1/4残⑤(14.0)×-×(9.0)	胴部は、隆線の両側に2条の沈線を添えた文様を垂下させ4単位に区画し、区画内に山形沈線文を縦位に施文する。地文は縄文。内面煤付着。

第27表　石器観察表

観察表の遺構番号は報告書の付番、台帳番号は調査時の付番を表す。（　）は現存値を表す.

遺物番号	遺構番号	台帳番号	器　種	長軸(cm)	短軸(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石　材	備　考
165	J-1	BJ-1NO12	打製石斧	11.3	4.8	1.6	130.0	黒色頁岩	
166	J-1	BJ-1PIT4S1	凹石	15.5	11.9	3.3	920.0	安山岩	
167	J-1	BJ-1S20	石皿・多孔石	20.7	11.8	4.1	1220.0	安山岩	
168	J-1	BJ-1S21	石皿・多孔石	(25.5)	(21.3)	(6.7)	(2850.0)	安山岩	1/2残
169	J-1	BJ-1S22	石皿・多孔石	(30.0)	(14.7)	(6.0)	(3280.0)	安山岩	1/3残
170	J-1	BJ-1一括	磨石	11.4	6.8	3.8	570.0	安山岩	
171	J-1	BJ-1一括	石鏃	(3.0)	2.2	0.4	(2.7)	黒曜石	凸基有茎鏃　基部欠損
172	J-1	BJ-1一括	石鏃	(2.3)	1.7	0.4	(1.3)	チャート	凹基無茎鏃　先端欠損
173	J-1	BJ-1一括	その他	8.7	5.8	1.0	62.1	黒色頁岩	剝片
174	J-1	BJ-1一括	削器	6.5	4.3	1.5	48.3	頁岩	
175	J-1	BJ-1一括	磨・凹石	9.9	7.6	4.4	480.0	安山岩	
176	J-2	BJ-2S1	磨石	15.0	9.5	3.8	880.0	安山岩	
177	J-2	BJ-2S2	石鏃	2.3	1.0	0.2	0.8	チャート	凹基無茎鏃
178	J-2	BJ-2S3	石鏃	(3.2)	(1.5)	0.3	(2.1)	黒色頁岩	凹基無茎鏃　基部欠損
179	J-2	BJ-2S4	石鏃	(3.2)	(1.3)	0.2	(1.3)	黒色頁岩	凹基無茎鏃　基部欠損
180	J-2	BJ-2S8	打製石斧	9.8	4.4	1.5	74.7	黒色頁岩	
181	J-2	BJ-2S14	打製石斧	8.0	4.2	1.2	59.8	黒色頁岩	
182	J-2	BJ-2S18	打製石斧	9.3	4.6	0.9	51.4	黒色頁岩	
183	J-2	BJ-2S22	石皿	25.2	15.5	6.6	2590.0	安山岩	
184	J-2	BJ-2S25	打製石斧	12.1	4.7	2.2	180.0	黒色頁岩	
185	J-2	BJ-2S29	打製石斧	12.4	4.2	1.5	130.0	黒色頁岩	
186	J-2	BJ-2S30	石匙	8.2	6.2	1.2	50.7	黒色頁岩か	
187	J-2	BJ-2一括	打製石斧	8.8	3.1	1.2	50.3	黒色頁岩	
188	J-2	BJ-2一括	その他	7.2	3.5	1.4	36.8	黒色頁岩	剝片
189	J-2	BJ-2一括	石鏃	2.3	1.3	0.3	1.2	黒色頁岩	凹基無茎鏃
190	D-16	BD-11一括	磨石	15.7	7.6	4.6	900.0	安山岩	
191	D-40	AD-7S1	打製石斧	12.8	5.6	1.9	160.0	砂岩質泥岩	
192	D-40	AD-7S2	石皿・多孔石	(23.0)	(14.6)	(5.1)	(2310.0)	安山岩	1/2残
193	D-40	AD-7一括	打製石斧	10.9	7.4	1.0	75.4	頁岩	
194	D-40	AD-7一括	打製石斧	15.1	5.2	2.1	140.0	頁岩	一部欠損　自然面
195	D-40	AD-7一括	磨石	13.2	7.6	5.4	620.0	安山岩か	
196	D-43	AD-143S1	凹石	11.0	9.0	3.7	620.0	安山岩	
197	D-43	AD-143S2	石皿・多孔石	(18.5)	13.6	7.5	(1640.0)	安山岩	9/10残
198	D-43	AD-143S3	石皿・多孔石	(26.8)	(18.5)	(10.2)	(6000.0)	安山岩	1/2残
199	D-43	AD-143一括	打製石斧	11.6	4.1	1.4	101.6	黒色頁岩	
200	D-43	AD-143一括	打製石斧	12.1	4.7	1.6	113.7	黒色頁岩	
201	D-46	AD-6S1	その他	10.7	4.8	1.3	63.6	黒色頁岩	
202	D-46	AD-6S4	打製石斧	13.4	4.7	1.6	150.0	黒色頁岩	
203	D-46	AD-6S6	打製石斧	9.6	4.2	1.8	107.6	黒色頁岩	
204	D-46	AD-6S9	打製石斧	11.7	5.2	1.4	89.4	頁岩	
205	D-46	AD-6S14	磨石	12.8	8.5	4.5	770.0	安山岩	
206	D-46	AD-6一括	打製石斧	14.0	5.2	2.0	170.0	頁岩か	
207	D-47	AD-5一括	打製石斧	9.0	5.0	1.5	76.1	黒色頁岩	
208	D-49	BD-2S3	打製石斧	9.8	5.3	2.5	119.2	黒色頁岩	
209	D-49	BD-2S4	磨・凹石	11.9	8.3	3.7	560.0	安山岩	
210	D-50	BD-1NO8	棒状	20.2	6.4	5.8	1110.0	安山岩	敲打痕
211	D-50	BD-1NO9	打製石斧	12.4	4.1	1.9	98.6	黒色頁岩	
212	D-50	BD-1NO15	棒状	13.8	3.2	1.6	111.4	結晶片岩	
213	D-51	BD-220NO3	削器	5.8	5.3	1.1	41.9	黒色頁岩	
214	D-51	BD-220一括	打製石斧	11.4	5.5	1.6	104.5	黒色頁岩か	
215	D-51	BD-220一括	打製石斧	9.4	4.6	1.9	89.3	黒色頁岩	
216	D-51	BD-220一括	打製石斧	10.2	4.7	0.8	54.0	黒頁か	
217	D-51	BD-220一括	打製石斧	9.5	5.9	1.4	89.1	黒色頁岩	
218	D-52	BD-221S1	打製石斧	11.1	4.0	1.0	62.7	黒色頁岩	
219	D-52	BD-221S2	磨・敲石	11.5	5.8	3.8	400.0	安山岩	
220	D-56	BD-45S4	石皿・多孔石	(26.0)	(18.8)	(7.5)	(3580.0)	安山岩	2片
221	D-56	BD-45S10	磨・敲石	12.8	5.9	3.7	480.0	安山岩	
222	D-64	BD-6S1	打製石斧	14.2	5.0	1.6	160.0	黒色頁岩	
223	D-64	BD-6S2	打製石斧	15.3	5.3	3.0	240	黒色頁岩	
224	D-64	BD-6S3	打製石斧	12.0	4.3	1.5	130.0	黒色頁岩	
225	D-64	BD-6S4	棒状	26.6	6.9	6.6	1990.0	安山岩	
226	D-64	BD-6一括	その他	6.0	2.9	0.5	13	結晶片岩	
227	D-64	BD-6一括	打製石斧	9.9	3.6	1.5	83.0	黒色頁岩	
228	D-64	BD-6一括	打製石斧	14.3	5.7	1.6	180.0	黒色頁岩	

遺物番号	遺構番号	台帳番号	器　種	長軸(cm)	短軸(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石　材	備　考
229	D-64	BD-6一括	打製石斧	12.0	3.8	1.5	92.2	黒色頁岩	
230	D-65	BD-153S1	打製石斧	13.5	5.4	1.8	170.0	黒色頁岩	自然面
231	D-69	BD-9S1	棒状	19.6	6.2	6.2	1240.0	安山岩	
232	D-69	BD-9S6	打製石斧	14.5	5.0	1.8	180.0	黒色頁岩	
233	D-69	BD-9S7	磨・敲石	16.3	7.2	4.1	700.0	安山岩	
234	D-69	BD-9S8	棒状	14.3	4.8	3.6	420.0	安山岩	敲打痕
235	D-69	BD-9S9	磨・凹石	12.3	8.0	4.3	700.0	安山岩	
236	D-69	BD-9S11	磨・敲石	9.4	6.2	3.9	380.0	安山岩	
237	D-69	BD-9S12	棒状	32.1	11.0	7.0	3760.0	安山岩か	
238	D-69	BD-9S13	凹石	16.1	8.0	5.5	1000.0	安山岩	
239	D-69	BD-9一括	打製石斧	9.6	4.1	1.3	55.3	黒色頁岩	
240	D-69	BD-9一括	石鏃	3.2	1.6	0.7	3.8	チャート	円基
241	D-69	BD-9一括	石鏃	(1.7)	(1.5)	0.3	(0.9)	黒色頁岩か	凹基無茎鏃　基部欠損
242	D-69	BD-9一括	棒状	13.6	3.9	2.5	200.0	凝灰質砂岩	
243	D-69	BD-9一括	削器	9.7	4.2	1.4	69.6	黒色頁岩	
244	D-71	BD-49S1	打製石斧	7.9	4.3	1.0	63.9	黒色頁岩	
245	D-73	BD-52一括	石鏃	(2.2)	(1.4)	0.3	(1.5)	黒色頁岩	凹基無茎鏃　先端・基部欠損
246	D-78	BD-132S1	磨石	14.2	9.1	4.5	900.0	安山岩	
247	D-78	BD-132一括	打製石斧	10.7	5.2	1.7	115.5	黒色頁岩か	
248	D-83	BD-133一括	打製石斧	12.9	3.8	1.6	104.2	黒色頁岩	
249	D-83	BD-133一括	石鏃	(3.5)	(1.6)	0.4	(2.8)	黒色頁岩	凹基無茎鏃　基部欠損
250	D-86	BD-59一括	尖頭器	7.1	2.9	1.0	25.6	黒色頁岩	
251	D-91	AD-12S1	打製石斧	11.8	3.9	1.7	99.0	黒色頁岩	
252	D-92	AD-13一括	加工	4.6	2.2	0.6	10.3	黒色頁岩	
253	D-99	BD-137S1	棒状	20.0	7.8	6.5	1800.0	安山岩	
254	D-99	BD-137S2	磨石	14.0	7.1	4.0	710.0	安山岩	
255	D-99	BD-137一括	打製石斧	12.3	5.5	1.8	180.0	黒色頁岩	
256	D-99	BD-137一括	打製石斧	10.1	4.1	0.9	56.0	黒色頁岩	
257	D-102	BD-65NO19	打製石斧	12.9	5.1	1.6	160.0	黒色頁岩	自然面
258	D-102	BD-65S1	打製石斧	8.4	4.6	1.6	68.4	黒色安山岩	自然面
259	D-102	BD-65S2	打製石斧	12.0	4.9	1.6	160.0	黒色頁岩	自然面
260	D-102	BD-65S3	打製石斧	13.1	4.3	1.9	150.0	黒色頁岩	
261	D-102	BD-65S4	打製石斧	9.2	5.0	1.6	70.1	頁岩	
262	D-102	BD-65S17	打製石斧	13.6	4.7	1.6	130.0	頁岩	自然面
263	D-102	BD-65S18	棒状	12.8	3.6	1.1	83.3	結晶片岩	磨耗痕
264	D-102	BD-65一括	打製石斧	9.8	5.2	2.4	160.0	黒色頁岩	
265	D-103	BD-64S1	丸石	21.7	20.5	4.6	3390.0	安山岩	偏平
266	D-103	BD-64S2	磨石	13.2	9.5	4.8	1020.0	安山岩	
267	D-103	BD-64S3	磨石	14.1	10.6	4.5	1180.0	安山岩	
268	D-104	BD-174一括	打製石斧	9.6	3.6	1.2	69.7	黒色頁岩	
269	D-104	BD-174一括	打製石斧	10.3	5.2	1.6	88.9	黒色頁岩	
270	D-113	BD-68S1	石鏃	2.2	1.5	0.5	1.4	黒色頁岩	凹基無茎鏃
271	D-113	BD-68S3	砥石	11.9	8.0	2.7	290.0	安山岩	
272	D-113	BD-68S7	棒状	12.3	4.1	2.7	250.0	結晶片岩	一部欠損　被熱　煤付着
273	D-113	BD-68S14	磨・凹石	13.5	9.7	4.0	720.0	安山岩	
274	D-113	BD-68S16	打製石斧	9.1	4.0	1.0	43.7	頁岩	
275	D-113	BD-68S18	打製石斧	12.2	5.1	1.9	180.0	頁岩	
276	D-113	BD-68S19	打製石斧	21.0	6.1	2.7	460.0	黒色頁岩	
277	D-113	BD-68S20	打製石斧	12.3	5.5	2.2	280.0	黒色頁岩	
278	D-114	BD-69S1	打製石斧	9.1	4.8	1.5	71.3	凝灰岩	
279	D-115	BD-141S4	打製石斧	10.0	4.1	0.9	64.6	黒色頁岩	
280	D-115	BD-141一括	打製石斧	13.7	5.6	2.1	240.0	黒色頁岩か	
281	D-115	BD-141一括	石鏃	(2.7)	(1.6)	0.4	(1.51)	黒色頁岩	凹基無茎鏃　基部欠損
282	D-116	BD-142一括	打製石斧	11.6	5.1	1.7	140.0	黒色頁岩	
283	D-116	BD-142一括	石匙	6.2	6.2	1.0	28.5	黒色頁岩	
284	D-118	BD-185S1	石皿・多孔石						285と一個体
285	D-118	BD-185S2	石皿・多孔石	(31.0)	(22.0)	(7.2)	(7250.0)	安山岩	284・286と一個体
286	D-118	BD-185S3	石皿・多孔石						285と一個体
287	D-119	BD-186一括	削器	5.7	5.2	1.0	35.0	黒色頁岩	
288	D-120	BD-194一括	打製石斧	9.6	4.9	1.1	12.5	黒色頁岩か	
289	D-120	BD-194一括	打製石斧	9.8	4.1	1.6	96.5	黒色頁岩	
290	D-122	BD-66S1	磨製石斧	13.9	4.6	2.9	300.0	頁岩か	
291	D-128	BD-71S1	磨石	13.2	10.0	4.8	1040.0	安山岩	
292	D-128	BD-71一括	磨石	8.2	7.3	5.4	480.0	安山岩	
293	D-128	BD-71一括	磨石	9.4	6.1	3.5	250.0	細粒安山岩	
294	D-129	BD-170一括	石皿	(16.2)	(9.6)	(3.4)	(490.0)	安山岩	突起付き
295	D-132	BD-152一括	打製石斧	12.8	4.6	1.7	140.0	黒色頁岩	

遺物番号	遺構番号	台帳番号	器　種	長軸(cm)	短軸(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石　材	備　考
296	D-132	BD-152一括	削器	7.4	3.5	1.2	44.5	黒色頁岩	
297	D-138	BD-171S1	磨・凹石	14.2	7.5	3.7	610.0	安山岩	
298	D-144	BD-106S1	打製石斧	11.3	4.2	1.7	95.6	黒色頁岩	
299	D-144	BD-106一括	削器	8.7	6.0	1.2	42.3	黒色頁岩	
300	D-147	BD-188一括	石鏃	2.3	1.4	0.4	1.55	黒色頁岩	凹基無茎鏃
301	D-153	BD-120S1	磨・敲石	13.4	6.4	4.3	580.0	安山岩	
302	D-153	BD-120S4	石皿・多孔石	(21.5)	(18.3)	(4.8)	(2740.0)	安山岩	1/2残
303	D-154	BD-150一括	削器	6.0	5.4	1.2	53.0	黒色頁岩	
304	D-155	BD-204一括	打製石斧	11.3	4.9	1.5	113.4	黒色頁岩	
305	D-156	BD-122S1	打製石斧	11.7	6.0	1.5	140.0	黒色安山岩	使用痕　自然面
306	D-156	BD-122一括	石鏃	(1.7)	(1.1)	0.4	(0.8)	黒曜石	凹基無茎鏃　基部欠損
307	D-162	BD-16S1	打製石斧	13.5	3.9	2.1	120.0	黒色頁岩	
308	D-168	BD-98一括	磨・敲石	11.0	6.1	4.0	440.0	安山岩	
309	D-172	BD-97S1	磨石	15.2	8.1	4.2	890.0	安山岩	
310	D-175	BD-127S1	磨石	14.2	8.6	3.8	800.0	安山岩	
311	D-178	BD-79S1	磨・凹石	11.0	8.9	4.5	680.0	安山岩	
312	D-180	BD-80S1	磨・凹石	13.9	9.0	5.4	1040.0	安山岩	
313	D-185	BD-209一括	打製石斧	11.5	4.3	1.6	140.0	黒色頁岩	
314	D-193	BD-212一括	打製石斧	10.2	5.2	1.5	100.1	黒色頁岩	
315	D-193	BD-212一括	石鏃	(3.1)	(1.8)	0.5	(3.1)	黒色頁岩	円基　基部欠損
316	D-197	BD-96S1	磨石	16.5	9.0	3.7	960.0	安山岩	刻み
317	D-200	BD-78一括	その他	13.3	3.7	3.8	280.0	凝灰岩	
318	D-200	BD-78一括	打製石斧	9.8	4.3	1.0	64.4	黒色頁岩	
319	D-201	BD-83S1	打製石斧	11.1	5.3	1.7	115.0	凝灰岩	
320	D-207	BD-85S3	磨石	13.7	6.0	4.9	750.0	安山岩	
321	D-207	BD-85S4	打製石斧	13.4	5.3	1.5	170.0	凝灰岩	
322	D-207	BD-85S6	加工	9.6	5.6	0.6	37.3	黒色頁岩	
323	D-207	BD-85S8	打製石斧	8.5	4.1	1.2	54.4	頁岩	
324	D-207	BD-85S10	磨・敲石	8.4	5.6	3.7	280.0	安山岩	
325	D-207	BD-85S12	石錐	4.9	2.6	0.5	6.6	安山岩	
326	D-207	BD-85一括	打製石斧	11.2	4.5	1.5	140.0	凝灰岩	
327	D-208	BD-86S1	打製石斧	12.0	5.2	1.3	120.0	黒色頁岩	
328	D-209	BD-88一括	石鏃	2.7	1.8	0.4	2.1	黒色頁岩	凹基無茎鏃
329	D-211	BD-87S8	打製石斧	8.4	4.8	1.5	63.2	黒色頁岩	
330	D-211	BD-87S10	石鏃	(2.7)	(1.2)	0.3	(1.1)	黒曜石	凹基無茎鏃　基部欠損
331	D-213	BD-119一括	加工	3.9	2.2	0.5	7.2	黒色頁岩	剝片
332	D-214	BD-90S2	打製石斧	9.9	4.1	0.9	52.9	黒色頁岩	
333	D-214	BD-90S3	打製石斧	10.8	5.4	1.3	85.8	黒色頁岩	
334	D-222	BD-94S1	石鏃	2.2	1.3	0.1	0.6	黒曜石	凹基無茎鏃
335	D-222	BD-94一括	削器	4.9	2.9	0.6	14.2	チャート	
336	D-224	BD-40S4	打製石斧	14.2	5.6	1.7	180.0	安山岩	自然面
337	D-224	BD-40一括	棒状	13.4	2.9	1.0	73.6	結晶片岩	
338	D-225	BD-39一括	削器	4.3	2.8	0.6	7.8	頁岩	
339	D-227	BD-42一括	削器	7.7	5.3	1.1	61.7	黒色頁岩	
340	D-228	BD-55S1	石鏃	2.6	1.6	0.3	1.2	チャート	凹基無茎鏃
341	D-228	BD-55S2	その他	2.4	0.9	0.5	1.2	黒曜石	
342	D-228	BD-55S5	打製石斧	10.0	4.2	1.7	101.5	安山岩	磨耗痕
343	D-228	BD-55一括	磨石	11.6	6.8	3.3	440.0	安山岩	
344	D-228	BD-55一括	打製石斧	11.3	4.5	1.3	90.6	頁岩	
345	D-228	BD-55一括	打製石斧	10.3	5.0	1.5	100.5	安山岩	
346	D-228	BD-55一括	打製石斧	6.0	3.0	0.9	20.9	黒色頁岩	
347	S-1	集石1S1	磨石	11.0	9.0	5.1	860.0	安山岩	
348	S-1	集石1S2	棒状	13.0	9.0	8.0	1360.0	安山岩	石棒
349	S-1	集石1S9	磨石	10.9	9.9	4.9	820.0	安山岩	
350		13C31S13	磨・凹石	12.1	7.7	4.0	610.0	安山岩	
351		13C31一括	打製石斧	13.1	5.7	1.5	140.0	黒色頁岩	
352		AX-19グ一括	石鏃	2.7	1.3	0.3	1.1	チャート	凹基無茎鏃
353		AY-14グ内 NO31	磨製石斧	(9.0)	(5.0)	(2.5)	(200.0)	流紋岩	沈線状溝跡あり　欠損品
354		BA-14グ内一括	その他	5.6	4.5	1.4	54.8	黒色頁岩	剝片
355		BA-14グ内一括	磨・敲石	5.8	4.9	2.0	200.0	安山岩か	
356		BA-14グ内 NO1	石鏃	2.5	1.6	0.3	1.8	黒色頁岩か	凹基無茎鏃
357		BA-14グ内 S7	その他	9.5	4.2	1.5	75.7	黒色頁岩	剝片
358		BA-14グ内 S10	打製石斧	8.4	3.0	0.9	32.9	黒色頁岩	
359		BA-14グ内 S31	その他	4.5	1.9	0.4	5.4	黒色頁岩	
360		BB-13グ一括	打製石斧	17.0	6.6	2.5	300.0	安山岩	自然面
361		BB-15グ一括	打製石斧	10.7	4.0	0.8	59.6	黒色頁岩	
362		BB-16グ一括	丸石	13.8	10.7	5.4	760.0	安山岩	

遺物番号	遺構番号	台帳番号	器　種	長軸(cm)	短軸(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石　材	備　考
363		BB-17グ一括	磨・凹石	12.2	7.8	4.0	680.0	安山岩	
364		BB-17グ一括	打製石斧	11.5	4.9	1.3	81.8	黒色頁岩	
365		BB-17グ一括	石鏃	2.6	1.6	0.4	1.3	チャート	凹基無茎鏃
366		BB-19グ一括	打製石斧	12.7	5.3	2.3	180.0	黒色安山岩	
367		BB-19グ一括	石鏃	2.5	1.3	0.3	1.2	黒色頁岩	凹基無茎鏃
368		BB-21グ一括	打製石斧	11.5	4.5	1.6	140.0	黒色頁岩	
369		BC-12グ一括	打製石斧	12.6	4.0	1.7	140.0	黒色頁岩	
370		BC-16グ一括	その他	6.0	5.1	1.6	83.0	安山岩	
371		BC-18グ一括	打製石斧	11.9	4.6	1.7	130.0	黒色頁岩	
372		BC-18グ一括	その他	12.4	4.4	2.0	99.9	黒色頁岩	剝片
373		BC-20グ一括	打製石斧	12.0	5.1	2.2	200.0	黒色頁岩	
374		BC-20グ一括	打製石斧	12.0	6.2	1.3	150.0	黒色頁岩	
375		BC-20グ一括	打製石斧	16.8	6.1	1.6	200.0	黒色頁岩	
376		BD-13グ一括	打製石斧	13.0	4.2	1.6	104.8	黒色頁岩	
377		BD-14グ一括	打製石斧	9.5	3.7	1.4	59.2	黒色頁岩	
378		BD-14グ一括	打製石斧	11.6	4.6	1.0	77.0	黒色頁岩	
379		BD-14グ内S1	磨・凹石	13.5	9.8	4.8	980.0	安山岩	
380		BD-20グ一括	磨石	11.5	8.2	3.9	520.0	安山岩	
381		BE-11グ一括	打製石斧	10.8	4.8	1.5	81.4	黒色頁岩	
382		BE-13グ一括	その他	10.0	5.3	0.6	41.8	黒色頁岩	
383		BE-18グ一括	石皿	(16.1)	(11.0)	(5.0)	(1060.0)	安山岩	
384		BE-19グ一括	磨石	10.9	7.3	4.2	540.0	安山岩	
385		BF-10グ一括	削器	6.0	5.4	1.5	45.3	黒色安山岩	
386		BF-11グ一括	棒状	21.1	7.9	6.0	1720.0	安山岩	
387		BF-12グ一括	磨石	13.1	9.3	4.8	1000.0	安山岩	
388		BF-13グ一括	磨石	16.0	7.1	3.1	370.0	安山岩	
389		BF-13グ一括	打製石斧	13.1	5.0	2.7	220.0	黒色頁岩	
390		BF-13グ一括	その他	11.0	4.3	1.0	53.0	黒色頁岩	剝片
391		BF-13グ一括	その他	9.4	5.9	1.0	52.0	黒色頁岩	剝片
392		BF-14グ一括	打製石斧	13.1	3.8	1.7	140.0	黒色頁岩	
393		BF-18グ一括	打製石斧	12.6	5.1	2.3	180.0	安山岩	磨耗痕　自然面
394		BG-7.8グS1	打製石斧	9.8	4.9	1.6	99.5	黒色頁岩	
395		BG-7.8グS2	打製石斧	9.2	5.2	2.2	120.0	頁岩	
396		BG-7.8グS8	打製石斧	10.9	4.5	0.9	62.2	黒色頁岩	
397		BG-7.8グ内一括	石鏃	1.5	(1.3)	0.2	(0.4)	黒曜石	凹基無茎鏃　基部欠損
398		BG-10グ一括	磨・敲石	11.4	8.3	4.0	600.0	安山岩	
399		BG-10グ一括	その他	10.3	6.4	1.9	130.0	黒色頁岩	剝片
400		BG-10グ一括	磨石	13.2	8.0	3.9	470.0	安山岩	
401		BG-10グ一括	その他	6.6	5.0	1.6	52.8	黒色頁岩	剝片
402		BG-12グ一括	打製石斧	12.2	5.2	2.3	160.0	頁岩	
403		BG-12グ一括	打製石斧	12.0	5.3	2.0	130.0	頁岩	
404		BG-12グ一括	石皿	21.8	10.7	7.5	1920.0	安山岩	
405		BG-13グ一括	打製石斧	12.4	5.1	1.2	111.3	頁岩	
406		BG-13グ内一括	打製石斧	13.7	6.4	2.0	220.0	凝灰岩	
407		BG-14グ一括	磨・凹石	12.4	7.8	4.2	680.0	安山岩	
408		BG-16グS1	石皿・多孔石	(35.6)	(21.0)	(8.0)	(7000.0)	安山岩	1/2残
409		BG-16グ一括	磨・敲石	15.4	7.9	5.2	1080.0	安山岩	
410		BG-17グ一括	その他	6.7	6.3	0.6	37.7	黒色頁岩	剝片
411		BH-6グ一括	その他	6.4	3.5	0.8	21.9	黒色頁岩	剝片
412		BH-11グ一括	石匙	6.0	4.5	1.0	29.5	黒色頁岩	
413		BH-12グ一括	打製石斧	9.5	5.5	1.1	61.7	黒色頁岩	
414		BH-12グ一括	その他	9.2	5.5	0.8	39.2	黒色頁岩	剝片
415		BH-12グ一括	打製石斧	11.0	4.5	1.0	69.6	頁岩	
416		BH-12グ一括	打製石斧	10.4	5.4	0.9	56.4	黒色安山岩	
417		BH-14グ一括	磨・凹石	12.0	7.8	3.5	610.0	安山岩	
418		BH-14グ一括	打製石斧	11.2	4.5	1.4	90.5	黒色頁岩	
419		BH-15グ一括	打製石斧	14.4	7.2	1.9	240.0	凝灰岩	磨耗痕
420		BH-15グ一括	棒状	12.4	2.4	1.4	80.7	結晶片岩	
421		BH-16グ一括	打製石斧	14.0	4.7	1.3	140.0	黒色頁岩	
422		BI-15グ一括	打製石斧	9.0	4.6	1.5	83.6	凝灰岩	
423		BJ-12グ一括	打製石斧	11.7	5.2	2.0	180.0	頁岩	
424		BJ-13グ一括	磨石	7.8	7.1	2.5	230.0	安山岩	
425	P-25	BPIT28NO1	大珠	(3.8)	(2.6)	(1.7)	(23.5)	翡翠	欠損品

第28表　縄文土坑計測表

平面形状は円形・楕円形・隅丸方形・不整形に分類し、断面形状は袋状・直下り・台形状・皿状に分類した。規模の（　）は推定値、［　］は実測値を表す。
遺物の■は、観察表に記載されている土器で、深は深鉢・浅は浅鉢・数値は個体数を表す。★は、土器片が出土したことを、多量は100点以上出土したこと表す。●は自然石等の大型の石が出土したことを表す。
▼は石鏃・石斧・石皿等の石器が出土したことを表し、数値はその個数で第29表縄文土坑別石器出土表と一致する。また主な石器名を付した。◆は礫が20個以上出土したことを示す。

土坑番号	遺構位置（グリッド）	形状 平面	形状 断面	規模(cm) 長径	規模(cm) 短径	規模(cm) 深さ	遺物 完形土器	遺物 土器片	遺物 大型石	遺物 石器	遺物 礫	備考
D-36	AW-20	円	台形	103	102	30		★			4	D-37と重複
D-37	AW-20	円	台形	(72)	(52)	32					0	ピット状　D-36・38と重複
D-38	AW-20	不整	台形	81	(65)	29		★		▼1	8	D-37・39と重複
D-39	AW-20	円	台形	57	55	27					0	ピット状　D-38と重複
D-40	AX-21	円	直下り	130	120	60	■深11浅2	★多量	●自然石	▼6石皿	◆21	有孔鍔付土器　D-43　D-43・56　D-56　D-56・72・113・208　D-122と接合
D-41	AX-22	楕円	台形	50	40	23					0	ピット状
D-42	AY-23	円	台形	75	74	59					0	ピット状
D-43	AY-22	円	袋	109	108	61	■深6浅1	★多量	●自然石	▼6石皿	12	D-40・56　D-113・127・220と接合
D-44	AY-22	楕円	台形	82	72	72		★			0	ピット状　上層に土器片
D-45	AY-21	楕円	直下り	102	92	52	■深2	★		▼1	◆149	礫多量
D-46	AY-20・21	楕円	袋	177	142	88	■深1浅1	★多量		▼10打斧	◆375	ローム土を中層に確認　礫多量　D-56と接合
D-47	AY-20	楕円	袋	137	124	55		★	●自然石	▼1	18中層	
D-48	AY-19	円	袋	132	131	65		★	●石柱		16	人頭大の自然石4個
D-49	BA-19	円	袋	122	120	57～85	■深1浅1	★		▼4磨石	1	J-3の東側　D-102と接合
D-50	BA-18	円	袋	106	100	71～81	■深2	★		▼9棒状	4	J-3の東側
D-51	BB-18・19	楕円	袋	155	141	66	■深4	★多量		▼8削器	◆145	焼土塊あり　礫多量　底面平ら　D-52と重複　J-3と接合
D-52	BB-18	楕円	袋	120	(100)	61		★		▼2打斧	◆24	D-51と重複
D-53	BB-19	楕円	台形	90	81	32		★			8	底面平ら
D-54	BB-19	ほぼ円	台形	80	77	24					0	
D-55	BA・BB-19	楕円	台形	100	88	64					0	
D-56	BA-20	楕円	袋	(94)	(73)	49～86	■深7浅1	★多量		▼6石皿	1	D-40・43　D-46　D-40・72・113・208と接合
D-57	BB-19	楕円	直下り	96	83	40	■深2	★		▼1磨石	0	底面平ら
D-58	BB・BC-20	楕円	袋	101	95	65	■深2浅1	★			◆41	香炉形土器　底面平ら
D-59	BB-20	円	直下り	37	35	51		★	●自然石		6	ピット状
D-60	BB-21	円	台形	30	30	39					0	ピット状
D-61	BB-21	円	台形	41	39	46		★			0	ピット状
D-62	BB-21・22	円	台形	36	32	21					0	ピット状
D-63	BB-22	楕円	台形	77	66	36		★			0	
D-64	BC-21	楕円	袋	121	(110)	62～99	■深5浅1	★		▼19石棒	◆194	石器多量　礫多量　P-13と重複
D-65	BC-21	楕円	袋	101	91	55	■浅10浅1	★多量		▼3打斧	3	三角柱形土製品
D-66	BC-20	楕円	袋	85	78	30～55		★		▼1	7	
D-67	BC-20	円	不整形	48	47	35～62		★			0	2段ピット状
D-68	BD-19・20	楕円	台形	49	47	30		★			0	ピット状
D-69	BD-19	楕円	袋	131	125	54～100	■1	★		▼20石鏃	◆60	石器多量　底面平ら
D-70	BD-19	楕円	台形	99	88	45		★			0	
D-71	BD-18	ほぼ円	袋	111	107	67		★		▼1	1	
D-72	BC・BD-19	楕円	台形	152	126	85	■深1	★			0	D-40・56・113・208　D-197・208と接合
D-73	BC-19	楕円	直下り	135	120	55	■大型浅1	★		▼1石鏃	◆77	底面平ら
D-74	BB-19	円	台形	58	52	23				▼1	0	ピット状
D-75	BC-18	楕円	台形	86	75	9					0	D-76と重複
D-76	BC-18	楕円	直下り	138	123	54		★			◆38	D-75と重複
D-77	BC-18	ほぼ円	直下り	98	92	50	■深1	★		▼5打斧	◆96	D-78と重複
D-78	BB・BC-18	円	袋	107	97	33	■深2	★		▼2	◆98	底面平ら　D-77と重複
D-79	BB-17・18	楕円	皿	61	53	32					0	ピット状
D-80	BB-17	楕円	台形	136	111	19	■小型浅1	★			0	底面平ら
D-81	BB-16・17	円	台形	80	70	60		★		▼1	2	

土坑番号	遺構位置(グリッド)	形状 平面	形状 断面	規模(cm) 長径	規模(cm) 短径	規模(cm) 深さ	遺物 完形土器	遺物 土器片	遺物 大型石	遺物 石器	遺物 礫	備考
D-82	BB-17	不整	台形	146	123	56		★		▼1	16	
D-83	BA・BB-17	ほぼ円	台形	111	106	47		★		▼4石鏃	◆288	礫多量
D-84	BA-18	円	袋	97	90	83	■深1	★			◆29	J-3と重複　底面平ら
D-85	AX-17	円	袋	86	81	78					0	
D-86	BA-16・17	楕円	台形	118	71	87		★	●自然石	▼1尖頭器	4	人頭大の自然石底面近くから出土
D-87	BA-16	楕円	台形	105	(88)	43					0	
D-88	BA-16	楕円	台形	95	(80)	37		★			3	
D-89	BA・BB-16	ほぼ円	直下り	92	86	36		★			1	ピット底面に2つ
D-90	BA-17	円	台形	66	58	12		★			0	ピット状
D-91	AY-14・15	円	皿	135	135	32～45		★		▼2磨斧	0	焼石多量　2段土坑　D-92と重複
D-92	AY-14	楕円	台形	212	153	35	■深2	★多量		▼3加工	0	J-2・D-91と重複　底面ほぼ平ら
D-93	BA・BB-14・15	楕円	袋	116	104	90	■深4	★多量			9	試掘トレンチにより残り半分　底面平ら
D-94	BB-15	楕円	直下り	96	92	21					0	
D-95	BB-15	楕円	台形	84	67	14		★			0	ピット状
D-96	BB-15	楕円	台形	56	42	14					0	ピット状
D-97	BB-15・16	不整	不整形	150	99	69					3	
D-98	BC-16	ほぼ円	皿	47	46	11					0	ピット状　D-99と重複
D-99	BC-16	ほぼ円	直下り	130	127	59		★		▼4棒状	◆243	礫多量　D-98と重複
D-100	BD-16・17	楕円	皿	64	60	27		★	●自然石		0	ピット状
D-101	BB・BC-15	楕円	不整形	134	87	28～66					0	2段土坑
D-102	BB・BC-15	楕円	袋	153	138	92	■深1	★多量		▼13打斧	◆47	打製石斧多量　顔料付着土器　底面平ら　D-49と接合
D-103	BB-14・15	楕円	台形	133	115	61		★	●丸石	▼4磨石	0	底面付近で磨石・偏平な丸石・結晶片岩出土
D-104	BB-14	楕円	台形	128	(122)	53	■深1	★		▼3打斧	19	
D-105	BB-12	ほぼ円	台形	100	95	45					0	
D-106	BB・BC-13	ほぼ円	台形	(105)	(98)	(65)					0	試掘トレンチにより残り僅か
D-107	BC-13	楕円	袋	(118)	(91)	(91)		★		▼1	◆167	試掘トレンチにより残り半分　中層から礫多量出土
D-108	BC-14	ほぼ円	台形	90	86	12		★			0	
D-109	BC-14	楕円	直下り	103	82	13					0	
D-110	BC-14	楕円	台形	97	78	18					0	
D-111	BC・BD-14	楕円	台形	96	85	29					0	
D-112	BD-14・15	ほぼ円	台形	92	89	12					0	
D-113	BD-15	楕円	直下り	152	127	71	■深4	★		▼11石鏃	9	石器多量　底面凹凸　D-40・56・72・208　D-43・127・220　D-122と接合
D-114	BE-14・15	楕円	台形	132	114	36	■深1	★		▼1	0	
D-115	BD-13・14	楕円	袋	142	108	49	■深3	★		▼4石鏃	◆29	
D-116	BD-13・14	楕円	袋	127	122	39	■深2	★多量		▼4石匙	◆23	焼町土器
D-117	BD-14	ほぼ円	直下り	79	79	26		★			◆27	小礫2～4cm
D-118	BC・BD-14	楕円	台形	93	(60)	25			●自然石	▼1石皿	0	D-119と重複
D-119	BC・BD-13・14	楕円	台形	(161)	133	41	■深1	★		▼3削器	◆63	深鉢横位で出土　石皿片　D-118・120と重複
D-120	BC・BD-13	隅丸方	台形	78	(33)	(23)		★		▼2打斧	2	石器多量　D-119と重複
D-121	BC・BD-12・13	楕円	台形	127	(97)	59		★		▼1	0	D-122と重複
D-122	BD-12・13	円	台形	(110)	(70)	59	■深1浅3	★		▼4磨斧	◆36	D-121・124と重複　J-1　D-40　D-113と接合
D-123	BD-12	楕円	直下り	(94)	(67)	75		★			1	D-123・124と重複
D-124	BD-12	楕円	台形	(120)	(103)	88		★		▼4	0	D-122・123・125と重複
D-125	BD-12	不整	台形	(165)	(150)	87		★		▼1	4	D-123・124と重複
D-126	BD-13	楕円	直下り	66	61	23				▼1	0	
D-127	BE-14	楕円	台形	(120)	113	36	■浅1	★	●自然石		2	D-128・129と重複　D-43・113・220　D-113・220と接合
D-128	BE-14	楕円	直下り	(113)	100	63		★		▼4磨石	5	D-127・129と重複　上層から磨石　底面平ら
D-129	BE・BF-13	円	台形	100	100	29				▼1石皿	0	D-127・128と重複
D-130	BF-13・14	円	台形	134	125	49		★			◆32	
D-131	BE-13	円	皿	67	66	31					0	

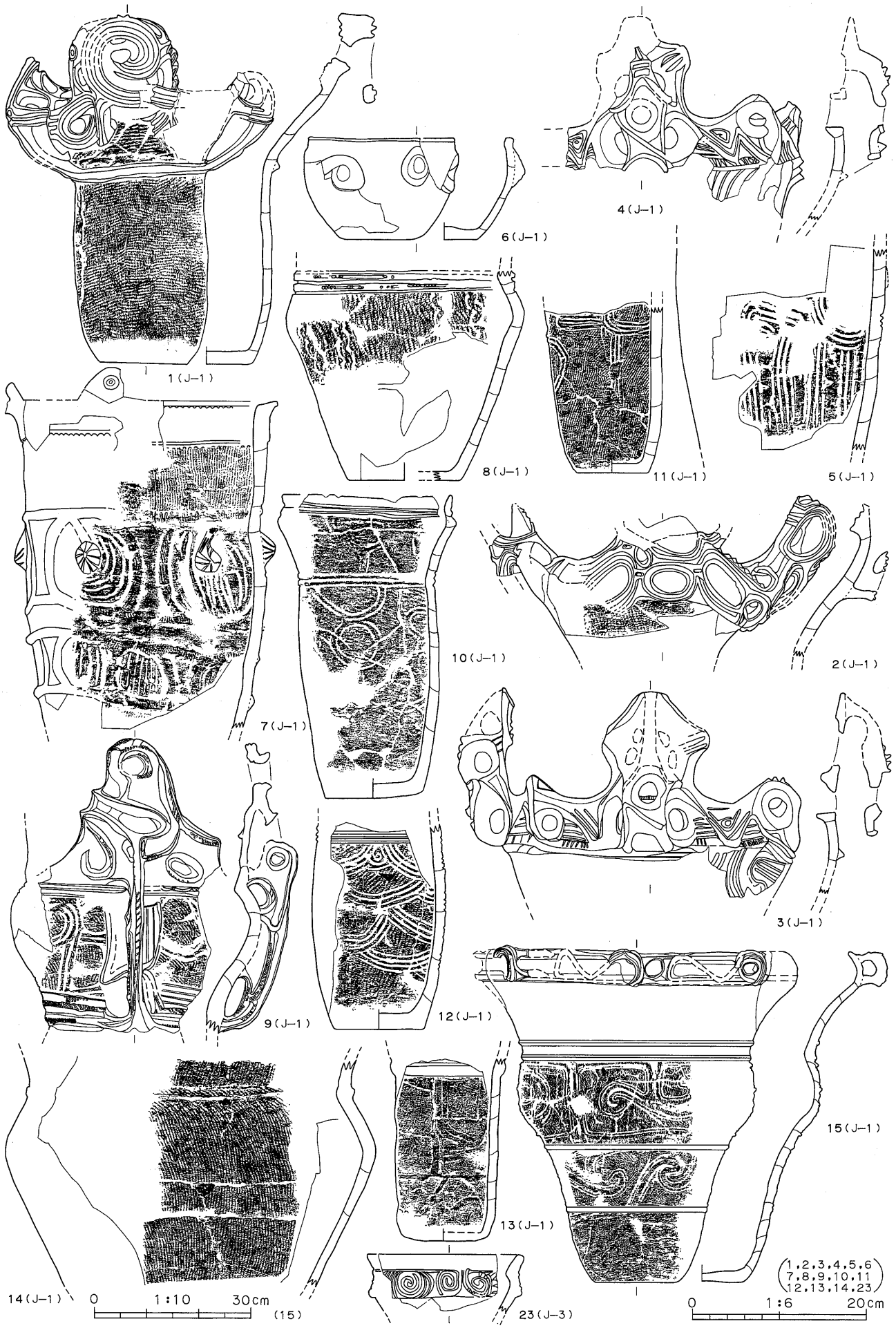
土坑番号	遺構位置(グリッド)	形状 平面	形状 断面	規模(cm) 長径	規模(cm) 短径	規模(cm) 深さ	遺物 完形土器	遺物 土器片	遺物 大型石	遺物 石器	遺物 礫	備考
D-132	BE-12・13	ほぼ円	台形	104	103	26		★		▼4削器	◆96	
D-133	BE-13	楕円	台形	47	42	16					0	ピット状
D-134	BD・BE-12	楕円	台形	121	108	30～49		★		▼1	0	2段土坑
D-135	BE-12	円	直下り	95	93	22		★			0	
D-136	BE-12	円	直下り	69	66	31					0	ピット状
D-137	BE-12	楕円	台形	103	100	44					7	
D-138	BE・BF-11	ほぼ円	台形	95	91	34		★		▼2磨石	9	
D-139	BF-12	ほぼ円	台形	40	39	15					0	ピット状
D-140	BF-11	楕円	直下り	109	85	29		★	●自然石		0	
D-141	BF-11	楕円	台形	124	115	49	■深1	★			10	
D-142	BF-11	楕円	弱い袋	93	83	70	■深1	★	●自然石		0	D-143と重複
D-143	BF-11	楕円	台形	117	(90)	21	■深1	★		▼1	2	D-142・144と重複
D-144	BF-11	不整	台形	(93)	83	32				▼2削器	1	D-143と重複
D-145	BG-11	円	直下り	105	105	27		★			3	
D-146	BG-11	ほぼ円	台形	54	50	27		★	●自然石		0	ピット状　上層に自然石　底面平ら
D-147	BG-11、12	ほぼ円	台形	81	79	45		★		▼2石鏃	2	
D-148	BF・BG-12	楕円	台形	52	44	32					2	ピット状
D-149	BG-12	円	台形	65	64	34		★			0	ピット状
D-150	BG-13	円	台形	70	62	17					0	ピット状　底面にピット1つ
D-151	BH-12	円	直下り	80	80	39		★		▼1	0	
D-152	BG・BH-13	楕円	台形	93	87	60		★			0	
D-153	BH・BI-13	円	皿	91	89	24	■深1浅1	★	●自然石	▼6石皿	0	深鉢倒位出土　自然石脇から磨石　下層に石皿　底面平ら
D-154	BG・BH-14	円	直下り	100	100	33	■深1浅2	★		▼1削器	◆166	
D-155	BH-14・15	円	直下り	106	101	28		★		▼2打斧	1	焼石3
D-156	BG・BH-15	楕円	台形	81	72	39		★		▼2石鏃	◆40	
D-157	BF-16	楕円	台形	83	71	20					0	
D-158	BG-16	ほぼ円	台形	110	106	26		★		▼2打斧	◆38	
D-159	BF-16	ほぼ円	皿	70	67	31					0	ピット状
D-160	BF-17	楕円	台形	131	114	43	■深1	★		▼3打斧	0	深鉢と大型浅鉢が上層から出土　底面平ら　D-161と重複
D-161	BF-17	楕円	台形	134	109	27～46		★		▼2	0	D-160と重複　剝片石器2点出土　底面平ら
D-162	BF-18	ほぼ円	袋	122	119	54～91		★		▼8打斧	3	試掘トレンチにより残り半分ほど　底面平ら
D-163	BF-18	楕円	袋	113	100	21～61		★		▼1	8	
D-164	BE-19	円	皿	40	39	30					0	
D-165	BG-18	円	直下り	69	62	15					0	ピット状
D-166	BG-17	楕円	皿	88	76	15				▼1	0	
D-167	BG-17	円	台形	50	46	30					0	ピット状
D-168	BH-16・17	楕円	台形	86	73	30		★		▼1磨石	0	
D-169	BH-16	楕円	不整形	186	128	34		★			0	
D-170	BH-16	楕円	台形	102	91	29		★		▼1	◆119	中層から礫多量出土　底面平ら
D-171	BH・BG-16	ほぼ円	台形	80	74	34		★			16	
D-172	BG-16	楕円	直下り	98	92	48		★		▼1磨石	5	
D-173	BG-16	円	直下り	78	74	25		★			◆59	
D-174	BH-15	円	台形	73	73	15		★			0	ピット状
D-175	BH-15	楕円	皿	65	43	7				▼1磨石	0	ピット状
D-176	BH-15	楕円	皿	80	70	34				▼1	0	
D-177	BI-15・16	円	袋	89	(83)	60	■深1	★		▼1打斧	0	
D-178	BI-15・16	楕円	直下り	(107)	105	49		★		▼2磨石	16	D-177と重複
D-179	BI-16	円	直下り	80	70	26		★		▼1	1	
D-180	BI-15・16	円	袋	125	123	51		★		▼1磨石	2	上層に焼土あり
D-181	BI-15	円	台形	65	65	13					0	ピット状

土坑番号	遺構位置(グリッド)	形状 平面	形状 断面	規模(cm) 長径	規模(cm) 短径	規模(cm) 深さ	遺物 完形土器	遺物 土器片	遺物 大型石	遺物 石器	遺物 礫	備考
D-182	BH-14・15	楕円	直下り	82	73	26	■1	★		▼5打斧	2	
D-183	BI-14	楕円	直下り	122	101	24					0	
D-184	BI-14	円	皿	100	98	37		★			◆78	上層から礫出土し熱を受けているものが多い　底面若干窪む
D-185	BI-14	ほぼ円	弱い袋	114	108	40	■深3	★		▼3打斧	◆61	底面平ら
D-186	BI・BJ-15	ほぼ円	弱い袋	108	106	25	■深1	★		▼5打斧	12	
D-187	BJ-14・15	楕円	弱い袋	98	88	42		★		▼2打斧	10	
D-188	BJ-14	ほぼ円	直下り	85	82	17					0	
D-189	BJ-13・14	円	台形	102	(94)	74		★		▼1	0	D-190と重複
D-190	BJ-13・14	楕円	台形	129	(50)	58		★		▼1打斧	0	D-189・191と重複
D-191	BJ-13・14	楕円	直下り	110	(97)	58		★		▼1	0	D-190と重複
D-192	BK-14	円	袋	107	99	43		★			0	
D-193	BK-13・14	円	袋	100	95	18～41		★		▼7石鏃	10	石器多量
D-194	BK-13	円	台形	48	46	12					0	
D-195	BK-13	楕円	袋	126	108	36		★			5	
D-196	BJ-13	楕円	台形	92	85	39	■1	★		▼1	16	
D-197	BJ-12・13	楕円	直下り	113	100	49		★		▼3磨石	1	上層からNO316磨石出土し両側に刻みあり　底面平ら　D-72・208と接合
D-198	BK-12	円	皿	46	45	23					0	
D-199	BK-12	楕円	皿	47	38	55	■1	★			0	土製円盤
D-200	BJ・BK-12	円	直下り	(103)	(88)	55		★		▼3打斧	◆21	D-201と重複　底面平ら
D-201	BJ・BK-12	円	台形	110	(100)	49	■深1	★		▼1打斧	◆61	D-200と重複
D-202	BJ-12	円	台形	88	76	8					0	
D-203	BK-11・12	楕円	台形	108	102	30		★			7	
D-204	BK-11	楕円	台形	50	(39)	24		★			0	ピット状　D-205と重複
D-205	BK-11	楕円	台形	47	(38)	22		★			0	ピット状　D-204と重複
D-206	BJ-12	ほぼ円	直下り	45	42	31				▼1	0	ピット状
D-207	BJ-11・12	円	袋	146	136	59	■深1	★		▼14石錐	◆178	石器多量　礫多量
D-208	BI-12・13	楕円	袋	118	103	62		★		▼3打斧	◆20	中層から打製石斧　底面平ら　D-40・56・72・113　D-72・197と接合
D-209	BI-12、BH-11・12	楕円	台形	304	268	37	■浅1	★		▼2石鏃	◆28	大型土坑　底面平ら　D-210と重複
D-210	BI-12	楕円	台形	82	(50)	28			●自然石		3	D-209・211と重複
D-211	BI-12	楕円	直下り	136	121	44	■1	★		▼8石鏃	◆33	底面平ら　D-210と重複
D-212	BI-11・12	楕円	弱い袋	133	111	46	■深1	★			◆133	中層から深鉢　礫多量　底面平ら
D-213	BI-11	楕円	直下り	73	64	29		★		▼1	0	
D-214	BI-10・11	円	台形	105	101	37		★		▼2打斧	◆25	
D-215	BI・BJ-11・12	楕円	台形	117	101	34		★		▼3打斧	◆22	
D-216	BJ-10・11	楕円	台形	(100)	(90)	100		★			2	D-217と重複
D-217	BJ-10	ほぼ円	台形	126	122	32				▼2打斧	0	D-216と重複
D-218	BJ-10	楕円	台形	152	136	47					4	
D-219	BJ-10	ほぼ円	直下り	67	64	15		★			0	ピット状
D-220	BI-10	円	台形	58	52	31		★			7	D-43・113・127　D-113・127と接合
D-221	BJ-9	楕円	台形	49	45	43		★			0	
D-222	BH-9・10	円	袋	177	158	64		★		▼4石鏃	◆234	下層から土器片と石鏃　礫多量　底面平ら
D-223	BG-10	円	台形	75	74	17		★			0	ピット状　底面平ら
D-224	BF-10	楕円	直下り	123	112	70		★	●自然石	▼5棒状	◆27	上層から自然石2　中層から自然石1　礫は熱を受けている　底面平ら
D-225	BE-9	楕円	台形	230	[144]	65		★多量		▼5削器	0	底面ほぼ平ら
D-226	BH-8・9	楕円	弱い袋	133	113	55	■深1	★			0	
D-227	BH-8	円	弱い袋	115	108	74	■深3	★多量		▼1削器	19	底面中央僅か窪む
D-228	BG-8	楕円	不整形	246	175	48	■深2	★多量		▼21石鏃	◆76	底面一定でない　1号集石と重複　石器多量出土
D-229	BG-6・7	円	台形	(152)	[79]	58		★			0	

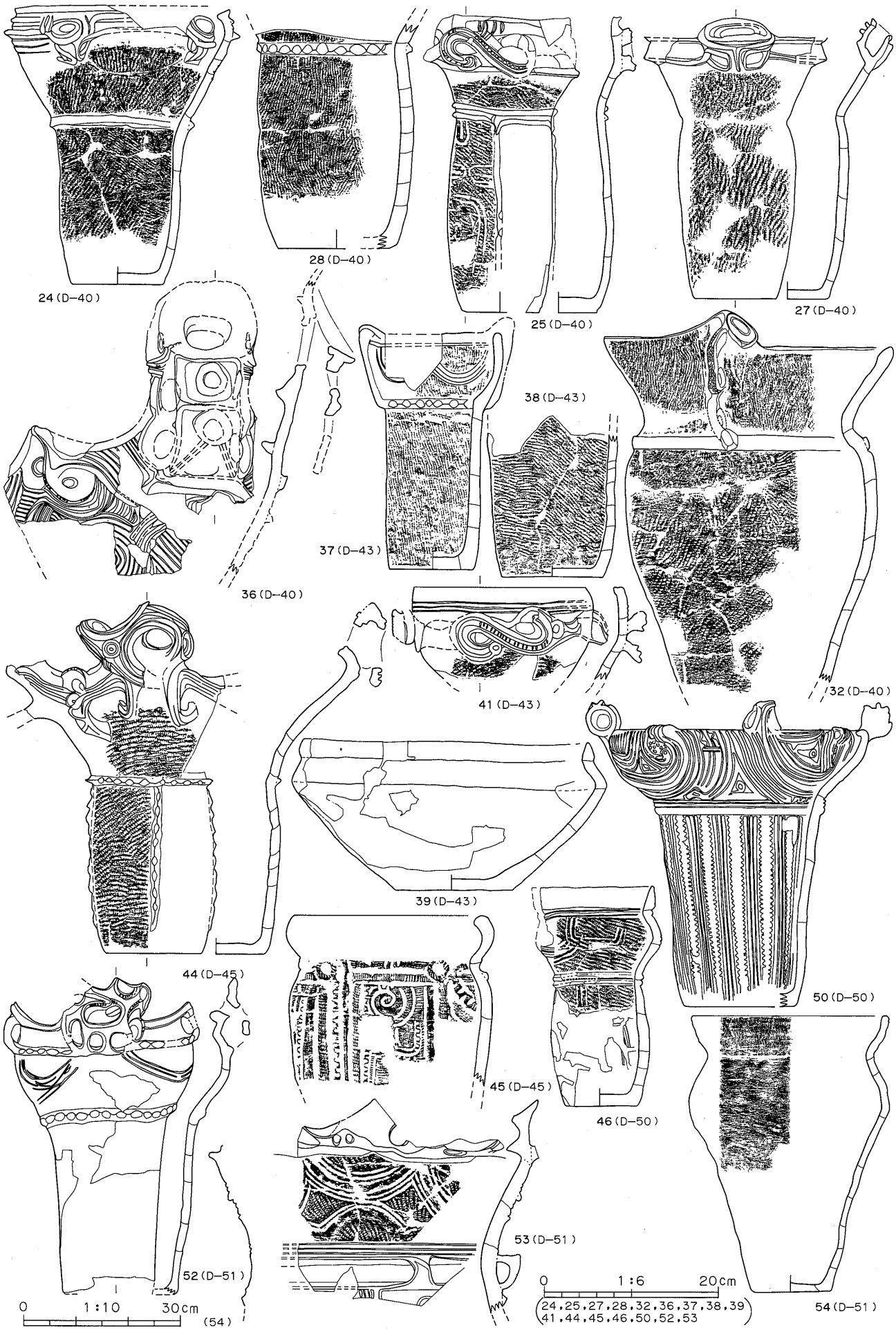
第29表　縄文土坑別石器出土表

磨石のうち凹石や敲石を兼ねるものがあり、数量は磨石に加えたが、凹石・敲石の欄の（　）内に数値を記入した。
石皿のうち多孔石を兼ねるものがあり、数量は石皿に加えたが、多孔石の欄の（　）内に数値を記入した。

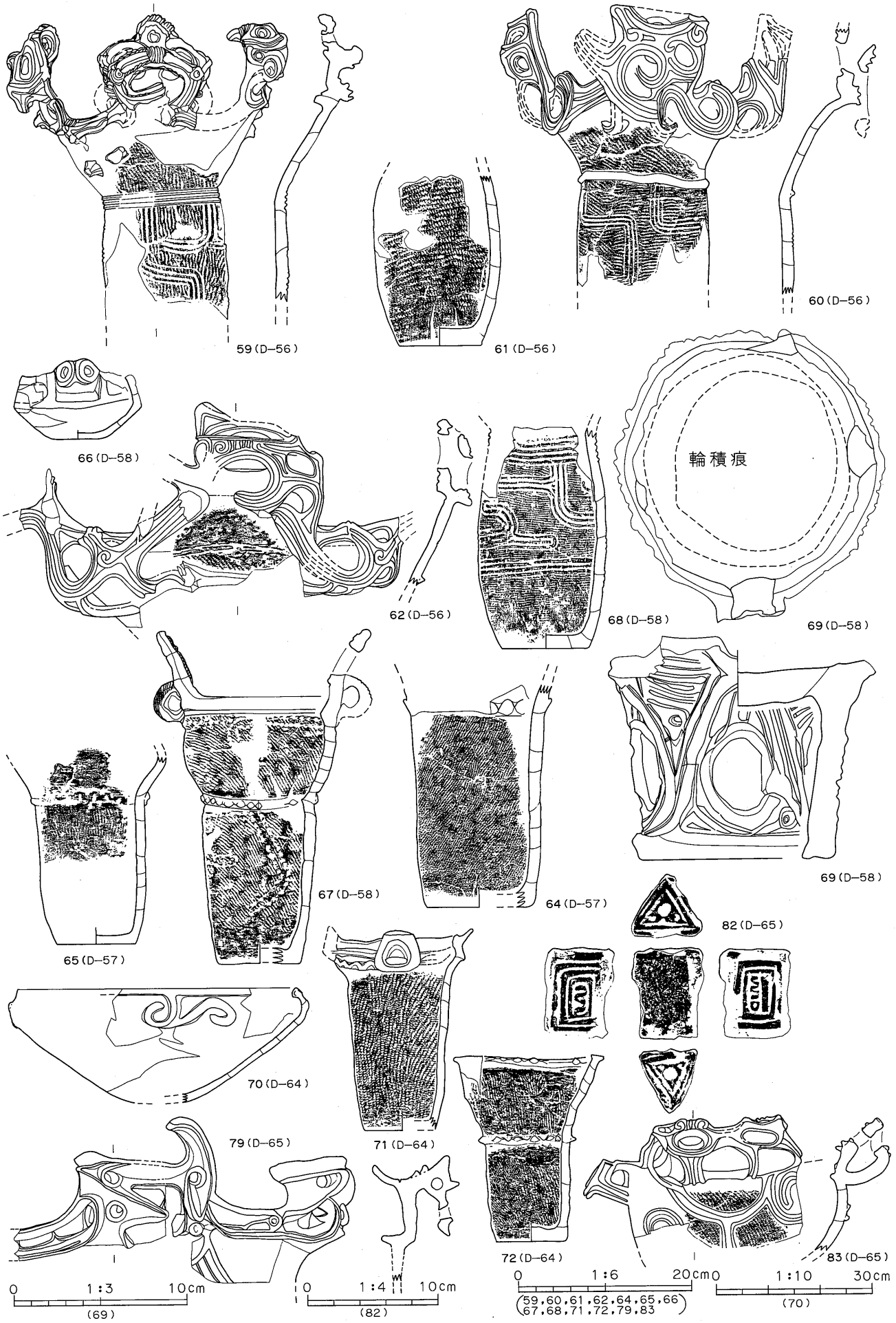
番号	石鏃	石錐	石匙	打石斧	磨石斧	削器	磨石	凹石	敲石	石皿	多孔石	棒状	剝片	尖頭器	その他	合計	番号	石鏃	石錐	石匙	打石斧	磨石斧	削器	磨石	凹石	敲石	石皿	多孔石	棒状	剝片	尖頭器	その他	合計
38											1					1	143															1	1
40				4			1			1	(1)					6	144				1		1										2
43			1	2				1		2	(2)					6	147	1						1									2
45				1												1	151															1	1
46		1		4			1					1	1		2	10	153				1			2		(1)	2	(2)				1	6
47				1												1	154						1										1
49				3			1	(1)								4	155				1											1	2
50				3								2			4	9	156	1			1												2
51				6		1						1				8	158				1											1	2
52				1			1		(1)							2	160				1									1		1	3
56				3			2		(1)	1	(1)					6	161															2	2
57							1									1	162				6											2	8
64				16								1	1		1	19	163				1												1
65				2						1	(1)					3	166							1									1
66				1												1	168							1		(1)							1
69	2			8		1	3	1(1)	(2)			4			1	20	170												1				1
71				1												1	172							1									1
73	1															1	175							1									1
74				1												1	176				1												1
77				2			1								2	5	177				1												1
78				1			1									2	178							1	(1)							1	2
81								1								1	179				1												1
82							1									1	180							1	(1)								1
83	1			3												4	182				1			1								3	5
86														1		1	185				3												3
91				1						1	(1)					2	186				4											1	5
92													1		2	3	187				1											1	2
99				2			1					1				4	189															1	1
102				11								1			1	13	190				1												1
103							2								2	4	191															1	1
104				2											1	3	193	1			6												7
107															1	1	196				1												1
113	1			6			2	(1)				1			1	11	197							1								2	3
114				1												1	200				1								1			1	3
115	1			3												4	201				1												1
116			1	2					1							4	206															1	1
118										1	(1)					1	207		1		6			2		(1)				1		4	14
119						1				1	(1)	1				3	208				2											1	3
120				2												2	209	1			1												2
121															1	1	211	1			3											4	8
122				2	1	1										4	213													1			1
124				1											3	4	214				2												2
125				1												1	215				3												3
126				1												1	217				1											1	2
128				1			3									4	222	1			1		1									1	4
129										1						1	224				2								1	1		1	5
132				3		1										4	225						1									4	5
134															1	1	227						1										1
138							1	(1)							1	2	228	1			11			1								8	21
																	合計	13	2	2	169	1	10	36	3(6)	1(7)	11	1(10)	16	7	1	70	343



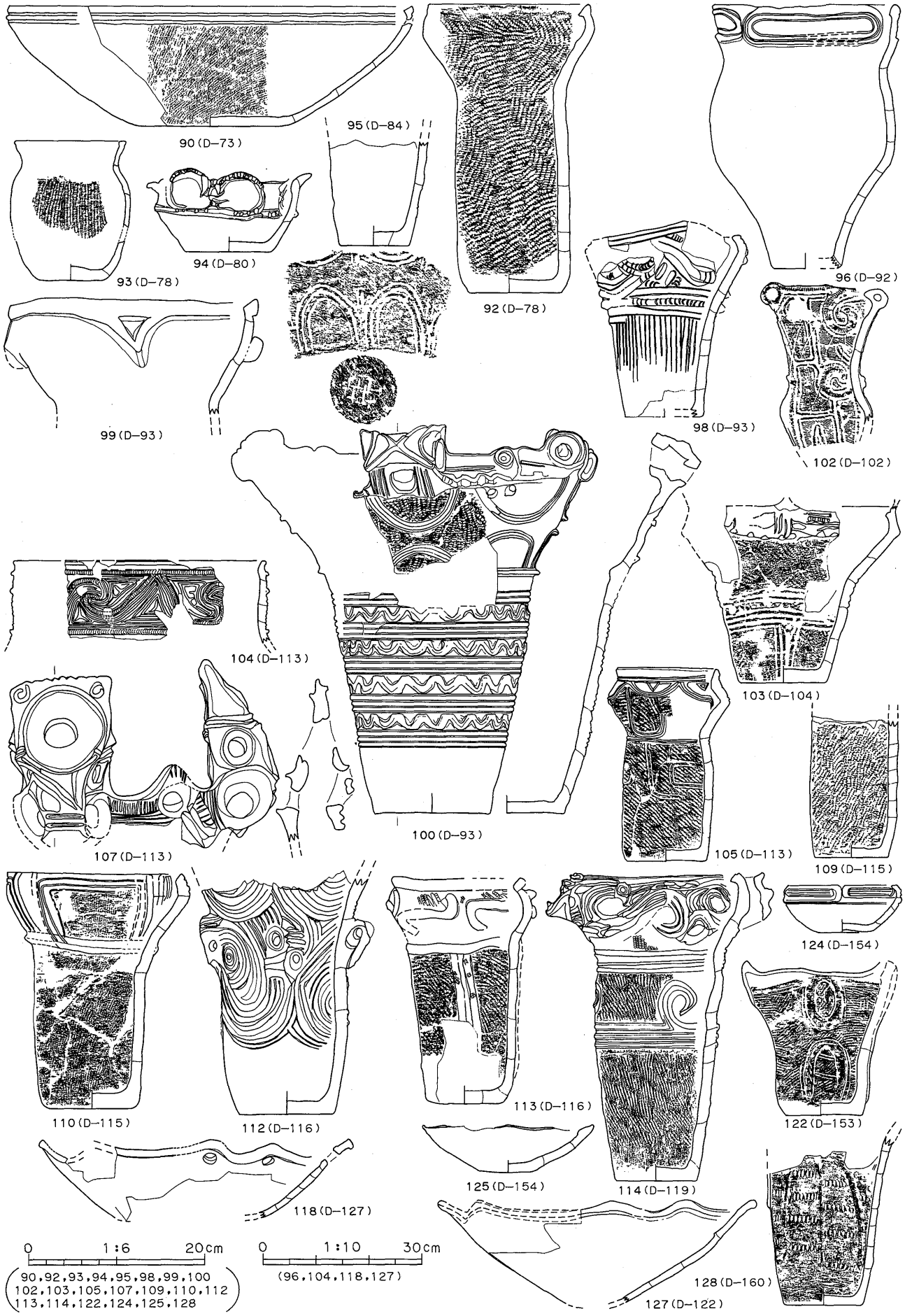
第33図　J-1・3号住居跡遺物実測図



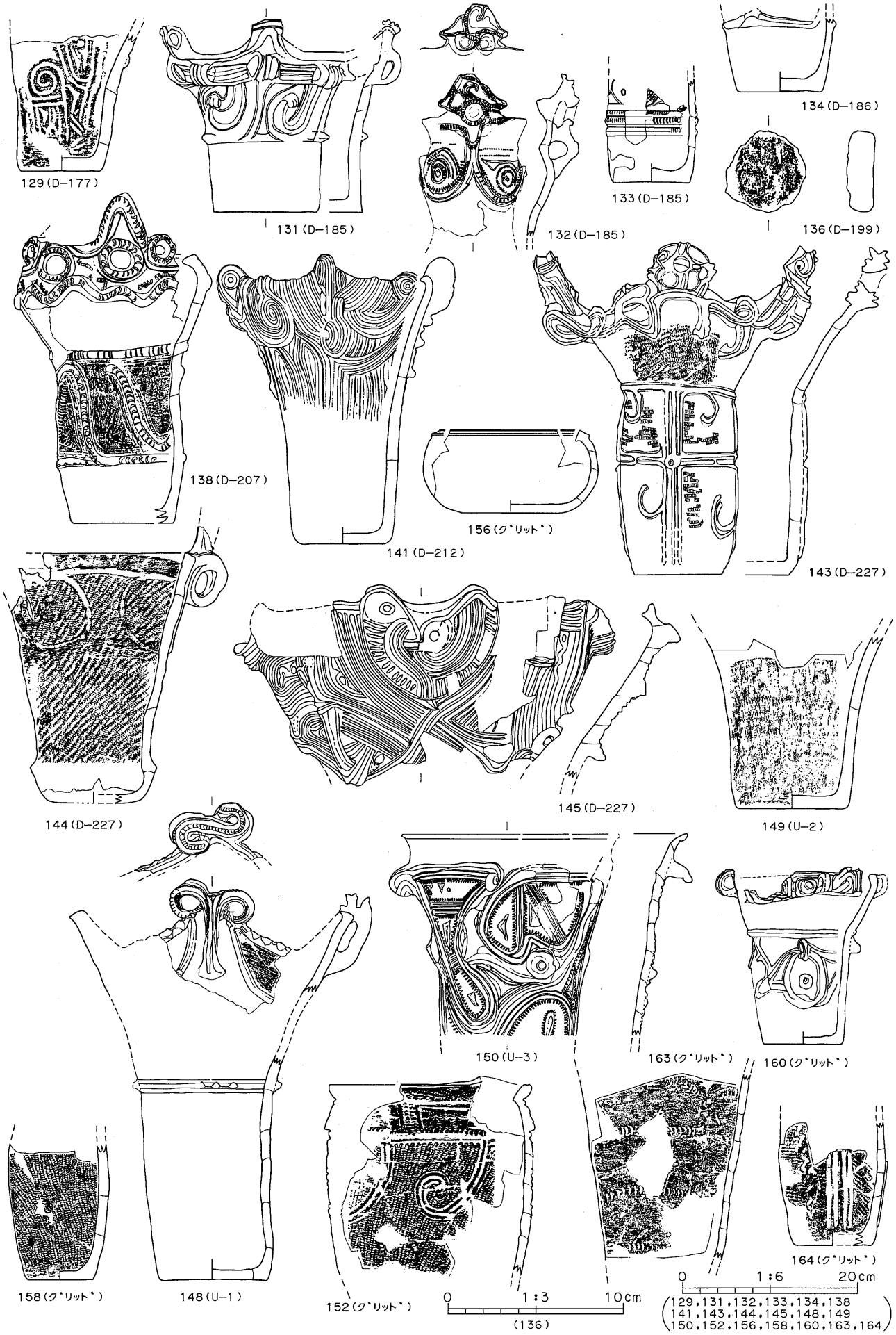
第34図　縄文土坑遺物実測図（その１）



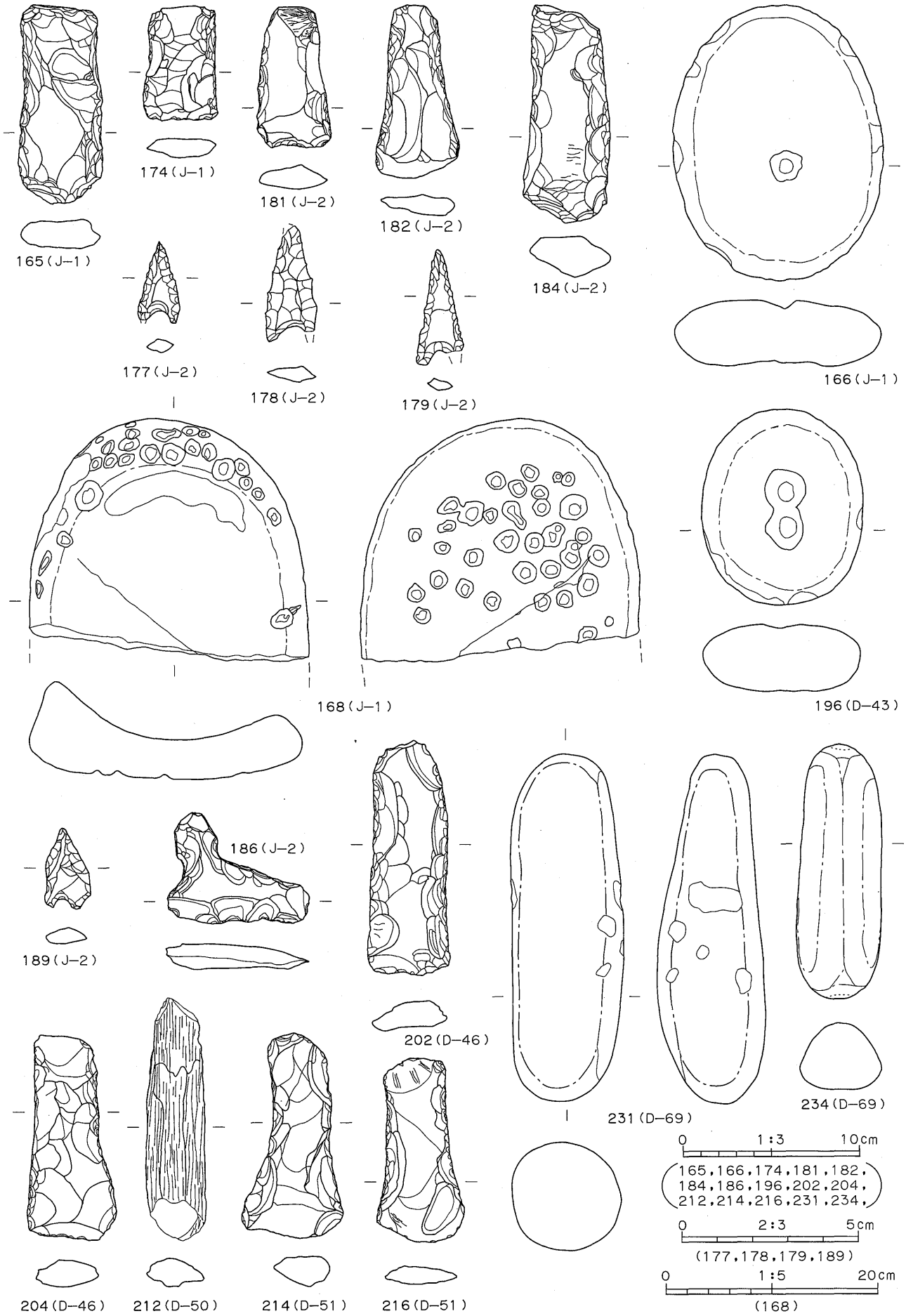
第35図　縄文土坑遺物実測図（その２）



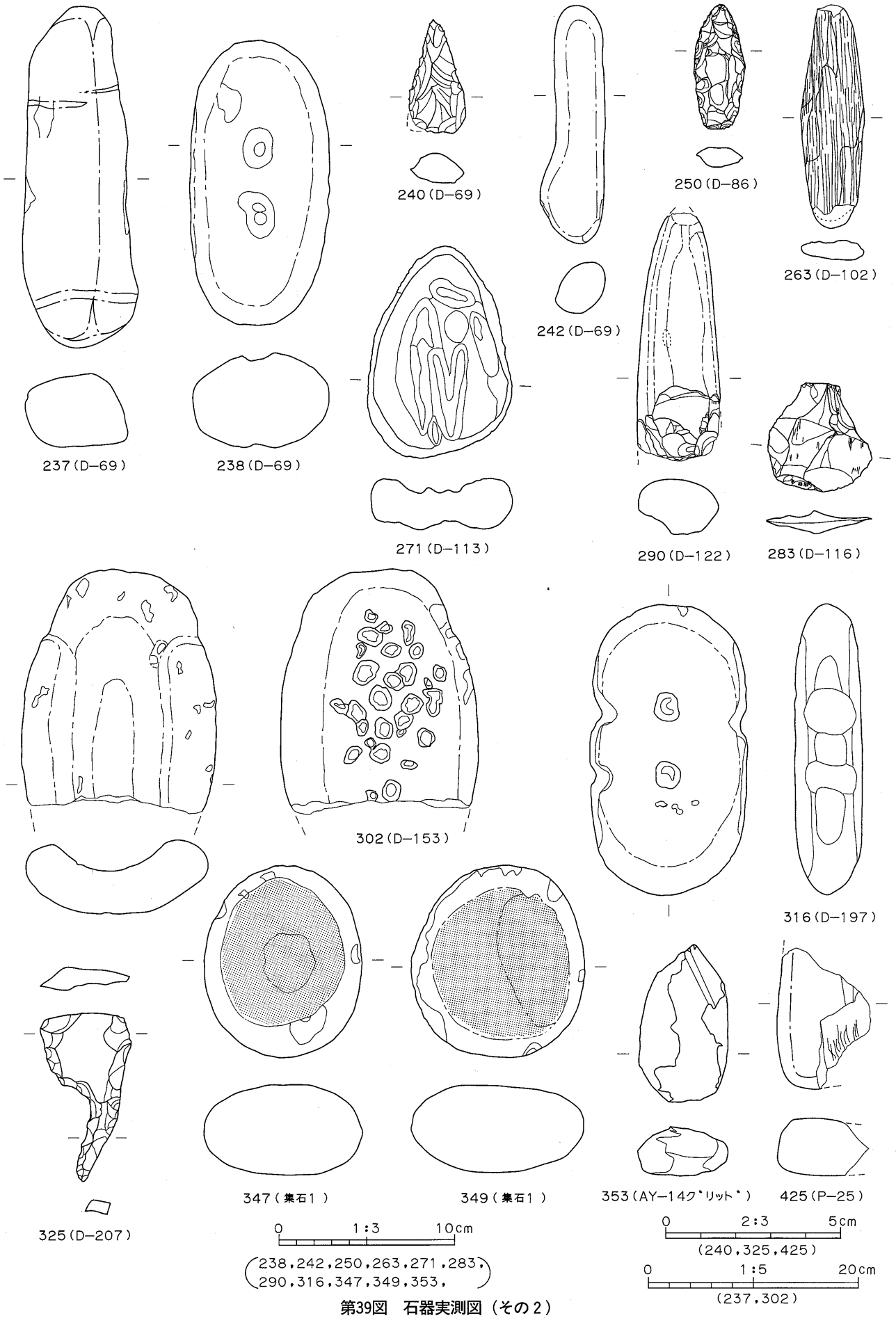
第36図　縄文土坑遺物実測図（その3）



第37図　縄文土坑・埋甕・グリッド遺物実測図



第38図　石器実測図（その1）



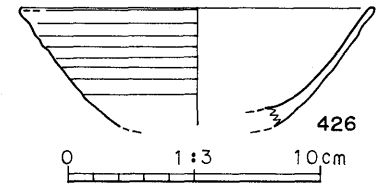
第39図　石器実測図（その2）

3．平安時代以降の遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

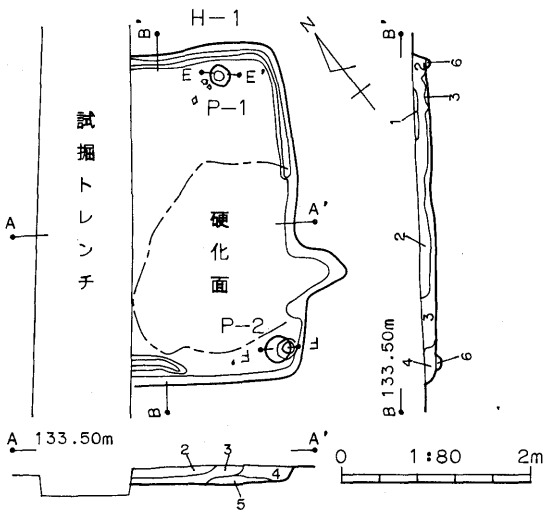
H－1号住居跡〔第40図、図版12〕

位置 AX-20・21グリッドに位置する。**形状** 試掘トレンチに西側を削られているが、南北に長い方形を呈するものと思われる。**規模** 東西は検出値で1.75m、南北3.61m。壁高は9～19cmを測る。**面積** 検出値で5.7m²。**長軸方向** N-36°-E。**床面** 全体的に締まりがある。中央部は回りに比べて5cm程低い。**柱穴** 2基検出した。P－1は径23×20cm、深さ58cmの楕円形、P－2は径28×26cm、深さ68cmの円形を呈する。**カマド** 東壁の南寄りに位置する。主軸方向はN-122°-Eで、全長70cm、幅88cm、焚口部幅44cmを測る。構築材として白色粘土を使用しているが、残存状況はよくない。**遺物** 床面より12cm浮いた状態で不明鉄製品の小片が出土している。また、カマド前から須恵器片(No.426)が出土している。**周溝** 北壁と東壁・南壁の一部に検出された。

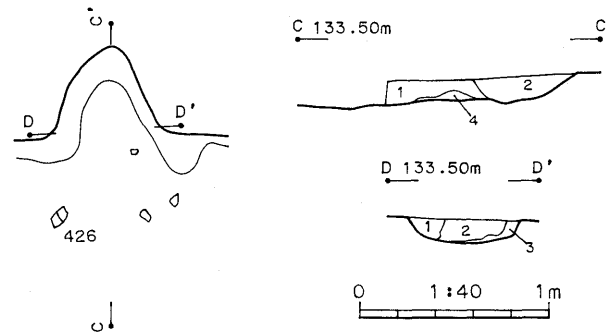


法量は①口径②器高(cm)を表す。(　)は推定値、[　]は現存値を表す。

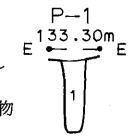
番号	出土位置	器　形	法　量	①胎土②焼成 ③色調④残存	成・整形方法
426	AH-1 カNo.1	埦 (須恵器)	①(14.0) ②[4.7]	①細粒②良好 ③灰④口縁部片	ロクロ成形 高台部欠損



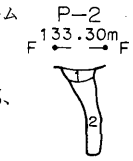
H-1 土層注記 (A-A'、B-B'断面)
1. にぶい黄褐色土層 粘性なし、締まりあり、砂質土(耕作土)
2. 黒褐色土層 粘性なし、締まり良く硬い、As-C軽石とHr-FP軽石を30%、ローム粒、ロームブロック(10～20mm)を5%、ところにより、焼土粒を2%含む
3. 暗褐色土層 粘性なし、締まりややあり、ローム粒、ロームブロックを10%含む
4. 褐色土層 粘性なし、締まり良く硬い、ロームブロック(10～50mm)を20%含む
5. 黒褐色土層 粘性なし、締まりあり、白色軽石を5%、ロームブロックを10%含む
6. 暗褐色土層 粘性なし、締まりあり、白色軽石を7%、ローム粒を20%含む (周溝)



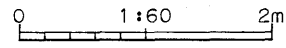
H-1カマド 土層注記 (C-C'、D-D'断面)
1. にぶい黄褐色土層 粘性なし、締まりあり、白色軽石を7%、焼土粒2%、ロームブロック(5～30mm)を15%含む
2. 褐色土層 粘性ややあり、締まりあり、焼土粒、焼土ブロック(5～20mm)を5%、炭化物粒を1%、白色粘土を7%含む
3. 褐色土層 粘性、締まりややあり、ローム粒を5%、焼土粒、炭化物粒を1%含む
4. 暗褐色土層 粘性、締まりあり、ロームブロックを7%、焼土粒を10%含む 土器片あり



H-1 P-1 土層注記 (E-E'断面)
1. 暗褐色土層 粘性なし、締まりあり、白色軽石(1mm)を2%、ローム粒を10%含む



H-1 P-2 土層注記 (F-F'断面)
1. 灰黄褐色土層 粘性なし、締まりややあり、白色軽石(1mm)を7%、焼土粒3%、白色粘土を20%含む
2. 暗褐色土層 粘性なし、締まりあり、白色軽石を2%ローム粒を10%含む



第40図　H－1号住居跡平面・断面・遺物実測図

(2) 土坑・柱穴〔第41図、第30・31表〕

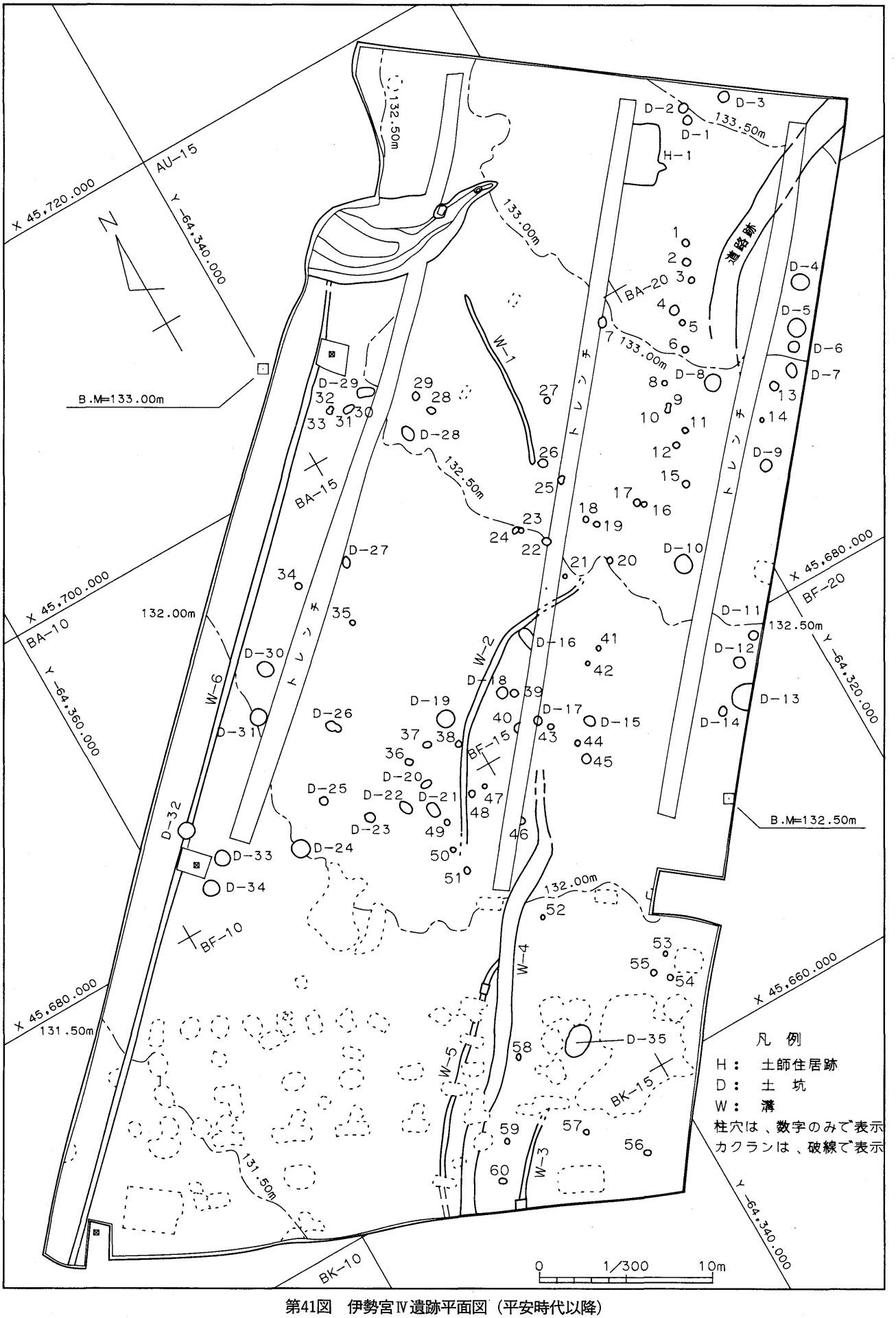
土坑は、35基検出された。柱穴は、60基調査を行っている。その性格や時期は、出土遺物もほとんど無く不明である。P-25から大珠片(No.425)が出土している。

(3) 溝状遺構〔第41図、第32表〕

6条検出した。出土遺物はほとんどなく、土層の観察からも時期の特定は難しい。

(4) 道 路 跡〔第41図〕

調査区の北東部に1ヶ所検出した。土地改良以前の道路である。



第41図 伊勢宮Ⅳ遺跡平面図（平安時代以降）

第30表　平安時代以降の土坑計測表

（　）は推定及び検出値を示す。

土坑番号	位置（グリッド）	平面形状	規模（cm）長×短×深さ	備考
D-1	AX-22	ほぼ円形	53×51×14	
D-2	AX-22	楕円形	61×52×20	
D-3	AX-22	ほぼ円形	66×63×22	
D-4	BB-22	楕円形	104×93×15	
D-5	BB-21・22	円形	107×107×13	
D-6	BB-21、BC-21	円形	66×64×17	
D-7	BC-21	楕円形	86×58×34	
D-8	BB-20	楕円形	101×94×11	
D-9	BD-20	楕円形	74×67×77	
D-10	BE-18、BD-18	ほぼ円形	110×107×68	
D-11	BF-19	円形	56×56×23	
D-12	BF-18	ほぼ円形	67×65×6	
D-13	BF-18、BG-18	楕円形	157×[115]×33	
D-14	BF-18、BG-18	楕円形	60×50×9	
D-15	BF-16	楕円形	71×58×34	
D-16	BD-16	楕円形	[138]×67×18	
D-17	BE-15	楕円形	55×50×17～37	
D-18	BE-15	楕円形	72×66×24	
D-19	BE-14	ほぼ円形	106×100×8	
D-20	BE-14	楕円形	65×39×21	
D-21	BF-13・14	楕円形	90×60×11	
D-22	BE-13、BF-13	楕円形	90×57×14	
D-23	BE-13	楕円形	62×50×20	
D-24	BE-11・12	円形	110×108×25	
D-25	BE-12	円形	55×52×18	
D-26	BD-13	不整形	94×58×26	
D-27	BB-14	楕円形	69×45×28	
D-28	BA-16	楕円形	93×65×26	
D-29	AY-16	楕円形	104×56×15	
D-30	BC-12	楕円形	102×88×16	
D-31	BC-12	ほぼ円形	102×97×13	
D-32	BD-10	円形	100×97×7	W-6と重複
D-33	BE-10・11	円形	90×90×9	
D-34	BE-10	円形	96×92×6	
D-35	BI-14、BJ-13・14	楕円形	200×128×10	

第32表　平安時代以降の溝状遺構計測表

（　）は検出値、N-S-W-Eは方向を示す。

No.	位置グリッド	上幅下幅(cm)	長さ(m)	深さ(m)	底の標高(m)	流水方向	備考
W-1	AX・AY-18～BB-17	24～30 8～15	11.60	0.035～0.09	N 132.82 S 132.625	N→S	
2	BD-17～BF-14	(25～42) (13～19)	(17.90)	(0.05)～(0.11)	NE 132.43 SW 132.02	NE→SW	
3	BJ-12 BK-12	(25～37) (7～15)	(5.00)	0.025～0.05	NE 131.58 SW 131.45	NE→SW	
4	BF・BG-15～BK-11	(50～110) (30～35)	(24.90)	0.23～0.30	NE 131.82 SW 131.29	NE→SW	
5	BH-13～BJ-11	(26～44) (13～37)	(12.50)	(0.03)～(0.13)	NE 131.75 SW 131.59	NE→SW	
6	AX-15・16～BI-6	(30～38) (20～28)	(57.65)	(0.06)	NE 132.18 SW 131.03	NE→SW	J-1と重複

参考文献

『三原田遺跡』群馬県史資料編1　1988　群馬県
『房谷戸遺跡Ⅰ』1989　群馬県埋蔵文化財調査事業団
『大平台遺跡』1989　群馬県埋蔵文化財調査事業団
『縄文土器大観』1989　小林達夫編集
『研究紀要7』1990　群馬県埋蔵文化財調査事業団
『研究紀要9』1992　群馬県埋蔵文化財調査事業団
『鼻毛石中山遺跡　発掘調査概報』1996　宮城村教育委員会
『縄文人の死と再生』1998　高崎市観音塚考古資料館
『縄文土器論集』1999　縄文セミナー10周年記念論文集
『道訓前遺跡』2001　北橘村教育委員会

第31表　平安時代以降の柱穴計測表

（　）は推定及び検出値を示す。

柱穴番号	遺構位置（グリッド）	平面形状	規模（cm）長×短×深さ	備考
P-1	AY-21	円形	41×40×20	
P-2	BA-21	円形	45×44×16	
P-3	BA-21	楕円形	40×35×23～38	
P-4	BA-20	楕円形	60×54×21	
P-5	BA-20	ほぼ円形	37×34×10～25	
P-6	BB-20	円形	40×40×18	
P-7	BA-19	楕円形	66×(50)×40～59	
P-8	BB-19	ほぼ円形	32×30×20	
P-9	BB-19	円形	(28)×26×18	P-10と重複
P-10	BB-19	楕円形	32×(24)×13	P-9と重複
P-11	BC-19	楕円形	37×33×11～23	
P-12	BC-19	楕円形	40×35×36	
P-13	BC-21	ほぼ円形	54×52×44	D-64と重複
P-14	BC-20	ほぼ円形	28×24×23	
P-15	BC-19	楕円形	45×42×31	
P-16	BC-18	楕円形	33×30×9	
P-17	BC-18	楕円形	43×39×20	
P-18	BC-17・18	楕円形	35×32×10	
P-19	BC-18	楕円形	38×30×7～25	
P-20	BD-17・18	楕円形	38×33×47	
P-21	BD-17	楕円形	28×25×18	
P-22	BC-17	楕円形	(53)×42×16	
P-23	BC-17	ほぼ円形	30×30×37	
P-24	BC-16・17	楕円形	46×32×32	
P-25	BB-17・18、BC-17	不整形	50×35×27	大珠片出土
P-26	BB-17	楕円形	60×50×16～36	
P-27	BA-18	楕円形	38×34×18	
P-28	BA-16	楕円形	52×40×20	
P-29	AY-16	楕円形	52×40×26	
P-30	AY-15	楕円形	28×(24)×16	P-31と重複
P-31	AY-15	楕円形	(44)×37×20	P-30と重複
P-32 P-33	AY-15 AY-15	楕円形 楕円形	28×(21)×8 38×(25)×18	P-33と重複 P-32と重複
P-34	BB-13	円形	42×40×17	
P-35	BC-14	楕円形	35×30×15	
P-36	BE-13・14	楕円形	48×40×19	
P-37	BE-14	楕円形	50×40×46	
P-38	BE-14	楕円形	38×38×23	
P-39	BE-15	ほぼ円形	50×43×27	
P-40	BE-15	ほぼ円形	60×(60)×15	
P-41	BE-17	楕円形	30×27×24	
P-42	BE-16	ほぼ円形	26×24×12	
P-43	BE-16、BF-16	楕円形	40×32×22	
P-44	BF-16	ほぼ円形	35×31×17	
P-45	BF-16	ほぼ円形	58×52×66	
P-46	BF-15	楕円形	(50)×43×14	
P-47	BF-14	ほぼ円形	28×28×14	
P-48	BF-14	ほぼ円形	40×38×30	
P-49	BF-14	ほぼ円形	35×32×27	
P-50	BF-13	ほぼ円形	32×32×23	
P-51	BG-13	ほぼ円形	40×38×28	
P-52	BH-14	楕円形	30×25×26	
P-53	BI-15	円形	28×24×26	
P-54	BI-15	円形	37×35×13～30	
P-55	BI-15、BJ-15	円形	35×32×27～61	
P-56	BK-14、BL-14	楕円形	42×30×13	
P-57	BK-13	楕円形	33×30×6～18	
P-58	BI-13	楕円形	40×26×68	
P-59	BJ-12	楕円形	36×30×20	
P-60	BK-12	楕円形	45×33×13	

4．まとめ

縄文時代の遺構と遺物について

本遺跡は、北から南へ緩やかに下る洪積台地上の西端にあり標高132.00mを測る。調査の結果住居跡３軒、土坑194基、埋甕３基、集石３ヶ所を検出し、調査区中央部の比較的遺構の分布が薄い所には石柱が散在していた。

３軒の住居跡は北西側に偏在しており、Ｊ－１とＪ－２の距離が10.2m、Ｊ－２とＪ－３の距離が8.6mである。Ｊ－１は円形の大規模な住居跡で、しっかりした掘り込みの柱穴を検出している。炉跡は地床炉の様相を呈しているが、付近から熱を受けた自然石や石皿片等が出土しており、石囲い炉の可能性が高いと考える。伴出遺物は、多くの完形に近い土器が復元でき、中期中葉に属するものと考えられる。Ｊ－２は、楕円形の小型の住居跡である。住居跡のほぼ中央に掘り込みを持たない焼土範囲が僅かに認められたが、明確な炉跡は有していない。伴出遺物は、石器が主体を占める。Ｊ－３は石囲い炉を有する住居跡で、Ｄ-84と重複する。柱穴は円形状に検出された。伴出遺物は、炉跡から出土した土器片だけだが中期後半に属すると考える。

土坑は、住居跡との重複も見られるが遺跡全体に濃密に分布し、谷地状の落ち込みがある北側や北西壁付近および遺跡中央部は散在的な傾向にある。その形態的特徴は、平面形状が円形86基、楕円形102基、不整形５基、隅丸方形を呈すると思われるもの１基で、底面は平坦なものがほとんどを占める。断面形状は、袋状40基、直下り39基、台形状96基、皿状14基、不整形５基である。規模は、中型（遺構確認面における長径80～130cm）112基、小型（80cm未満）47基、大型（131cm以上）35基である。

土坑を断面形状別に分類してみると、袋状土坑40基の内訳は、平面形状が円形18基、楕円形22基である。規模は、中型29基、大型11基で小型のものはない。遺物は、完形か半完形の土器を出土したのもが20基で、土器片出土のものを含めると39基になる。自然石出土は４基、石器出土30基、礫出土17基である。その傾向として、自然石出土の土坑は、石器の出土が少なく、礫の出土もないことがうかがえる。自然石出土のＤ-48は、石柱も伴い興味深い。Ｄ-46は、遺跡内最高の礫375個を数える。Ｄ-51・180の埋土に焼土を確認。Ｄ-85だけは遺物を出土していない。

直下がりの土坑39基の内訳は、平面形状が円形19基、楕円形20基である。規模は、中型26基、小型９基、大型４基である。遺物は、完形及び半完形の土器を伴うものが６基で、土器片出土のものを含めると31基になる。自然石出土は４基、石器出土23基、礫出土12基である。遺物の出土が見られないものが６基ある。自然石出土の土坑のうち、Ｄ-40は土器や石器を多量に出土する。Ｄ-59やＤ-140はピット状、Ｄ-224は土器片は僅かで、石器類が主体を占めるという特徴が見られる。

台形状の土坑96基の内訳をみると、平面形状が円形40基、楕円形51基、不整形４基、隅丸方形１基に分けられる。規模は、中型53基、小型28基、大型15基である。遺物は、完形か半完形の土器を出土したのもが７基で、土器片出土のものを含めると63基になる。自然石出土は６基、石器出土39基、礫出土12基、遺物出土のないもの27基である。その傾向は、形状、規模、遺物ともバラエティに富むと言える。

皿状の土坑14基の内訳は、平面形状は円形８基、楕円形６基である。規模は、中型４基、規模の小さいピット状が９基、大型１基である。遺物の出土がない土坑は６基である。大型のＤ-91は段のある二重の土坑で、熱を受けたこぶし大の自然石を多量に出土している。Ｄ-153の規模は径90cm深さが24cmと浅いが、遺物や自然石が多量に出土している。

断面不整形の土坑５基の内訳は、平面形状が円形１基、楕円形３基、不整形１基である。規模は、小型１基、大型４基で、遺物のないものが２基ある。集石１と重複するＤ-228は規模も大きく細かな遺物片が多量に出土し、ほかの土坑とタイプが違う。

遺物別に分類してみると完形か半完形の土器を出土した土坑が35基あり、そのうち２個体以上出土したものが17基である。土器片を出土したものは141基でそのうち多量出土のものが13基ある。また、自然石や石柱を出土したものは16基、石器出土のものは98基、礫を20個以上出土したものは43基である。なお、遺物の出土を見ないものも42基ある。遺物を出土する土坑の割合は、袋状が一番高く、直下がり、台形状、皿状の順に低くなる傾向が見られる。個別の遺物をあげてみると、有孔鍔付土器片№31（Ｄ-40・43・56）、土製円盤№136（Ｄ-199）等がある。三角柱形土製品№82（Ｄ-65）は、東北・北陸地方から多く出土しているが、県内では寺沢遺跡（沼田市）や大平台遺跡（高崎市）から報告例がある。脚台付香炉形土器№69（Ｄ-58）は、焼町系に属するものと考えられる。人物・動物を意匠文として施文した土器№89（Ｄ-72）、97（Ｄ-92）、132（Ｄ-185）や底部に網代痕がある土器№95（Ｄ-84）もある。また、大珠№425（Ｐ-25）は、前橋市内では元総社明神遺跡Ⅷと九料遺跡（小神明遺跡群Ⅳ）から出土例がある。

土坑の所属時期については、143基の土坑から遺物が出土しているが、土器片等の観察結果から中期中葉を中心にした時期に該当するものと考える。群馬県内の同時期の遺跡としては三原田遺跡（赤城村）、房谷戸遺跡（北橘村）、道訓前遺跡（北橘村）、大平台遺跡（高崎市）、鼻毛石中山遺跡（宮城村）等があげられる。また前橋市内では、現在整理中の芳賀北部団地遺跡で中期集落が検出されている。

なお、整理作業時において、遺構間接合が17例確認できた。住居跡では、J－1とD-122、J－3とD-51の遺構間接合があり、土坑では、D-40・43・49・56・72・92・93・102・113・122・127・197・208・220があげられる。距離の近いものが多いが、D-43・113・127・220のように調査地の北から南にわたるものもある。

本遺跡は、群馬県における中期中葉の様相を垣間見ることの出来る貴重な遺跡と言える。本県の地理的な条件から南関東系（勝坂・阿玉台系）、中部系、北陸系、南東北系、在地系の文化が複雑に影響しあい群馬独自の土器様相を呈している。そのため同一遺構内における同系統・異系統土器の共伴例や一個体の土器内の異系統文様の共存現象等は、中期土器研究の基礎資料となる。また、土坑の性格は、貯蔵穴や墓坑等が考えられるが本県の場合区別が難しく多くの資料の累積が必要と考える。

縄文土器の分類について

Ⅰ　中期中葉に属する土器群

1　勝坂式系の土器（7、8、14、15、19、20、21、32、45、54、55、57、67、76、77、91、92、93、96、97、101、102、103、104、108、122、133、134、138、140、144、146、147、152、153、157、160、161、164）

2　阿玉台式系の土器　深鉢（22、99、119、120、126、128、159、163）

Ⅱ　在地系深鉢中型土器、a：胴部に膨らみを持つ、b：胴部が円筒状。（三原田式及び大木8a、bの影響を受けた土器）

1　口縁部に突起を持ち、頸部と胴部に縄文を施文。　1a（27、61、158）、1b（38、71、109）

2　口縁部は沈線、頸部に指頭圧痕の隆帯、地文に縄文を施文。　2a（28、65）、2b（37、64、72、142）

3　口縁部に「S」字状の貼り付け、頸部に隆帯が巡り、胴部は縄文施文後沈線でクランク文・懸垂文等を施文。　3a（25、41、46、74、88、130）、3b（13、75、87、110、113、114、121）

4　口縁部沈線、頸部と胴部の境を沈線で区画。胴部はクランク文施文。
4a（10、12、33、68、106）、4b（11、105）

Ⅲ　口縁部に突起を持つ土器群（火焔系・焼町系を含む）

1　曲隆線と環状突起を主文様とする土器（43、50、84、98、112、129、131、141、145、150）

2　平口縁の口唇部に突起。　2a 頸部に隆帯による連弧文（42、53、78、79、80、81、100）、2b 頸部に沈線による連弧文（24、51、52）、2c 主突起の外面「H」字状・内外面に円文（36、107）、2d 主突起の内面に円文（3、4、5、115）、2e 平口縁部・頸部に把手ないし突起（9、56、83、151、154、155）

3　波状口縁口唇部主突起「の」字状、頸部に隆帯、形状表現は真上から見た形。　3a 隅丸方形（44、58、62、143、148）、3b 隅丸方形、頸部と胴部の境に沈線（59）、3c 楕円形（1）、3d 隅丸方形、主突起が鶏頭冠状突起（2、40、60）

Ⅳ　中期後半に属する土器群（加曽利E1・2に属すると思われる土器）

1　口縁・胴部文様帯、地文に縄文（23、29、30）

Ⅴ　小型の深鉢形土器群

1　口縁に沈線文、刺突文、連弧文、地文は縄文ないし無文。（26、48、73、86、135、137）

Ⅵ　深鉢以外の器形の土器群

1　器肉が厚い浅鉢（6、17、63、66、117）

2　平口縁の浅鉢（16、18、34、35、39、47、49、70、85、111、116、139）

3　波状口縁の浅鉢（118、125、127、162）　※この浅鉢の内、16、17、34、47、49、63、85、116には朱の塗布が見られる。

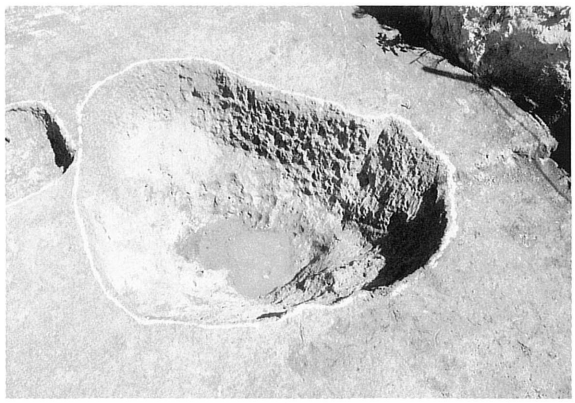
4　阿玉台式系の浅鉢（90、94、123、124、156）　5　底部から口縁部に向ってラッパ状に開く鉢形（149）

平安時代以降の遺構について

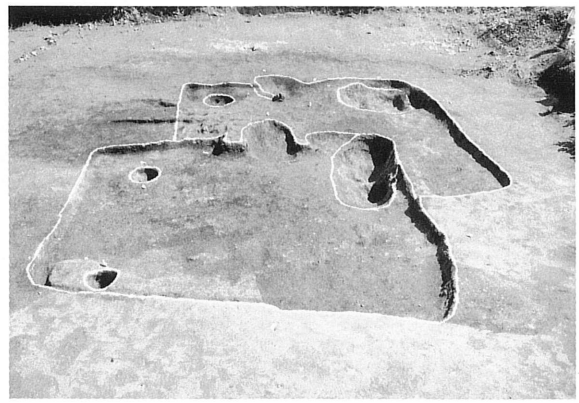
H－1は9世紀後半に比定されると考えられる小型の住居跡だが、一軒のみの検出であり集落のあり方は不明である。土坑は35基、柱穴は60基を検出している。しかし出土遺物もほとんどなく、土層の観察結果からもその時期や性格は判然としない。6条の溝状遺構は新しい時期のものであろう。道路跡は土地改良以前に使用されていたものである。

調査前現況（南から）

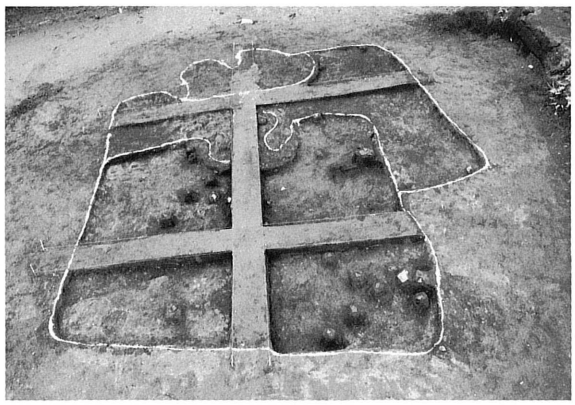
調査区全景（南から）



Ｄ－１９号土坑（縄文）全景（南から）

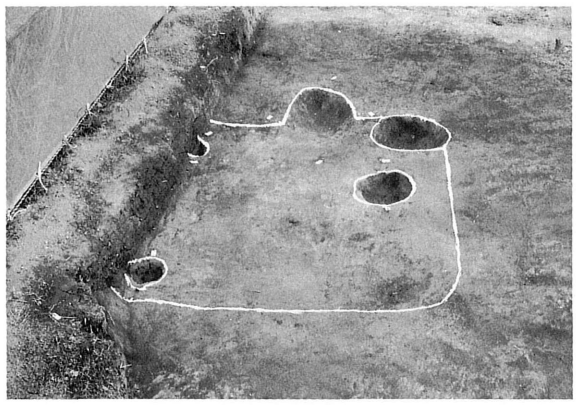


Ｈ－１・２号住居跡全景（西から）



Ｈ－１・２号住居跡遺物出土状況（西から）

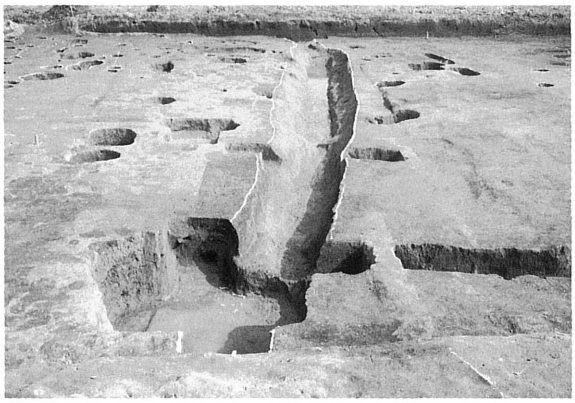
Ｈ－２号住居跡遺物出土状況



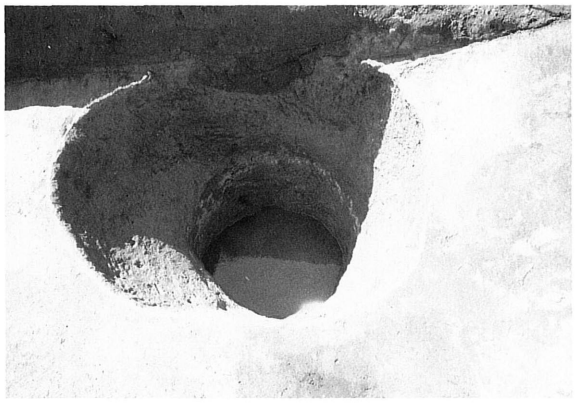
Ｈ－３号住居跡全景（西から）

Ｔ－１号竪穴状遺構全景（西から）

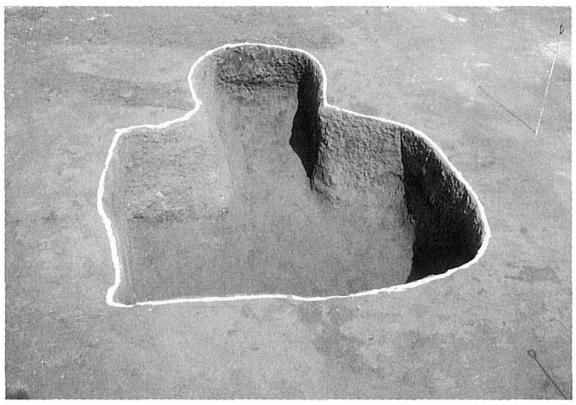
図版　2



W－１号溝、Ａ－４号地下式土坑全景（西から）



Ｉ－１号井戸全景（北から）



Ａ－１号地下式土坑全景（南から）

Ａ－１号地下式土坑遺物出土状況（西から）

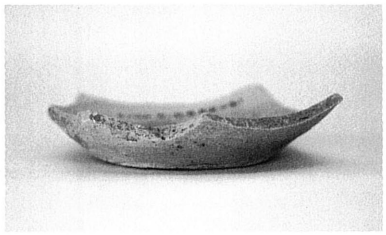
Ａ－４号地下式土坑遺物出土状況

Ｂ－１号掘立柱建物跡全景（西から）

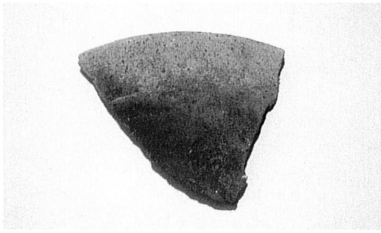
W－３号溝、道路状遺構（土地改良前）全景（南から）

埋め戻し完了全景（南から）

H-1-1



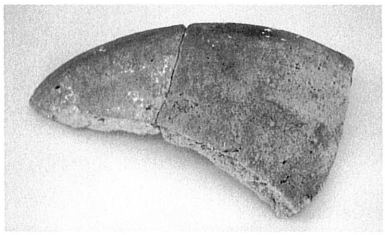
H-2-1



H-3-1

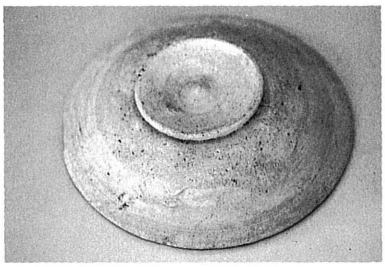
I-1-1

A-1-1

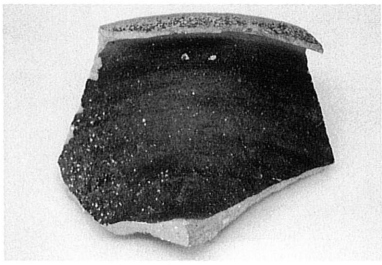


A-3-1

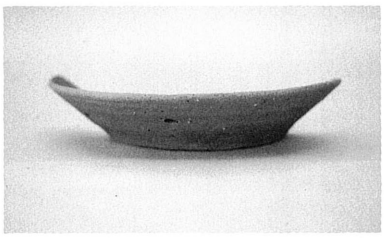
A-4-1



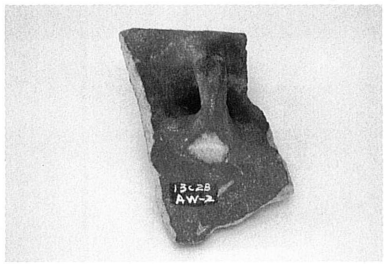
A-4-2



A-5-1

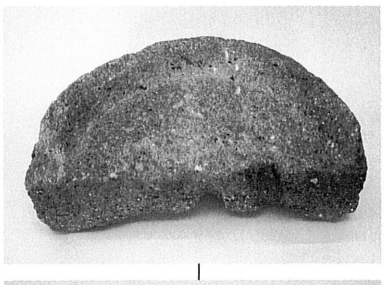


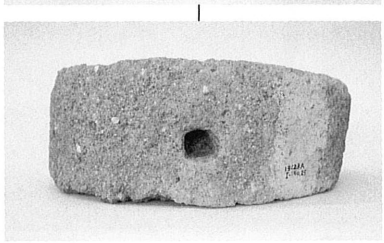
D-72-1



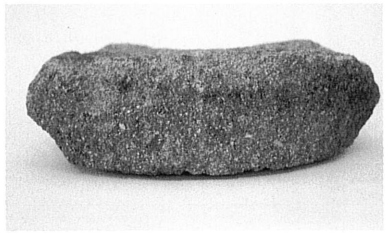
W-2-1

A-4-3

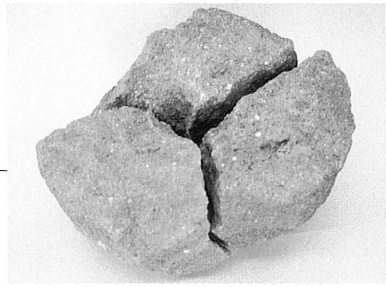




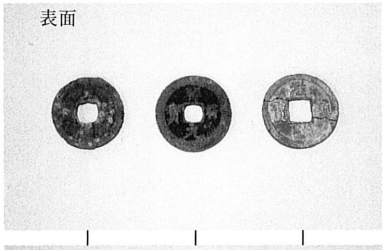
I-1-2

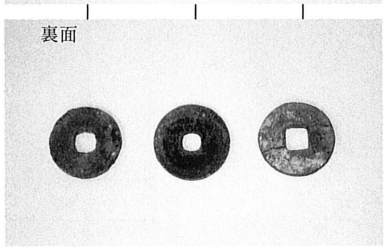


W-2-2

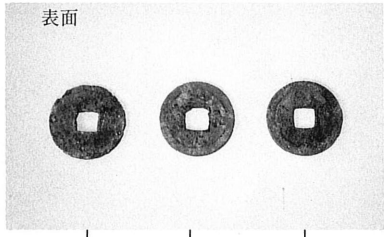


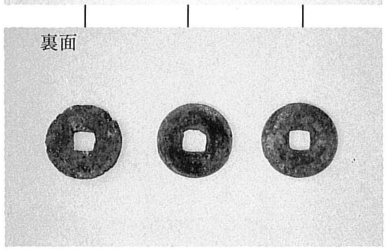
I-1-3





A-2-1　A-5-2　AV-8グ



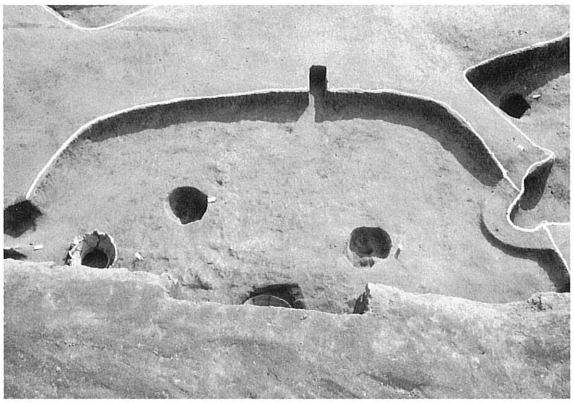


AV-9グ　BA-10グ　全体一括

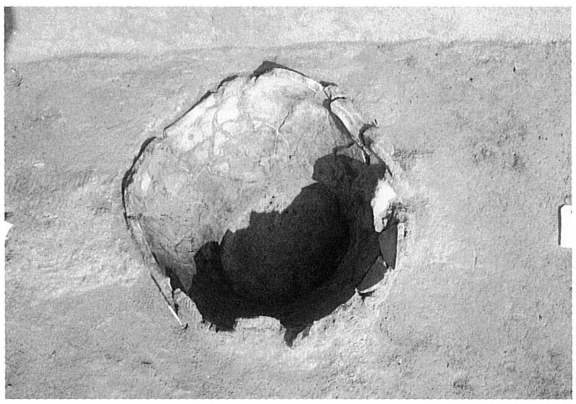
調査前現況（南から）

Ａ～Ｃ調査区全景（南から）

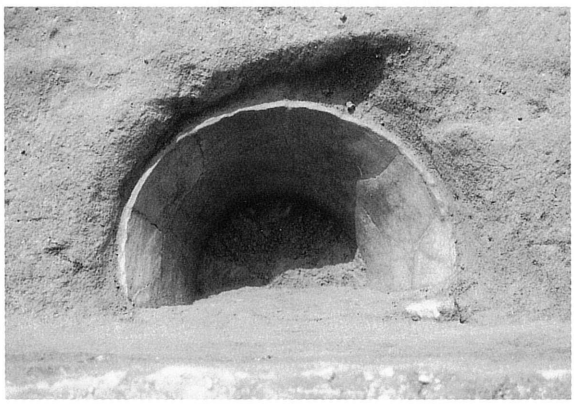
Ｃ調査区全景（西から）



Ｊ－１号住居跡全景（北から）

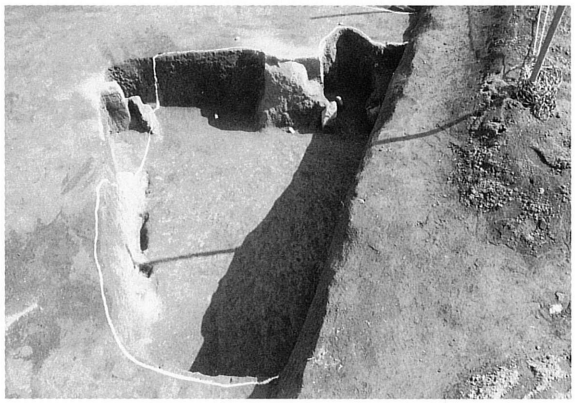


Ｊ－１号住居跡遺物出土状況（南から）



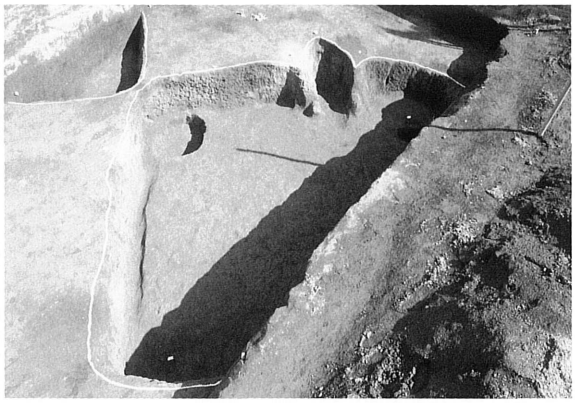
Ｊ－１号住居跡遺物出土状況（北から）

Ｄ－３号土坑（縄文）遺物出土状況（南から）



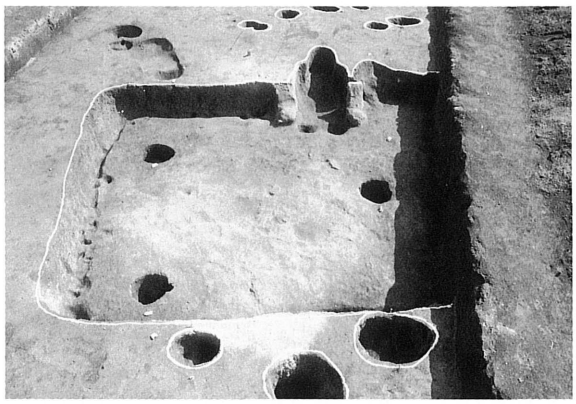
Ｈ－９号住居跡全景（西から）

Ｈ－９号住居跡カマド全景（西から）



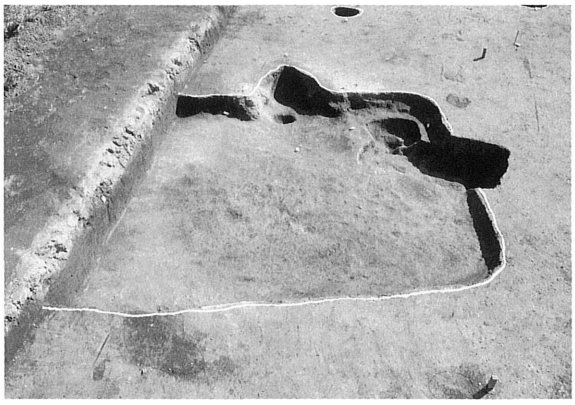
Ｈ－８号住居跡全景（西から）

Ｈ－８号住居跡Ｐ－１遺物出土状況

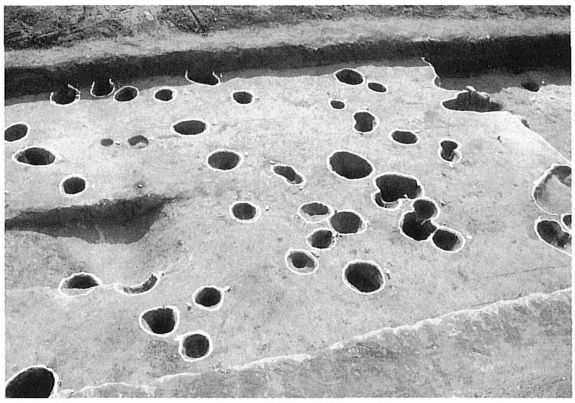


Ｈ－５号住居跡全景（西から）

Ｈ－５号住居跡遺物出土状況（西から）



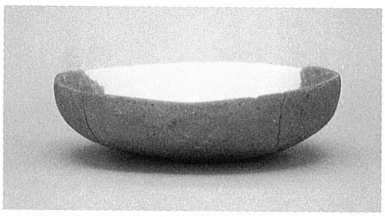
Ｈ－４号住居跡全景（西から）

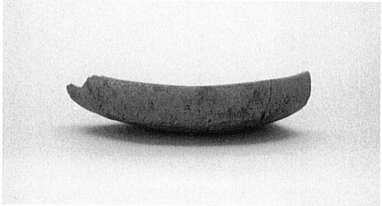


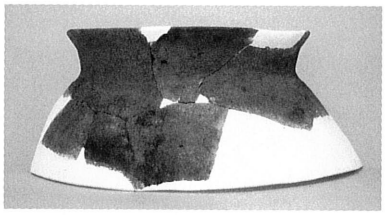
Ｃ区土坑・柱穴群全景（南から）

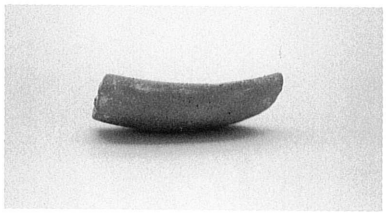
埋め戻し完了全景（西から）

図版　6

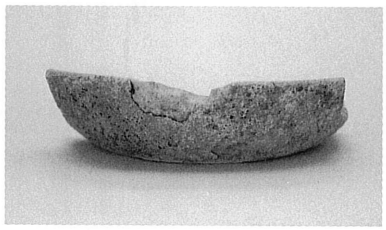

H-1-1

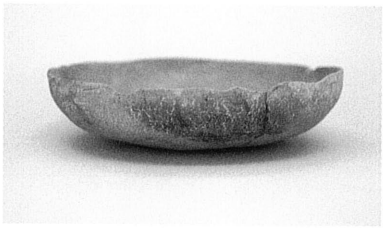

H-1-2

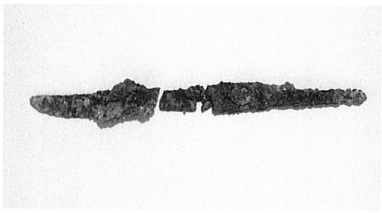

H-2-1


H-3-1

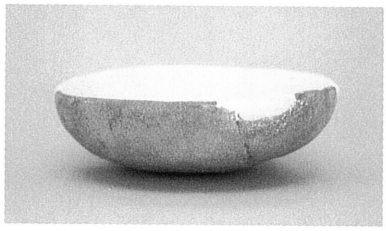
H-4-1

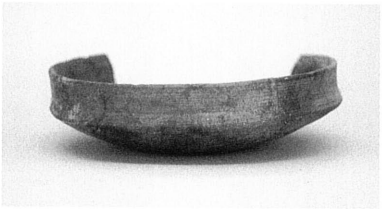

H-5-1

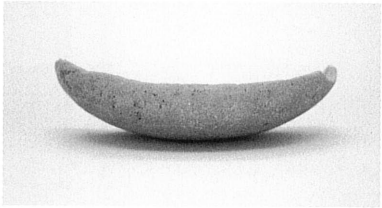

H-5-2

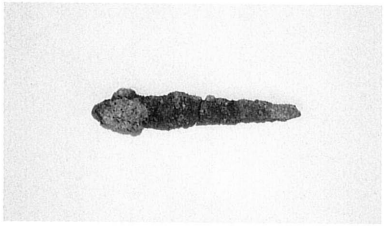

H-5-3

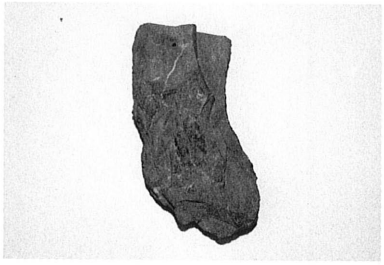
H-6-1


H-6-2

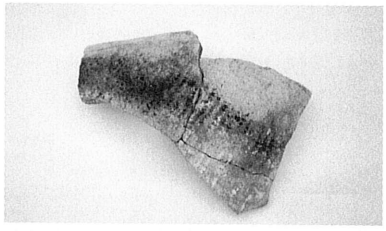

H-7-1


H-8-1

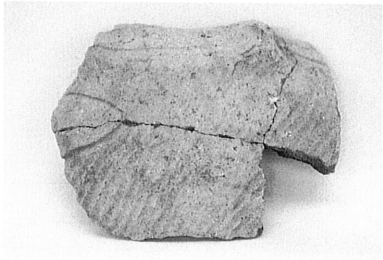

H-8-2


D-2-1

H-9-1


D-2-2

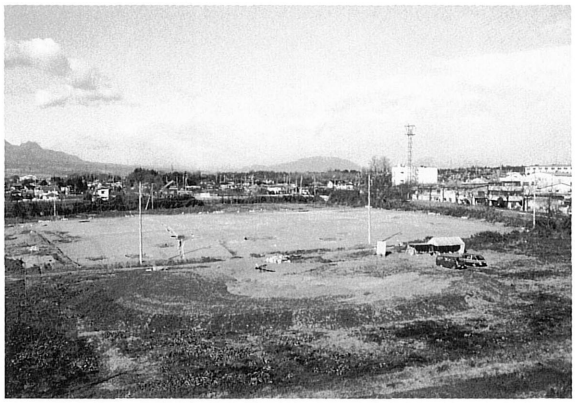
D-3-2


D-3-1

J-1-1

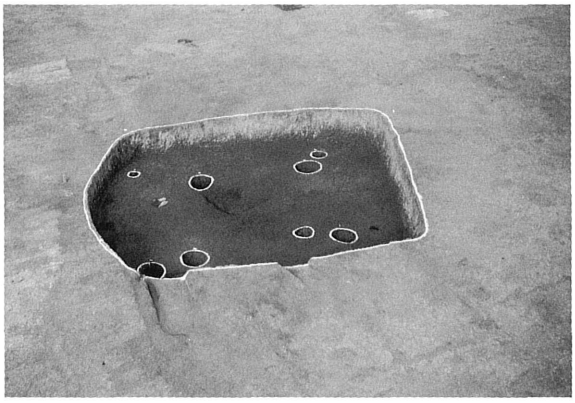
J-1-2

調査前現況（東から）



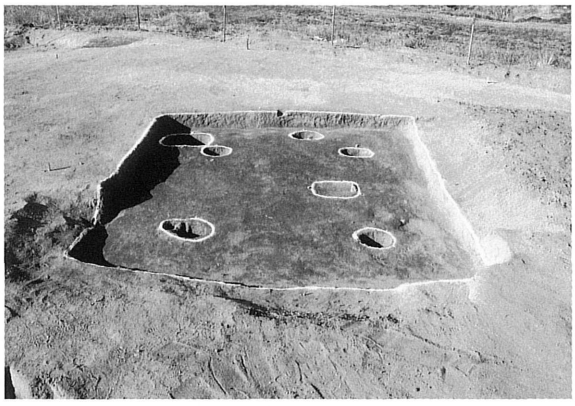
調査区全景（東から）

調査区全景（２面調査範囲）

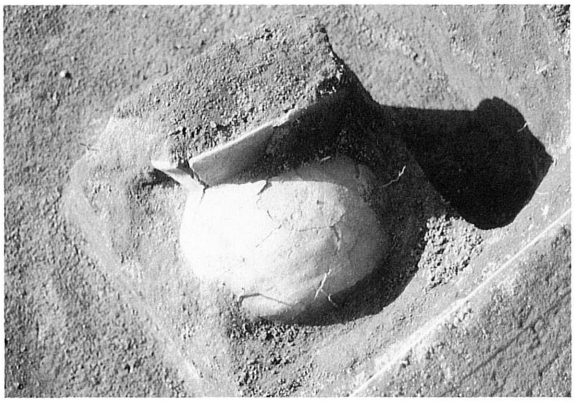


Ｊ－２号住居跡全景（東から）

Ｊ－２号住居跡遺物出土状況



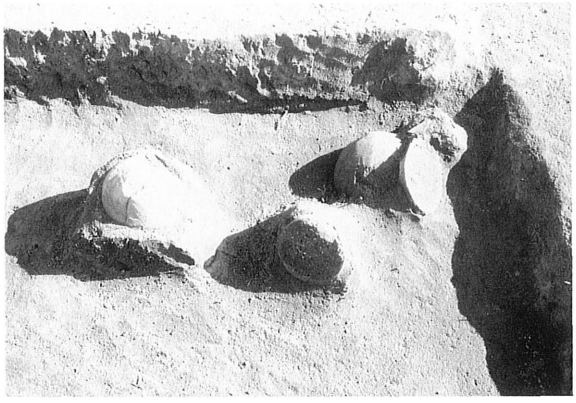
Ｈ－12号住居跡全景（東から）



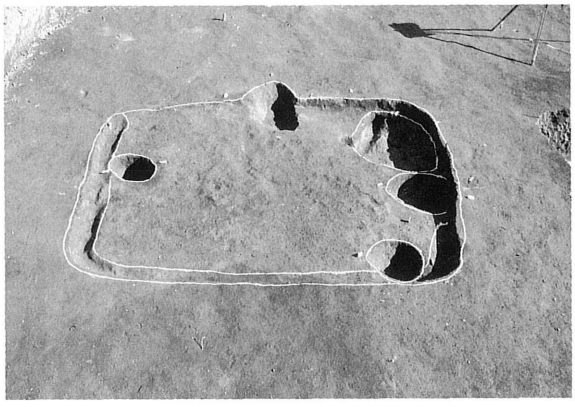
Ｈ－12号住居跡遺物出土状況

Ｈ－18号住居跡全景（西から）

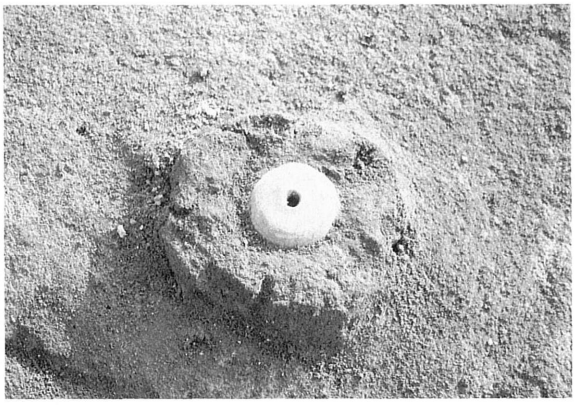
図版　8



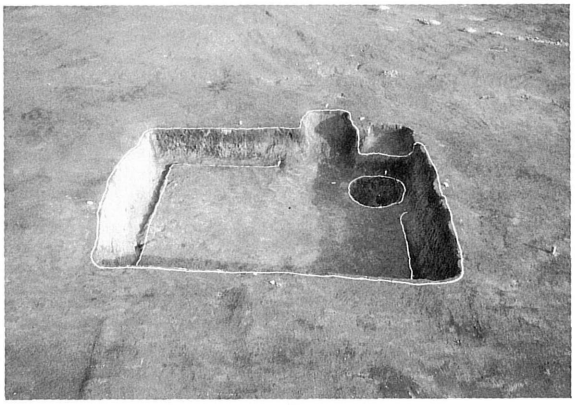
Ｈ－18号住居跡遺物出土状況



Ｈ－１号住居跡全景（西から）

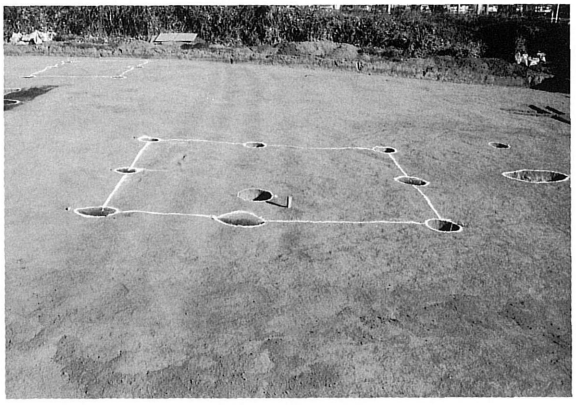


Ｈ－１号住居跡遺物出土状況

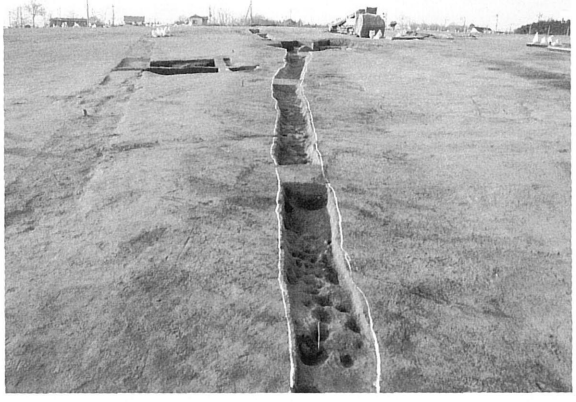


Ｈ－５号住居跡全景（西から）

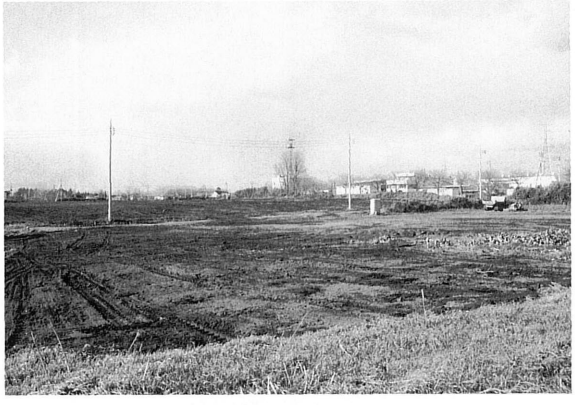
Ｈ－５号住居跡貯蔵穴遺物出土状況



Ｂ－３号掘立柱建物跡全景（南から）

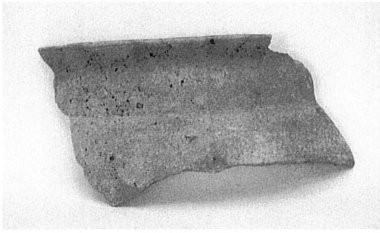


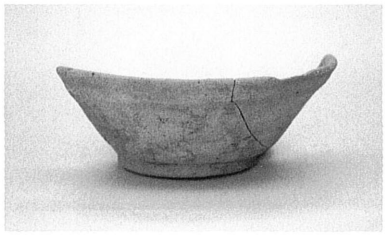
Ｗ－１号溝全景（東から）

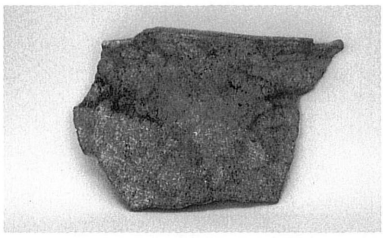


埋め戻し完了全景（東から）

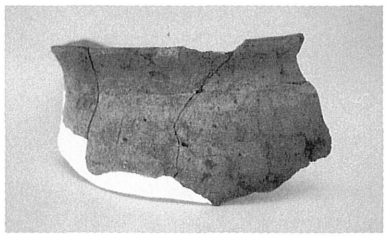
H-1-1

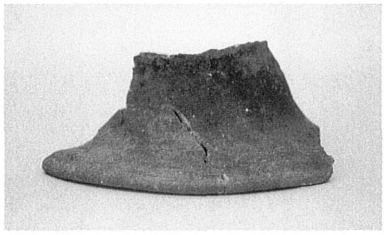

H-1-2

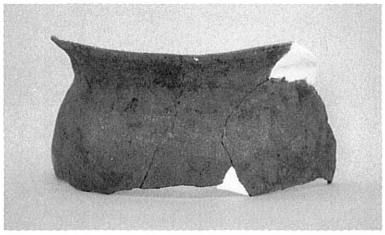

H-2-1

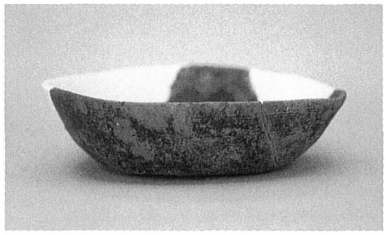

H-2-2

H-3-1

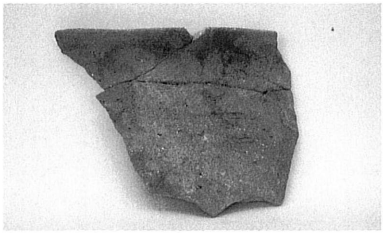

H-3-2

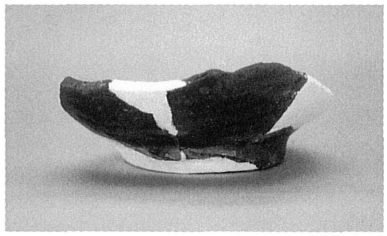

H-4-1


H-4-2


H-5-1

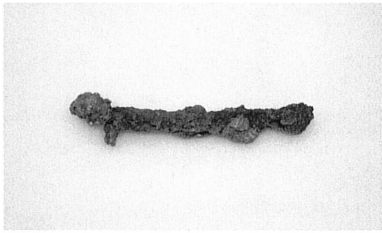
H-5-2

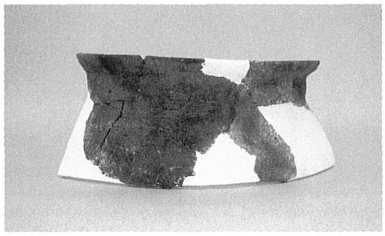

H-6-1

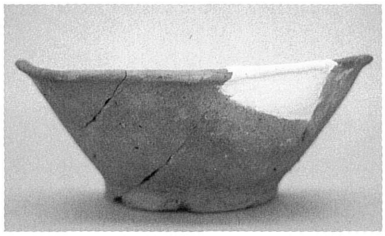

H-6-2

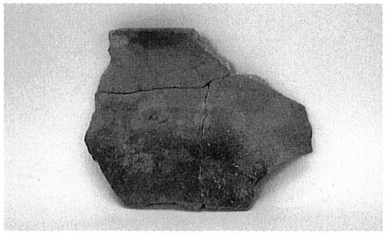
H-7-1

H-7-2


H-7-3

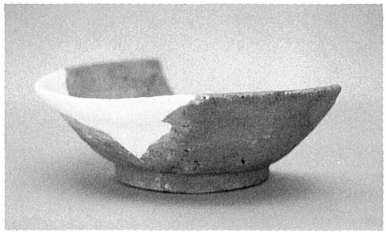

H-8-1


H-8-2

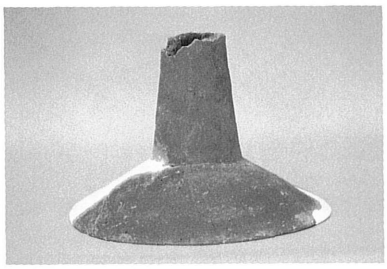

H-9-1

H-10-1

H-10-2


H-11-1

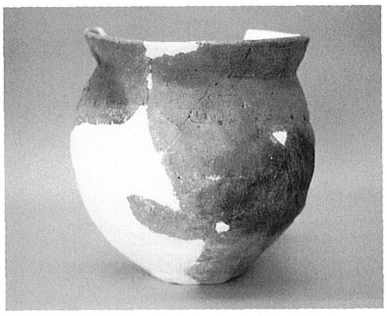
図版　10

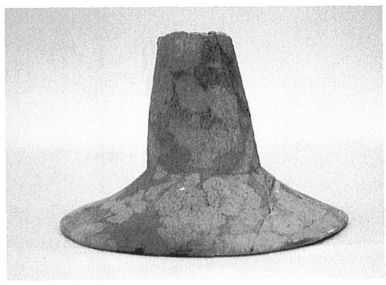

H-12-1

H-12-2

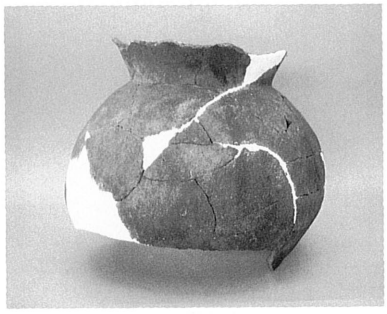
H-12-3

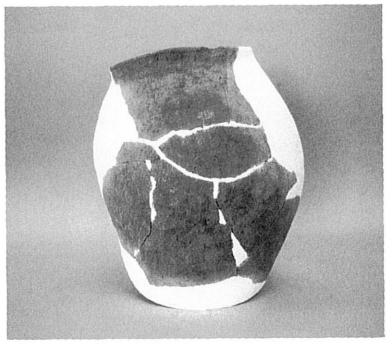
H-12-4

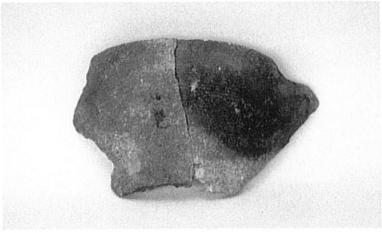

H-14-1


H-15-1

H-15-2


H-15-3


H-16-1


H-17-1

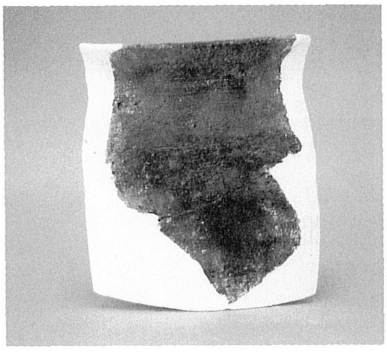
H-18-1

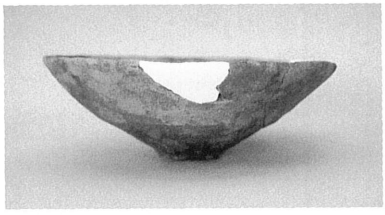
H-18-2

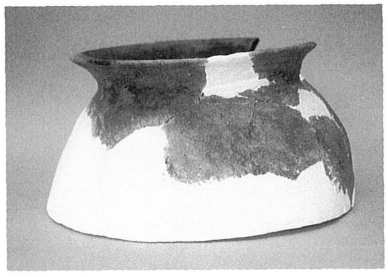
H-18-3

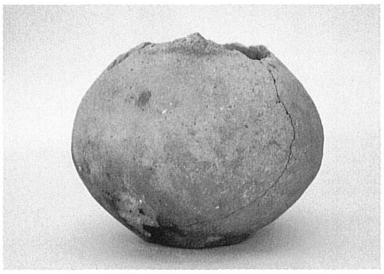
H-19-1

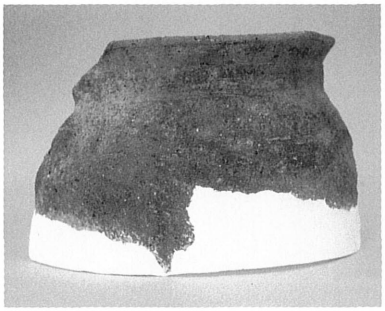
H-20-1

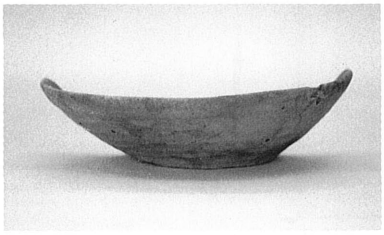

H-20-2


H-21-1


H-21-2

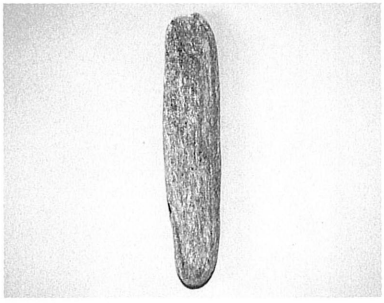

H-21-3

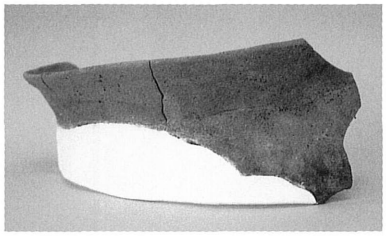

H-23-2


W-1-1

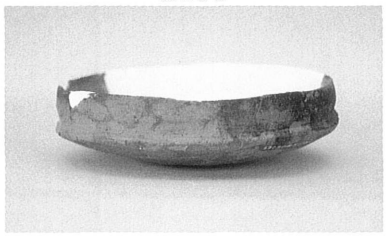
J-2-1

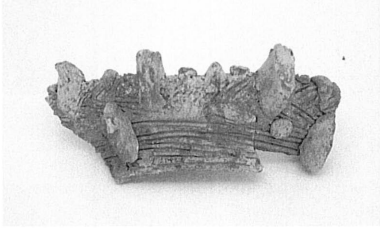
J・D-1-1

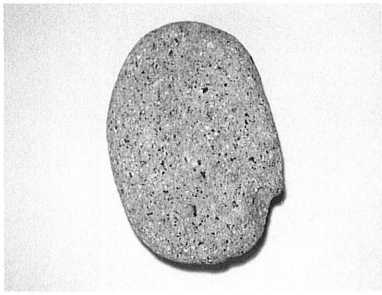

J-3-2

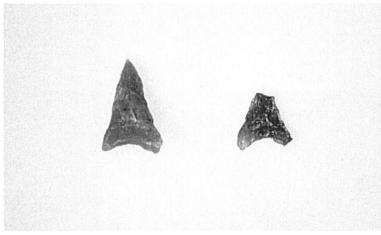

H-22-1

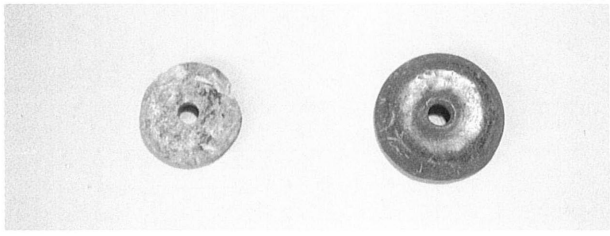
H-24-1

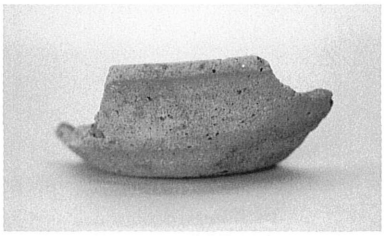

BK-14グ

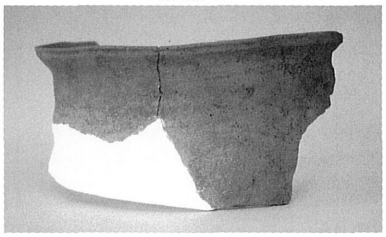

J-2-2

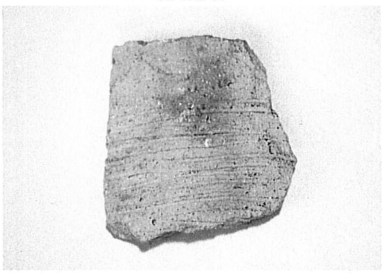

J-1-2

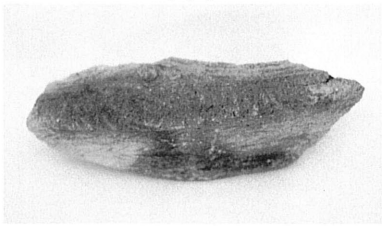

J-3-3　J-2-3


P-10-1　H-1-3

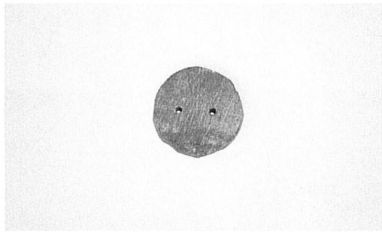

H-23-1


H-24-2


J-1-1

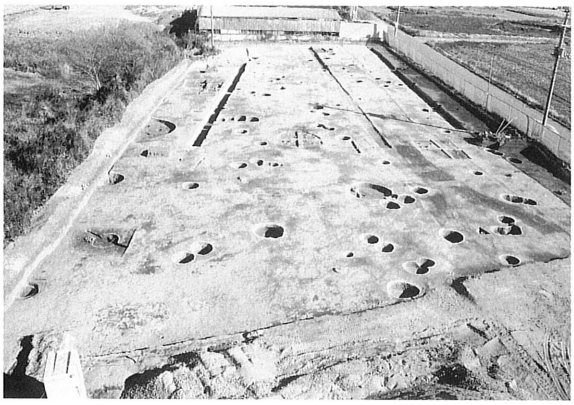

J-3-1

H-2-3

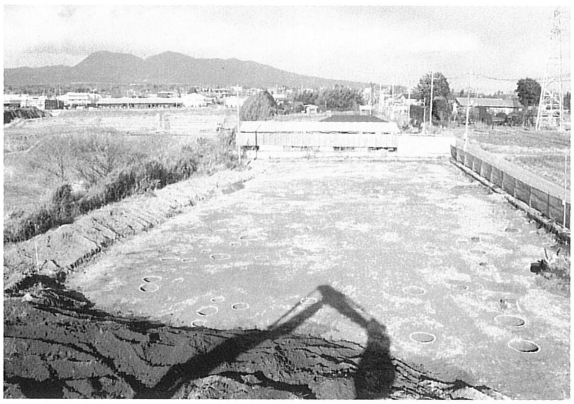

H-15-4

調査前全景

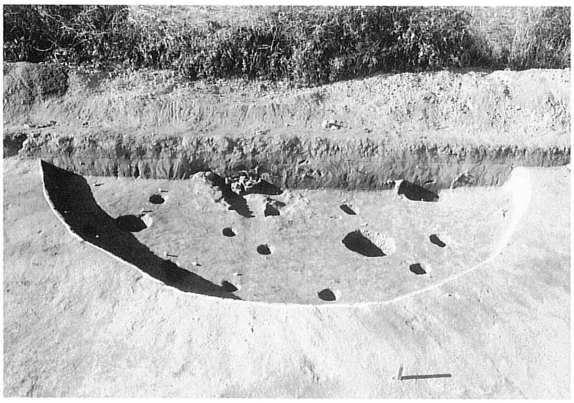
調査区全景（第１面）



調査区全景（第２面）

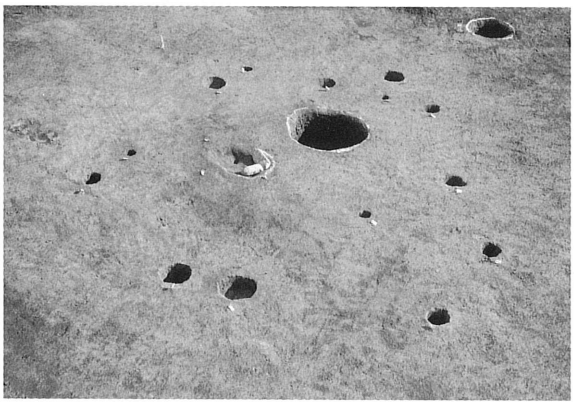


調査区全景（第３面）

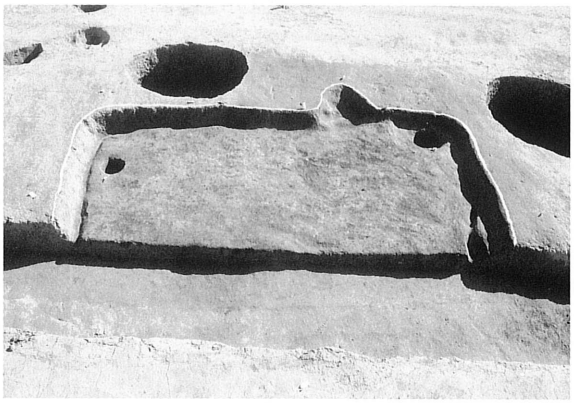


Ｊ－１全景

Ｊ－２、Ｄ－91･92全景



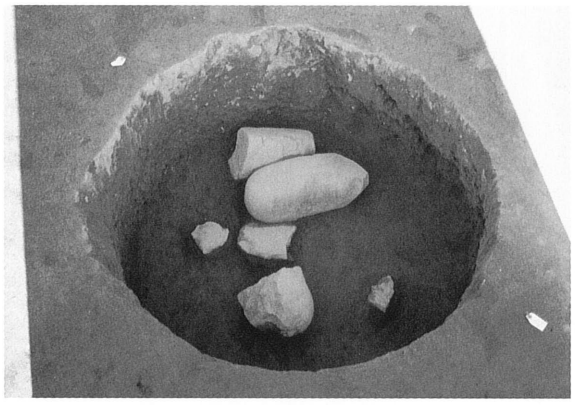
Ｊ－３全景



Ｈ－１全景

D－40遺物出土状況

D－43全景

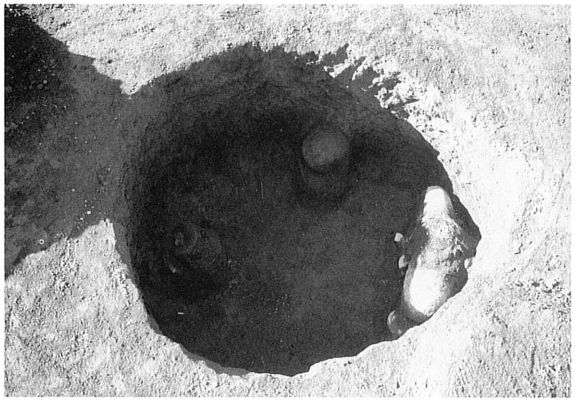


D－48全景

D－50全景

D－51遺物出土状況

D－56遺物出土状況

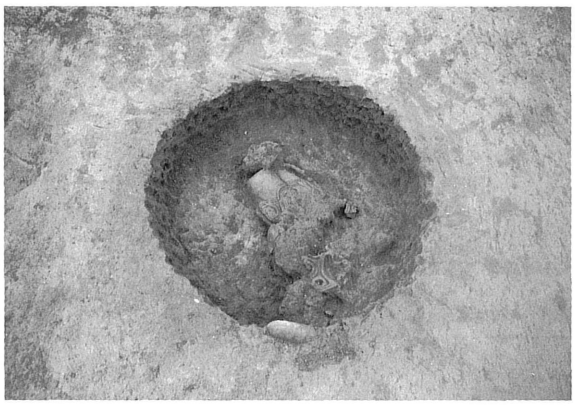


D－58全景

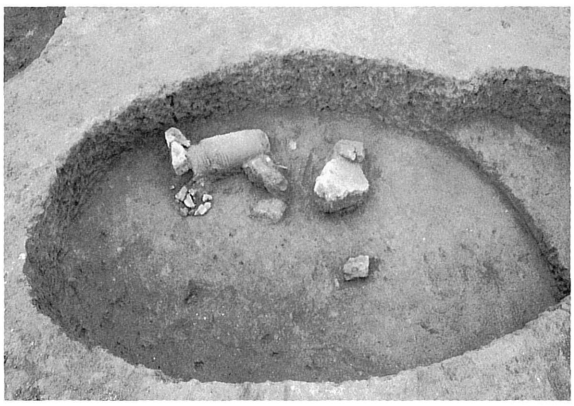
D－65遺物出土状況

D－93遺物出土状況

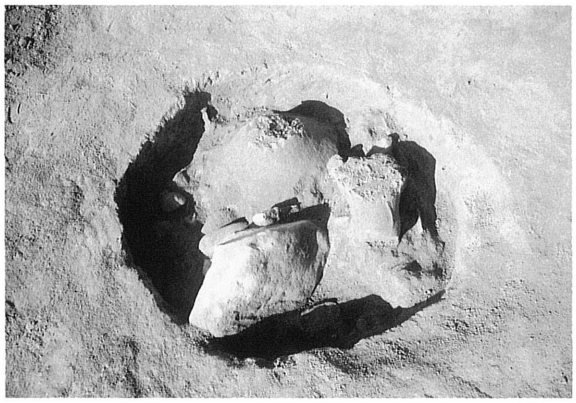
D－113全景



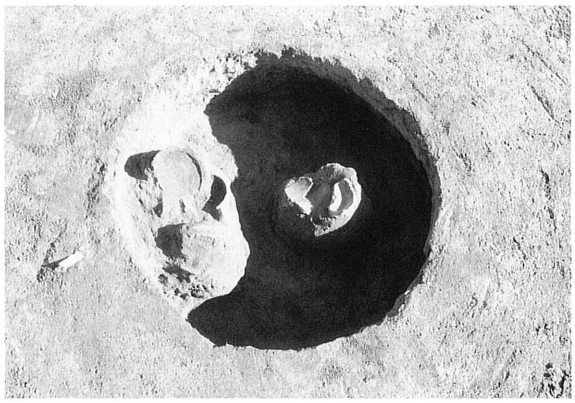
D－116全景



D－119全景



D－153遺物出土状況

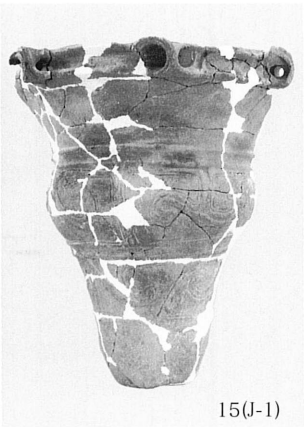


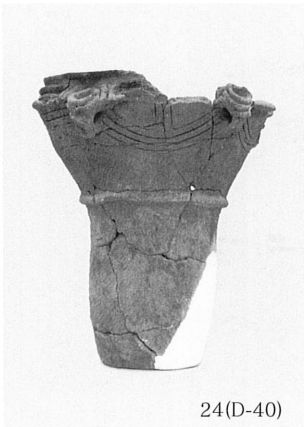
D－154全景

D－177･178全景

D－227遺物出土状況

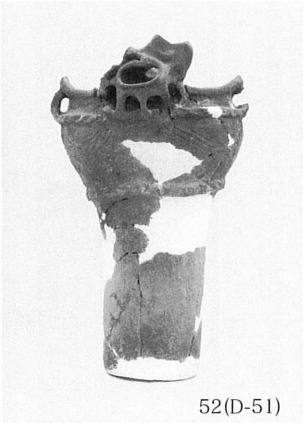
1(J-1)

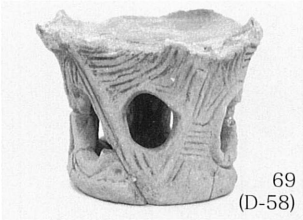

15(J-1)

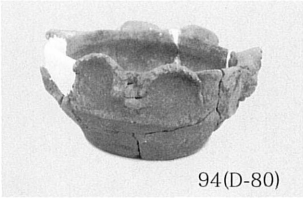

24(D-40)

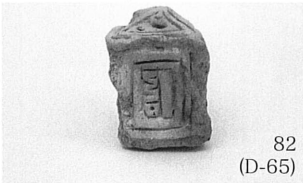
25(D-40)

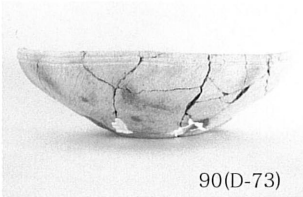
50(D-50)


52(D-51)


69
(D-58)


94(D-80)


82
(D-65)

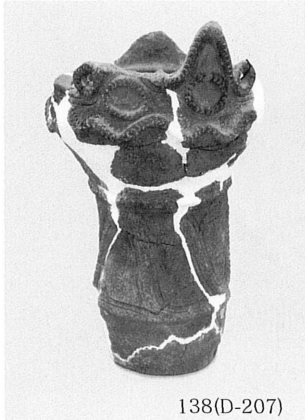

90(D-73)

160(D-93)

102(D-102)

114(D-119)

131(D-185)

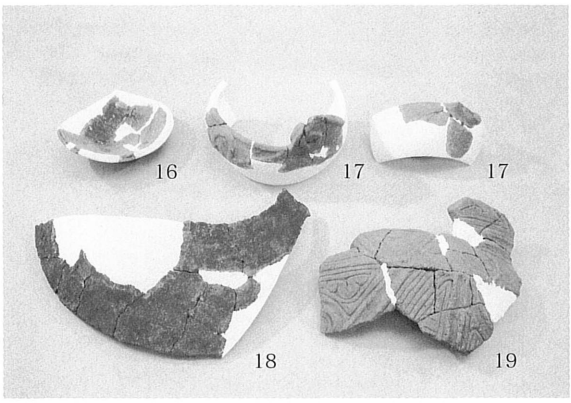

138(D-207)

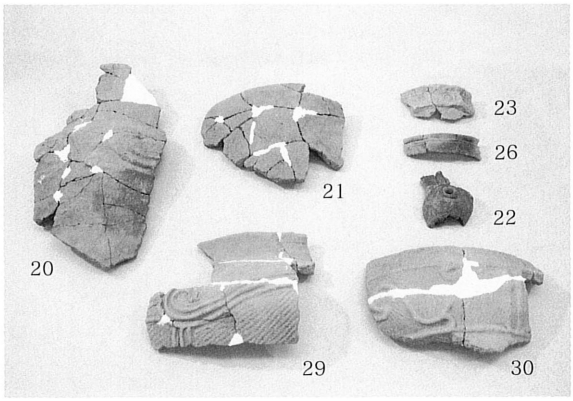
141(D-212)

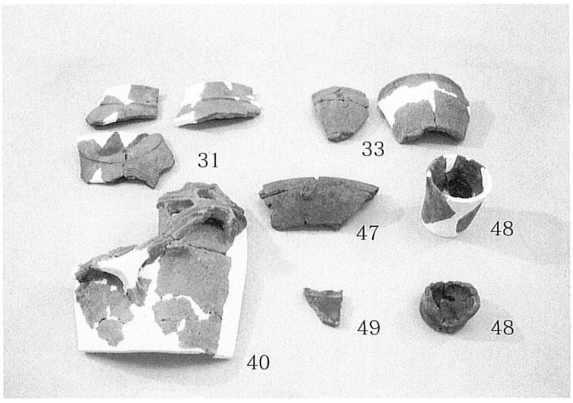
143(D-227)

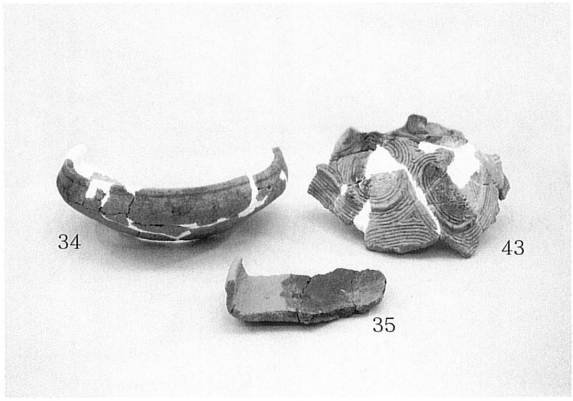
144(D-227)

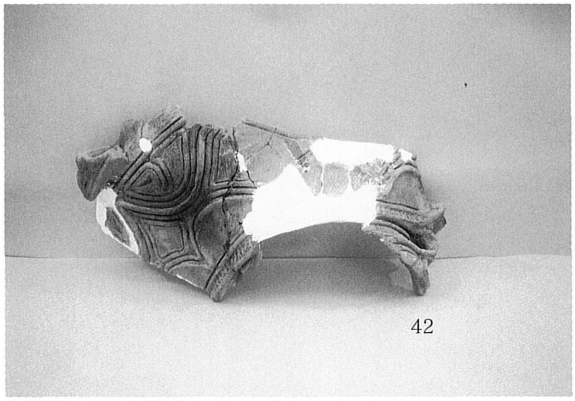
図版　16

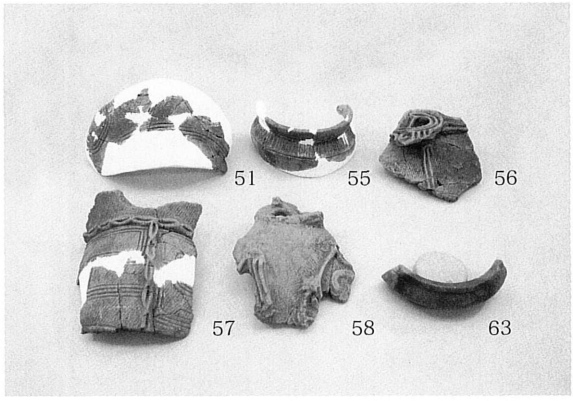

16
17
17
18
19

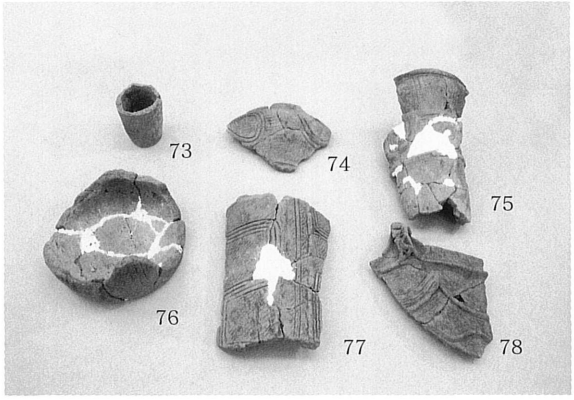

23
26
21
22
20
29
30

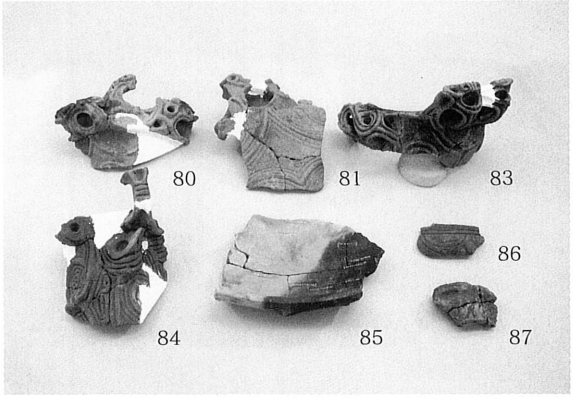

31
33
47
48
49
48
40

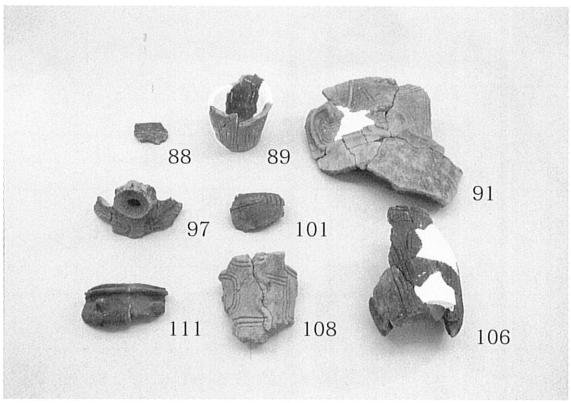

34
43
35

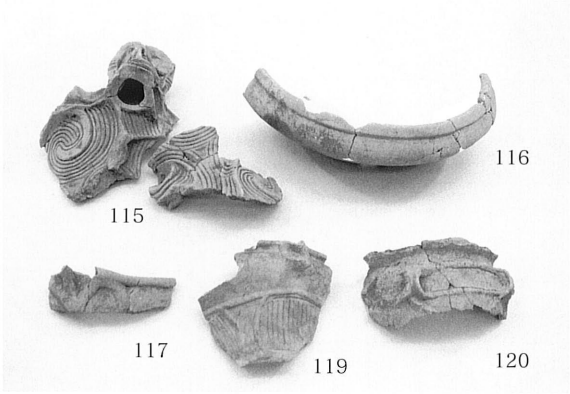

42

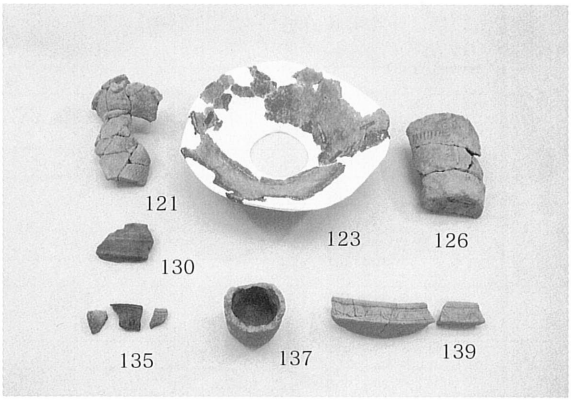

51
55
56
57
58
63

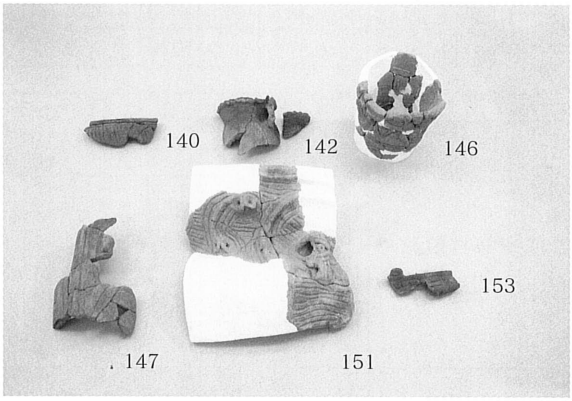

73
74
75
76
77
78

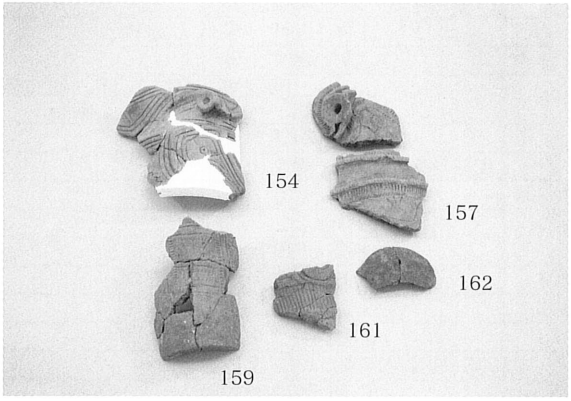

80
81
83
86
84
85
87

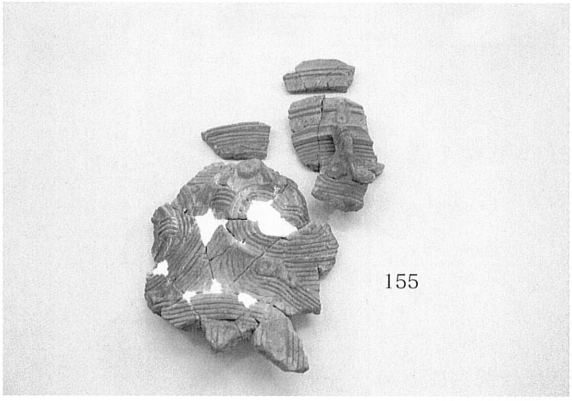

88
89
91
97
101
111
108
106

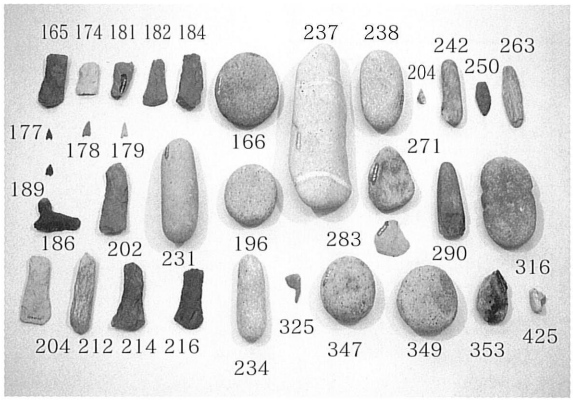

116
115
117
119
120

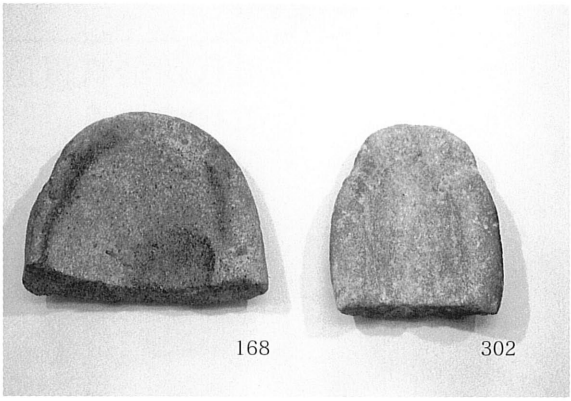

121
123
126
130
135
137
139


140
142
146
153
147
151


154
157
162
161
159


155


165 174 181 182 184
237
238
242
263
204
250
177
178 179
166
271
189
186
202
231
196
283
290
316
204 212 214 216
325
347
349
353
425
234


168
302

抄　　録

フリガナ	ゴダイイセミヤサンイセキ・ゴダイフカボリニイセキ・ゴダイナカハライチイセキ・ゴダイイセミヤヨンイセキ
書名	五代伊勢宮Ⅲ遺跡・五代深堀Ⅱ遺跡・五代中原Ⅰ遺跡・五代伊勢宮Ⅳ遺跡
副書名	五代南部工業団地及び住宅団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査
編著者名	高橋一彦・倉品敦子　前橋市埋蔵文化財発掘調査団 金子正人・荻野博巳・板垣宏・権田友寿　スナガ環境測設株式会社
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371-0018　群馬県前橋市三俣町二丁目10-2
発行年月日	西暦2002年３月８日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
ゴダイイセミヤサンイセキ 五代伊勢宮Ⅲ遺跡	マエバシシゴダイマチ 前橋市五代町	10201	13C28	36°24′22″	139°06′52″	20010726 ～ 20020308	1,260m²	五代南部工業団地及び住宅団地造成事業
ゴダイフカボリニイセキ 五代深堀Ⅱ遺跡	マエバシシゴダイマチ 前橋市五代町	10201	13C29	36°24′31″	139°07′08″		356m²	
ゴダイナカハライチイセキ 五代中原Ⅰ遺跡	マエバシシゴダイマチ 前橋市五代町	10201	13C30	36°24′44″	139°06′50″		8,140m²	
ゴダイイセミヤヨンイセキ 五代伊勢宮Ⅳ遺跡	マエバシシゴダイマチ 前橋市五代町	10201	13C31	36°24′34″	139°06′57″		2,406m²	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
五代伊勢宮Ⅲ遺跡	集落跡	平安時代	竪穴住居跡　3軒	須恵器、坏、埦
	竪穴状遺構	不明	竪穴状遺構　1ヶ所	なし
	溝	中世～近代	溝跡　3条	内耳鍋、石臼
	柱穴	平安～中世	柱穴　81基	なし
	土坑	縄文～近世以降	土坑　67基(縄文1基)	縄文片
	掘立柱建物跡	平安～中世	掘立柱建物跡　2棟	なし
	井戸跡	平安～中世	井戸跡　3基	土師器、須恵器片、石臼
	地下式土坑	中世	地下式土坑　5基	石臼、古銭、軟質土器
	道路跡	近代以降	道路跡　1ヶ所	現代の遺物
五代深堀Ⅱ遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡　1軒	縄文土器
	集落跡	古墳、奈良・平安	竪穴住居跡　9軒	土師器長胴甕、坏、須恵器甕、壺、刀子(鉄製品)
	柱穴	不明	柱穴　57基	縄文片
	土坑	不明	土坑　15基(縄文2基)	縄文土器
	溝	近代～	溝跡　1条	近代～現代の遺物
五代中原Ⅰ遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡　3軒	縄文土器
	集落跡	古墳、平安時代	竪穴住居跡　24軒	土師器甕、坏、高坏、須恵器埦、坏、有孔円板、砥石
	柱穴	平安～中世以降	柱穴　50基	紡錘車
	土坑	縄文～中世以降	土坑　6基(縄文1基)	縄文土器
	掘立柱建物跡	平安～中世	掘立柱建物跡　4棟	なし
	竪穴状遺構	不明	竪穴状遺構　2ヶ所	なし
	溝	中世	溝跡　1条	土師器、須恵器片
五代伊勢宮Ⅳ遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡　3基	縄文土器、石器
	集落跡	平安時代	竪穴住居跡　1基	須恵器、土師器片
	柱穴	不明	柱穴　60基	縄文土器片、大珠片
	土坑	縄文～中世以降	土坑　229基(縄文194基)	縄文土器、石器
	溝	不明	溝跡　6条	縄文土器片
	道路跡	近代以降	道路跡　1ヶ所	なし
	埋甕	縄文時代	埋甕　3基	縄文土器
	集石	縄文時代	集石　3ヶ所	石器

五代伊勢宮Ⅲ遺跡・五代深堀Ⅱ遺跡
五代中原Ⅰ遺跡・五代伊勢宮Ⅳ遺跡

2002年３月１日　印刷
2002年３月８日　発行

発　行　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市三俣町二丁目10-2
編　集　スナガ環境測設株式会社
前橋市青柳町211番地の１
印　刷　朝日印刷工業株式会社